

平成18年度
派遣現職教員派遣前研修
報告書

平成18年4月4日 JICA国際協力総合研修所（国際会議場）
平成18年4月5日 筑波大学大塚キャンパス



筑波大学教育開発国際協力研究センター(CRICED)

文部科学省拠点システム構築事業
派遣現職教員支援課題

註: 本研修は、国際協力機構(JICA)青年海外協力隊(JOCV)、文部科学省(MEXT)、及び筑波大学教育開発国際協力研究センター(CRICED)、の共催で行われた。



はじめに

筑波大学教育開発国際協力研究センターは、青年海外協力隊現職教員特別参加制度を活用して任地で活躍する教員（派遣現職教員）を、平成15年度より文部科学省拠点システム構築事業の下で支援しています。派遣前研修はその一貫として行われるものです。

平成18年度は、派遣現職教員派遣前研修を2006年4月4日、5日に実施しました。本研修は、文部科学省、国際協力機構青年海外協力隊事務局及び筑波大学教育開発国際協力研究センターの共催で行われました。本研修は、国際教育協力についての講義、国際教育・開発教育についての講義、任務を終え帰国した派遣現職教員の講義、拠点システム構築事業各課題代表者による講義、ICT活用実習で構成されています。本報告書には、講義や実習の資料などを収めています。

本年度で4回目となる派遣前研修ですが、本研修プログラムは、過去3回の成果と課題を踏まえて平成17年度拠点システム構築事業派遣現職教員支援課題の一環として企画しました。今回も国際協力機構の支援により、昨年引き続き派遣現職教員が一堂に会する研修が実現しました。また、任国での活動を支援するためのICT研修、拠点システム構築事業各課題の活動成果をふまえた成果報告も実施しました。特に報告課題数は、昨年度の3課題から8課題へと拡充しました。平成18年度より拠点システム構築事業は第二フェーズに入り、派遣現職教員へのサポートは、拠点システム構築事業各課題が協力して実施する体制となり、筑波大学教育開発国際協力研究センターは今後その調整機能を果たすこととなります。

本年度の研修実現の背景には、教育委員会・文部科学省・国際協力機構からの派遣現職教員への手厚いご配慮があったものと承知しています。ここに、これから派遣されようとする派遣現職教員の生き生きした眼差し、笑顔がこぼれるすばらしい研修会が実現しましたことを改めてご報告申し上げます。この2日間の派遣前研修は、私どもにとりましても派遣現職教員と絆をつくる貴重な機会にもなりました。本研修の実施にあたってご尽力いただきました関係の皆様にあらためてお礼申し上げますとともに、今後のご支援・ご協力をお願いいたします。

2006年5月

筑波大学教育開発国際協力研究センター(CRICED)

センター長 中田 英雄

助教授 磯田 正美 (平成17年度派遣現職教員支援課題代表者)

研究員 茅野 公穂 (担当者)

目次

プログラム.....	1
JICA の教育協力について.....	3
萱島 信子 (国際協力機構人間開発部第一グループ)	
帰国後の社会還元について.....	23
西 あい (開発教育協会)	
園山 昌和 (国際協力機構広尾企画チーム)	
土橋 泰子 (青年海外協力協会)	
国際教育の推進.....	37
茅野 公穂 (筑波大学)	
派遣現職教員支援と支援ネットワークの形成による支援方法の拡充事業.....	41
磯田 正美 (筑波大学)	
ミクロネシア活動報告.....	45
間宮 多恵 (品川区立清水台小学校)	
(平成14年度1次隊、ミクロネシア、小学校教諭)	
ウガンダでの協力活動.....	53
樋口 孝 (町田市立堺中学校)	
(平成15年度1次隊、ウガンダ、理数科教師)	
活動報告.....	59
福島 和樹 (千葉県立君津養護学校)	
(平成14年度1次隊、パラグアイ、養護)	
日本の教育経験における情報整備事業 —教育経営・教員研修分野を中心として—.....	65
佐藤 真理子 (筑波大学)	
幼児教育に関する情報収集と幼児教育モデルの提案.....	77
浜野 隆 (お茶の水女子大学)	
開発途上国における障害児教育分野の教育協力モデルの開発・検証に関する研究.....	89
中田 英雄 (筑波大学)	

発展途上国における環境教育支援のための実践事例データベースの作成.....	93
島野 智之 (宮城教育大学)	
環境教育の教員研修にかかわる途上国との国際協力プロジェクト開発研究.....	97
原子 栄一郎 (東京学芸大学)	
学校保健分野における教育協力についての調査研究事業.....	103
國土 将平 (鳥取大学)	
途上国における家庭科教育の推進.....	113
佐々井 啓 (日本女子大学)	
算数・数学における協力経験のモデル化と教材開発、協力推進事業.....	121
磯田 正美 (筑波大学)	
ICT 研修.....	125
青山 和裕、宮川 健、矢原 弘樹 (筑波大学)	
・スカイプ & ネットミーティング.....	131
・VTR 編集.....	139
・ブログ.....	151
・参考資料.....	159
平成18年度「派遣現職教員派遣前研修」の成果と課題.....	189
付録 拠点システム構築事業各課題の主なアーカイブス登録成果物一覧表.....	203
(平成18年4月4日配付資料)	



平成 18 年度 青年海外協力隊 現職教員特別研修

- 第 1 日 (4 月 4 日(火)) 会場: JICA 国際協力総合研修所 (新宿区市谷本村町 10-5)
- 12:30~ 受付
- 13:30~13:40 研修開始挨拶 文部科学省大臣官房国際課国際協力政策室長 大山真未
青年海外協力隊事務局国内グループ長 橋口道代
- 13:40~13:50 各種連絡 (JICA 側連絡、配布資料の確認、ICT 研修の選択希望)
- 13:50~14:20 JICA の教育協力について (JICA 人間開発部)
- 14:20~14:30 休憩
- 14:30~15:50 帰国後の社会還元について (広尾企画チーム、開発教育協会、JOCA)
- 15:50~16:00 休憩 (ICT 研修のブログ作成/DV 編集の選択希望締め切り)
- 16:00~16:30 国際教育の推進 (CRICED)
- 16:30~16:40 派遣現職教員支援課題 (筑波大 磯田)
- 16:40~16:50 休憩
- 16:50~18:20 帰国隊員による報告会
間宮多恵 (14-1、ミクロネシア、小学校教諭)
樋口孝 (15-1、ウガンダ、理数科教師)
福島和樹 (14-1、パラグアイ、養護)
- 18:20~18:40 連絡(2 日目研修班分け)・写真撮影
- 18:45~20:30 懇親会

第 2 日 (4 月 5 日(水)) 会場: 筑波大学大塚キャンパス (文京区大塚 3-29-1)

8:30~ 受付

A 班

B 班

- 9:00~9:25 学校経営 筑波大 佐藤
- 9:25~9:50 幼児教育 お茶大 浜野
- 9:50~10:15 障害児教育 筑波大 中田
- 10:15~10:30 休 憩
- 10:30~11:15 環境教育 宮教大 島野
学芸大 原子
- 11:15~11:40 学校保健 鳥取大 國土
- 11:40~12:05 家庭科 日女大 佐々井
- 12:05~12:30 算数・数学 筑波大 磯田
- 昼食 (12:30~13:30)

- PC のネットワーク接続確認
- ・ Skype
 - ・ ネットミーティング
 - ・ アーカイブスへのアクセス
 - ・ ブログ作成 (B1 班) | ・ DV 編集 (B2 班)
- ※ブログ作成と DV 編集は選択

- 13:30~13:55 PC のネットワーク接続確認
- 13:55~14:20 ・ Skype
- 14:20~14:45 ・ ネットミーティング
- 14:45~15:00 ・ アーカイブスへのアクセス
- 15:00~15:45 ・ ブログ作成 (A1 班) | ・ DV 編集 (A2 班)
- 15:45~16:10 ※ブログ作成と DV 編集は選択
- 16:10~16:35
- 16:35~17:00

- 学校経営 筑波大 佐藤
- 幼児教育 お茶大 浜野
- 障害児教育 筑波大 中田
- 休 憩
- 環境教育 宮教大 島野
学芸大 原子
- 学校保健 鳥取大 國土
- 家庭科 日女大 佐々井
- 算数・数学 筑波大 磯田

- 17:00~ 移動
- 17:05~ 登録情報, アンケート等記入
- 17:20~ 研修終了挨拶 筑波大学教育開発国際協力研究センター長 中田英雄
- 17:25 研修終了

JICA の教育協力について

萱島 信子 (国際協力機構人間開発部第一グループ)

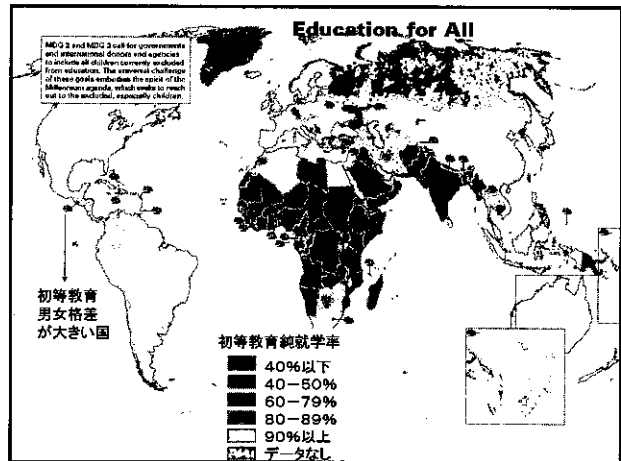


JICAの教育協力

2006年4月4日

JICA人間開発部基礎教育グループ

萱島信子



Education for All

途上国では: **途上国**

小学校に通っていない学齢児童数は1億人、その55%が女子、アフリカに4千万人、南西アジアに3千万人。

初等教育就学率は、アフリカ64%、南西アジア83%、中近東83%。

途上国の学校在籍年数は9.9年（先進国では16.1年）。

小学校を卒業できるのは、入学児童の4人に3人。8%の子どものが、小学校1年目を落第する。

成人の4人に1人は、非識字者、全世界で8億人。

JICA JICAの基礎教育協力の概要

- 基礎教育は、基本的人権であり、すべての開発事業の基礎となるとともに、人間の安全保障。
- Education for All・・・すべての子どもが十分な質の基礎教育を終了できることを目指して、すべての人が自分の能力を十二分に発揮して社会のなかで生き行くための基礎教育を受けることを目指して。
- JICAは世界の約70カ国で、毎年約300億円の基礎教育協力を実施。

JICA JICAの基礎教育協力の重点分野

- すべての子どもが学校へ行けるように
就学率の向上
- よりよい教育のために
教育の質の向上
- 教育を支える行政と学校とコミュニティの強化
教育マネジメントの改善

JICA ① JICAの教育協力の内容

すべての子どもが学校へ行けるように
就学率の向上

- 小学校建設、子どもを取り巻く教育環境の改善
- 親やコミュニティへの啓蒙活動や組織化

不就学の原因は多様であり、十分な現状分析と包括的な取り組みが重要。



② JICAの教育協力の内容 よりよい教育のために 教育の質の向上

- 現職教員研修、新規教員養成の改善
 - 児童中心型教授法の導入、授業改善
 - カリキュラムの改善
 - 教科書や教師用指導書の開発・普及
 - 教員養成校の建設
- JOCVとの連携例の多い領域。アフリカと中米で理数科教育改善の広域協力実施中。



③ JICAの教育協力の内容 教育を支える行政と学校とコミュニティの強化 教育マネジメントの改善

- 地方教育行政官や指導主事の育成
- 校長や教員への研修と能力向上
- コミュニティのエンパワーメントと学校運営への参画

学校が変わるためには、地方教育行政と学校とコミュニティの役割が大きい。キャパシティビルディングと参画と有機的な連携を。



日本の教育援助政策 (参考)

教育協力、なかでも基礎教育協力は1990年代以降、日本のODA政策において常に重点分野に位置付けられてきた。



日本の教育援助政策 (参考)

- ODA大綱(1992年)
- ODA中期政策(1999年)
- 成長のための基礎教育イニシアティブ BEGIN: Basic Education for Growth Initiative (2002年)
 - ✓ G8カナダサミット(6月)で小泉首相が発表、ヨハネスブルグサミット(WSSD)の「小泉構想」にも盛り込まれる
 - ✓ 重点分野: 基礎教育の機会の確保、質の向上、マネジメントの改善
 - ✓ BEGINと同時に、今後5年間で低所得国にたいし2500億円以上の教育支援を約束
- 新ODA大綱(2003年)
 - ✓ 11年ぶりの改定(旧ODA大綱1992年制定)
 - ✓ 重点課題: 貧困削減(教育、保健、水、農業等)、持続的成長、地球的規模課題、平和構築
- 新ODA中期政策(2005年)
 - ✓ 重点課題: 貧困削減(保健、教育等)、持続的成長(人づくり支援)、地球的規模課題、平和構築



背景にある世界の教育援助思潮 (参考)

1990年代以降の日本のODA政策における基礎教育重視の政策は、世界の教育援助思潮が1990年の「万人のための世界教育会議(EFA世界会議)」を契機として、基礎教育重視へと大きく変化したことを背景としている。



日本の教育援助に影響を 与えている国際的会合や宣言 (参考)

- 万人のための教育世界会議(1990年)
- 北京女性会議(1995年)
- 社会開発サミット: 20/20協定(1995年)
- DAC新開発戦略(1996年)
- 高等教育世界会議(1998年)
- 世界教育フォーラム(2000年)
 - ✓ EFA上級会合(2001年パリ)、02年ナジレット、03年インド、04年ブラジル)
- ミレニアム開発目標(2000年)
- サミットG8コミュニケ(02年カナダ、... 05年グレンイーグルズ)
- ファーストトラック・イニシアティブ(2002年)
- G8教育タスクフォース報告(2003年)
- 国連持続可能な開発のための教育の10年(2005-2014年)



日本の教育協力実績

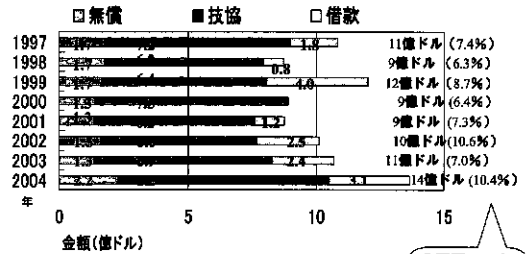
(参考)

日本の二国間ODAにおける教育協力の実績額は年間約9～12億ドル(無償資金協力:約1.5億ドル、技術協力:6～7億ドル、借款:0～4億ドル)である。これは二国間ODAの6～10%(無償資金協力:7～13%、技術協力:20～33%、借款:0～5%)を占めている。



日本の教育協力実績の推移

(参考)



注: 二国間ODAのみ、約束額ベース、暦年、DAC分類による

2国間ODAに占める教育分野の割合



日本の教育協力の実施体制

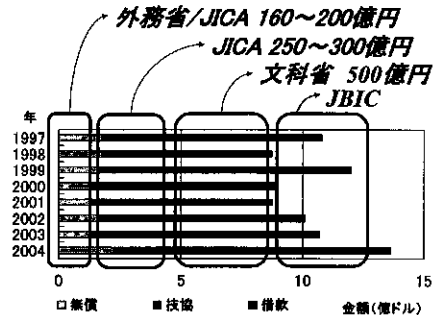
(参考)

日本の教育分野の二国間ODAには、外務省/JICAによる無償資金協力(160～200億円/年)、JICAによる技術協力(250～300億円/年)に加え、文部科学省による国費留学生経費(約500億円/年)とJBICによる円借款が含まれている。また無償資金協力、技術協力、国費留学生の実績は年にかかわらずほぼ一定であるが、円借款は年により変動が大きい。



日本の教育協力の実施体制

(参考)



注: 二国間ODAのみ、約束額ベース、暦年、DAC分類による



JICAの教育援助方針

(参考)

- ◆1990年のEFA世界会議をうけて行われたJICAの教育分野援助研究会において、JICAの教育協力の量的な拡大と基礎教育分野重視が提言された。
- ◆2004/2005年には基礎教育分野とノンフォーマル教育分野の課題別指針を作成。
- 基礎教育分野の課題別指針では、初中等教育の就学率の向上と質の改善、女子教育の促進、ノンフォーマル教育の促進、教育マネジメントの改善が重点領域に掲げられている。
- ◆現在、地域別の基礎教育協力方針を順次作成中。地域別の基礎教育開発の状況やJICA事業の現状を踏まえた実効性のある協力戦略を策定するとともに、重点国の選定により選択と事業の集中を行い、協力事業のプログラム化や質の向上に資することを目指している。



JICAの教育援助方針

(参考)

- 教育援助研究会報告(1992/1993年)
 - ✓ 教育援助をODA全体の15%にまで増額させる
 - ✓ 基礎教育重視
 - ✓ 相手国の教育段階に応じた教育援助を行う
- 基礎教育協力効果的アプローチ(2002年)
- 高等教育協力効果的アプローチ(2003年)
- ノンフォーマル教育協力援助指針(2004年)
 - ✓ アプローチ: 基礎教育拡充/向上、ソーシャルキャップ是正、生計向上、保健衛生環境改善、HIV/AIDS対策、自然環境保全、平和構築
- 基礎教育協力援助指針(2005年)
 - ✓ 重点分野: 就学率の向上、質の改善、女子教育、NFE、教育マネジメントの改善
- 地域別基礎教育協力方針(2004年)
 - ✓ アフリカ地域、中南米地域…

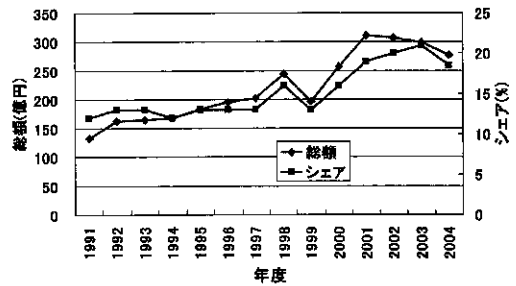


JICAの教育協力実績 (参考)

1990年代には約150億円/年でJICA事業の12%程度であったJICAの教育協力実績は、1990年代末より、一貫して拡大し、現在は、約277億円/年で、約20%を占めている。



JICAの教育分野の技術協力実績 (参考) ～経年変化

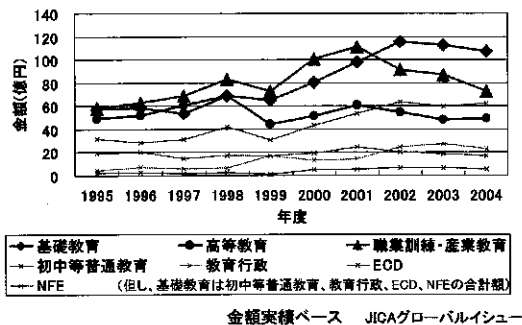


JICAの教育分野の技術協力実績 (参考) ～主要サブセクターの経年変化

1990年代末からのJICAの教育協力の拡大は、主として基礎教育協力の拡大によってもたらされた。高等教育分野の協力がほぼ横ばいであったのに対し、基礎教育分野の協力は倍増した。基礎教育分野の中では特に初中等普通教育の領域の伸びが著しい。



JICAの教育分野の技術協力実績 (参考) ～主要サブセクターの経年変化

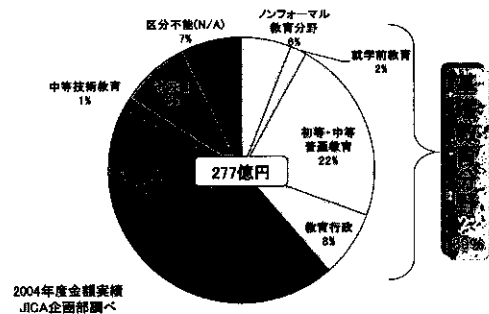


JICAの教育分野の技術協力実績 (参考) ～サブセクター別内訳

JICAの教育協力は、主として基礎教育分野、職業訓練/技術教育分野、高等教育分野からなっている。このうち基礎教育分野の協力は107億円で、JICAの教育協力全体の39%を占めている。



JICAの教育分野の技術協力実績 (参考) ～サブセクター別内訳





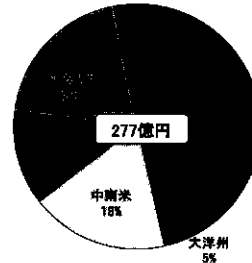
(参考)
JICAの教育分野の技術協力実績
 ～地域別内訳

JICAの教育協力実績を地域別に見ると、アジア地域が41%と大きく、アフリカ、中南米、中近東はいずれも20%弱である。このうち基礎教育分野のみの地域別シェアをみると、アフリカ地域が30%と大きく、アジア地域27%をしのいでいるのが特徴的である。

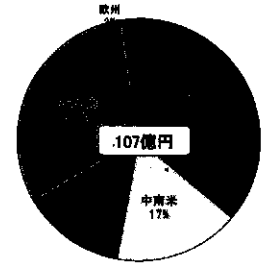


(参考)
JICAの教育分野の技術協力実績
 ～地域別内訳(2004)

教育分野の協力実績



基礎教育分野の協力実績



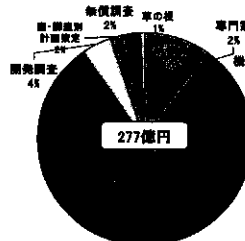
(参考)
JICAの教育分野の技術協力実績
 ～スキーム別内訳

JICAの教育協力実績をスキーム別のシェアで見ると、ボランティア事業が45%に技プロ事業が33%と大半を占めている。このうち基礎教育分野のみのスキーム別シェアをみると、金額実績の半分がボランティア事業である一方で、技プロが16%、開発調査10%、研修員受入が15%であり、近年、開発調査実績も増えている。

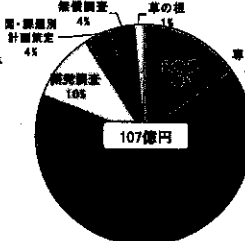


(参考)
JICAの教育分野の技術協力実績
 ～事業スキーム別内訳(2004)

世界への教育協力



世界への基礎教育協力



〔無償調査〕は基本設計調査+実施促進の経費のみ。
 本体予算(約200億円)は外務省所管。



JICAの教育協力の取り組み

<http://www.jica.go.jp/infosite/issues/education/index.html>

萱島信子: Kayashima.Nobuko@jica.go.jp



基礎教育



人間開発部

2005年8月

課題の概要

21世紀に入った現在でも、世界には約8億人の成人非識字者がおり、就学していない子供たちは1億300万人以上（うち約57%が女子）にのぼります。こうした状況を背景に、2000年にセネガルの首都ダカールで「世界教育フォーラム」が開催されました。181ヶ国の代表や国際機関、NGOなどの参加を得て行われた同フォーラムでは、基礎教育*の重要性が再確認されるとともに、2015年までの初等教育の完全普及や2005年までの初等中等教育における男女格差解消などを目標とする「ダカール行動の枠組み」が採択されました。また、2000年に国連総会で発表されたミレニアム開発目標（MDGs）でも、8項目のうち、2項目が基礎教育に関するものとなっており、こうした世界共通の目標に向けた各種の取り組みが、現在各国で行われています。

このような国際的な潮流を受け、日本のODA政策においても基礎教育への支援は優先課題とされています。2002年G8カナナキスサミットで小泉首相が発表した「成長のための基礎教育イニシアティブ BEGIN: Basic Education for Growth Initiative」において、教育への投資が貧困削減、経済成長への有効な手段であるという認識に基づき、日本政府として基礎教育への支援を重視していくことが表明されました。

JICAの基礎教育協力も一貫して拡大しています。教育協力の実績とシェアは1990年代初めには約150億円/年でJICA事業の12%程度でしたが、現在は約300億円/年、20%程度（図表1）となっており、この増加の多くが基礎教育支援に割り当てられています。

※基礎教育は、個人が社会の中で生きていくために必要な知識や技能を獲得するための教育活動と定義されるものです。JICAでは、就学前教育、初等教育、前期中等教育、ノンフォーマル教育を総じて基礎教育と称しています。

JICAの取り組み

JICAは相手国のニーズに応じた協力を基本方針としつつ、基礎教育に関しては、以下の5点を協力の重点分野に定めています。

- ①初中等教育の量的拡大
- ②初中等教育の質の向上
- ③ジェンダー・ギャップの改善
- ④ノンフォーマル教育の促進
- ⑤教育マネジメントの改善

<初等・中等教育の量的拡大>

初中等教育の量的拡大への具体的な取り組みとしては、学校校舎等の施設建設、子供を取り巻く教育環境の改善などがあげられます。不就学の原因は様々で、親の無理解や労働のため、学校があっても学校に行けない、行かないという場合が多くあります。したがって就学率を上げるためには学校建設だけでなく、子供が学校に通うことができる環境を整備することが必要です。このような理由から、近年 JICA では親や住民の理解促進のための啓発活動や組織化の推進、住民参加による学校建設などに取り組んでいます。

<初等・中等教育の質の向上>

初中等教育の質の向上には、教員、教科書、教育施設などの様々な教育活動の構成要素についての取り組みが必要です。具体的には教員養成・研修の強化を通じた教員の質の向上、教育方法（教授法）の改善、教科書/教材等の開発と普及、施設の改善などが挙げられます。JICA は 1990 年代半ば以降、特に理科・数学(算数)分野



の教員研修・訓練関連のプロジェクトを、教授法や教材/指導書の開発、教員養成カリキュラムの見直しといった一連の活動を含んだ形で実施してきました。最近では、理数科に限定しない他教科を含む協力もミャンマーなどで始まっています。また、アフリカ及び中米地域では、ケニアとホンジュラスでの教員研修プロジェクトの成果を域内の各国へと展開する広域協力の構想も検討・開始されています。

<ノンフォーマル教育の促進>

「学校教育システム外で組織された教育活動」と定義されるノンフォーマル教育への協力は、学校教育だけでは補いきれない、基礎的な学習ニーズを充足する観点から、また人間の生存、生活、尊厳を守り、自らのために行動する自由を保障するという「人間の安全保障」実現の観点からも大変重要です。ノンフォーマル教育の対象者は成人から子どもまで幅広く、具体的な取り組みとしては、識字プログラムやライフ・スキル^{*}習得プログラムの推進などが挙げられます。

ノンフォーマル教育の強みは、その多様性、柔軟性、即応性にあり、教育分

野だけでなく、保健、自然環境保全、平和構築、生計向上といった様々な分野へも貢献するものです。JICA は近年本分野での取り組みを強化しており、アフガニスタン、ネパール、エチオピアなどの国で、プロジェクトを展開しています。

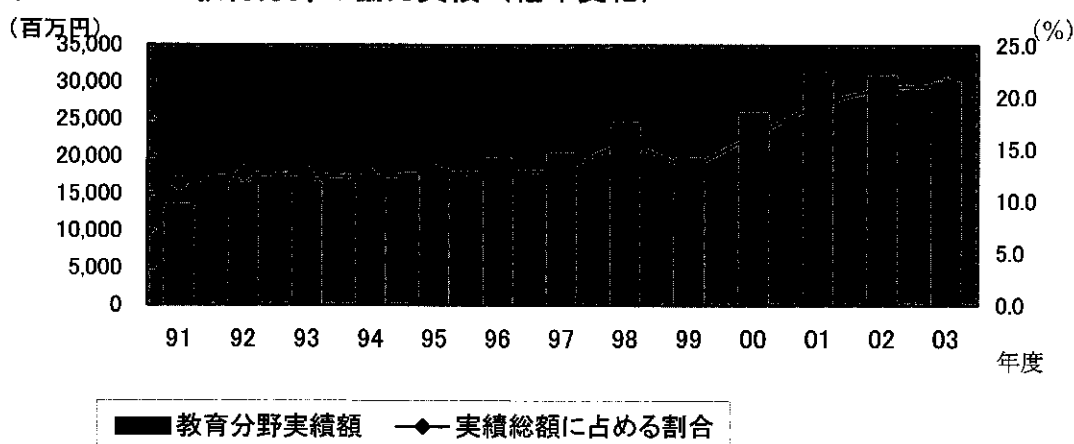
※識字能力や計算能力をはじめ、社会生活に必要な意思決定、問題解決、批判的思考、効果的なコミュニケーションなどの技能や、簡単な職業訓練、環境教育保健・衛生教育、さらには HIV/AIDS に代表される感染症予防対策など、生活に必要な様々な知識や技術を総称して言う。(JICA、2002「基礎教育に対する効果的アプローチ」p.139)

<教育マネジメントの改善>

教育マネジメントは教育全てのサブセクターに横断的にかかわる問題であり、その改善は教育開発を進めていくために必要不可欠です。具体的には、教育開発計画の策定や地方分権化の推進などを通じた教育行政官の計画立案、事業実施、モニタリングなどの能力向上への取り組みが挙げられます。JICA の協力としては、例えばインドネシアにおいて、政府の進める教育の地方分権化政策の下、住民参加を伴う学校主体の教育を実現するための協力を行っています。

これまで見てきたように、教育は、教員、教科書・教材、施設、行政、社会環境など、多くの要素が密接に関連していることから、複合的な課題に対し、総合的なアプローチで、かつ最もニーズに適した取り組みを柔軟に実施していくことが必要です。このため他ドナーや NGO 等との連携・協調も図りながら、さらに現場のニーズを的確に把握し、より多様な協力を展開していく方針です。

図 1. JICA の教育分野の協力実績 (経年変化)



(出所：グローバルイシュー2003、企画・調整部)

事例紹介その1

ニジェール住民参画型学校運営改善計画（2004年1月～2006年12月）

プロジェクト概要

背景

サブサハラにおける最貧国の一つであるニジェールでは初等教育の総就学率を2000年の34%から2013年には91%にまで向上させることを目標として、「就学機会の拡大」に取り組んでいます。就学を妨げている要因は様々ですが、その主たるものは「学校数（教室数）の絶対的不足」と「地域住民・親の学校に対する強い不信感」であると考えられています。このうち前者に関しては、世界銀行をはじめ各国ドナーの支援によって約20,000教室の建設が予定されており、日本も無償資金協力による校舎の増改築プロジェクトを実施しています。

一方、後者に関しては、地域住民の学校運営への参加を通じて、学校への不信感を取り除き、学校に対する認識を変えていくため、政府は、校長、教師代表、保護者会代表、母親会代表の計6名から編成される学校運営委員



会(Généralisation des Comités de gestion des Etablissements Scolaires: COGES)の設置を2002年2月に開始しました。この計画の最終段階では住民や地域コミュニティを学校運営の中心的担い手として位置付け、計画策定から運営管理、教材等の調達を責任を持って行ってもらおうと考えており、親への啓発活動に関してもCOGESが中心的な担い手となることが想定されています。しかし、多くの学校ではまだCOGESが十分に機能していません。このような状況を改善するため、COGESの運営モデルを提示するとともに、それに関わる地方教育行政官のキャパシティ開発を目標として、現在活動が行われています。

活動内容

- ① 教育に対する関心や学校運営への参画を高めるための啓発活動の実施。
- ② COGES運営モデルを確立するための校長・教員・地域住民への研修、学校活動計画立案・実施、モニタリング支援の実施。

- ③ COGES 支援モデルを確立するための地方行政官への研修の実施。

特徴

- ① 本プロジェクトの活動は、ニジェール政府が推進する地方分権化政策と合致しており、プロジェクトで開発した研修マニュアルをベースとして国の公式マニュアルが作成される等、政策レベルへの大きなインパクトを生んでいます。
- ② COGES を設立する段階から住民参加を重視し、民主的な選挙による COGES メンバーの選出を行っています。
- ③ COGES 委員選出のための選挙への参加、住民総会への参加、学校活動計画作成・実施・モニタリングへの参加により、校長や教師だけでなく、生徒、保護者、そして地域住民を学校教育に結びつけ、学校を中心とした地域社会の活性化に寄与しています。
- ④ プロジェクト終了後の持続性を高めるため、低コストで実施可能なモニタリング手法の開発、情報管理システムの確立、活動プロセスにおける現地人材の活用等、様々な工夫を行っています。

事例紹介その2

ケニア中等理数科教育強化計画（フェーズ2）（2003年7月～2008年6月）

プロジェクト概要

背景

2020年までに工業立国を目指しているケニアでは低迷する初・中等教育における理数科教育の改善が緊急の課題とされています。この課題に取り組むため、日本政府はケニア政府の要請を受け、中等理数科現職教員研修を通じた理数科教育の改善を目標とする「中等理数科教育強化計画（SMASSE）」を9ディストリクトを対象に1998年から5年間実施しました。SMASSEでは、中等理数科目における教師中心ではなく生徒中心の教授法・学習法として実験・実習の実施及び教師の創意工夫の促進を目指す ASEI (Activity, Student, Experiment, Improvisation) と呼ばれる授業改善アプローチを導入しています。また、教員の授業内容や生徒の到達度のモニタリングを通し、ASEI アプローチに基づく授業の計画を改善していく PDSI (Plan, Do, See, Improve) というサイクルの定着化を推進してきました。5年間の活動の結果、現職教員研修システムが中央及び地方で構築され、教員研修による授業改善（ASEI/PDSI）と教員の質の向上に対するインパクトが認められました。この成果を受け、本研修の全国の理数科教員への実施を望む声があがり、2003年よりフェーズ2が始まりました。また、ASEI/PDSI 活動は、理数科教育の低迷という同様の問題を抱えるアフリカ諸国へも普及されるべきであるという要望が高く、2001年に SMASSE プロジェクトを事務局として域内連携ネットワーク「SMASSE-WECSA」が設立されました。このようなフェーズ1での成果を踏まえ、SMASSE フェーズ2では、ASEI/PDSI アプローチに基づく①研修事業のケニア全国での実施と②理数科授業改造運動のアフリカ周辺諸国への波及を2本柱とし活動を行っています。



活動内容

[ケニア国内]

- ① 現職教員を対象にした中央・地方研修の実施。

② 理数科科目の現職教員研修に関するカリキュラム開発、教材開発、地方研修指導員の養成、研修のモニタリング・評価の実施。

③ 教育行政、学校運営に携わる行政官、学校運営者に対する研修の実施。

[域内連携]

① SMASSE-WECSA メンバー国の研修指導者を対象とする研修のためのカリキュラム及び教材開発、研修及びモニタリング・評価の実施。

② ニュースレター等の情報発信、合同ワークショップ・国際会議等の開催。

③ 理数科の教育・学習に関する ASEI/PDSI アプローチの普及・啓発活動。

④ ADEA 理数科ワーキンググループにおける中心的メンバーとしての調査研究等。

特徴

① ケニア国内だけでなく、アフリカ域内に広がり、SMASSE-WECSA ネットワークには現在 30 カ国が参加、第三国研修、域内ワークショップ等を開催しています。

② カウンターパートの増員、予算配分の増加、施設提供等ケニア側の強いオーナーシップが示され、またプロジェクト運営におけるケニア側の自主性が育ってきており、自立発展性の点でも優れています。

③ ADEA・NEPAD・WSSD などの枠組みでアフリカ域内協力を開始しています。また、アフリカのみならずフィリピン大学などアジアの機関とも連携しています。

事例紹介その3

イエメン国タイズ州地域女子教育向上計画（2005年6月～2008年11月）

プロジェクト概要

背景

イエメンは、基礎教育へのアクセスに関し世界で最も男女格差が大きい国です（UNDP 人間開発報告書2004）。初等教育（1-6年生）の純就学率は全体67%に対し女子47%で、成人識字率も全体49%に対し女性は28%に留まっています。このような状況のもと、イエメン政府は「2015年までに6-14才の全児童に対し質の高い基礎教育を提供する」との目標を掲げ、2002年に「基礎教育開発戦略」を策定し、基礎教育の拡充（特に男女格差の是正）を推進しています。



しかし、行政の地方分権化が始まったばかりで、地方教育行政官の学校運営能力や、コミュニティの教育への参画はまだ不十分で、国が策定した戦略を地方レベルで実施していくうえでは、これら関係者の能力向上が不可欠です。

日本政府（JICA）はこの課題に取り組むため、イエメン政府の要請を受けて、地方における教育行政の能力向上とそれを通じた女子の就学向上のための技術協力プロジェクトを実施しています。

このプロジェクトでは地方行政・学校・コミュニティの三者が参画する実証活動（パイロット活動）の実施を通じ、学校・地域住民主体の女子教育を促進する地方教育行政モデルを開発することを目的としています。

活動内容

- ① 女子教育促進にかかる啓発活動
- ② パイロット活動実施体制の構築（学校委員会、父会、母会、父母会の設置）
- ③ 教育行政官、学校関係者、コミュニティの事業実施担当者に対するパイロット活動実施のための研修（計画策定、活動実施運営、モニタリングについて）
- ④ 女子教育を促進するためのパイロット活動の実施（計画策定、実施、モニタリング、評価）
- ⑤ パイロット活動の結果を踏まえた、タイズ州女子教育促進計画策定支援

特徴

- ① 教員、保護者、生徒、地域コミュニティ自らが課題をみつけ、解決法を考え、女子が通いやすい学校や環境作りを行います。
- ② 学校、地域コミュニティでの実証活動の蓄積をもとに、州の女子教育促進計画が策定され、学校の実情にあった計画となります。

国名	案件	スキーム	主管	実施期間	専門家	専門家/受託社	備考
1 インドネシア	地方教育行政改善	技プロ	在外(タイ2)	2004/9-2008/9	教育マネジメント	IDCJ	
2 インドネシア	前期中等理科教員研修強化	技プロ	課題部	2006/5-2008/10	教員研修	-	
3 インドネシア	紛争地域の平和維持と社会融和の推進	技プロ	在外	未定	平和構築	-	ガバナンスI
4 インドネシア	初中等教育政策アドバイザー	専門家	在外	2004/1-2006/9	教育アドバイザー	神田優美	
5 インドネシア	初中等教育政策アドバイザー(後任)	専門家	在外	2006/8派遣予定	教育アドバイザー	-	
6 インドネシア	初中等教育行政(専門家G/P)	国別(個別型)	在外	未定	教育マネジメント	-	
7 フィリピン	理科教育強化プログラム	技プロ	在外(タイ2)	2006/10開始予定	教員研修	-	
8 フィリピン	初中等教育アドバイザー	専門家	課題部	2005/1-2007/1	教育アドバイザー	星出一巳	
10 ベトナム	小学校現職教員改善計画	技プロ	在外(タイ2)	2004/9-2007/9	教員研修	IDCJ	
11 ラオス	理科教員養成	技プロ	在外(タイ2)	2004/6-2008/6	教員研修	田中真紀	
12 ラオス	セコン/アッタプー県における初等教育プロジェクト	技プロ	在外	未定	教育マネジメント	-	
13 ラオス	初中等教育アドバイザー	専門家	在外	2006/3-2008/3	教育アドバイザー	上野暁美	
14 ラオス	学校保健	専門家	在外	2005/6-2006/6	学校保健	小林和恵	母子保健I
15 カンボジア	高校理科教科書策定支援	技プロ	在外(タイ2)	2005/11-2008/11	教材作成	パデコ/愛教大	
16 カンボジア	理科教育改善計画フェイズ2	技プロ	未定	未定	教員研修	-	
17 カンボジア	教育プログラムコーディネーター	専門家	在外	2004/8-2006/8	教育アドバイザー	三浦愛	
18 カンボジア	教育計画アドバイザー(後任)	専門家	在外	2006/8派遣予定	教育アドバイザー	-	
19 ミャンマー	児童中心型教育強化プロジェクト	技プロ	在外(タイ2)	2004/12-2007/12	教員研修	ICネット	
20 ミャンマー	教育行政強化計画調査	開発調査	課題部	2006/4事前調査予定	教育マネジメント	-	
21 ミャンマー	児童中心型教育(算数)	専門家	在外	未定	教員研修	-	
22 バングラデシュ	小学校理科教育強化	技プロ	在外(タイ2)	2004/10-2008/10	教員研修	パデコ/広大	
23 バングラデシュ	初等教育アドバイザー	専門家	在外	2004/8-2006/8	教育アドバイザー	長岡康雅	
24 バングラデシュ	初等教育アドバイザー(後任)	専門家	在外	未定	教育アドバイザー	-	
26 パキスタン	パンジャブ州識字行政改善	技プロ	在外	2004/7-2007/7	NFE	小出拓己	
27 パキスタン	教育行政	専門家	在外(タイ2)	2006/2-2007/11	教育マネジメント	吉川直樹	
28 スリランカ	学校運営改善	技プロ	在外(タイ2)	2005/10-2008/12	教育マネジメント	ユ-エイ/ア'ライト'	
29 スリランカ	教員養成・再教育アドバイザー	専門家	在外	2003/4-2006/4	教育アドバイザー	大隈紀和	
30 PNG	テレビ番組による授業改善計画	技プロ	課題部	2005/8-2008/3	ICT	ICネット	
31 ネパール	子どものためのノンフォーマル教育プロジェクト	PROTEGO	在外(タイ2)	2004/1-2009/1	NFE	ICネット	
32 ネパール	国公立小学校教育推進事業	草の根技協	国内機関	2003/7-2006/6	教育マネジメント	セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン	
34 モンゴル	初等中等教育指導法改善プロジェクト	技プロ	課題部	2006/4-2009/7	教員研修	-	
35 モンゴル	教員再訓練プロジェクト	技プロ	国内機関	2003/8-2006/8	教員研修	大阪大学他	
37 大洋州	初等算数数学向上	地域別研修	国内機関	2006-2008	教員研修	鳴門教育大	JICA四国
38 南西アジア	小学校における理科実験教育II	地域別研修	国内機関		教員研修	帯広市教委	JICA帯広

基礎教育分野の協力事業一覧

2006.3.31現在

JICA基礎教育G

	国名	案 件	スキーム	主管	実施期間	サポーター	専門家/受託社	備考
39	アフガニスタン	教師教育強化	技プロ	課題部	2005/6-2007/7	教員研修	SSC/鳴教大	
40	アフガニスタン	識字教育強化	技プロ	課題部	2006/3-2008/7	NFE	J-IE総研	
41	アフガニスタン	ノンフォーマル教育強化	PROTECO	課題部	2004/3-2007/3	NFE	日コ協	
42	アフガニスタン	教育政策アドバイザー	専門家	在外	未定	教育アドバイザー	佐藤真理子	
43	アフガニスタン	教育プログラムアドバイザー(延長)	専門家	在外	2005/1-2006/5	教育アドバイザー	亀井里美	
44	アフガニスタン	教育協力計画(後任)	専門家	在外	2006/5-2007/5	教育アドバイザー	土井ゆり子	
45	イエメン	タイズ州地域女子教育向上計画	技プロ	課題部	2005/5-2008/11	女子教育	パデコ/神大	
46	ボスニア・ヘルツェゴビナ	平和のための教育ネットワーク構築	国別(集団型)	地域部		復興支援		JICA中国
47	サウジアラビア	教育近代化	専門家	課題部	未定	未定	-	
48	シリア	就学前教育の改善	国別(個別型)	地域部		ECD	-	
49	ホンジュラス	算数指導力向上プロジェクトフェーズ2	技プロ	課題部	2006/4-2011/3	教員研修	西方憲広他	PROMETAM
50	ホンジュラス	基礎教育強化	専門家	課題部	2005/10-2007/10	教育アドバイザー	白石恵子	
52	グアテマラ	算数指導力向上プロジェクト	技プロ	課題部	2006/4-2009/3	教材開発	-	PROMETAM
53	グアテマラ	教育の質向上を目指した地域参加促進	技プロ	課題部	未定	教育マネジメント	-	
55	パラグアイ	学校運営管理改善	技プロ	課題部	2006/7-2009/1	教育マネジメント	-	
56	メキシコ	チアパス州都市部スラム地域における女性の生活向上	PROTECO	在外(タイプ2)	2005/4-2008/3	NFE	JICA文化事業協会	
57	チリ	算数教育の改善	技プロ	課題部	2005/12-2008/12	教員研修	筑波大学	
58	ペルー	カス・ス地方教育ネットワーク教育運営強化	技プロ	在外	2005/10-2008/10	教育マネジメント	-	
59	ボリビア	学校教育改善	技プロ	在外	2003/7/-2010/7	教員研修	堀康廣	
60	ボリビア	初等教育における先住民族地域コミュニティの開発普及	技プロ	在外	未定	教科書コミュニティ	-	
61	ドミニカ共和国	算数指導力向上プロジェクト	技プロ	課題部	2005/5-2010/5	教材開発	-	PROMETAM
63	ニカラグア	初等教育算数指導力向上プロジェクト	技プロ	課題部	2006/4-2011/3	教材開発	中原篤史	PROMETAM
64	エルサルバドル	初等教育算数指導力向上	技プロ	課題部	2006/4-2009/3	教材開発	豊岡しのぶ	PROMETAM
65	コロンビア	数学・自然科学教員養成システム強化	技プロ	課題部	2004/10-2008/3	教員研修	宮教大	
66	中南米	日本の教育経験	地域別研修	国内機関	2006-2008	教育マネジメント	筑波大学	JICA筑波
67	中南米	障害児教育	地域別研修	国内機関	2006-2008	障害児教育	筑波大学	JICA筑波

基礎教育分野の協力事業一覧

2006. 3. 31現在

JICA基礎教育G

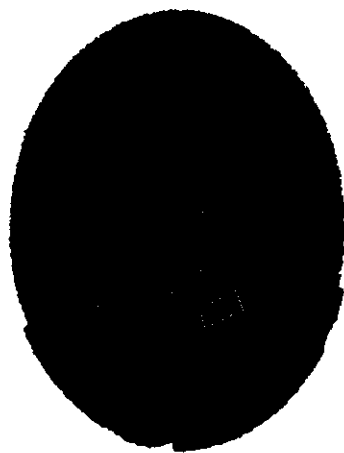
国名	案 件	形式	主管	実施期間	サポーター	専門家/受託社	備考
68 エチオピア	住民参加型基礎教育改善	技プロ	在外(タイ)2	2003/11-2007/11	学校建設	北詰秋乃他	
69 エチオピア	オロミア州初等教育アクセス向上計画	開発調査	課題部	2005/4-2007/5	教育マネジメント	コエイ総研	
70 マラウイ	中等理数科現職教員再訓練プロジェクト	技プロ	在外(タイ)2	2004/10-2007/10	教員研修	大木憲一	SMASSE
71 マラウイ	県別教育開発計画実施体制構築支援プロジェクト	技プロ	在外	未定	教育マネジメント	-	
72 マラウイ	教育計画運営向上アドバイザー	専門家	在外	2005/6-2007/6	教育アドバイザー	木内行雄	
74 ケニア	中等理数科教育強化計画フェーズ2	技プロ	課題部	2003/7-2008/6	教員研修	杉山隆彦他	SMASSE
75 ケニア	スラム地域の青少年の教育への対応拡大などに資する児童福祉職員の能力向上	専門家	在外	未定	NFE	佐藤麻子	
76 ウガンダ	中等理数科強化プロジェクト	技プロ	課題部	2005/8-2008/8	教員研修	岡本剛	SMASSE
77 ザンビア	SMASTE理科研究授業支援	技プロ	在外	2005/10-2007/10	教員研修	中井一芳	SMASSE
78 ザンビア	コミュニティスクール支援プロジェクト	技プロ	在外	未定	NFE	-	
80 ナイジェリア	初等理数科教育強化プロジェクト	技プロ	課題部	2006/8開始予定	教員研修	-	SMASSE
81 ナイジェリア	教育政策	専門家	課題部	2005/9-2006/9	教育アドバイザー	日下部光	
82 モザンビーク	ガザ州初等教育強化計画	技プロ	在外	未定	教員研修	中島基恵	SMASSE
83 タンザニア	教育行政能力強化研修	在外研修	在外	未定	教育マネジメント	-	
84 ニジェール	住民参加型学校運営改善計画	技プロ	課題部	2004/1-2006/12	教育マネジメント	原雅裕他	
85 ニジェール	中等理数科教育改善計画	技プロ	課題部	2006/8開始予定	教員研修	-	SMASSE
87 ガーナ	教育行政能力向上計画	技プロ	在外	2006/5-2008/5	教育マネジメント	亀井里美	
88 ガーナ	現職教員研修政策支援計画	技プロ	在外	2005/11-2008/11	教員研修	パデコ	
89 セネガル	子供センター人材育成計画	技プロ	在外	未定	ECD	-	
90 セネガル	教育環境改善	技プロ	在外	未定	教育マネジメント	-	
91 セネガル	地方教育行政強化計画	開発調査	在外	2005/11-2007/11	教育マネジメント	IDCJ	
92 セネガル	教育政策アドバイザー	専門家	在外	2006/4-2007/11	教育アドバイザー	櫻谷紅美子	
93 セネガル	地方教育行政強化計画(開調C/P)	国別(個別型)	在外	2006/11-	教育マネジメント	IDCJ	
94 ブルキナファソ	基礎識字教育アドバイザー	専門家	課題部	2004/5-2006/5	教育アドバイザー	後呂依希	
95 ブルキナファソ	基礎識字教育アドバイザー(延長)	専門家	課題部	2006/5-2007/5	教育アドバイザー	-	
96 シエラレオネ	子供・青年支援調査	開発調査	在外	2005/10-2008/9	教育マネジメント	IDCJ	
97 アフリカ	地方教育行政セミナーⅡ	集団研修	国内機関	2002-2006	教育マネジメント	札幌市教委	JICA札幌
98 アフリカ	研究と対話による自立的な基礎教育開発の促進	地域別研修	国内機関	2004-2006	教育マネジメント	広島大学	JICA広島
99 アフリカ	学校運営改善	地域別研修	国内機関	2006-2008	教育マネジメント	金沢大学	JICA北陸
100 アフリカ	復興支援における教育	地域別研修	国内機関	2006	未定	大阪大学他	JICA大阪
101 仏語圏アフリカ	アフリカ仏語圏教育行政	地域別研修	国内機関	2003-2007	教育マネジメント	広島国際センター	JICA広島
102 仏語圏アフリカ	幼児教育	地域別研修	国内機関	2006-2008	ECD	お茶/水大	JICA東京
103 全世界	中等科学教育実技Ⅱ	集団研修	国内機関	2005-2009	教員研修	広大	JICA中国
104 全世界	女性の教育推進セミナー	集団研修	国内機関	2006-2011	女子教育	女性教育会館	国総研
105 全世界	中等教育開発Ⅱ	集団研修	国内機関	2004-2008	教育マネジメント	名古屋大学	JICA中部
106 全世界	学校保健	集団研修	国内機関	2006-2011	学校保健	愛知小児保健	JICA中部

帰国後の社会還元について

西 あい（開発教育協会）

園山 昌和（国際協力機構広尾企画チーム）

土橋 泰子（青年海外協力協会）

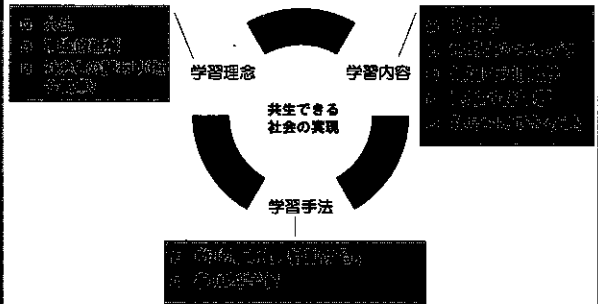


開発教育の概要

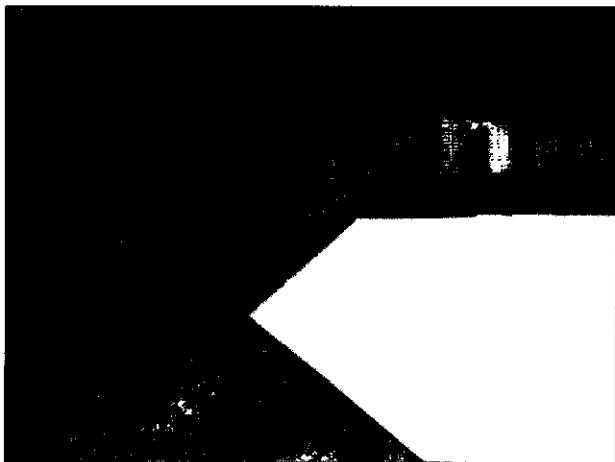
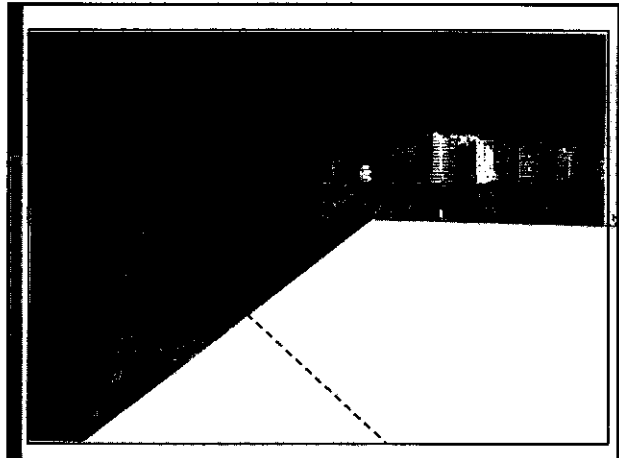
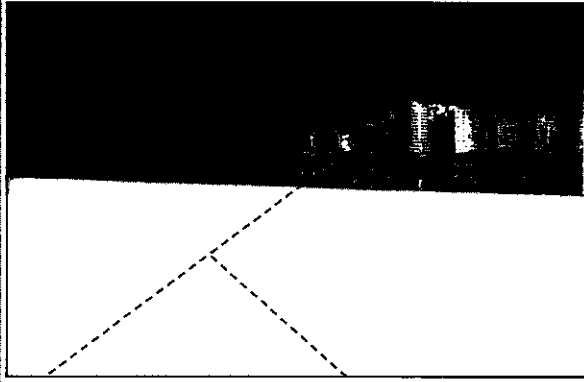
特定非営利活動法人 開発教育協会

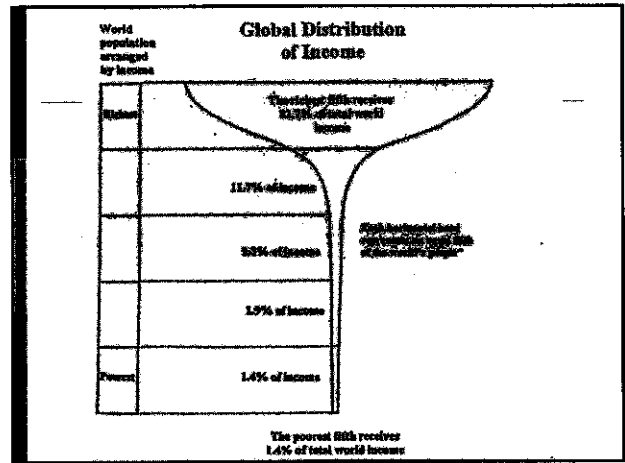
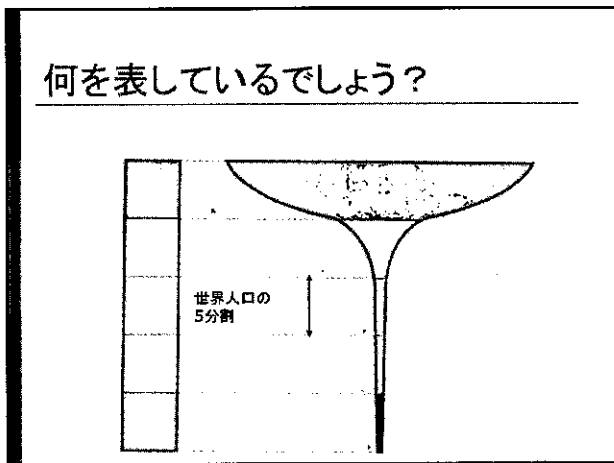
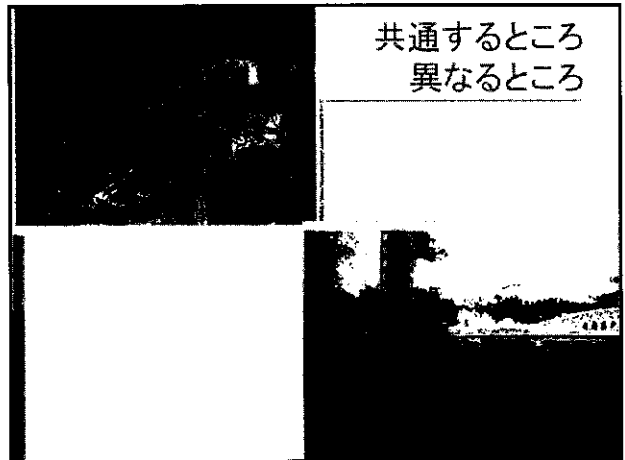


開発教育とは



これはどこでしょう？





教材・資料

□ 教材および資料の作成・発行

ご質問・ご相談・入会のご案内は・・・

<http://www.dear.or.jp>

開発教育とは

1)開発教育という名称

Development Education

(De - envelop) (封を開いて中身を取り出す)

2)始まりと展開

- 1960年代～ ヨーロッパの開発NGOから始まる
- 1970年代～ 世界の相互依存関係、格差の構造
- 1980年代～ 日本での展開「国際協力教育」
- 1990年代～ 「開発」のありかたを考える教育活動

3)ねらい 「共に生きることのできる公正な社会」をつくること

●学習理念

- 1) 競争の原理から「共生の教育原理」へ
- 2) 異文化理解から「多文化共生(地域や国内での共生)」へ
- 3) 情緒的理解から「共感的理解と構造的理解」へ
- 4) 現状維持から「自己・社会変革」へ

c. f.「ユネスコ国際勸告(1974)」 「平和の文化を築くこと」をめざし、地球的諸問題に焦点を当てている

4)学習目標

- ・多様性の尊重 (人権を尊重し、さまざまな文化・生活から学ぶ)
- ・開発問題の原因と構造 (国内外の格差や貧困の現状とその背景を学ぶ)
- ・地球的諸課題の関連性 (環境・人権・平和などの関係性を学ぶ)
- ・世界と私たちとのつながり (衣・食・住など身近なところからつながりに気づく)
- ・私たちのとりくみ (足元からできることを考える)

5)学習方法・プロセス(参加型学習)

- ・知る→考える→行動する (問題発見・解決型)
- ・社会参加のための参加型学習
- ・方法はメッセージを持つ

6)開発教育協会(DEAR)の活動

- ・ ネットワーク組織
- ・ 全国の担い手を支援
- ・ 政策提言
- ・ 情報収集・発信
- ・ 調査研究

■参考文献:

- 『開発教育ってなあに?開発教育Q&A集(改訂版)』(DEAR, 2004)
- 『参加型学習で世界を感じる 開発教育実践ハンドブック』(DEAR, 2003)

■(特活)開発教育協会

〒112-0002 東京都文京区小石川2-17-41-3F TEL: 03-5844-3630 FAX: 03-3818-5940

Email: main@dear.or.jp web: http://www.dear.or.jp

地球ビンゴ

質問しよう！

■すべて、違う人を見つけてください。

■答えてくれた人の名前と、答えを書いて下さい。

<p>①海外に文通相手やメル友がいる人 【友だちの名前】</p> <p>-----</p> <p>国・地域名</p> <p>-----</p> <p>名前：-----</p>	<p>②外国に行ったことのある人</p> <p>-----</p> <p>国・地域名</p> <p>-----</p> <p>名前：-----</p>	<p>③熱帯雨林から来ているものを知っている人 【モノの名前】</p> <p>-----</p> <p>国・地域名</p> <p>-----</p> <p>名前：-----</p>	<p>④外国のどこかに行ってみたい人 【場所】</p> <p>-----</p> <p>国・地域名</p> <p>-----</p> <p>名前：-----</p>
<p>⑤外国から来た人のお世話をしたことがある人 【だれを】</p> <p>-----</p> <p>国・地域名</p> <p>-----</p> <p>名前：-----</p>	<p>⑥今朝、日本産でない物を食べた人 【食べ物】</p> <p>-----</p> <p>国・地域名</p> <p>-----</p> <p>名前：-----</p>	<p>⑦外国の食べ物が好きな人 【食べ物】</p> <p>-----</p> <p>国・地域名</p> <p>-----</p> <p>名前：-----</p>	<p>⑧日本製でない服を着ている人 【何を】</p> <p>-----</p> <p>国・地域名</p> <p>-----</p> <p>名前：-----</p>
<p>⑨外国のスポーツ選手の名前を言える人 【だれを】</p> <p>-----</p> <p>国・地域名</p> <p>-----</p> <p>名前：-----</p>	<p>⑩最近海外のニュースを新聞やテレビで見た人 【ニュース】</p> <p>-----</p> <p>国・地域名</p> <p>-----</p> <p>名前：-----</p>	<p>⑪アフリカ出身の有名人の名前を言える人 【だれを】</p> <p>-----</p> <p>国・地域名</p> <p>-----</p> <p>名前：-----</p>	<p>⑫日本に住む外国人の友だちがいる人 【友だちの名前】</p> <p>-----</p> <p>国・地域名</p> <p>-----</p> <p>名前：-----</p>
<p>⑬外国の音楽が好きな人 【どんな音楽】</p> <p>-----</p> <p>国・地域名</p> <p>-----</p> <p>名前：-----</p>	<p>⑭日本に店や事務所がある外国の会社を知っている人 【会社の名前】</p> <p>-----</p> <p>国・地域名</p> <p>-----</p> <p>名前：-----</p>	<p>⑮国際協力の活動をしている団体の名前を知っている人 【団体】</p> <p>-----</p> <p>国・地域名</p> <p>-----</p> <p>名前：-----</p>	<p>⑯日本で話されている日本語以外の言語を知っている人 【言語・ことば】</p> <p>-----</p> <p>国・地域名</p> <p>-----</p> <p>名前：-----</p>

開発途上国と日本の市民を結ぶ「架け橋」に
— 開発教育支援事業 —

■ 開発教育とは

貧困・飢餓、環境破壊など国際社会・地域社会の現状を知り、開発・環境・人権・平和をはじめ様々な問題についての理解を深め、国際協力・開発援助の重要性についての認識を深めるための教育、また、開発途上国と先進国との関係を含め国際社会の問題の解決に向け、なんらかの形で参加する態度や能力を養うことを目的とした教育のことです。

■ 開発教育への支援

開発教育の担い手は、直接的には教育現場の教員、開発教育を活動目的とする NGO、市民団体とさまざまであり、またその活動内容も多彩です。これら多様な「開発教育」の担い手の中にあつて、学校等の継続的な教育現場を持たない JICA としては、開発教育を側面から支援する「開発教育支援事業」に重点を置いています。

■ 開発教育支援事業の柱

JICA は、開発途上国と日本の市民の「架け橋」となるために、開発途上国の実情や開発途上国及び日本との関係に関する「知見の還元」及び市民の皆様が自主的に何ができるかを「考える機会の提供」に重点を置いた開発教育支援を展開しています。

JICA は長年に亘る開発途上国における技術協力、ボランティア事業の実施や、その情報・経験の体系化や分析を目的にした調査研究を通じた知見を集積し、保有しております。これら JICA の知見を日本の市民に還元することにより、日本の市民に開発途上国の実情と日本との関わりについて理解を促すことを開発教育支援事業の柱の一つとしております。

また、「総合的な学習の時間」の中での取り組みを中心として、義務教育との連携を強化しながら、市民の皆様が自主的に何ができるかを考える機会を提供することにも力を入れております。

■ 知見の還元

1. 国際協力出前講座

開発途上国の実情と、開発途上国及び日本との関係を理解していただくため、職員、専門家やボランティア経験者、来日している研修員などを講師として学校等へ派遣しております。2004年度には、学校を中心に全国で2,191件の講座を実施し、約23.5万人の方が受講をされました。



2. 開発教育のための教材

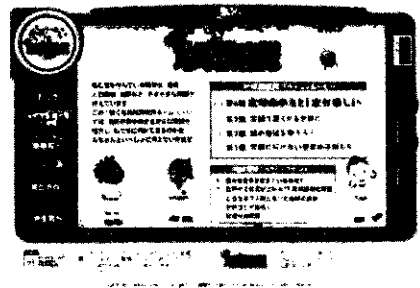
① 産経広告社の「育て！子供たち」

産経広告社の「育て！子供たち」に出稿し、開発途上国に関する情報を全国の小学校・中学校等約16,000校の掲示板に5回掲示しました。また、開発途上国の教育問題の概観を収録した小学生から中学生向けパンフレット「学校に行きたい！」もご好評を頂いております。

② ホームページ「ぼくら地球調査隊」

水問題、砂漠化、人口増加、環境などの地球規模の問題をアニメーションを使ってわかりやすく解説しています。

<http://www.jica.go.jp/kids/pages/index.html>



③ 開発教育用教材「JICA フォトランゲージ・キット」

教師やNGOの方々と共に作成した開発途上国の風土や暮らしぶりを生き生きと表現した写真教材です。教室で写真を使って考えたり、意見を交換しあって、途上国の現状や課題について理解を深めるのにご活用いただいております。全国のJICAプラザで貸し出しを行っております。



■ 考える機会の提供

1. 中学生・高校生エッセイコンテスト

開発途上国の現状と国際協力の必要性について理解を深め、国際社会の中で日本は何をすべきか、また、自分たちひとりひとりがどう行動すべきかについて考えてもらうことを目的として、全国の中学生・高校生を対象にエッセイコンテストを実施しております。2004年度は、合計28,465点の応募がありました。副賞として上位入賞をされた方をアセアン等への研修旅行に招待しました。

2. 国際協力実体験プログラム

国際協力に関心のある中学生・高校生等を対象に、海外から来た研修員との交流や、専門家・ボランティア経験者の講義やワークショップを通じて日本と世界のつながりやどういった国際協力が必要とされるかといった観点から考える機会を提供するプログラムです。2004年度は、全国で74のプログラムが実施され3,166名の方が参加されました。

3. 教師海外研修



国際理解教育・開発教育に関心のある小学校から高等学校の教師を対象に、開発途上国で10日間ほど研修をおこなうプログラムです。帰国後、参加者は、研修で得られた経験をもとに、それぞれの教育現場において開発教育に関する授業を実践し、それをレポートとしてご提出頂いております。2004年度は、19チーム191名の方を派遣しました。

4. 開発教育指導者研修

開発教育の指導にあたる教員等を対象に、教材の作成と活用方法、参加型学習の手法等を取り上げた実践的な研修を行っております。2004年度は、全国で70件の研修を実施し、2,656名が参加されました。この研修は、教育現場のニーズに合致するように、教育委員会、地域国際化協会、開発教育に取り組んでいるNGOや教師の方々と共同で運営・実施しています。

JICA地球ひろばの役割



JICA地球ひろばは、市民参加による国際協力の拠点として多くの市民が訪れ、途上国の人々への共感や理解感を育む場となり、国際協力に関わる市民団体の情報発信や交流、研修の拠点として利用される場となることをめざして設立されます。

このJICA地球ひろばでみなさまの国際協力活動を応援し、ボランティアの心で国際協力に参加する人々が増えること、地域社会での体験に根ざした市民による国際協力がより確実に途上国の住民ひとりひとりに届くことを推進したいと考えます。

JICA地球ひろばの主な事業内容

- 1. 開発教育への支援**
開発途上の現状や地球が抱える問題、国際協力の実際などの展示
修学旅行や課外学習などでの訪問の受け入れ、学校への講師派遣
開発教育についてのご相談受け付けや教材の貸し出し
JICAや国際機関の活動を紹介する資料や映像の提供
市民団体や自治体、大使館などとの協力による国際協力 開発問題の理解促進活動の実施
- 2. 国際協力への参加相談・支援**
JICAボランティア（青年海外協力隊、シニア海外ボランティア、日系社会青年ボランティア、日系社会シニア・ボランティア）への応募相談
国際協力業務の求人情報の提供、人材登録の支援
草の根技術協力事業への応募相談
市民の声の発信
- 3. 市民団体・地方自治体との協働**
市民団体や自治体、大使館などの企画による展示や催しの共催
セミナー・講座、会議室、講堂、宿泊施設などの貸し出し
NGO 自治体職員への研修
- 4. 市民参加による国際協力の実施**
草の根技術協力事業
JICA青年招へい事業
日系研修員受け入れ事業
- 5. JICAボランティアへの各種研修・ボランティアの社会還元支援**
短期派遣のボランティアの派遣前研修
帰国前オリエンテーションと進路相談
帰国ボランティアの社会還元活動の推進

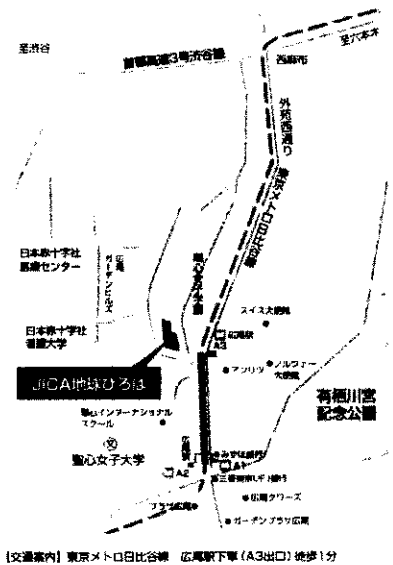
開館時間(予定)

・月曜 祝日を除く 定休

貸し出しスペース	9:30 - 21:30
展示・相談スペース	10:00 - 20:00 (平日) 10:00 - 18:00 (土・日 祝日)
カフェ・ボランティア	10:00 - 22:00 (平日 土) 10:00 - 18:00 (日 祝日)

よりよい明日を 世界の人々と、
JICA地球ひろば
 (独立行政法人 国際協力機構 広尾センター)
 〒150-0012 東京都渋谷区広尾4-2-24
 URL: <http://www.jica.go.jp/hiroba/>

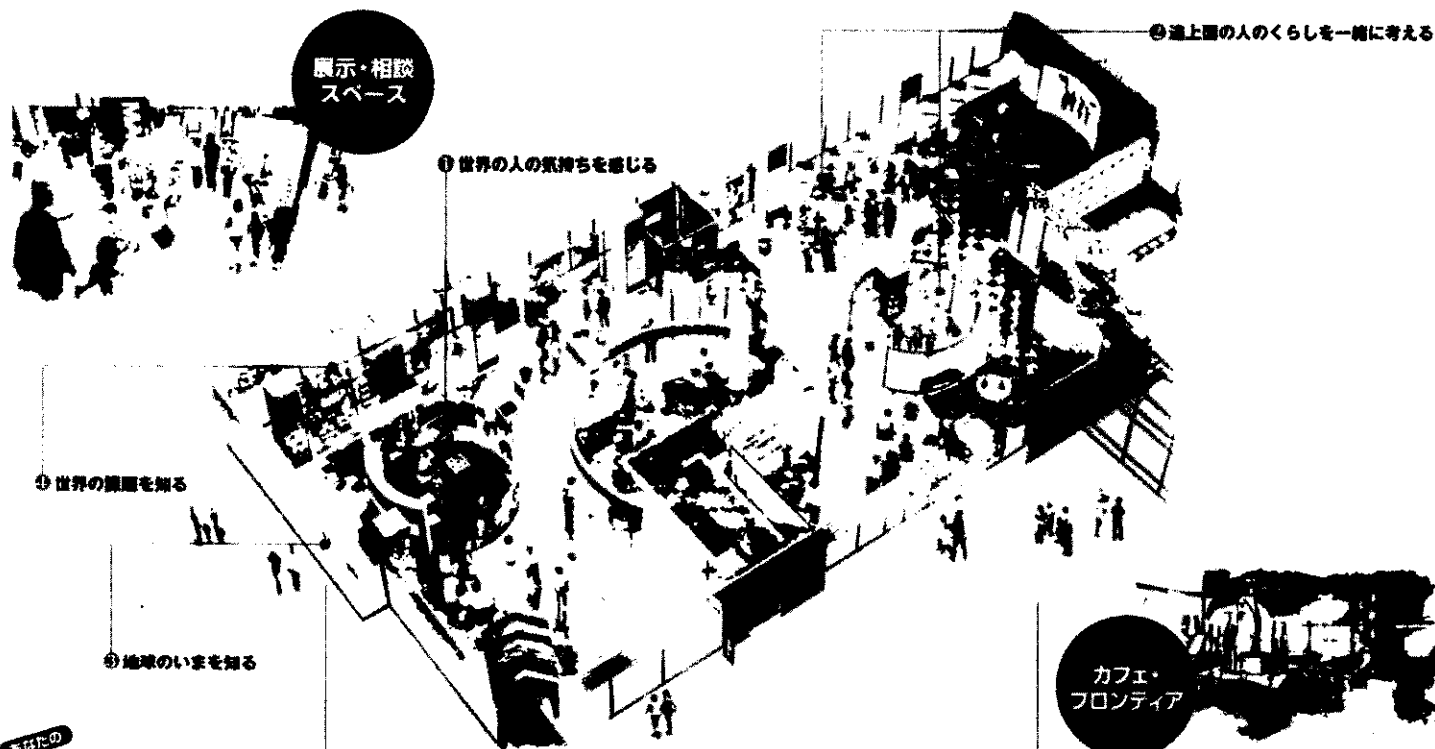
お問い合わせ先
TEL: 03-3400-8426
FAX: 03-3400-7384
E-mail: chikyuhiroba@jica.go.jp



あなたの国際協力

「したい・しりたい」をカタチにします。

あなたの「？」を「！」に。海外経験豊富な常駐スタッフになんでも聞いてください！相談してください！



展示・相談
スペース

あなたの

「？」を解決しましょう。

世界の人々の気持ちを
お伝えします。

見て、聞いて、さわって、いま世界が直面している課題をスタッフと一緒に考えましょう。世界の課題をぐくつと身近な問題として感じて、なにか自分にできることはあるかな？と思ったら、スタッフと一緒に探しましょう。

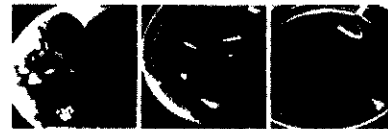
あなたの「？」はまずスタッフへ
気軽に声をかけてください



カフェ・
フロンティア

「？」な味や「！」な味を 体験しましょう。

そんなそこらのエスニックではありません。異国情緒あふれる空間で、海外の庶民の味を提供します。イベントに応じて、各フロアへのケータリングサービスや貸し切りパーティーにも対応します。



あなたの

「！」を応援します。

「情報発信」と「交流」に
お役立てください。

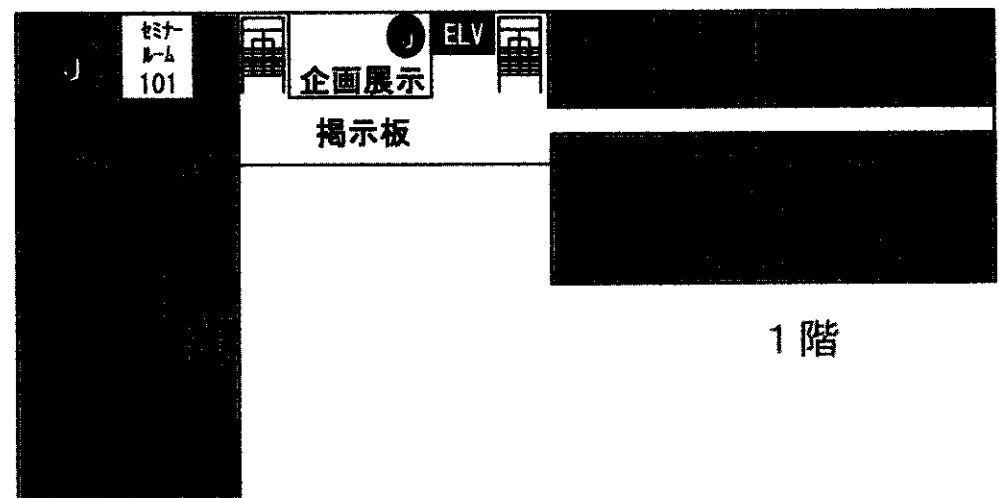
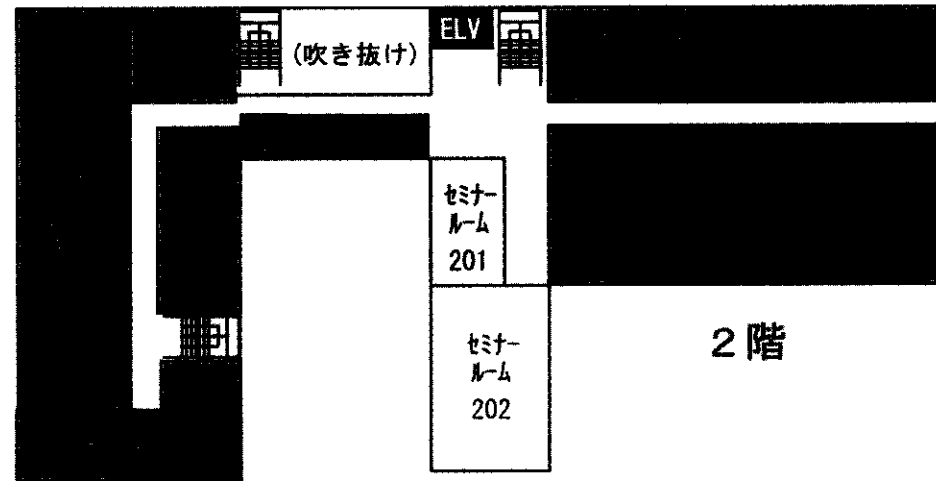
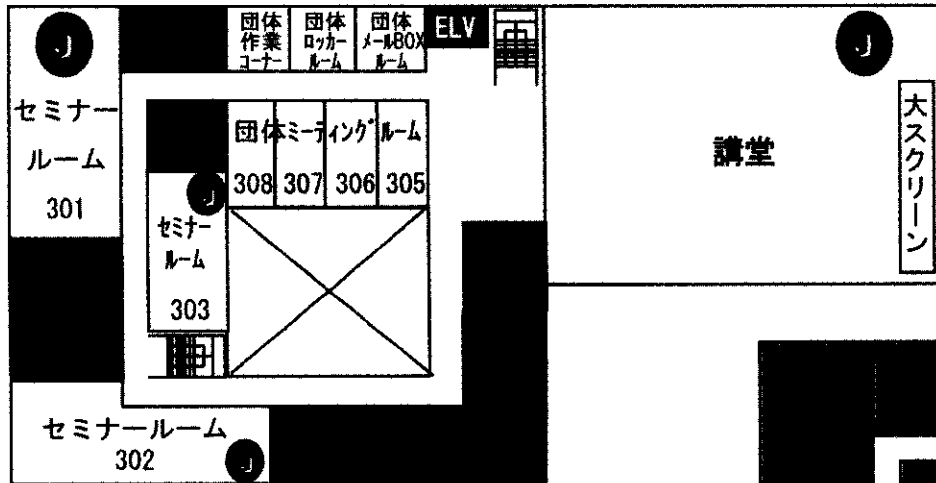
各種イベントのためのスペースを貸し出します。展示会からバザール、報告会、セミナー、語学教室など、その熱い気持ちを伝えてください。同じ思いの人たちと国際協力を盛り合しましょう。

貸し出し
スペース



- セミナールーム・講堂 (7名から225名まで対応。一部TV会議システム利用可)
- 企画展示・掲示板スペース(入ロビー)
- 中庭、カフェ・フロンティア
- 宿泊施設(55名まで対応可)

で情報更新中！



<貸出スペース>

分類	会議室名	収容数		基本料金	追加料金	設備	
		面積 (㎡)	定員 (人)				
企画展示	1階 企画展示スペース	139.27	-	1,800円	600円	JICA-Net プロジェクター	
	セミナールーム101	35.38	15	900円	300円		
イベント セミナー	2階 セミナールーム201	36.98	15	900円	300円		
	2階 セミナールーム202	96.57	48	1,500円	500円		
	3階	講堂	450.34	225	5,000円	1,500円	JICA-Net
		セミナールーム301	104.70	52	1,500円	500円	JICA-Net
		セミナールーム302	63.44	32	1,000円	300円	JICA-Net
		セミナールーム303	95.08	48	1,500円	500円	JICA-Net
サポート スペース	3階	団体ミーティングルーム305	24.06	8	-	-	
		団体ミーティングルーム306	24.06	8	-	-	
		団体ミーティングルーム307	24.06	8	-	-	
		団体ミーティングルーム308	24.06	8	-	-	
		団体M-BOXルーム	18.70	-	-	-	M-BOX
		団体ロッカールーム	21.13	-	-	-	ロッカー
団体作業コーナー	17.64	-	-	-	コピー機等		

注1：貸出スペースの利用にあたっては団体登録をしていることが条件となります。
 注2：基本料金は3時間分の料金です。3時間を超過した場合は1時間につき上記の追加料金が加算されます。JICAの後援、協賛もしくは共催に限り、JICA-Netの利用ができます。
 注3：1階は、JICAとの共催による使用に限定されます。
 注4：申請団体が、JICAの後援、協賛もしくは共催とすることを申請し、当該会議の開催をJICAが後援、協賛もしくは共催とすることが適当であると所長が認める場合には、以下のとおり料金を減免します。

①後援	行事の趣旨に賛同の意思を表示すること。	利用料金の半額を免除
②協賛	行事の趣旨に賛同し、その開催を援助すること。	利用料金の全額を免除
③共催	行事の企画又は運営に参画し、主催者と共同して行事を執行すること。	利用料金の全額を免除

<宿泊スペース>

4階、5階に宿泊スペースも用意しています。

ご入会の方法

お近くの郵便局に備え付けの払込取扱票をご利用のうえ、会費を下記口座までお納めください。折り返し入会お礼セットをお送りいたします。

口座番号：00180-8-50096

加入者名：特定非営利活動法人 開発教育協会

※払込票の通信欄に、「新入会費」であること、お名前、ご住所、電話番号、会員種別（個人正会員/団体正会員/個人賛助会員/学生賛助会員/団体賛助会員）、ご職業、入会の動機をご明記ください。

会員の特典

- ・ 研究誌「開発教育」（年1回）
- ・ 情報誌「DEAR ニュース」（年6回）の送付
- ・ イベント・セミナーなどへの割引参加
- ・ 出版物の割引購入
- ・ プログラム企画や講師派遣などの無料相談
- ・ 会員用メーリングリストへの参加

会員の種別と会費 ※会費の有効期間は、4月1日から翌年3月31日までの一年間となります。

会員の種別	年会費
正会員 DEARの組織や事業の運営に積極的に参加・協力して下さる方。 会員総会に出席し、決議に参加したり、組織強化に向けた活動にご協力していただきます。	個人会員 8,000円 団体会員 20,000円
賛助会員 会員サービスなどは正会員と同じです。	個人会員 8,000円 学生会員 6,000円 団体会員 20,000円

入会初年度会費

※初年度会費はご入会の月によって割引がございます。2年目からは通常の会費になります。

入会の時期	個人会員	個人学生会員	団体会員
4月～6月に入会される方	8,000円	6,000円	20,000円
7月～9月に入会される方	6,000円	4,000円	15,000円
10月～12月に入会される方	4,000円	3,000円	10,000円
1月～3月に入会される方	2,000円	1,000円	5,000円



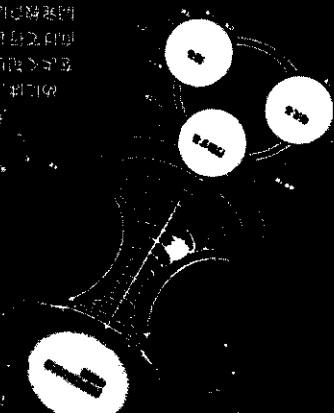
Development Education Association & Resource Center
<http://www.dear.or.jp>



DEARの活動は、開発教育の普及と発展を目的として、国内外の教育現場をはじめ、さまざまな場を広げていくため、次のような役割を担います。

- ・ 地域や学校などでの「学びの場」づくりを支援すること
- ・ 政府との対話や、政策に対する提言を行うこと
- ・ 世界各地の関係団体との情報交換やネットワークづくり
- ・ 開発教育に関する国内外のさまざまな情報を収集・発信すること
- ・ 開発教育の調査研究を進めること

DEARの活動は、開発教育の普及と発展を目的として、国内外の教育現場をはじめ、さまざまな場を広げていくため、次のような役割を担います。

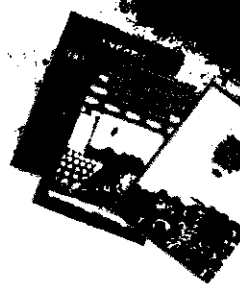


DEARの活動の目的と役割

DEARは、開発教育を日本の教育現場をはじめ、さまざまな場を広げていくため、次のような役割を担います。

- ★ 地域や学校などでの「学びの場」づくりを支援すること
- ② 政府との対話や、政策に対する提言を行うこと
- ③ 世界各地の関係団体との情報交換やネットワークづくり
- ★ 開発教育に関する国内外のさまざまな情報を収集・発信すること
- ④ 開発教育の調査研究を進めること

政府などに教育政策の推進を働きかけるアドボカシー(政策提言)や、
 教育現場の担い手を育て、支える役割を担っています。
 国内・海外のネットワークづくりを行っています。
 ネットワークは、日本全国展開しています。
 海外では欧米・東南アジア、韓国に広がっています。
 たとえば
 ・外資系や国際協力機関(JICA)への政策提言・政策提議
 ・「全国ネットワーク会議」の開催
 ・英語スタディツアーや白タイ協賛セミナーの開催 など



人と世界との出会いの中に多様性が育まれ
 コミュニケーションとネットワークから
 新しい教育が発信されています

運動
 movement
 開発教育を「ひろげ・さそえる」ために

DEAR
 青年協会

研究
 research
 「つなぐ・あつめる」ために

創造
 Creative
 開発教育を「つくり・つたえる」ために

活動に参加する方

活動に参加していただくには、まず「DEAR」の活動内容や参加の方法を、ぜひ DEAR で探してください。
 詳しくはウェブサイトをご覧ください。お問い合わせください。

・会費になる・・・DEARの一員として、会費で開発教育活動を支えてください。

・活動チームに参加する・・・DEARの活動はすべて、ボランティアで運営されています。ご関心のある活動に、ぜひご参加ください。

・セミナーに参加する・・・各種講座やイベントが一年を通じて企画されています。

・寄付をする・・・市民による教育団体として独立して活動を行っていくために、ご寄付をお願いできませんか。

・事務局のインターン/ボランティアに参加する・・・事務局の活動にご協力をお願いします。

わたしたちも活動に参加しています

上城直美さん
 NPO 活動推進委員会
 文部科学省の委託事業として、
 全国のNPOを支援する活動に
 参加しています。DEARの活動に
 参加し、開発教育の重要性を
 理解し、活動の推進に貢献して
 います。

夜見長平さん
 神戸大学大学院
 開発教育の重要性を認識し、
 開発教育の普及に貢献する
 活動を行っています。DEARの
 活動に参加し、開発教育の
 重要性を認識し、活動の推進
 に貢献しています。

福田能文さん
 東京大学
 開発教育の重要性を認識し、
 開発教育の普及に貢献する
 活動を行っています。DEARの
 活動に参加し、開発教育の
 重要性を認識し、活動の推進
 に貢献しています。

大谷工保さん
 日本大学
 開発教育の重要性を認識し、
 開発教育の普及に貢献する
 活動を行っています。DEARの
 活動に参加し、開発教育の
 重要性を認識し、活動の推進
 に貢献しています。

早川由美さん
 NPO 開発教育
 開発教育の重要性を認識し、
 開発教育の普及に貢献する
 活動を行っています。DEARの
 活動に参加し、開発教育の
 重要性を認識し、活動の推進
 に貢献しています。

岡田明子さん
 DEAR YOUTH「若者学生」
 DEAR YOUTH「若者学生」の
 活動に参加し、開発教育の
 重要性を認識し、活動の推進
 に貢献しています。

国際教育の推進

茅野 公穂 (筑波大学)

！



平成18年度 青年海外協力隊 現職教員特別研修

国際教育の推進

茅野 公穂 (Kimiho CHINO)
CRICED, University of Tsukuba

はじめに

- 国際教育について
- 事例について
 - 検討のためのキーワード —
 - 学校全体の取り組みへ
 - 学びの広がり・深まり
 - 招聘等、学外の人材の活用
- おわりに

国際教育について

国際教育とは

「国際社会において、地球的視野に立って、主体的に行動するために必要と考えられる態度・能力の基礎を育成する」ための教育

—「初等中等教育における国際教育推進検討会」—

国際理解教育、帰国・外国人児童生徒教育、海外子女教育など、各分野の成果を踏まえた教育のあり方として提言

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/026/index.htm

求められる態度や能力

いかなる人材を育てるべきか —国際社会で求められる態度・能力

- 国際化が一層進展している社会においては、国際関係や異文化を単に理解するだけでなく、自らが国際社会の一員としてどのように生きていくかという主体性を一層強く意識することが必要
- 初等中等教育段階においては、すべての子どもたちが、
 - ①異文化や異なる文化をもつ人々を受容し、共生することのできる態度・能力
 - ②自らの国の伝統・文化に根ざした自己の確立
 - ③自らの考えや意見を自ら発信し、具体的に行動することのできる態度・能力を身に付けることができるようにすべき
- これらは、国際的に指導的立場に立つ人材に求められる態度・能力の基盤となるものであり、個の特性に応じて、リーダー的資質の伸長にも配慮した教育を

—「初等中等教育における国際教育推進検討会」—

事例

— 検討のためのキーワード —

- 学校全体の取り組みへ
- 学びの広がり・深まり
- 招聘等、学外の人材の活用

静岡県沼津市原小学校における ホンジュラス文化経験授業

生田佳澄先生(14年度ホンジュラス派遣)



- ◆外国との比較の視点を取り入れた地域学習
「私たちのふるさと 原 のよさをみつめよう」
5学年全体、教頭先生やPTA会長も講師に招く。
- ◆ホンジュラス国立演劇学校長 文化庁招聘研究生
Jose Luis Recinos氏(来日中)を招いての異文化交流。
- ◆帰国隊員による通訳により、互いの意思疎通に欠かせない配慮
を実現

<http://www.criced.tsukuba.ac.jp/jocv/project/ikuta.pdf>

愛媛県久万高原町立美川中学校における ガーナ文化経験授業 渡部和江先生(15年度ガーナ派遣)



地域社会との連携

- ◆ 全校での取り組みと学年ごとの取り組みの組み合わせ。学校の取り組みには保護者も参加。
- ◆ ガーナのエリック氏(職業訓練学校校長)を招いての異文化交流
費用は趣旨に賛同していただいた地元企業の方の寄付

<http://www.criced.tsukuba.ac.jp/jocv/20060107/watanabe.pdf>

平成17年度文部科学省・筑波大学国際教育協力シンポジウム
「開発途上国における派遣現職教員の活躍」報告書

愛媛県松山市石井小学校における 松山ーホンジュラス・ダンリ間絵手紙交換

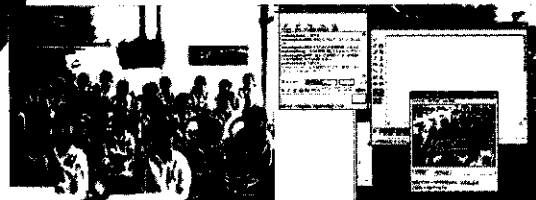
藤井田美代先生(14年度ホンジュラス派遣)



<http://www.criced.tsukuba.ac.jp/jocv/project/fujiida.pdf>

長野県小諸市ーカンボジア・ バタンバン州 インターネットライブ授業

中山晴美先生(14年度カンボジア派遣 小諸市立美南が丘小学校教諭)
阿部康裕先生(15年度カンボジア派遣 ワットカンペイン小学校)



http://www.criced.tsukuba.ac.jp/jocv/project/live_report.pdf

神奈川県秦野市ーバヌアツ 滋賀県草津市ーバヌアツ インターネットライブ授業

栗野貴之先生(15年度バヌアツ派遣 秦野市立鶴巻小学校)、
重直美香先生(14年度バヌアツ派遣 草津市立老上小学校)、
園祐子先生(16年度バヌアツ派遣 LAKATORO SCHOOL(ラカトロ実施担当者))、
田沼子先生(16年度バヌアツ派遣 Malampa Provincial Education Office(ラカトロ実施担当者))、
高居塚一登先生(16年度バヌアツ派遣 Ambaebulu Primary School(アンバエブル実施担当者))



平成17年度
7月12日 ラカトロ初等学校ー鶴巻小学校、9月27日 アンバエブル初等学校ー老上小学校、
9月29日 ラカトロ初等学校ー鶴巻小学校、10月3・4日 ラカトロ初等学校ー老上小学校、において実施。

国際教育

ー方法ー

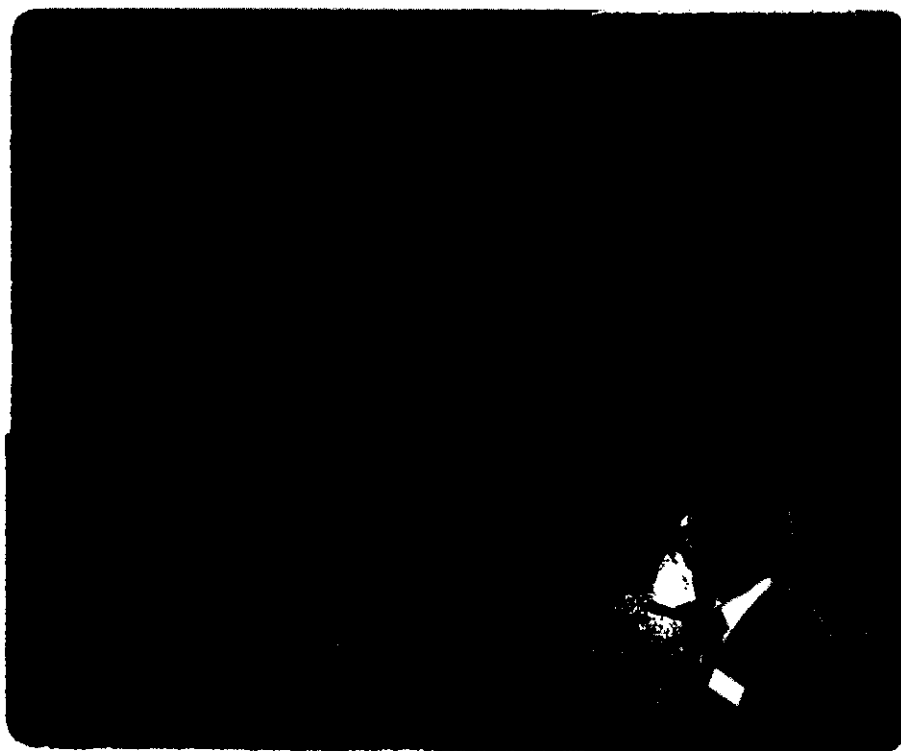
- 現職教員の派遣(直接体験)
- 途上国の関係者を学校に招く
 - ◆ 保護者、企業との連携
- インターネットの活用



- ①異文化や異なる文化をもつ人々を受容し、共生することのできる
態度・能力
- ②自らの国の伝統・文化に根ざした自己の確立
- ③自らの考えや意見を自ら発信し、具体的に行動することのできる
態度・能力を身に付けることができるようにすべき

派遣現職教員支援と支援ネットワークの形成による支援方法の拡充事業

磯田 正美 (筑波大学)



平成18年度派遣前研修
 文部科学省、青年海外協力隊
 筑波大学教育開発国際協力研究センター

派遣現職教員支援事業 —派遣現職教員支援と活躍の場の拡充—

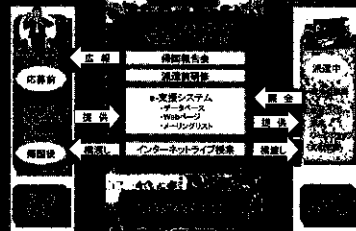
磯田 正美

筑波大学教育開発国際協力研究センター

事業の目的

◇ 派遣前、派遣中、帰国後における派遣現職教員の活動への継続的な支援体制を築くとともに、支援に関わるリソースならびにモデル事例の開発を行う。

派遣現職教員なら
 での活動をいか
 に支援するか？



本事業の目的

派遣現職教員がその職務を一層効果的に実現しえるように、

- ◆ 派遣前 (研修等)
- ◆ 派遣中
- ◆ 帰国後 (経験還元)

という3つの側面において、派遣現職教員の活動を継続的に支援していくこと。



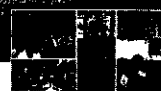
「国際教育」モデル事例

- ◆ 派遣現職教員であればこそ実現する「国際教育」モデルの提案
- ◆ インターネットを利用した国際交流授業を5回実施
- ◆ 制約のあるインターネット環境に準じた指導計画や日本側と相手国側の協働を促す人的ネットワーク作りを経て、「国際教育」のモデル事例を開発

2006年9月、筑波大学教育開発国際協力研究センターと、ブラジル・サンパウロ州の「サンパウロ国際教育センター」が連携して「国際教育」モデル事例を開発。

『インターネットライブ授業報告書』

7月12日 ラカトロ初等学校—鶴巻小学校、9月27日 アンハエブル初等学校—老上小学校、9月29日 ラカトロ初等学校—鶴巻小学校、10月3-4日 ラカトロ初等学校—老上小学校、において実施。その後、老上小学校からアンハエブル及びラカトロ初等学校へクリスマスカードが届けられた。それをきっかけとして両子どもたちの写真がインターネットを経由して老上小学校に届くなど交流が継続。また、鶴巻小学校では、1月20日に、9月29日のラカトロ初等学校との交流授業で得た知識を使って、火を起してラップラップとシンボロ(いずれもブラジルの伝統料理)を作成。



(1) 派遣前研修

- ◇ 期日: 平成17年4月12日、13日
- ◇ 会場: 国際協力機構国際総合研修所・筑波大学東京キャンパス
- ◇ 内容: 国際理解教育研修
 開発教育研修
 帰国隊員による報告会
 拠点システム成果共有研修
 ICT活用研修、など

『平成17年度 派遣前研修 報告書』
 (開発した研修教材、帰国隊員による報告等を収録)

(2) コンテンツ(教育課程・教材・教具・ソフトウェア)に係る情報提供体制の拡充

- ◆ 派遣現職教員支援のための教育課程・教材・教具に関する情報の拡充
- ◆ 派遣現職教員支援webサイトを通しての各種情報の提供
- ◆ アーカイブデータの登録

小学校学習指導要領
 解説 日英対訳

Webページ:
<http://www.criced.tsukuba.ac.jp/jocv/>



(3) 支援ネットワークと人的ネットワークの形成

◆ 人的ネットワークの形成

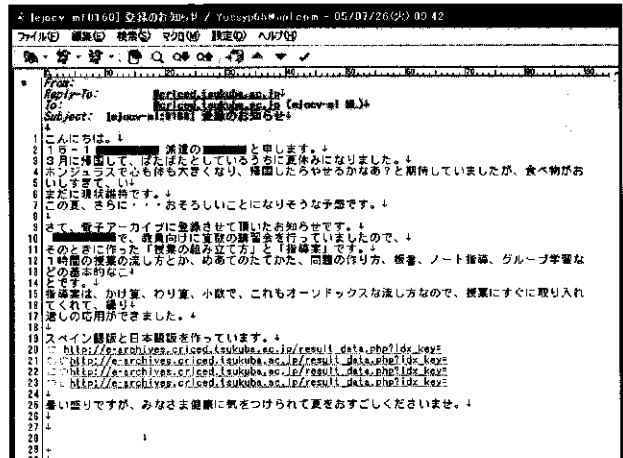
- 派遣前研修・帰国報告会での人的交流
- メーリングリストによる隊員相互の情報交換・共有
- コミュニケーターと隊員との直接個別対応

メーリングリスト以外の個別対応のためのメール件数800件余

◆ 支援ネットワークの形成

- 国際教育モデル開発の一環として、派遣現職教員(派遣中、帰国後)とCRICEDからなる授業研究組織を作り、派遣隊次の異なる教員間の協働体制を構築
- 国内関係者(JICA国内事務局やNGO関係者等)とのネットワーク

最近の例、JICA札幌(12月)、JICA中部(1月)からの問い合わせに対応



「神奈川新聞」記事 (平成17年9月30日付)



(5) 活躍を知らせるシンポジウムの開催

- ◆ 途上国授業研究会の実施(平成17年9月9日)

『途上国授業研究会報告書』

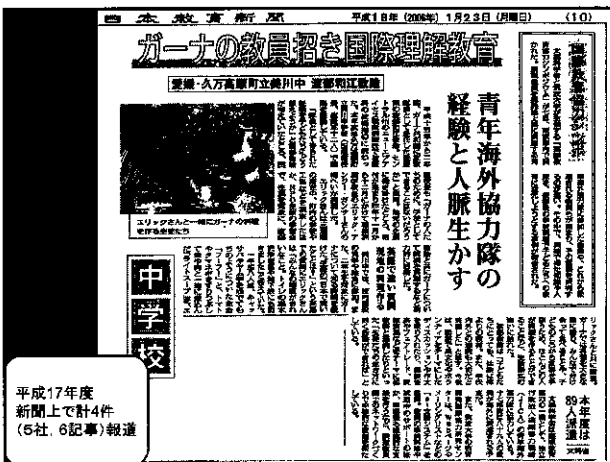
- ◆ 成果物の教育委員会等への配布、
教育委員会担当者会議 (H17年11月4日 門前教育大学主催)

『教育委員会担当者等会議での講演報告書』

- ◆ 文部科学省との共催で帰国報告会(国際教育協カシンポジウム)の実施(平成18年1月7日) 参加者171名。

『平成17年度文部科学省・筑波大学国際教育協カシンポジウム
開発途上国における派遣現職教員の活躍—帰国隊員報告会—報告書』

年間を通して延べ35人の帰国隊員による報告機会を設定



平成17年度
新聞上で計4件
(5社、6記事)報道

皆様との共同

- ◆ 派遣前・派遣中のネットワーク作り
- ◆ 拠点システム課題間との連携体制
- ◆ 帰国後の派遣経験を活かした活動事例の開発と共有
 - 帰国隊員との共同による「国際教育」、
 - 授業研究の推進

ミクロネシア活動報告

間宮 多恵（品川区立清水台小学校）

（平成 14 年度 1 次隊、ミクロネシア、小学校教諭）



Federate Stats of Micronesia

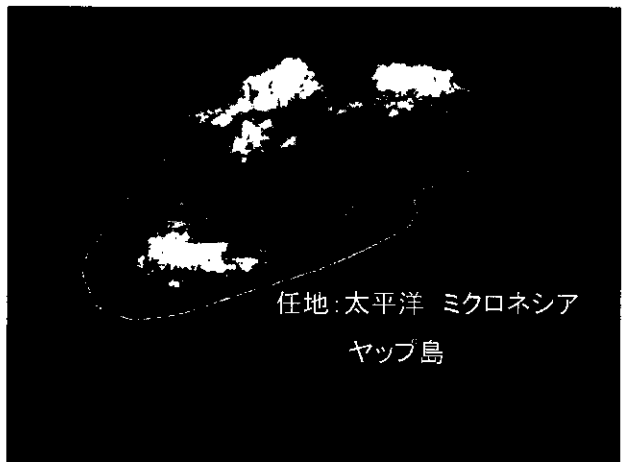
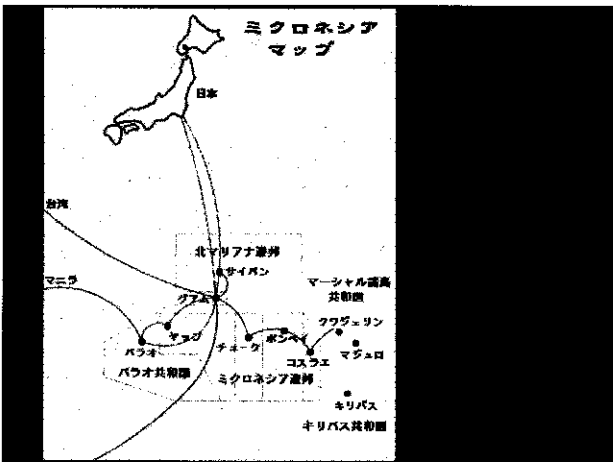
ミクロネシア連邦

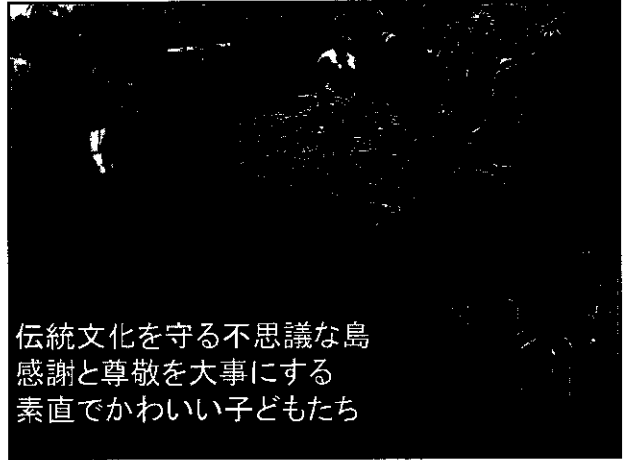
ヤップ島 小学校教諭 活動報告
間宮多恵

出発以前の心配ごと

情報が少ないのでイメージできない
食事・飲み水・お風呂等生活全般
ステイ先のこと
要請内容について(前任者がいない)
持って行くもの(何が必要か)

何もかもが心配だった





伝統文化を守る不思議な島
感謝と尊敬を大事にする
素直でかわいい子どもたち

要請内容

1年生から8年生まですべての
コンピュータークラスを担当。

学校内での活動

パソコン指導 週10時間程度
体育の指導 週6時間
音楽や日本語
マンパワー

職場

教員の活動に
積極的に参加

その他の活動

スクールニュース
学校対抗運動会
地域のパソコン教室
日本語教室・音楽教室等

ステイ先・私生活

家族との時間を大事に
息抜きのために
隊員連絡所を上手に活用

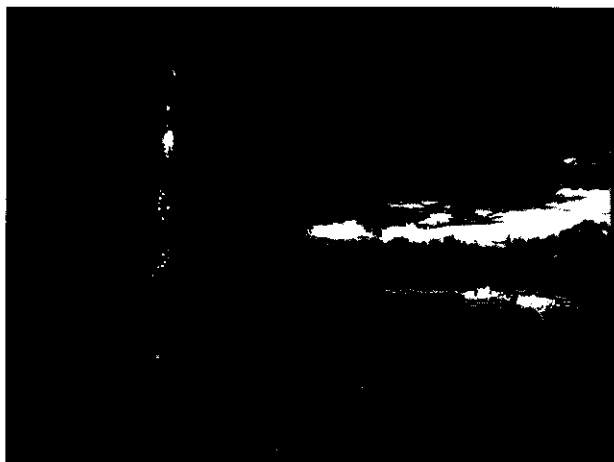


現職教員として

自分の今までの経験が役に立った。
言葉が通じなくても教育活動ができた。
日本の教育、世界の教育について考えるようになった。
自国に対して誇りをもつことを教わった。
日本に帰ってから、国際理解教育
道徳教育で活用。体験したことを語れる。

アドバイス

郷にいれば郷に従え
まずは相手を理解し好きになって
貴重な2年間を楽しんで
健康・安全に気をつけて
本をたくさん読み、視野を広げ
自分の価値観をこわして



JOCV

ミクロネシア 活動報告

14-1次隊 間宮 多恵 wqtqc016@ybb.ne.jp
品川区立清水台小学校勤務

1. 出発前

任国についての情報収集

心配事 ①生活環境

②持って行くもの等準備

→現地で活動している隊員とコンタクトをとること。

あまり、心配しすぎず行ってから考える。

☆持って行ってよかったもの。化粧品・ビタミン剤・薬・日本のもの(折り紙等)・写真
買い物をしなくても一ヶ月はくらせるように、洗剤やシャンプー等身の回りのものを
持って行ったのは正解だった。村だと買い物ができない。

☆語学については、現地語もあったが、英語が通じるので英語で通してしまった。

2. 活動報告

任国:ミクロネシア連邦

ヤップ州(ヤップ島) ガギール ガギール小学校

町から車で30分 (バスやタクシーを利用)

ステイ先: ガギール ワンヤン村 (2年間ホームステイをした)

要請内容: 1年生から8年生までのコンピュータクラスの指導

カリキュラム作り 教員や村の人たちへの指導

☆実際行ってみたら、パソコン室もできたばかりで環境は整っていた。

インターネットにも接続していた。教育省のサポートもよかった。

時間割を組んで早速指導を行った。

☆1~6年生 週1時間 7・8年生 週2時間

☆パソコンの基礎から全員スタートだった。資料がなかったので、「Amazon.com」を利用し書籍を購入。英語がそのまま使えるので便利だった。

☆慣れてくると、体育をやってほしいと言われ、1~6年生に週1時間行った。

☆日本語の指導や音楽の指導にも興味があったので、行った。マンパワーとして求められてできることは進んでやった。

☆1年目は、職員とのコミュニケーションを取り、この国がどのような価値観で子ども達を教育しているのかを教えてもらった。活動は求められたことのみ行った。

☆2年目は、スクールニュース、学校対抗運動会、地域のパソコン教室など、楽しんでできること、喜んでくれることは、進んで行った。

☆無理せず、「明日できることは今日するな」という南国のペースに合わせ活動した。

3. 私生活

ホームステイ: 家族との時間を優先し、積極的に村の仕事にも参加した。

息抜き: ステイはお互いが気を遣うので、うまく息抜きをすることが大事。

月3回くらいのペースで週末は隊員連絡所で週末を過ごした。

任国内旅行、任国外旅行も楽しんだ。

4. 現職教員として参加して

①自分の今までの経験が役に立った。

・言葉が通じなくても教育活動ができた。

②日本の教育、世界の教育について考えるようになった。

・自分の国に誇りをもつことを教わった。

③日本に帰ってから国際理解教育・道徳教育で活用。

・体験したことを語れるというのは、財産となった。

5. 最後に

①郷にいれば郷に従え

☆まずは相手を理解し、好きになることからはじめてください。

②貴重な2年間を楽しんで

☆せっかく縁があつていかれる国なので、健康・安全に気をつけて楽しんでください。

③本をたくさん読み、視野を広げて

☆自分の価値観をこわして、新しい価値観を得てきて下さい。

☆時間がたっぷりあるので、本をたくさん読んでみて下さい。

ウガンダでの協力活動

樋口 孝（町田市立堺中学校）

（平成15年度1次隊、ウガンダ、理数科教師）



ウガンダでの協力活動

樋口孝

15年度1次隊 派遣国：ウガンダ 職種：理数科教師

私は、15年度1次隊でアフリカのウガンダ共和国に理数科教師として派遣されました。派遣先はカリロNTCという中・高の教員養成大学でした。生徒数は約1200人。そこで物理を週2時間、コンピュータを週10時間教えていました。



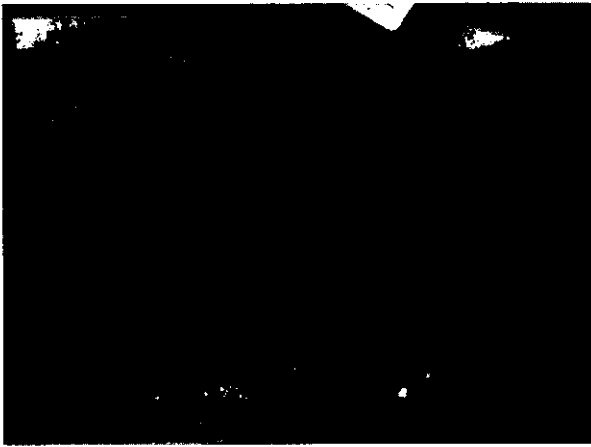
上の写真は物理の授業風景です。教室には机がなく生徒はひざの上で板書を読んでいます。右の写真のように教卓がある教室では、そこでノートを取ることもあります。法則や原理の説明はあらかじめ英語を調べて模造紙に書きそれを黒板に張ることで、弱点である語学力を補いました。



教師になる学生にとって、いくつか必要になる技術があります。そのひとつとしてイラストを用いて説明することがあげられます。

左のイラストは初めての授業のときに、学生たちが知恵を出し合って描いたイラストです。風船に口を当てて声を出し、手で風船の振動を確かめている様子を表しています。

ウガンダでは美術や体育、技術・家庭、音楽などの教科を教える学校は非常に少ないため、教師が簡単なイラストを用いて説明する能力は低いといえます。小・中・高の生徒たちがする勉強は、法則や定義の暗記にウエイトが置かれています。



生徒がイラストを準備しているところ



イラストを描いて模擬授業

私の授業の形態の1つとして、簡単な実験を紹介し、その実験をイラストを用いて模擬授業をするという方式を行いました。

私が考えていたよりもウガンダの人は手先が器用で、コイルを磁石の上で回転させるクリップモーターをそれほど苦勞することなく完成させました。このほかにもいろいろな実験を紹介しました。



回転するクリップモーター



クリップモータを使った模擬授業

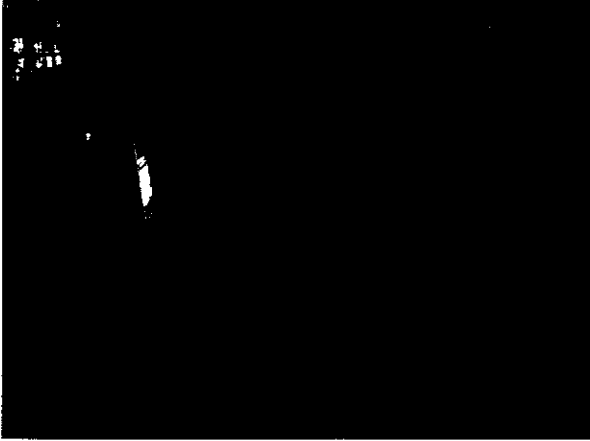


静電気の実験の準備をする学生



電流により発生する熱で火を起こす学生

基本的なコンピュータの使い方がわかると就職しやすいらしく、コンピュータの授業を選択している学生は多く、生徒の関心も高い印象を持ちました。カリロNTCにあるコンピュータは約40台。ウィンドウズ95と98がほとんどで2000が2台ほどありました。イギリスなどの国からの寄付で、中古を使用しています。

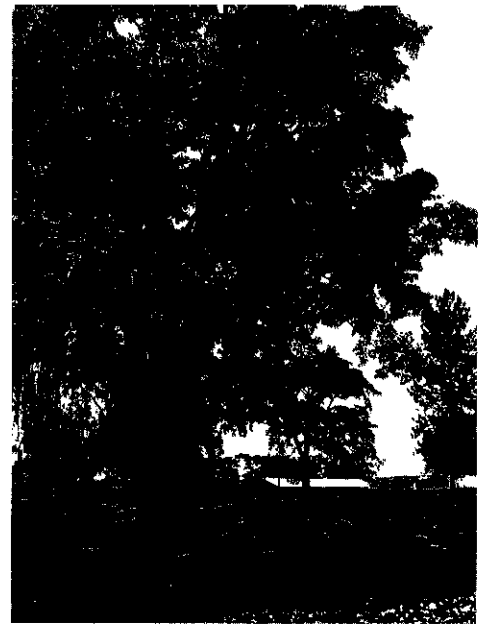


授業の時には1人または2人に1台の割り当てでコンピュータを使用することができます。しかし、停電が非常に多い地域で、授業が中止になることもしばしばでした。

左の写真は学校にある発電機を使用し、パソコンを2台動かして、みんなで勉強しているところです。しかし、発電機も燃料節約のため、すぐに止められてしまいました。停電は長いときだと2~3週間続きます。

停電で電気がないときには、カウンターパートのフレディーが中心となってコンピュータの講義をします。パソコンなしで、パソコンについての抗議をすることは、あまり意味がないように感じましたが、学生たちは試験にパスするために真剣にメモを取ります。

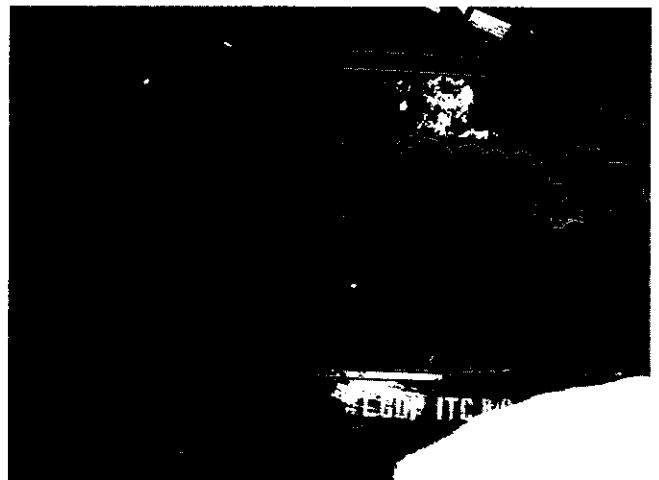
私の大学での授業数は週に12時間。停電も多く、パソコンの授業が中止になることもしばしばだったので、自分の空き時間にはウガンダ国内の小・中学校や高校・大学をまわり、授業をさせてもらいました。「デリバリーサイエンス」と称して、飛び入りで授業をさせてもらいました。苦労話を出したらきりがありませんが、最後に102校のなかの写真を紹介させていただきたいと思います。



木の下でパソコンの講義



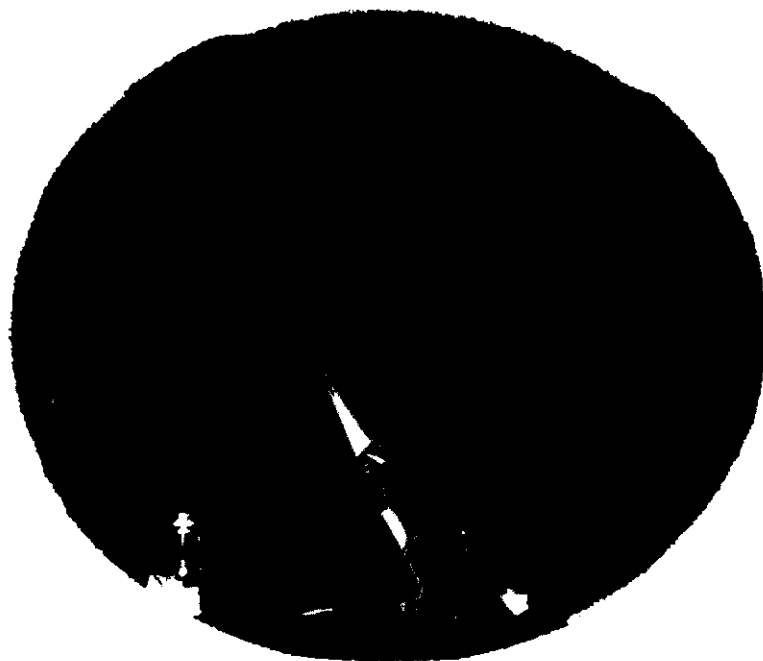
初めて訪問した学校で



ジンジャタウンのある小学校での授業

活動報告

福島 和樹（千葉県立君津養護学校）
（平成 14 年度 1 次隊、パラグアイ、養護）

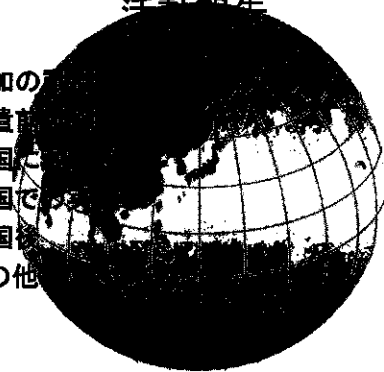


平成18年度
青年海外協力隊
現職教員派遣前研修

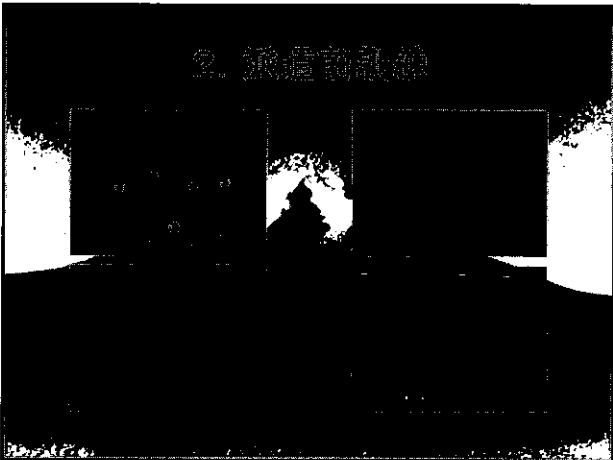
JOCV14-1
福島和樹
養護 パラノアイ

活動報告

1. 参加の経緯
2. 派遣前研修
3. 任国について
4. 任国での実践
5. 帰国後
6. その他



2. 派遣前研修



3. 任国について



私の家



4. 任国での実践

- ・教材作成とその使用方法
- ・障害児教育の普及・定着
- ・教職員、保護者への支援
- ・学校行事への参加



学校について

県内1大きい公立学校
小・中・幼稚園・特殊学
級
午前・午後2部制
カトリック

教材について

文字の読み書き
計算
それらの前段階



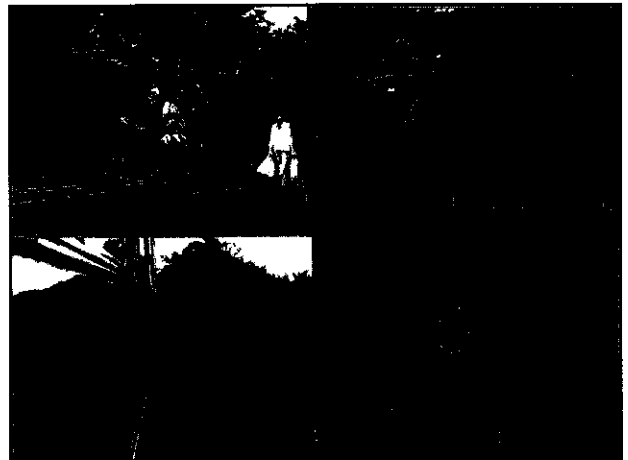
実践を振り返って

- 語学をもう少し・・・
- 発達検査の実施
- 在宅生徒の開拓

5 帰国後

その他

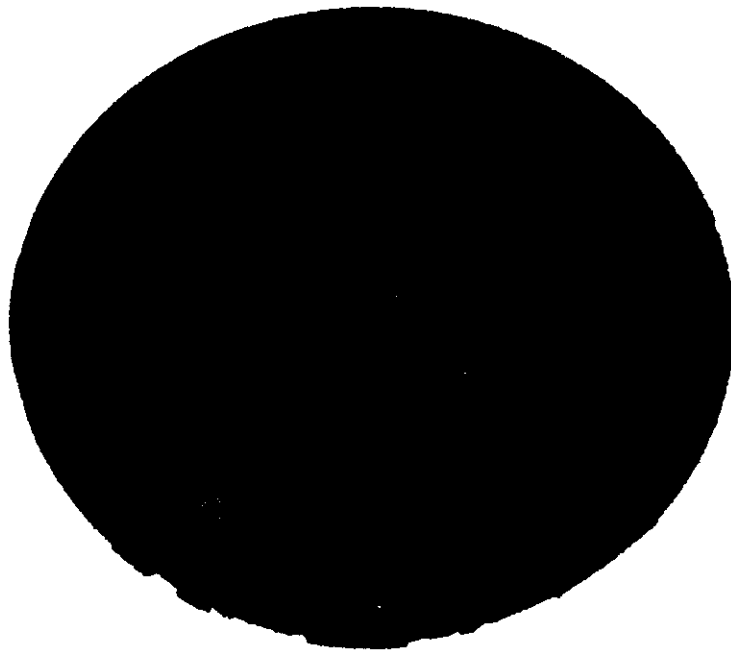
- 持っていったら良いもの
- 思ったこと
- ショックだったこと
- できるようになったこと
- いやだったこと
- 楽しかったこと
- うれしかったこと
- 感動したこと





日本の教育経験における情報整備事業
—教育経営・教員研修分野を中心として—

佐藤 真理子 (筑波大学)




日本の教育情報に関する情報整備
事業

筑波大学
佐藤真理子

1

近年日本の教育現場に有効と考えられる
日本の教育情報に関する教材情報

CD-ROM 教材



(教材開発のプロセス)

2

教材の対象

日本各地の高等学校の教科書
教科書 国語 英語 数学
理科 社会 総合 保健体育
道徳 音楽 美術 家庭科

(教材開発のプロセス)

3

教材領域

国語 英語 数学
理科 社会 総合
保健体育 道徳
音楽 美術 家庭科

(教材開発のプロセス)

4

各領域の項目数

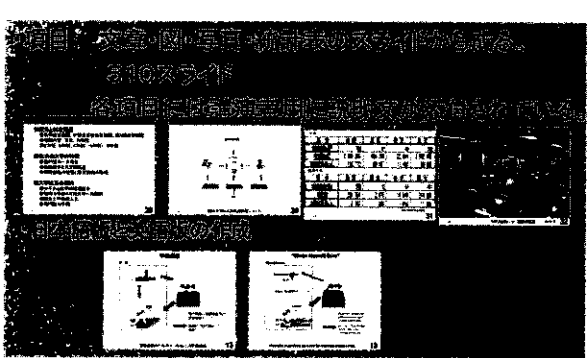
教育情報に関する情報整備事業	9項目
学校制度	11項目
教育行政	22項目
社会教育	0項目
教育課程の編成と実施	13項目
学校運営	11項目
学校運営	11項目
保護者・地域との連携	13項目
学校の生涯と文化	30項目
合計	157項目

(教材開発のプロセス)

5

項目

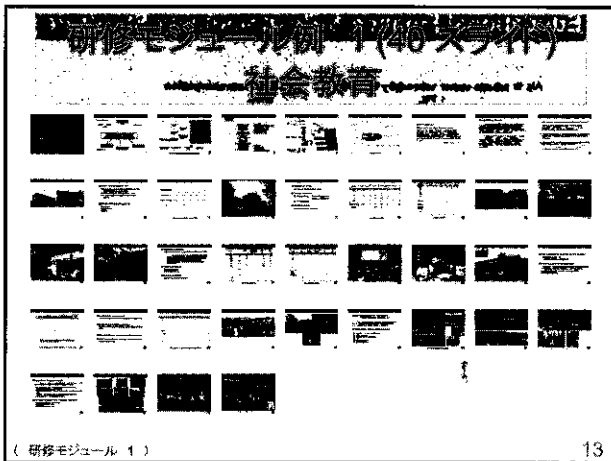
項目：文章・図・写真・統計表の組み合わせからなる、
または10スライド
各項目には650文字程度の解説が添付されています。



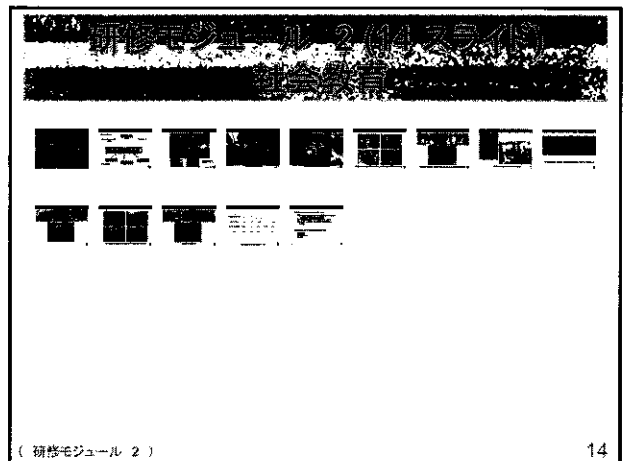
14項目と5項目の例

(教材開発のプロセス)

6



(研修モジュール 1)



(研修モジュール 2)

途上国から派遣された教育関係者に対する受入れ研修

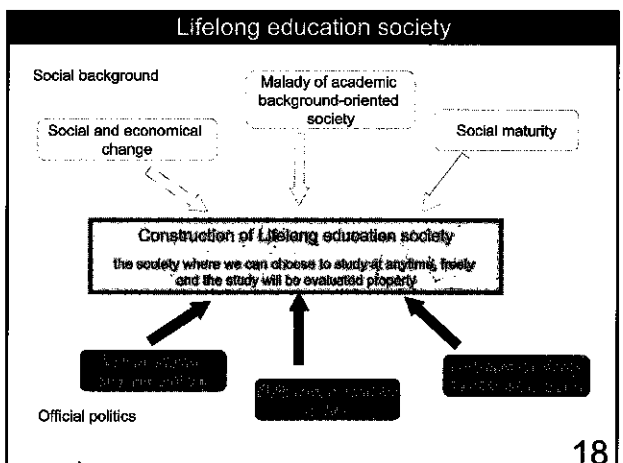
- 2004年6月: Qatar, 2 Central Educational Administrators
- 2004年12月: Peru/Bolivia, 10 Educational Personnel
- 2005年6月: Peru/Bolivia, 10 Educational Personnel
- 2006年1月: Mongol, 8 Educational Personnel
- 2006年2月: Afghanistan, 12 Educational Personnel

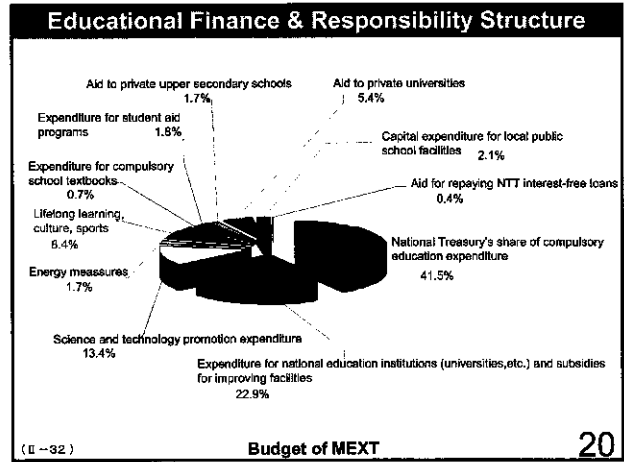
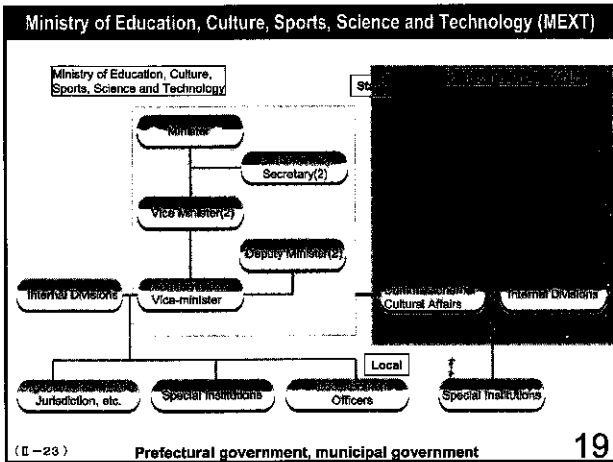
現地における途上国教育関係者への研修

- 2004年12月: Ethiopia (Ormia, Addis Ababa), Educational Personnel
- 2005年2月: Indonesia (Jakarta, Makassar) Educational Personnel
- 2006年11月: Indonesia (Jakarta, Makassar) Educational Personnel

Introduction to Social Education in Japan

University of Tsukuba, JAPAN





The Definition of Social Education

Social Education Law

Article 2: In this law, "Social Education" implies systematic educational activities (including physical education and recreation) primarily for out-of-school youth and adults, excluding such educational activities as are conducted in schools as part of the curriculum, in accordance with the School Education Law (Law No.26 of 1947).

Social Education Law (Law No. 207, 1949)

21

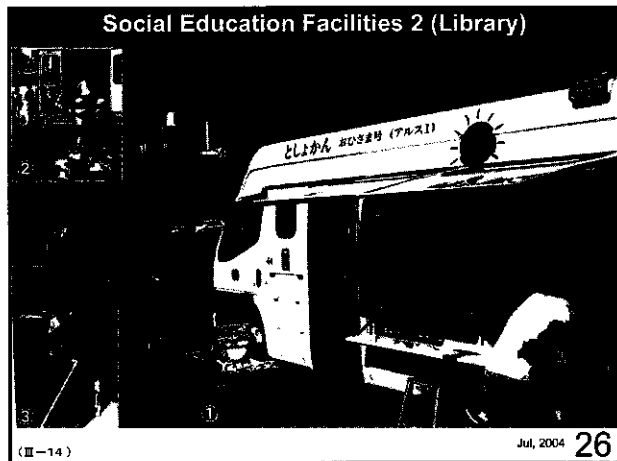
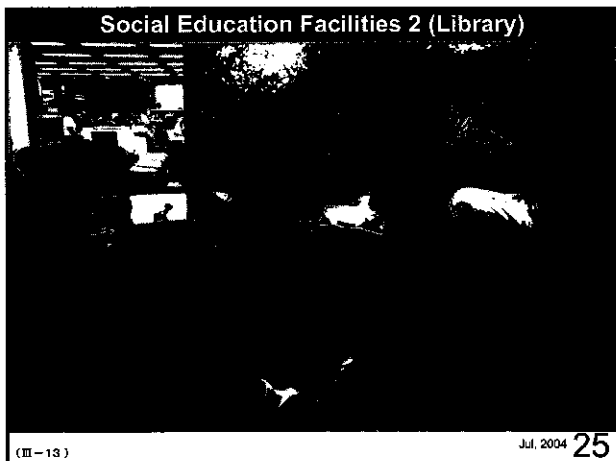
- ### The Characteristics of Japanese Lifelong Learning
- (... in the development of lifelong learning we should emphasize the following points:)
- 1) Lifelong learning should be based on the individuals' spontaneous willingness to pursue quality in life and vocational ability, as well as to enrich the self.
 - 2) Lifelong learning should continue throughout life, and should include such measures and contents as are seen fit by the individual.
 - 3) Lifelong learning encompasses not only organized intentional learning opportunities in school and society, but also such activities as participation in sports, cultural events, recreational programs, volunteer activities, etc.
- 22



Social Education Facilities 2 (Library)

Classification	Total	Prefecture	City	Town	Village	Union	Corporation
1990	1,950	70	1,275	521	48	3	33
1993	2,172	66	1,392	619	59	2	34
1996	2,396	66	1,473	745	74	5	33
1999	2,592	65	1,548	856	89	3	31
2002	2,742	64	1,616	927	99	8	28
Main building	2,040	55	947	904	99	7	28
Branch	702	9	669	23	-	1	-

(III-9) Number of libraries 24



Social Education Facilities 3 (Museum)

■ Regulation of museum
regulation of "museum" by the museum law(issued in 1951)

In this facility, the aim is to collect information about history, art, folk, industry, natural science and so on, and keep and cultivate them, then to exhibit them to be useful for public under educational consideration. We perform projects which are necessary for education, investigation, recreation and so on. We study about all these information.

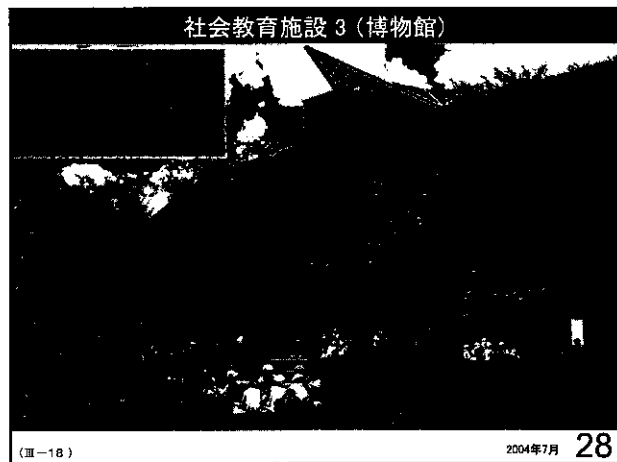
■ The kinds of museum

- public museum
- private museum

■ Museum's specialist

- technical staff of museum

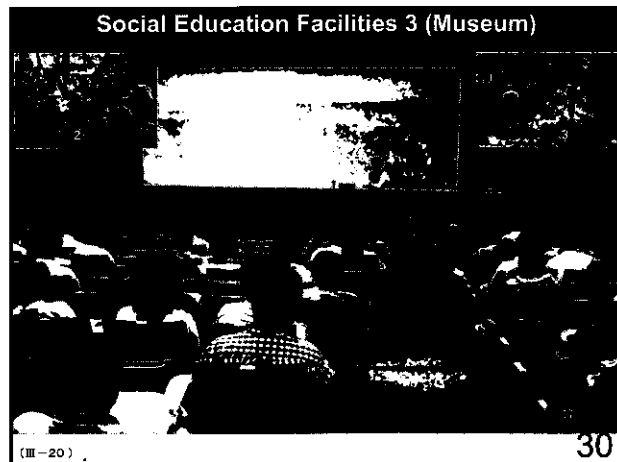
(III-15) 27

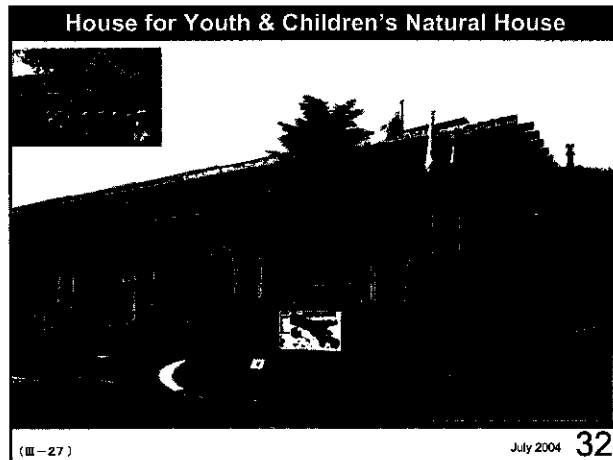
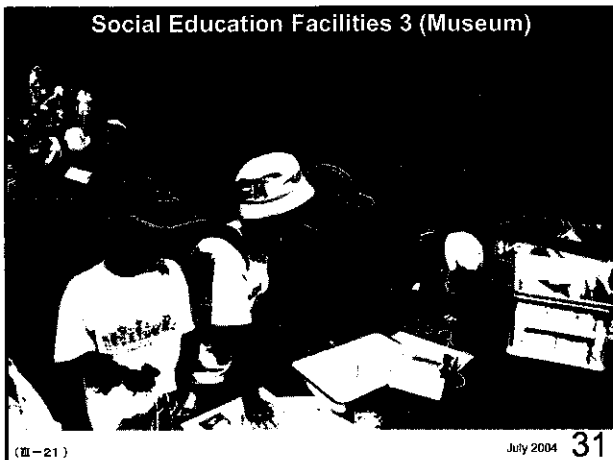


Social Education Facilities 3 (Museum)

Classification	Total	National	independem administrative institution	Public	Private
1990	799	28	—	387	384
1993	861	28	—	423	410
1996	985	29	—	518	438
1999	1,045	28	—	549	470
2002	1,117	21	10	608	478
Comprehensive Museum	141	—	—	—	—
Science Museum	102	—	—	—	—
History Museum	382	—	—	—	—
Gallery	381	—	—	—	—
Others	111	—	—	—	—

(III-16) Number of museums 29





House for Youth & Children's Natural House

- **Objective of national house for youth**
To nurture the youth healthily through group lodging training
- **Objective of national children's natural house**
To nurture children healthily through group lodging training in nature
- **2 types of establishers: national and local autonomous bodies**
- **2 types in terms of function: lodging type and non-lodging type (house for youth only)**

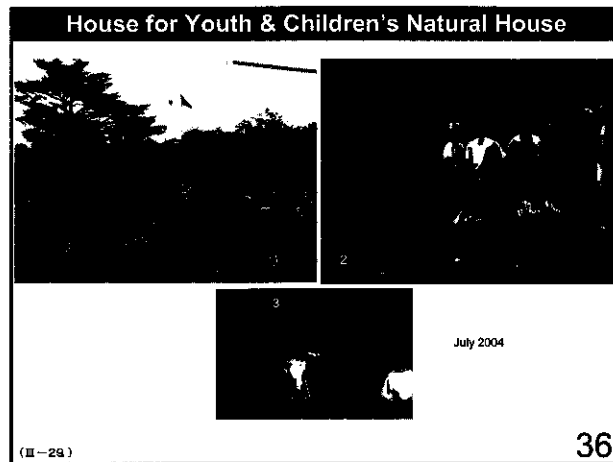
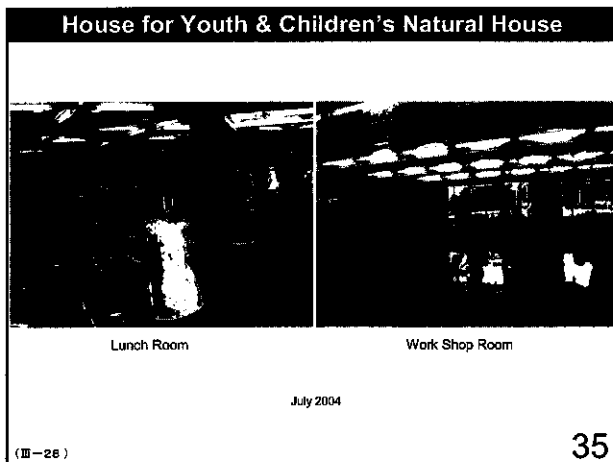
(Ⅲ-25) **33**

House for Youth & Children's Natural House

Classifications	Total	Children's Natural House	House for Youth	House for Youth (Private)	Cultural Center for Social Clubs	Others
1990	1,154	278	254	168	61	393
1993	1,225	294	249	162	71	448
1996	1,319	304	248	161	99	507
1999	1,263	311	229	176	75	472
2002	1,307	326	223	171	105	482
Prefectures	213	106	78	5	—	24
Cities or Wards	735	162	91	119	94	269
Towns and Villages	346	53	47	47	11	188
Associations	13	5	7	—	—	1

Note: National House for Youth, National Children's Natural Houses and Private Institutions are not included.

(Ⅲ-26) **The number of youth education institutions** **34**



Social Educational Organization

■ **What Social Educational Organization is**
(Social Education Law Article. 10)

the organization which is applicable to both corporate body and non-corporate, does not come under the official control and aims to provide some services related to social education

■ **Typified Social Educational Organization :**

- Boy Scout, Girl Scout, Boy Sport Club
- Youth Association
- Regional Women's Association
- PTA
- Culture Association
- Sports Association

(III-30) 37

Social Educational Organization

(III-32) 38

Social Educational Organization

(III-33) 39

In the farm village environment improvement center, July 2005

Social Physical Education & Life-long Sport

■ **Basic Plan on Promotion of Sports**
(Report of the Health and Physical Education Council, September 13, 2000)
The Developmental Plan of A Sport Promotive Measure

1. The consolidated plan of the local environment toward the realization of a life-long sport society
2. The synthetic improvable plan of Japan's international competitive ability
3. The plan to promote the cooperation among life-long sport, competitive sport and Physical Education

■ **Institutions and people who encourage local sport**

1. Japan Amateur Sports Association
2. Integrated local sport clubs
3. Physical education advisor

(III-37) 40

Social Physical Education & Life-long Sport

(III-39) 41

July 2004

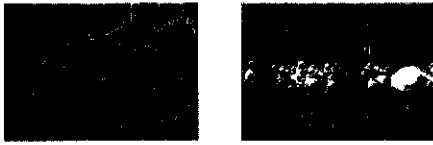
Social Physical Education & Life-long Sport

(III-40) 42

Boys and Girls Judo Tournament July, 2004

July 2004

Introduction to Social Education in Japan



University of Tsukuba, JAPAN

43

Social Education Facilities 1 (Citizen's Public Hall)

- What is the citizen's public hall?
 - Social education facility established by the municipal board of education
 - There are about 18 thousand in Japan
 - It is the regional integrated educational facility

- Officials of the citizen's public hall
 - director
 - supervisor
 - clerk

(III-1)

44

Social Education Facilities 1 (Citizen's Public Hall)

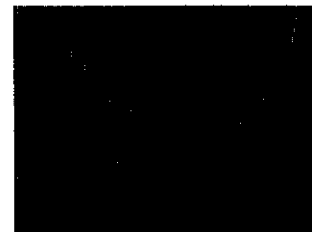
Classifications	1990	1993	1996	1999	2002
Main Buildings	11,005	11,188	11,446	11,418	11,354
Branch Buildings	6,342	6,374	6,373	6,839	6,593
Total	17,347	17,562	17,819	18,257	17,947

(III-8)

The number of citizen's public halls

45

Kominkan 3



After the World War II

46

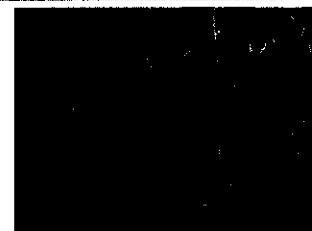
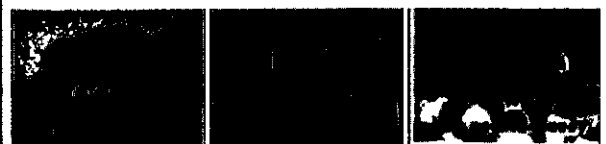
Kominkan 4



"Kominkan" was expected to meet needs of education for adults


47

Kominkan 5



48


Kominkan 6



Energetic youth in particular contributed much to the "Kominkan" movement.

49

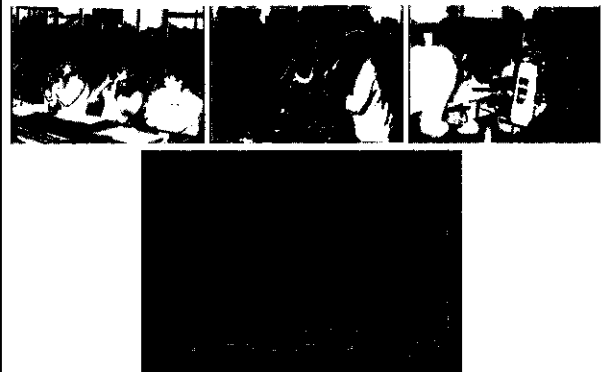
Kominkan 7



"Kominkan" spread into local communities.

50


Kominkan 8



"Kominkan" activities are decided locally and take a wide variety of forms

51


Kominkan 9



Kominkan have acquired the substantial presence through multifarious activities

52


Social Education Facilities 1 (Citizen's Public Hall)




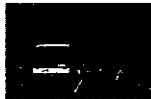
Sado (tea ceremony) course

(III-6) Sep 2004 53

Social Education Facilities 1 (Citizen's Public Hall)



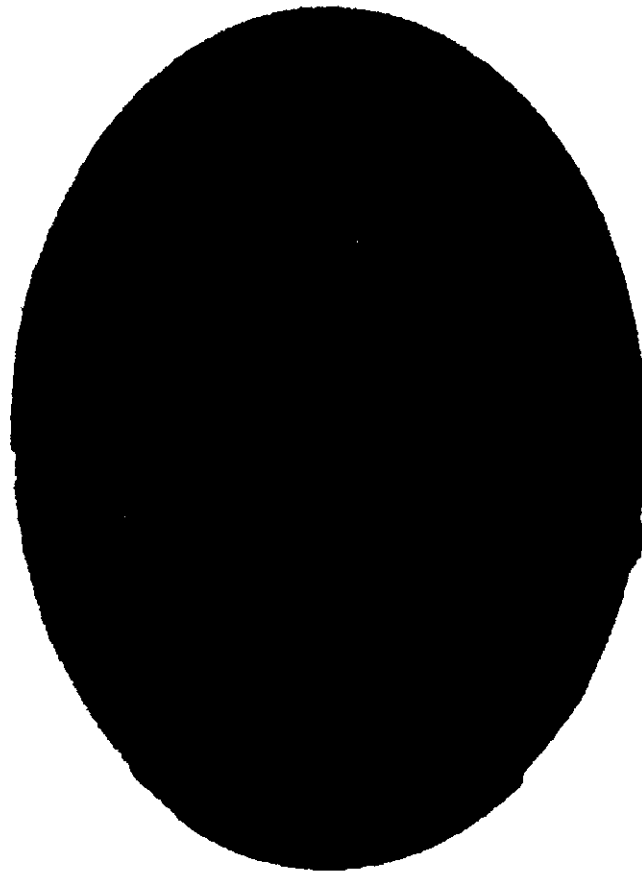
study tour to visit the relics in the city

(III-7) September 2004 54

幼児教育に関する情報収集と幼児教育モデルの提案

浜野 隆（お茶の水女子大学）



幼児教育に関する情報収集と 幼児教育モデルの提案

お茶の水女子大学
開発途上国女子教育協力センター
報告者: 浜野 隆
2006年4月5日 現職教員派遣前研修

目次

- 1. 幼児教育・ECDの意義
- 2. 本拠点の活動目的と活動内容
 - (1) 活動目的
 - (2) 活動内容
- 3. まとめ

1. 幼児教育・ECDの意義

1. 幼児教育・ECDの意義

■ 幼児教育とECD

■ ECD: Early Childhood Development

ECE: Early Childhood Education
ECCD: Early Childhood Care and Development
ECCE: Early Childhood Care and Education

- 出生から就学前までの乳幼児の身体的・心理的・知的・社会的発達を促すための、乳幼児および保護者に対して行うケアと教育
- 幼児教育はECDの一部

■ 本拠点の立場

- ECDの観点から、幼児教育・保育を主要なターゲットとし、本学における発達心理学・幼児教育学・保育学の経験の蓄積を活用した研究活動を行う

1. 幼児教育・ECDの意義

■ 乳幼児期における発達

- 脳の発達: 脳重量: 4~6歳までに大人の約95%に。神経ネットワークの完成
- 知覚の発達: 視聴覚、共感覚の発達
- 認知発達: 言葉や数の概念の発達、メタ認知の発達
- 社会性の発達: 共感性や道徳性の発達

乳幼児期は、人生において決定的に重要な時期



- 初等教育のためのレディネスの形成
- 1990年以降の開発目標である「人間開発」における重要な課題

1. 幼児教育・ECDの意義

■ 基礎教育としてのECD

- 1990年「万人のための教育の世界宣言(EFA宣言)」

第5条 基礎教育の意味と範囲の拡大

「…基礎教育の範囲は、以下の内容を含む。学習は出生と共に始まる。これは幼児期のケアと早期教育の必要性を意味する。」

→ECDは基礎教育の一部である

例: EFA-GMR(2007)のテーマ

1. 幼児教育・ECDの意義

- 2000年 ダカール行動枠組み
 - (1)就学前教育の拡大・改善
 - (2)2015年までに、すべての子どもの無償初等教育へのアクセス確保
 - (3)青年及び成人の学習ニーズに対する十分な対応
 - (4)2015年までに成人識字率の50%の改善と、成人の基礎教育へのアクセスの平等の確保
 - (5)2005年までに初等中等教育における男女格差の解消、2015年までに教育の場における男女平等の達成
 - (6)教育の質的向上

1. 幼児教育・ECDの意義

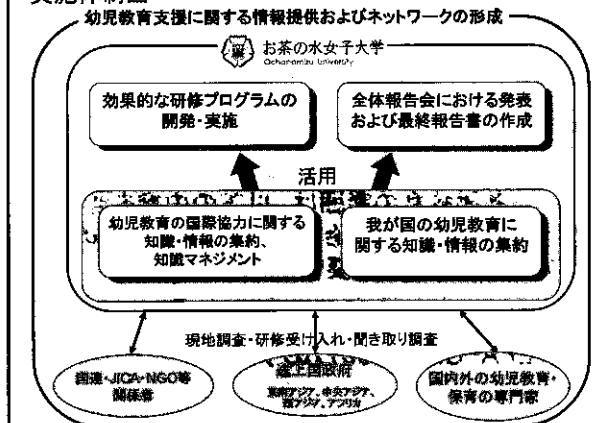
- 世界銀行(2001):ECDの収益率の高さ
- 貧困削減と基礎教育の普遍化という開発課題の達成において、ECDの普及が有効な手立てとなりうる
- ECDの短期的・長期的効果
 - 小学校以上の教育での留年や中途退学の減少
 - 子どもの身体的・知的・情緒的な発達促進
 - 家庭や地域との連携強化
 - 母親の就労支援
 - 女子教育へのインパクト
 - 経済成長の促進
- 特に貧困下で弱者となりやすい子どもと女性に対する大きな効果

2. 本拠点の活動目的と活動内容

本拠点の活動目的と活動内容

- 活動目的
我が国の幼児教育分野における国際協力を活性化し、体系的に行っていくための基盤を形成する
- 活動内容
 - ①幼児教育の国際協力に関する知識・情報の集約、知識マネジメント
 - ②我が国の幼児教育に関する知識・情報の集約
 - ③効果的な研修プログラムの開発および研修の実施
 - ④幼児教育支援に関する情報提供およびネットワークの形成

実施体制図



活動内容

①幼児教育の国際協力に関する知識・情報の集約、知識マネジメント

1. 幼児教育分野の国際協力プロジェクトのレビュー
2. 現地調査の実施
3. 知識マネジメント

ECD・幼児教育支援の国際的動向

- 二国間援助ではほとんどされていない
- 二国間援助の場合は、連携事業がほとんど
- 政策支援機関としてのユネスコ
- 実施機関としての世銀、ユニセフ、NGO
- 教員研修、教材開発、啓蒙、施設建設等
- 他部門との連携
- 基礎教育総合プログラムの一環として
- 母子保健、栄養改善等保健セクターとの連携プロジェクトが多い

幼児教育への協力の主要な課題

- 量的拡大、質的改善、格差是正
- マルチセクターから生じる問題
- 不利な状況にある子どもたち (disadvantage, vulnerable) にどのように教育を保障するか
- 適切なターゲティングをどう確保するか
- 持続性をどう確保するか (プロジェクトには終わりがある。財政的、組織的継続性)
- 持続性確保のために地域住民・大衆組織の参加をどう促進するか

日本の協力

- 「経験の浅い分野」
- 協力隊派遣
- 開発調査(セネガル)
- 草の根無償
- NGOとの連携
- 初等教育がある程度普遍化段階に達した国では需要が拡大する
- 最貧国や重債務国では相手国側のコミットメント次第

幼児教育の国際協力プロジェクトレビュー

- 世界銀行
- ECD単独事業と
- 1. ECD単独事業
- プロジェクトプロファイルの整理・和訳
- 2. プロジェクトコンポーネントとしてのECD事業
- 保健医療や貧困削減、ソーシャルプロテクション(社会的保護)プロジェクトの一部
- ECDの位置づけ・規模、傾向のまとめ
- ユニセフ: 統合的ECD

NGOプロジェクト事例

- 昨年の報告会での指摘
- SCJ(セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン)
- ベトナム
- 総合的子どもの発達事業
- 子どものための栄養改善促進活動、妊産婦ケア
- 家庭での菜園や家畜飼育
- 行政への提言(アドボカシー)活動
- 幼児教育事業
- 幼稚園と保育園の先生に対する子どもの養育の方法、園での給食や健康診断、おもちゃ作り、本の読み聞かせなどについての指導

2. 現地調査の実施

- 目的
 - 行財政の体制、教員養成の現状、幼児教育と初等教育の関連性、国際協力の動向 等の調査
- 方法
 - 統一の質問項目を用いた、幼児教育の実態に関する調査
 - 教員養成校の見学および教師・学生との面接
 - JICA現地事務所担当者、シニア海外ボランティアおよび協力隊員との懇談、NGO関係者の活動の調査
 - 大学関係者との幼児教育の研究者との面接
- 調査国
 - 【2003年度】マレーシア、カンボジア
 - 【2004年度】マレーシア、ベトナム、スリランカ、カンボジア、ネパール、パキスタン
 - 【2005年度】ベトナム、インドネシア、フィリピン、マレーシア

3. 知識マネジメント

- 下記の資料を本課題のホームページにて公開
 - 現地調査報告
 - 幼児教育の実態に関する調査シート
 - 研修プログラム
 - 研修資料
 - 『幼児教育ハンドブック』（英語版・日本語版）
 - 映像資料「日本の幼稚園の一日」（予定）
 - 歴史資料「日本の就学前教育」（予定）
 - 幼児教育に関する資料のソース（入手先）等
 - 公開するだけでなく、資料へのコメントを集約

活動内容

②我が国の幼児教育に関する知識・情報の集約

1. 国内の幼児教育に関する学術論文、紀要、報告書等の収集およびデータベース化
2. 『幼児教育ハンドブック』『Early Childhood Education Handbook』の作成
3. 日本の幼児教育に関する「映像資料」の作成
4. 日本の幼児教育に関する「歴史資料」の作成

1. 国内の幼児教育に関する学術論文、紀要、報告書等の収集およびデータベース化

- 目的
 - 我が国の幼児教育に関する文献の収集・整理
- 収集データ

文部科学省および全国自治体指定園研究報告書・幼稚園紀要、全国幼稚園協議会による調査報告書および研究紀要、学術研究報告書等
計310点

拠点システム電子アーカイブへ登録済み

2. 『幼児教育ハンドブック』『Early Childhood Education Handbook』の作成

- 我が国の幼児教育の理論と実践を1冊に集約
- 途上国における活動のための実践例、応用のヒント
- 主に日本の国際協力関係者の参考書としての用途を想定

<目次>

まえがき

第1部 幼児教育の考え方

- 1 日本の幼児教育の枠組みと仕組み
- 2 保育において子どもの発達を促す
- 3 幼児教育の実践事例にみる指導の仕方
- 4 乳幼児の発達の概要

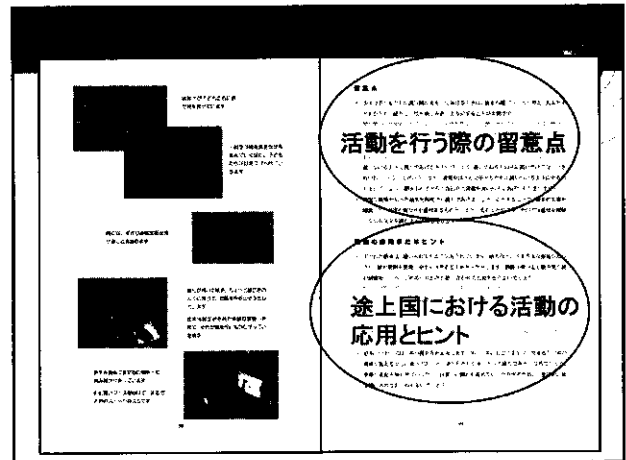
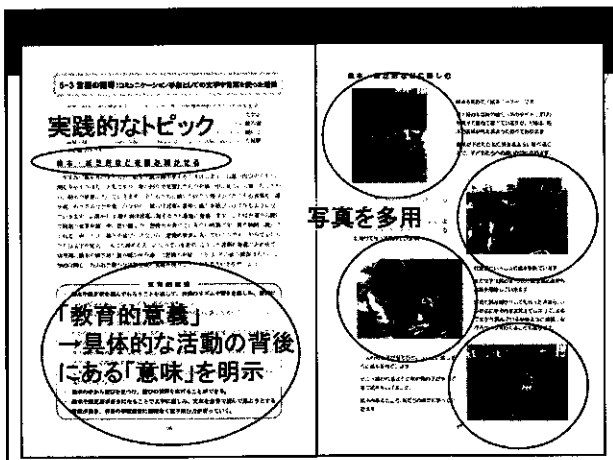
第2部 幼児教育の実践

- 1 保育の原理を实践につなげる手がかり
- 2 カリキュラムづくりの概要
- 3 年間指導計画・月案・週案・日案の作り方
- 4 幼稚園の1日
- 5 保育内容
- 6 園の環境の構成
- 7 教材づくり
- 8 保護者との連携-幼児教育の理解と協力に向けて-
- 9 教師自らによる保育の改善の方法

第3部 途上国で幼児教育を支援するために



英語版



本日の配布資料

- 「1. 報告骨子」
- 「2. JOCVより: 幼児教育ハンドブックに対する意見及び活用事例」
- 問い合わせ先
- E-mail: hamano@cc.ocha.ac.jp
- 拠点ホームページ:
<http://www.kodomo.ocha.ac.jp/~eccd/>

3. 日本の幼児教育に関する「映像資料」の作成 (日本語版・英語版)

日本の幼稚園の一日の流れ、保育者のあり方、保護者との関係などについて、映像資料により説明

<構成>

1. 登園準備
 2. 登園
 3. 登園後の活動
 4. 片付けと昼食
 5. 午後の活動
 6. 帰り
 7. 子ども達が帰った後に
- ※年間行事
※保護者との関係

4. 日本の幼児教育に関する「歴史資料」の作成 (日本語版・英語版)

我が国の現在の幼児教育形態がどのように構成されてきたのかというメカニズムを整理・分析

<章立て>

序章 開発途上国の教育課題

I部 日本の幼児教育史の概観

II部 幼児教育制度の整備と幼稚園の量的拡大

- | | |
|--------------|----------------|
| 1. 教育行政 | 4. 幼稚園の量的拡大 |
| 2. 教育財政 | 5. 保育所の整備と量的拡大 |
| 3. 保育会の役割と機能 | |

III部 幼児教育の方法と内容の改善

- | | |
|--------------------|------------|
| 1. 「子ども」を中心とする教育方法 | 4. 指導計画 |
| 2. 教育課程(カリキュラム) | 5. 保育環境の整備 |
| 3. 保育所の保育方法と内容 | |

IV部 保育者の養成と研修

1. 保育者の養成と待遇
2. 保育者の研修

全体のまとめ-開発途上国の幼児教育を考えるために-

付録: 統計資料など

活動報告

③効果的な研修プログラムの開発および研修の実施

・研修の対象: 教員、行政官、研究者

1. 現地における研修
 - ・スリランカにおける『幼児教育ハンドブック』を用いた教員研修プログラム実施
2. 来日研修
 - ・ネパール教育省ECD担当者の来日研修
 - ・モンゴル研究者の来日研修
 - ・ベトナム行政官の来日研修

1. 現地における研修

スリランカにおける『幼児教育ハンドブック』を用いた研修プログラム

- 日時: 2004年9月20日・22日
- 場所: スリランカ ガンボラ地区・コロombo地区
- 対象: 現地の幼稚園教諭 ほか 計75名
- 方法
 - 講義と実技による、各1日間の研修
 - 『幼児教育ハンドブック』の一部を現地語(シンハラ語)に翻訳して配布
 - NGO「スランガニ基金」との共催
 - 研修やハンドブックに関するディスカッションおよびアンケート調査の実施

1. 現地における研修

■ 研修プログラム

1. 幼稚園の1日(講義)
2. 伝統的な文化活動の指導(講義・実技)
3. 言語・数量・環境の指導(講義・実技)
4. ディスカッション



2. 来日研修

- **ネパール教育省ECD担当者の来日研修**
 - 日時: 2004年12月12～18日
 - 対象: ネパール教育省ECD担当者3名 (UNESCOカトマンズ事務所からの委託事業)
- **モンゴル研究者の来日研修**
 - 日時: 2005年11月7～14日
 - 対象: モンゴル国立教育大学就学前カレッジ 学長 1名
- **ベトナム行政官の来日研修**
 - 日時: 2006年1月7～14日
 - 対象: ベトナム教育省幼児教育担当官 2名

2. 来日研修

- **研修プログラム**
 - 多様な幼稚園・保育所、小学校の見学
 - 現職教員とのディスカッション
 - 文部科学省の幼児教育担当官との懇談
 - JICA職員によるセネガル事業に関する講義
 - 保育者養成大学の見学
 - お茶の水女子大学教員による講義
 - 国際セミナーの開催
 - お茶の水女子大学教員による講義
 - フィードバックミーティングの開催、などの組合せ

活動内容

④知識・情報の提供およびネットワークの形成

1. シンポジウムの開催
2. 「国際教育協力セミナー」の開催
3. ホームページによる情報発信
4. 国内・国際ネットワークの形成
 - ①国内 (JICA、JBIC、NGOなど)
 - ②国際 (国際機関、途上国行政機関、大学等)

1. シンポジウムの開催

- シンポジウム「幼児教育に関する途上国協力強化のための途上国システム構築—情報収集とモデルの構築—」
 - 日時: 2003年12月13日(土) 13:00～16:00
 - プログラム
 - 途上国幼児教育支援における日本の幼児教育経験の可能性
 - 途上国支援の現状と課題、および本事業への期待
 - 海外現地調査報告
 - 幼児教育ハンドブックの概要と解説
- 国際シンポジウム「アジアにおける子どもの発達と教育—保育・幼児教育分野における国際協力のあり方を考える—」
 - 日時: 2005年1月8日(土) 13:00～16:00
 - プログラム
 - 「EFAと幼児教育—ネパールの事例をもとに—」
 - 「スリランカの幼児教育における日本の技術協力—いくつかの事例を中心に—」
 - 「中国における幼児教育の現状と課題」

2. 「国際教育協力セミナー」の開催

【2003年度】

- 第1回: 「青年海外協力隊における幼児教育協力」
(2003/5/19) 前田美知子・塚川紅美 (青年海外協力隊技術専門員)
- 第2回: 「カンボジアにおける幼児教育の現状と課題—NGOの視点から—」
(2003/8/22) 峯村里香 (幼い難民を考える会・事務局長)
- 第3回: 「スリランカにおける幼児教育の現状と課題—NGOの視点から—」
(2003/10/1) 馬場繁子 (スランガニ基金・代表)

2. 「国際教育協力セミナー」の開催

【2004年度】

- 第1回: 「モンゴルにおける幼児教育の現状と課題—JICAシニア海外ボランティアの視点から—」
(2004/5/19) 松村美智子 (JICAシニア海外ボランティア)
- 第2回: 「世界・日本の教育協力の潮流」
(2004/6/10) 黒田一雄 (早稲田大学アジア太平洋研究科)
- 第3回: 「カンボジアにおける幼児教育の現状と課題—JICAシニア海外ボランティアの視点から—」
(2004/7/17) 野村美知子 (元JICAシニア海外ボランティア)
- 第4回: 「国際協力『セネガルの子どもセンター設立』から学んだこと」
(2004/9/25) 神長美津子 (文部科学省幼児教育課)
- 第5回: 「JICAの基礎教育協力とECD」
(2004/10/26) 重島信子 (JICA基礎教育グループ)
- 第6回: 「ベトナムにおける乳幼児のケアと教育」
(2004/12/9) 箕浦康子 (お茶の水女子大学開発途上国女子教育協力センター)
- 第7回: 「中国雲南省における幼児教育の現状」
(2005/3/9) 曹 龍秀 (雲南師範大学)

2. 「国際教育協力セミナー」の開催

【2005年度】

- 第1回:
(2005/7/4) 「子どもの保健—ガーナでの経験を踏まえて—」
神原洋一氏(お茶の水女子大学子ども発達教育研究センター教授)
- 第2回:
(2005/10/13) 「世界銀行のECD支援」
吉田和浩氏(国際協力銀行開発セクター部長)
- 第3回:
(2005/11/10) 「モンゴルにおける幼児教育の現状と課題」
Dr.Jamsrandorj Batdelger氏
(モンゴル国立教育大学 就学前教育カレッジ学長)
- 第4回:
(2005/12/13) 「乳幼児の最善の発達に向けた国際支援—その現状と課題—」
三輪 千明氏(名古屋大学大学院国際開発研究科 助手)
- 第5回:
(2006/1/12) 「ベトナムにおける幼児教育の現状と課題」
La Thi Anh Tuyet氏(ベトナム教育訓練省幼児教育局長)
guyen Thi Thanh Giang氏(ベトナム教育訓練省幼児教育局専門官)
- 第6回:(予定)「ネパールにおける乳幼児保健(仮題)」
(2006/2下旬) ネパールで活動する小児科医

3. ホームページによる情報発信

- 目的: 当拠点の活動に関する情報発信および国際協力に関する情報発信・交換
- URL: <http://www.kodomo.ocha.ac.jp/~eccd>
- 内容
 - 活動の目的と内容、メンバー
 - シンポジウム・セミナーのお知らせ・記録
 - 活動成果のダウンロード
 - 幼児教育データベース
 - リンク
ほか

4. 国内・国際ネットワークの形成

1. 国内ネットワーク

セミナー・シンポジウム開催

国内関係諸機関からの参加、意見交換

研修受け入れなどへの協力

協力隊ネットワーク

協力隊派遣前研修

協力隊員によるハンドブックへのコメント

NGOとの連携、など

4. 国内・国際ネットワークの形成

■ 2. 国際ネットワーク(1)

■ ①国際機関

■ UNESCO:「UNESCO Policy Briefs on Early Childhood」(幼児教育政策論集)について、本拠点から幼児教育の専門家としてレビューし、コメントを提供するという形で協力

■ UNESCOからの委託によりネパール教育行政官の研修受け入れ

4. 国内・国際ネットワークの形成

■ 2. 国際ネットワーク(2)

■ ②途上国行政機関

■ ベトナム教育訓練省幼児教育局

■ 他、ネパール、モンゴル、カンボジアなど

■ ③途上国の大学・研究機関

■ 幼児教育に関する学術交流(協定)

■ モンゴル国立教育大学

■ ハノイ教育大学

■ タンロン大学、など

幼児教育に関する情報収集と幼児教育モデルの提案

浜野 隆（お茶の水女子大学）

E-mail: hamano@cc.ocha.ac.jp

拠点ホームページ：http://www.kodomo.ocha.ac.jp/~eccd/

1. 報告骨子

(1) 幼児教育・乳幼児発達支援（ECD：Early Childhood Development）の意義

(2) 本拠点の活動目的

(3) 本拠点の活動内容

① 幼児教育の国際協力に関する知識・情報の集約、知識マネジメント

・ 幼児教育分野の国際協力の潮流とプロジェクトレビュー

・ 途上国における幼児教育（現地調査）

カンボジア、ベトナム、スリランカ、フィリピン、ネパール、パキスタン等

・ 資料や成果物をホームページにて公開

② 我が国の幼児教育に関する知識・情報の集約

・ 国内の幼児教育に関する学術論文、紀要、報告書等の収集およびデータベース化

・ 『幼児教育ハンドブック』『Early Childhood Education Handbook』の作成

・ 日本の幼児教育に関する「映像資料」の作成

・ 日本の幼児教育に関する「歴史資料」の作成

③ 効果的な研修プログラムの開発および研修の実施

・ 研修の対象：教員、行政官、研究者

・ 現地における研修

スリランカにおける『幼児教育ハンドブック』を用いた教員研修

・ 来日研修

ネパール教育省 ECD 担当者の来日研修、モンゴル研究者の来日研修

ベトナム行政官の来日研修

④ 幼児教育支援に関する情報提供およびネットワークの形成

シンポジウムの開催、「国際教育協力セミナー」の開催

国内・国際ネットワークの形成：①国内（JICA、JBIC、NGO など）、②国際（国際機関、途上国行政機関、途上国の大学・高等教育機関、等）

2. JOCV より：幼児教育ハンドブックに対する意見及び活用事例

・ 以前活動先の子供の父親で、英語が堪能な人が「日本の保育園や、幼児教育について知りたい」と言ったので、ハンドブックの英語版を貸してあげたところ、読破して「うちの園にも、日本の保育の10%くらいを取り入れて、試して行ってほしい」という難しい？感想をいただきました。日本の幼児教育に興味がある人へ、紹介するには便利な本です。ただ、本に載っていることが日本の幼児教育、幼稚園・保育所のすべてではないし、そもそも日本の幼児教育が良いのか、といたらそうでもないと思います。日本の保育士、幼児教育関係者として、私たちは常に自国の幼児教育について、考え、見直し続けなければならないと思

います。

・写真で日本の園の様子が紹介されているので、自分がやりたい活動を言葉で十分に伝えられない時など便利だと思う。ただ日本の園の紹介、というだけでは、やり方によっては「日本はお金があるからこんなことができるのだ」という印象だけを与えかねないので注意が必要なのでは？

・さっそく保育園で活用させてもらいました。園長が英語が少し分る人なので、保育園のカリキュラム・1日の流れについて、本を見ながら少し話をしました。写真も多く、今まで知らなかった日本の保育を知れて、とても興味を示してくれました。その後簡単に時間割を園長が考えて、少しではありますが、だらだらとした保育にしまりが見えたようにも思いますが、ハンドブックを見ながら、保育について話し合う機会を、少しずつ増やしていきたいです。いままで、日本の保育について説明しても、いまいち納得のいかない様子の園長でしたが、ハンドブックに書かれていることは、分りやすく、写真も多いので興味を引きやすいようです。今後も活用していきたいです。

・子供を持つ親としてもすごく良いハンドブックだと思った。一緒に働く先生たちにアラビア語で伝えるときに良い参考になると思う。親に見せても参考になるのでは？かべに突き当たったときにも良い参考になるのでは？

・写真のクラス担任が掃除する姿にはなんで？と興味を示していた（こちらには清掃専門の職員がいるので）。園生活のビデオもあると尚嬉しい（注1）。公立の幼稚園を載せると一番良いのでは？私立は設備も良すぎる場所がある。発展途上国の人はそのようなところに着目する傾向にあると思う。内容が濃いと思った。隊員自身が本をよく読みこんで資料づくりに役立てるには良いと思う。写真を有効に活用していくと良いと思う。

・写真が多く、カラーで出来ていて良かった。現地語訳があるとなおよい。日本の保育の紹介というだけでは日本はお金があるから…という印象だけを与えかねない。園長とブックを見ながらカリキュラム、一日の流れについて話すことができた。保育園で実際に紹介した。保護者に英語バージョンを見せると「是非日本の保育を」といわれた。言葉で伝えることが難しい時に見せると便利である。

・日本の幼児教育や具体例、写真も掲載されており、利用しやすい。残念ながら、私の配属先である幼稚園の同僚は興味を示さないが、向上心のある同僚がいるところでは、英語版もあり、大いに活用できると思う。途上国における子どもを取り巻く環境は、貧困や飢餓、児童労働などだけでなく、精神衛生上にも厳しいところがある。だからこそ途上国でたくましく生きていけるのかもしれないが、多くの可能性をもっている子どもの力を踏みにじっているようにも思えてならないときがある。

振り返ってみれば、戦後の日本も同じような状況だったのではないかとふと思うことがある。父母が幼児期のころは幼稚園、保育所などなかったし、兄弟で面倒を見るのが当たり前、家の手伝いもする、思いきりたたかれる、など。戦後、日本がどうやって幼児教育を発展させたのが今、私の一番知りたいことである。決して幼稚園という現場だけで発展させたのではないと思う。省庁やほかの学校改革（教育レベルの向上）、保健衛生などが総合的に絡まりあったのだと思われる。「戦後の日本の幼児教育の発展」(歴史)についても記載していただくと、何かヒントを得られるのではないかと思う。（注2）

（注1）日本の幼稚園の映像資料については、17年度の事業として作成しました。

（注2）日本の幼児教育の歴史資料については、17年度の事業として作成しました。

開発途上国における障害児教育分野の教育協力モデルの開発・検証に関する研究

中田 英雄 (筑波大学)



筑波大学教育開発国際協力研究センター

平成 15・16・17 年度文部科学省拠点システム構築事業成果（障害児教育）

平成 15 年度成果

- ・「今後の特別支援教育の在り方について（最終報告）」の概要と特別支援教育に関する本邦文目録
- ・「特殊教育資料」からみた日本の障害児教育
- ・開発途上国における障害児教育の状況
- ・日本の障害児教育における教育法規（抄）・教育要領（抄）・学習指導要領（抄）・筑波大学特別支援教育研究センター教育課程
- ・教育法規・学習指導要領・教育課程（英訳）

平成 16 年度成果

- ・障害児教育における教材・教具集 第 I 部
- ・Educational provision for children with disabilities in Japan: A perspective from Special Education Data
- ・ENFORCEMENT REGULATIONS FOR SCHOOL EDUCATION LAW(excerpt): Article 23 and 73.6- Article 73.9
- ・Mobile Training Team（移動講師団）活動の意義と役割について
- ・ワークショップとフォーラムの開催報告
- ・学校教育法施行規則・平成 15 年度報告「特殊教育資料」からみた日本の障害児教育（英訳）
- ・開発途上国における障害児教育の状況
 - －開発途上国における障害児の簡易スクリーニングに関する調査研究－
- ・障害のある子どもの教育相談ガイドブック
- ・障害児教育における職業教育 第 I 部 養護学校
- ・日本の障害児教育事典 第 I 部（理論編）
- ・インドネシアの特別支援教育開発に関する教育協力研究
 - －日本及びインドネシアの教師による知的障害及び聴覚障害児童に対する協働研究授業－（CD）

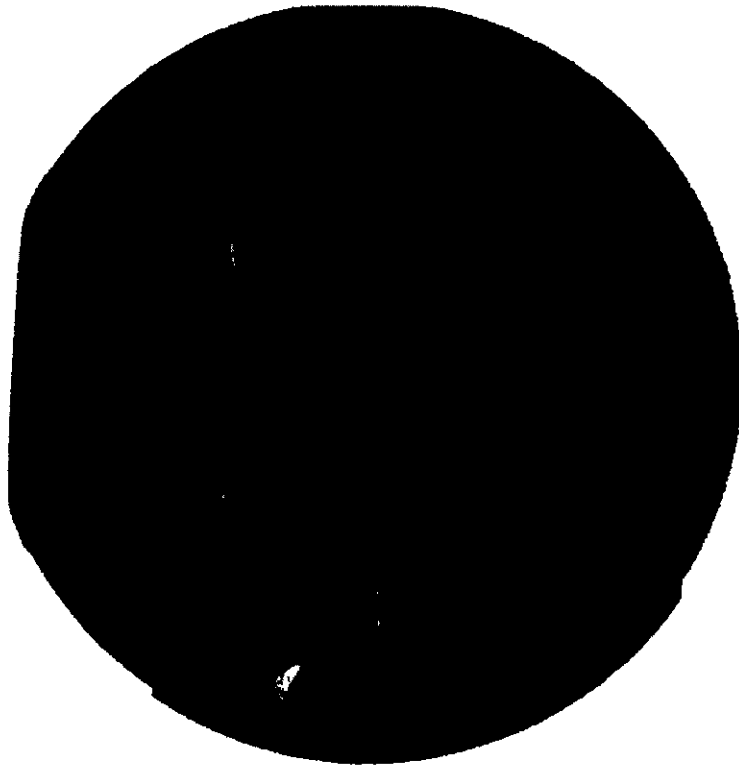
平成 17 年度成果

開発途上国における障害児教育分野の教育協力モデルの開発・検証に関する研究

- 1) 日本の障害児教育事典 第 II 部（実践編）
- 2) 日本の職業教育 第 II 部 盲学校・聾学校
- 3) 途上国における障害児教育の状況に関する文献研究
- 4) 日本の障害児教育における教材・教具 第 II 部編纂
- 5) 日本の盲・聾・養護学校における自立活動事例集の作成
- 6) 日本の障害児教育における研究授業の映像化（DVD）
- 7) 日本の特殊学級・通級による指導の映像化（DVD）
- 8) 日本の幼稚園・保育所における障害児教育の映像化（DVD）

発展途上国における環境教育支援のための実践事例
データベースの作成

島野 智之 (宮城教育大学)



発展途上国における環境教育のための 実践事例データベースの作成

文部科学省拠点システム事業(平成15年～平成17年)

宮城教育大学 環境教育実践研究センタープロジェクト

日本の海外教育協力者が
海外で環境教育活動を円滑に実施できるような
日本の環境教育の実践事例からなる

環境教育実践事例データベース

環境教育実践事例データベース は、どのようなことに使えるか？

その1 (環境教育の計画づくり)

●環境教育に関する基本学習が必要になったとき

- ①日本ではどんな環境教育が行われているか
(環境教育の基本的な考え方や進め方)
- ②環境学習のプログラムの組み立て方を調べてみる
(環境学習プログラムの組み立て方)
- ③各課題について、取り組み方法等を調べてみる
(個別課題に関する環境教育情報)

環境教育実践事例データベース は、どのようなことに使えるか？

その2 (環境教育の活動事例を調べる)

●日本の学校(小・中)や一般市民がどんな活動を
進めているか、その取り組みを調べる必要が生じた
とき

- ①学校の取り組み内容を眺める (学校事例)
- ②一般市民の取り組み内容を眺める(一般事例)
- ③課題を選択して、その取り組み内容を調べる
(個別課題選択やキーワード検索)

環境教育実践事例データベース は、どのようなことに使えるか？

その3 (環境教育のポイントを調べる)

- ①学習のねらいをどこに置くか
- ②学習の流れをどう組み立てるか
- ③実践の評価方法をどうするか
- ④指導者はどんな指導をしているか(指導事例)
- ⑤その課題はどの学年が適当か(学習者の適齢)
- ⑥指導案をどんな手順でどのように組み立てるか
- ⑦この課題実践に要する時間(行程所要時間)
- ⑧この課題の実施はいつ頃が適当か(指導時期)
- ⑨その他、資金、フィールドワークなど

環境教育実践事例データベース は、どのようなことに使えるか？

その4 (環境教育に関するQ&A)

●環境教育の実践や計画づくり等で分からなく
なったとき、みなさんの質問に対応します

- ①よくある質問
- ②質問する

質問と回答の内容は、履歴情報としてデータ
ベースに登録します。

環境教育実践事例データベースは、日本の環境教育資源
を用いて作成した環境教育総合支援データベースです。
宮城教育大学環境教育実践研究センターは、
皆さんの海外環境教育活動を応援します。

データベース検索システム(日本語)

<http://dbee.miyakyo-u.ac.jp>

環境教育以外の基礎教育の教材作成等にも活
用できると思います。是非、使ってみて下さい。

環境教育の教員研修にかかわる途上国との国際協力 プロジェクト開発研究

原子 栄一郎 (東京学芸大学)



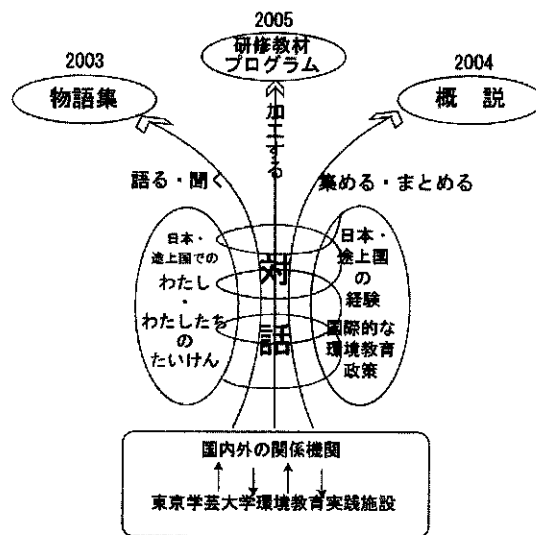
環境教育の教員研修にかかわる途上国との国際協力プロジェクト開発研究
国立大学法人東京学芸大学 環境教育実践施設

事業の概要

国際的に、環境教育における教師教育（教員養成及び現職教員の継続教育・研修）は、環境教育界において最優先課題の一つとして認識されている。2005年から始まった国連・持続可能な開発のための教育の10年では、現行の学校教育制度を持続可能な開発に向けて再検討すること、並びに基礎教育が重要課題とされており、教師教育の重要性はますます高まってきた。

このような背景の下に2003年度には「途上国における環境教育にかかわる教師教育の現状とその国際教育協力のあり方に関する研究」としてこのテーマに関わる萌芽的研究を行なった。そして2004・2005年度では前年度の成果と課題を踏まえ、環境教育における教師教育の全体を視野に入れながら現職教員の継続教育・研修に焦点を絞り、「環境教育の教員研修にかかわる途上国との国際協力プロジェクト開発研究」を実施してきた。

事業の見取り図



2003年「語る・聞く」

ワークショップの実施（途上国の教員を対象にした環境教育研修とその国際教育協力）

『途上国の教員を対象にした環境教育研修とその国際教育協力 物語集』

2004年「集める・まとめる」

日本の環境教育と環境教育教員研修にかかわる経験を集約

途上国の教員を対象にした環境教育研修の国際協力プロジェクト形成のための調査

『日本の環境教育概説』『環境教育教員研修の見取り』『日本の環境教育教員研修』

2005年「加工する」

途上国教員を対象とした環境教育研修支援を行う国内関係者が活用できる研修教材の開発

『環境教育教員研修モジュール型教材』

環境教育教員研修モジュール型教材

研修教材のねらい

この研修教材は、途上国の教員を対象にした環境教育の研修に協力する国内関係者が、環境教育の基本的な考え方を学び、幾つかの具体的な活動のやり方を身につけ、さらに環境教育研修を企画することができるようになることをねらいにして作られている。

研修教材の特徴

- 1) 日本の環境教育と環境教育教員研修の経験をベースにして作られている。
- 2) 環境教育の考え方を学ぶ、環境教育のやり方を身につける、環境教育研修を企画する、という3つの内容を含んでいる。
- 3) 3つの内容領域の下に、10のモジュールが配置されている。一つ一つのモジュールは、単独で使うこともできるし、他のモジュールと組み合わせて使うこともできる。利用者の目的に応じた使い分けが可能である。モジュール11「環境教育教員研修用モジュール型教材を活用した研修プログラム」では、幾つかの用途に合わせたサンプルプログラムを例示している。
- 4) モジュールは、1枠90分の研修時間を想定して作られているが、利用者の用途に応じて柔軟に使うことができる。
- 5) 環境教育とその教員研修の理解と実施に供するために、巻末に下記の補足資料を掲載している。
a)環境教育参照 URL 一覧、b)環境教育参考図書、c)『環境教育教員研修の見取り』、『日本の環境教育教員研修』、『日本の環境教育概説』、d)環境省・文部科学省共同作成の環境教育パンフレット

研修教材の目次

はじめに

概要「環境教育が立ち現われるところ」

I. 教育を学び・考える

1. 国際教育協力と国際社会における環境教育の現代的課題
2. 環境教育実践の振り返りと環境教育カリキュラムの開発
3. 環境教育実践とナショナル・カリキュラム
4. 基本的な環境ケア—子どもたちと何をめざすのか？
5. 〈語り〉からの教材編成：環境教育デザインのための一視点

II. 活動を考え・実践する

6. 地域環境を地図化する—まち歩きのおすすめ
7. 地域の自然環境を読む
8. 河川の自然環境：捉えにくい事象の視覚化

III. 研修を学び・企画する

9. 環境教育教員研修プログラム開発—教師のニーズに沿った研修づくり
10. 環境教育教員研修をデザインする
11. 環境教育教員研修モジュール型教材を活用した研修プログラム

資料

モジュール1「国際教育協力と国際社会における環境教育の現代的課題」

日本の国際教育協力において、環境教育は協力経験の浅い分野の一つと見なされているが、今日の教育支援の世界的動向と環境教育のそれとは密接に関係しており、相互理解を図ることによってより実効性のある取組が期待される。この研修では国際教育協力と環境教育の公的文書をテキストにして、両者の基本的な方向と考え方について学習する。

モジュール2「環境教育実践の振り返りと環境教育カリキュラムの開発」

各自が直接間接的に実際に取り組んできている環境教育に関わる取り組みを、整理する機械とするとともに、それらの取り組みを相対化、総体化する機会とする。そのような振り返りを基にして、今後の環境教育実践の範囲や方向性を探る機会とする。

モジュール3「環境教育実践とナショナル・カリキュラム」

環境教育の実践を組み立てていく際に、ナショナル・カリキュラムとの対応を日本と途上国の事例から学ぶ。そして自らの赴任先において子ども・保護者・地域の実情に即しながらそのナショナルカリキュラムに沿った教育実践、特に学際的な統合カリキュラム（クロス・カリキュラム）を考える。

モジュール4「基本的な環境のケア—子どもたちと何をめざすのか？—」

R. ハートが『子どもの参画；コミュニティづくりと身近な環境ケアへの参画のための理論と実際』において展開している「基本的な環境のケア」というコンセプトを取り上げ、まずその基本的な理解を求めたうえで、そのコンセプトで研修参加者が自分史をふりかえったとき何が見えてくるのかを検討し、最後に途上国の子どもと環境とのかかわりを見る視点について全員で意見交換を行う。

モジュール5「〈語り〉からの教材編成；環境教育デザインのための一視点」

環境教育の教材編成において、これまで環境情報提供者の〈語り〉がどのように位置づけられてきたのかを学びながら、〈語り〉からの教材編成にかかわる可能性と問題点とを作業＋プレゼンテーション＋ディスカッション＋ふりかえりを通して検討する。

モジュール6「地域環境を地図化する—まち歩きのおすすめ」

資料が少ない、あるいは経験が乏しい新赴任地での環境教育実践を想定して、自力のできるプログラムである地図づくりのノウハウを学ぶと共に、環境地図づくりを野外観察やまち歩きと連動させ、環境資産の発掘や、地域の課題・魅力発見などにつなげる積極的位置づけを考える。

モジュール7「地域の自然環境を読む」

日本とは異なる生活環境・自然環境のもとで環境教育実践を組んでいく際、この研修で自然環境を観察する視点を教師自らが学びながら、子どもたちの活動を考える契機とする。

モジュール8「河川の自然環境：とらえにくい事象を視覚化する」

河川の自然環境を構成する事物や事象について整理し、フィールドでの把握が難しい事物や事象にはどのようなものがあるのかを再考する。また、途上国の現状をとりあげ、実際の現場の問題につい

て、河川本来の特性と人為的影響との関係について整理しながら分析し、そこに含まれる、とらえにくさについて確認する。次に、イラストレーションや映像による表現の特徴を学び、具体的なテーマをとりあげて視覚化が有効と考えられる事象とその表現方法について提案し合うとともに、途上国での環境教育におけるイラストレーションや映像の導入方法や活用における課題について議論する機会とする。

モジュール9「環境教育教員研修プログラム開発－教師のニーズに沿った研修づくり－」

政治・経済・社会・文化という外部条件や学校教育制度・教員研修制度という内部条件にも目配りした教員研修全体の枠組みを見取った上で、日本における環境教育教員研修の具体的な事例に学びながら、環境教育教員研修の作り方を示していく。

モジュール10「環境教育教員研修をデザインする」

子ども主体の学習や自ら学ぶ力を伸ばす教育を考える際に、それに関わる教師や指導者自身が自らの学びを創りあげられるかどうかは、重要である。そこで、教師個人の研修と学校全体の研修を参加者全員で計画することを経験しながら、研修デザインのための一視点を獲得できるようにする。

モジュール11「環境教育教員研修モジュール型教材を活用した研修プログラム」

環境教育教員研修モジュール型研修教材は、10のモジュールから構成されている。モジュール型教材の特徴として、共通のテーマを持ちながら(環境教育教員研修)、それぞれが独立した教材である。「環境教育教員研修用モジュール型教材を活用した研修プログラム」では、この教材を活用して、幾つかの用途に合わせたサンプルプログラムを例示している。

今ここにいる私から環境教育を立ち上げる

この研修教材は、私たち一人一人が環境とかがわり合うことによって得る体験をベースにして、環境教育活動の過程を作り出し実践するアプローチを採用している。

環境に心を向ける・環境に出会う・環境をみる・環境を読む・環境に気づく・
環境に心を配る・環境を語る・環境を・にきく・環境を表現する・環境を伝える

環境教育ではこのようなことがとても大切なことだと考え、モジュール型教材では、これらをどのような方法で具体化し環境教育活動の過程を作り出すことができるか、さまざまなヒントが述べられている。今ここにいる私から環境教育が立ち上げられることを願って。

連絡先

国立大学法人東京学芸大学 環境教育実践施設
環境教育「拠点システム」構築事業研究グループ
担当：原子・叶田

e-mail:atom@u-gakugei.ac.jp kanouda@u-gakugei.ac.jp

学校保健分野における教育協力についての調査研究事業

國土 将平 (鳥取大学)



平成18年度 青年海外協力隊 派遣前研修

学校保健分野における 教育協力について

平成15-17年度文部科学省国際教育協力
拠点システム構築事業より

平成18年4月5日(水) 筑波大学大塚キャンパス

学校保健にはたくさんの領域がある

- **学校環境衛生**: 学校全体の衛生状態の改善を目指します。便所、有害な動物、水、空気、教室給食施設などの改善プログラムの実施を行います。
- **安全教育・指導**: 事故や災害からの安全のための教育指導、学校・学区内の危険箇所などの改善プログラムの実施を行います。
- **生活習慣の改善**: 生活習慣を健康的に保つための方法・管理方法の普及、特に清潔習慣の育成は重要です。日本の企業などが用いているQC手法を応用します。
- **栄養・食生活・発育の評価と改善**: 栄養状態、発育状態の評価、学校給食の評価と改善プログラムの実施をします。
- **性教育・指導**: エイズを始めとして性に関係した知識、態度、行動改善プログラムを実施します。
- **学校保健組織活動**: 学校を中心として地域・家庭に広がる保健組織活動の展開をします。
- **学校保健統計・評価**: 途上国の学校保健状態を評価する方法の検討と評価を行います。
- **保健教育**: カリキュラム開発、教材・教具の開発を行います。
- **学校保健関係職員**: 関連する教職員の養成・研修を行います。
- **健康管理**: 健康管理システムの構築・改善プログラムを工夫し、健康診断を行います。

■プログラムの概要 実施地区:タイ国

山岳地区:北部チェンマイ
県のメオ・カレン族の村に
おける2校

最貧地区:東北部ウボン県の
農村における3校



ワークショップと学校保健改善チームの形成 校長・学校保健担当教員など

村民を対象
として協力
を求めると

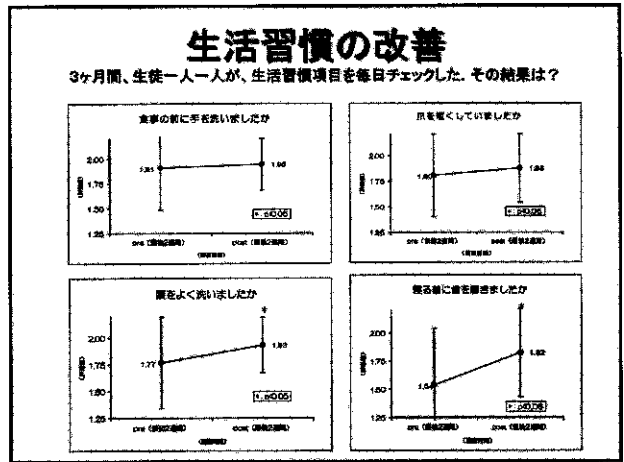
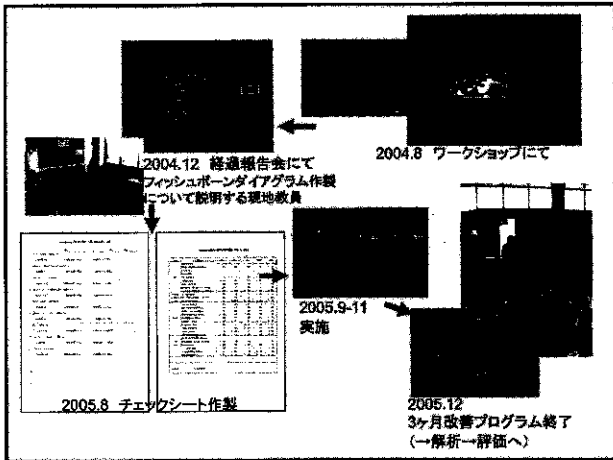
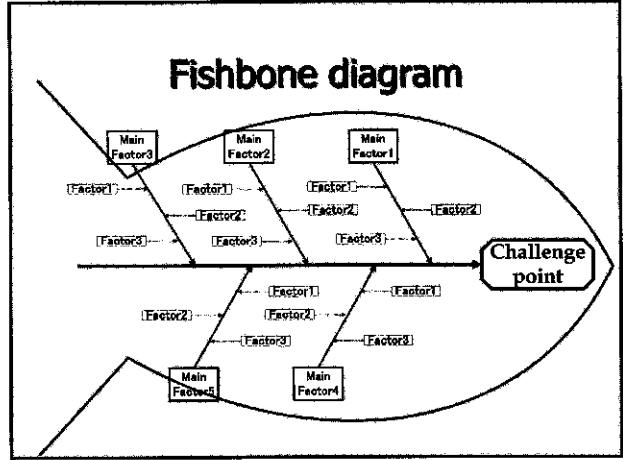
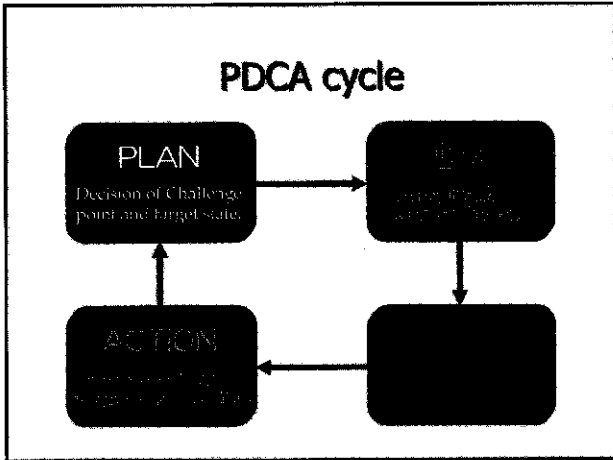
全教員と
拠点メンバー



現地において、3つのプログラムを実施(3ヶ月間)

- ① **生活習慣の改善と基本的な生活習慣の確立**:
殆どの健康異常、障害の基礎に生活習慣がある。東南アジアにおける主要疾患は生活習慣に多くを依存している。
(主体の教育・指導)
- ② **学校環境衛生の改善**:
学習環境・生活環境の改善から清潔習慣を身につける。
(環境の改善)
- ③ **学校内危険箇所の改善と事故、障害の防止**:
タイの死亡率では事故・中毒は出血熱の96倍、腸管感染症の26倍であり、ミャンマーでも死因の5位となり、結核、マラリアを近年抜いた。安全意識の向上、潜在危険因子の除去を学校内から始める。(ケガなどの原因の除去)

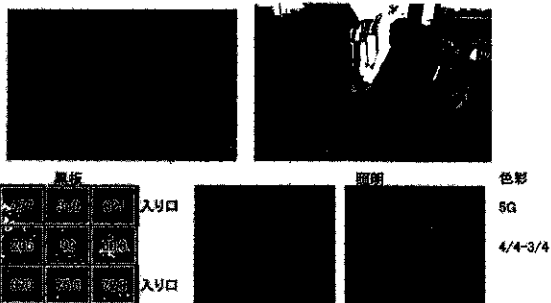
1. 生活習慣の改善と 基本的な生活習慣の確立



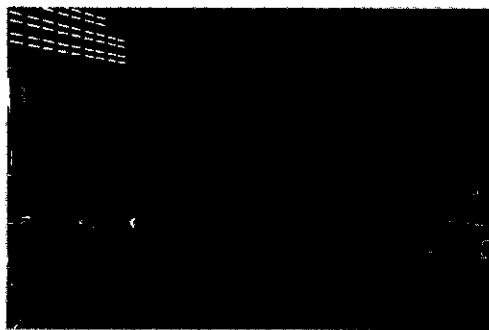
2. 学校環境衛生の改善

- ### 学校環境衛生改善プログラムの実施
- 我々と現地教員による協働チームをつくる。
 - マニュアルに従って、チームで環境の測定、観察→
 - 教室、教員室、給食室、食堂、校庭、トイレ、水のみ場など
 - 写真撮影、測定値記録などをして、チェックリストを作成する(HQC手法)
 - 人員、費用、期待効果から改善できる場所をチェックして改善計画を立てる
 - 改善作業の実施
 - 実施後に写真撮影、評価

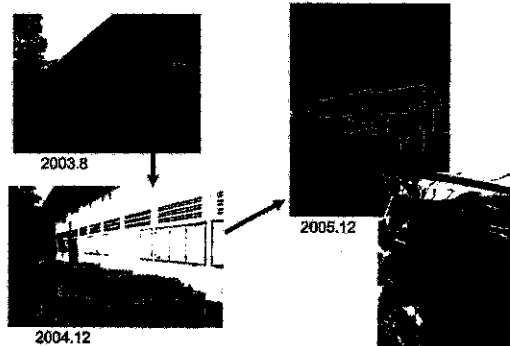
ウボン県ガムグンノンジック学校における
学校環境衛生改善プログラムの一例【照度の改善】



暗いところみえますか？



ウボン県ガムグンノンジック学校における
学校環境衛生改善プログラムの一例【照度の改善】



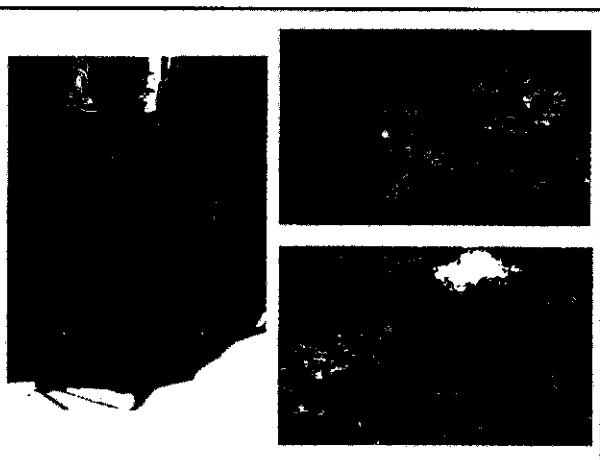
～チェンマイ県メーランカム村学校が作製した報告書より～

การปรับปรุงแก้ไขแสงสว่างในห้องเรียน

ก่อนปรับปรุง



หลังปรับปรุง



学校環境衛生改善プログラム
【ゴミの捨て方・分別】

Let's classify the trash in the school and turn the money for education
The Method of Ban Khueklong Nongkhai Elementary School

Classification of trash using color buckets.
Green for organic waste, brown for paper, blue for plastic, red for glass, yellow for metal, black for other trash.

マニュアルの一部
「分別の仕方と
リサイクル」



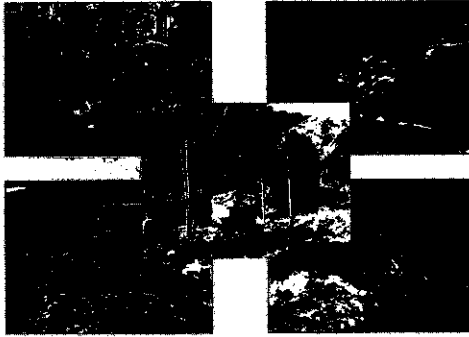
Price List of recyclable trash

paper	10 kg
plastic	10 kg
glass	10 kg
metal	10 kg
other	10 kg

Approach

Teachers should explain the classification method for students every day. The students should classify the trash in the school every day. If the classification is not correct, the teacher and student will discuss the problem. Finally, the student will be able to classify the trash.

ปัญหากระบวนการจัดการขยะ

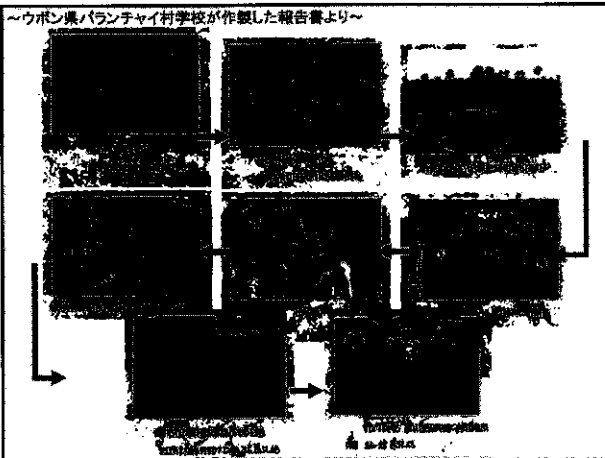


การกำจัดขยะ การคัดแยกขยะ

■ แยกขยะก่อนทิ้ง



ธนาคารขยะ (ขยะ Recycle)



3. 学校安全プロジェクト

学校安全の意義とは？

子どもの

- ① 生命を守る
- ② 健康を守る
- ③ 発育・発達を促進する
- ④ 学習の効果を高める
- ⑤ 豊かな情操を育む

基本コンセプト: 子どものための地道な活動

安全教育の領域

- 1. 交通安全 2. 学校火災
- 3. 校舎の危険 4. 校地の危険
- 5. 実験・実習の事故 6. 天災
- 7. 修学旅行・校外見学事故
- 8. 遊具・玩具の事故
- 9. 運動・スポーツの事故 10. 登山事故
- 11. 水難・プールでの事故 12. 家庭事故

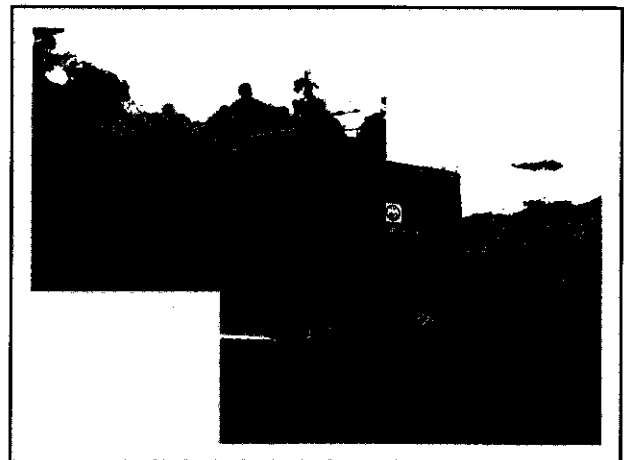
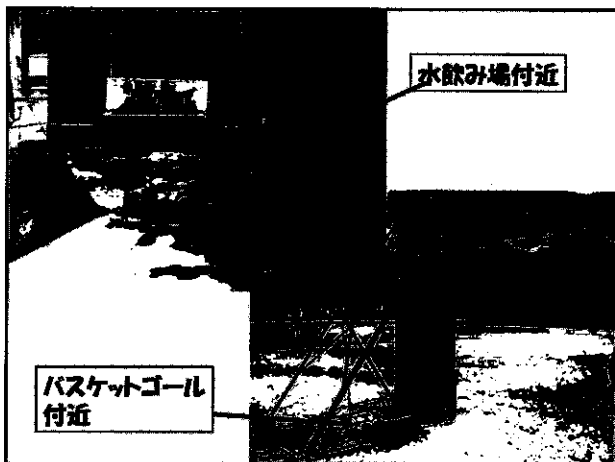
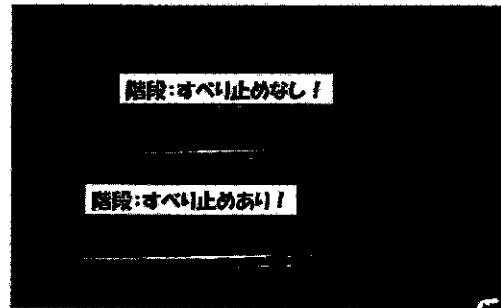
潜在危険

事故に至らなくとも、潜在的な危険はどこにでも潜んでいる。

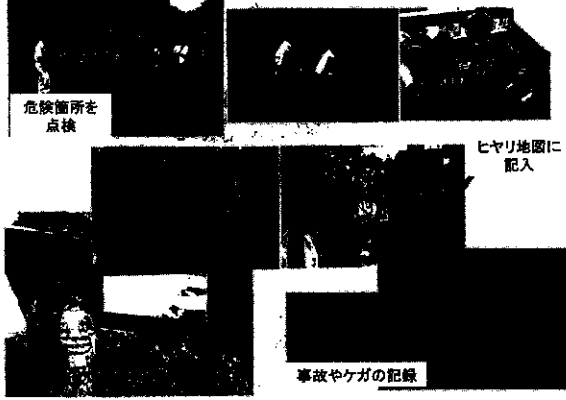
- ①環境の潜在危険
- ②服装の潜在危険
- ③行動の潜在危険
- ④精神状態の潜在危険



危険場所点検：日本の事例 (公立中学校探検の結果！)



③学校安全管理プログラムの実施



危険箇所を
点検

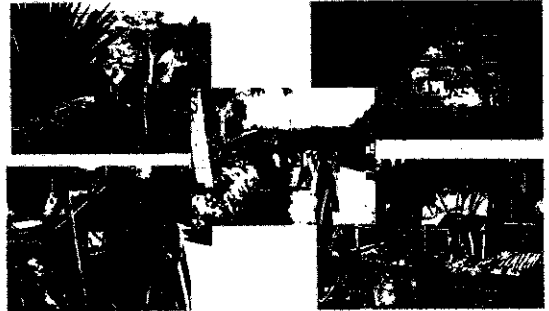
ヒヤリ地図に
記入

事故やケガの記録

การจัดการระบบความปลอดภัยในโรงเรียน

สำรวจจุดอันตราย

ทำแผนที่จุดอันตราย



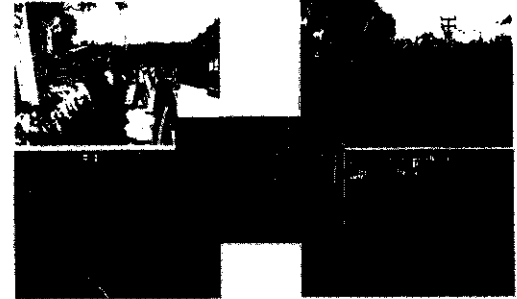
いま、改善しています



ปรับปรุงจุดอันตราย

ก่อนปรับปรุง

หลังปรับปรุง



ปรับปรุงจุดที่อาจเป็นอันตราย

ก่อนปรับปรุง

หลังปรับปรุง



学校保健・国際協力のポイント

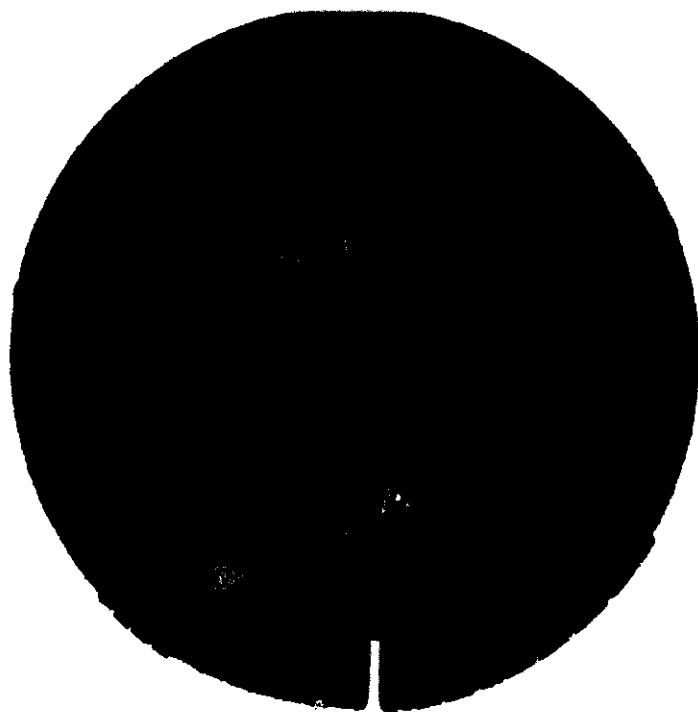
- 実現可能性
 - 日本の基準の適用は難しい
 - 対象地域で望ましい目標を設定
- 現場主義
 - 学校の現状を我々の「目」で確認
 - 問題点や基準の提示:「問題点が見えない」
- 対象地域の学校、先生、児童生徒の主体性
 - 学校で問題点を共通認識
 - 解決の方法を自ら考え、実行する
 - 成功例を周辺の学校や地域と共有

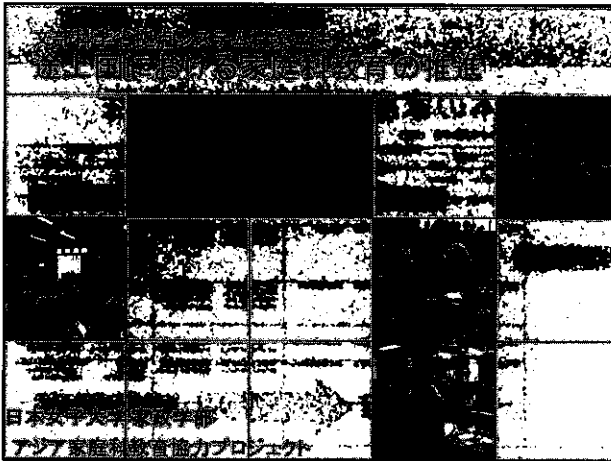
学校保健のコンセプト

- 証拠に基づく協力
- 一緒に活動する
- 地域の言葉を使う
- 持続的なプロジェクト
- 付加価値
- 省コストで大きな価値

途上国における家庭科教育の推進

佐々井 啓 (日本女子大学)





家庭科ハンドブックの位置づけ

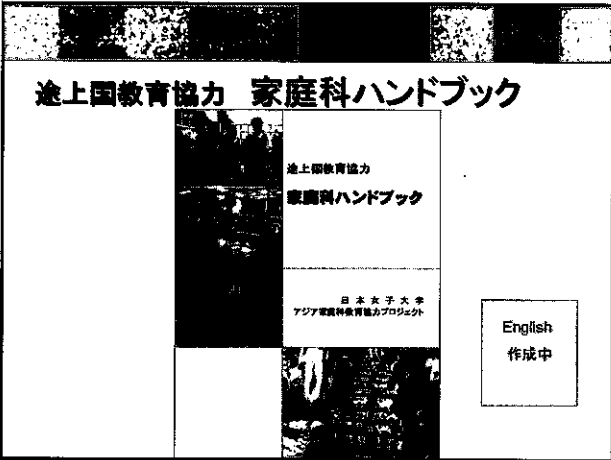
- ・ 途上国における家庭科教育の推進をめざして

日本の家庭科教育経験の集約化(データベース)
 途上国における家庭科教育の現状調査、ヒアリング
 海外調査、アンケート調査
 フォーラムの開催 など

↓

A. 日本の家庭科教育・教育協力の歴史と現状
B. 家庭科教育モデル冊子

途上国教育関係者・途上国派遣員が行う活動に家政学からの教育モデルの提案



目次構成

家庭科教育の全体構成
年間計画例(時間)

I 家族と家庭生活 II 食生活 III 衣生活 IV 住生活 V 消費生活と資源・環境	目次 1 家族と家庭生活 2 食生活 3 衣生活 4 住生活 5 消費生活と資源・環境 6 年間計画例(時間) 7 索引
---	---

- ### 1. 家庭科ハンドブックの目的
- 家政学と家庭科
- 生活を総合的にとらえるのが家政学(家庭科)
 - 生活という総合的な分野であるために学際的内容
 - その背景として、サイエンスと文化に裏打ちされた教育・学問

- ### 2. 家庭科ハンドブックの目的—ねらい
- 「伝統や文化を大切にしながら、その国の独自の姿で進んでいく」ことを支援する
 - 家庭科を通じた「地域への働きかけ」も想定
子どもや地域をきっかけにして変わっていきけるように
 - 特定対象国はないが、調査を行ったベトナム社会にまで適合する内容
 - 大切な基本をこの冊子に盛り込む

2. 家庭科ハンドブックの目的—想定

- 日本のデータを示し、日本の現状、教育理念や学問的な裏付けを示す
- 各国の事情に合わせてアレンジ・付加することを想定
- 初等教育・中等教育を主対象として書き分ける
- 応用教育(職業教育)まで触れる

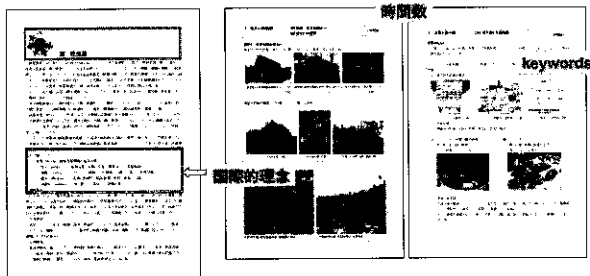
3. 日本の家庭科教育との整合性

(B) 日本の家庭科教育 (参考)

教育段階	内容	特徴	課題
小学校	生活科	生活習慣の形成、生活技能の習得	生活科の充実、生活技能の育成
中学校	家庭科	生活技能の習得、生活態度の育成	生活技能の習得、生活態度の育成
高等学校	家庭科	生活技能の習得、生活態度の育成	生活技能の習得、生活態度の育成

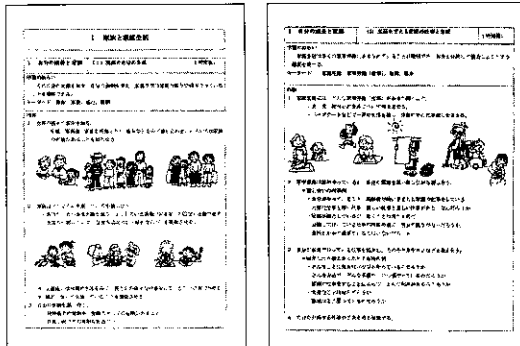
教育内容の深化 ← 課題発見から解決へ

4. ハンドブックのページ構成



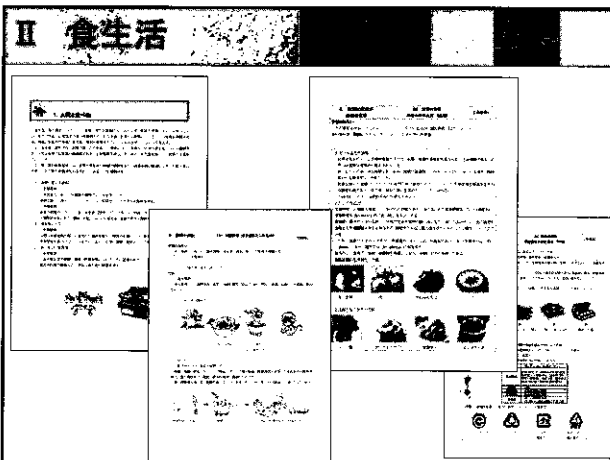
各領域の内容と特徴

I 家族と家庭生活



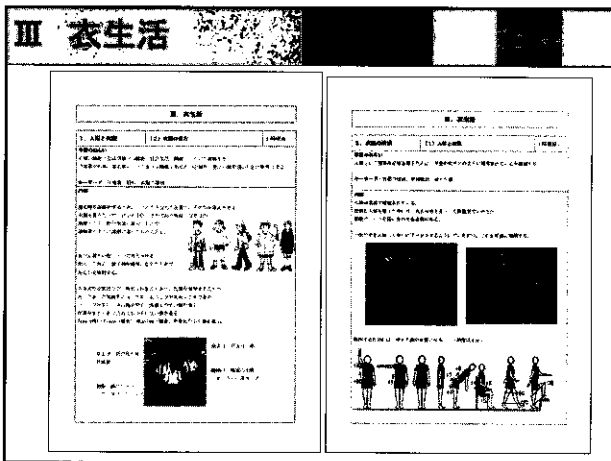
I 家族と家庭生活

- 自立、環境、福祉という3つの柱から構成
- 写真や絵を通しての学習を想定
- 授業の流れをイメージした内容
- 全世界共通のルールに基づく
- 1991年につくられた「高齢者のための国連原則」
(高齢者の5つの権利: 自立・参加・ケア・自己実現・尊厳)
- 学習の流れを1時間で考えて作っているため、大きな活動を2~4つくらいしか入れていない
- 児童: 小学校までという定義で用語を使用している
- 生徒: 中学校以上



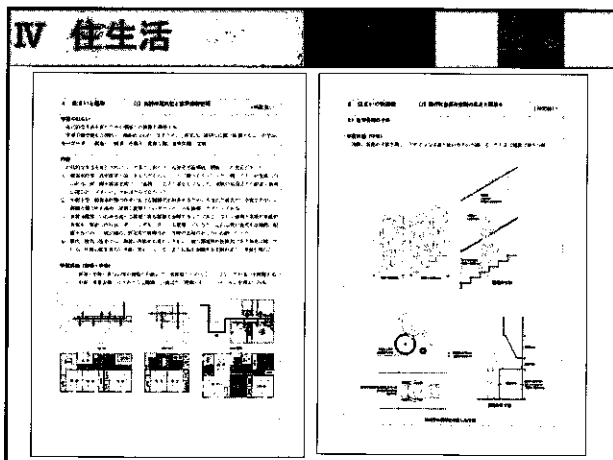
II 食生活

- 日常の食事に関心をもって、調和のよい食事を考えていくための基礎知識を記述
- さらに食品の性質や栄養素についての学習
- 料理法、食品とも、それぞれ独自の食文化がある
- できるだけ各国共通の事例を挙げている
- 料理ではなく、調理（科学的視点が基礎になっている）
- 料理ひとつひとつを考えるのではなく、学問体系にのっとったかたちで、やさしく解説した内容



III 衣生活

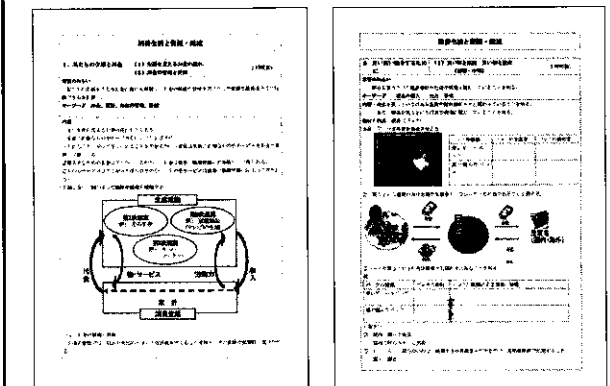
- 単なるファッションではなく、健康や安全に配慮した「衣服」を学ぶ
- 地域、気候風土と衣服の関係を、日本の例をとってみているが、各国で置き直してほしい
- 共通するものとして、素材の性能や取り扱い
- 製作は、各国の状況に合わせて置き直すことを想定
- 日本の小学校・中学校の例をあげたので、応用してほしい
- 衣生活が自立して行われるように
- 事例には、ミシンがなくてもできるような、たとえば手縫いのできるようなシンプルな物を取り上げた



IV 住生活

- アジアではあまり教育が行われていない分野
各国の事情により、住まいの規模は大きく異なる
インテリアなど内部のみでなく、全体像を記述
- WHO「健康住居環境の基本条件」に沿った構成
 - ・安全(safety) ・健康(health)
 - ・能率(efficiency) ・快適性(comfort)
- 日本の事例や世界各地の住まいをビジュアルに見せ、自分の国と比較してほしい
- 自分たちの家ばかりでなく、初等教育から中等教育に進むにつれ、地域施設や環境などまで考える
- 住居に興味をもち、中等教育では専門知識をつけるように

V 消費生活



V 消費生活と資源・環境

- 生活を支えている物やサービス、お金の流れを理解してもらう
- その国によって、経済状態や流通状態が異なるため、その国でどのような問題がおきているか、生活問題は何か、をさがることが出発点
- 身近な問題から社会に視野を広げてほしい
- 国際的な共通認識として
消費者の8つの権利と5つの責任を基礎としている
- 環境分野は「消費生活からみた環境保全」まで

まとめ—ハンドブックの共通理念

- 国際的なルールを下敷きに
- 日本の事例や、知識を紹介する
- 派遣者・当該国が可能な限りアレンジ

まとめ—家庭科教育の目標

- 学校教育が基本
- 同時に保護者の教育、母親を教育するなどの成人教育が重要
- 時には親を呼んで教育する機会を作り、親を巻き込んだ教育となることが望ましい
- 被服であれば技術を教えて収入の道を開く
- 家庭科の教員を派遣し、保護者まで含めて教育していくことが重要
- 地域と学ぶ場の接点をとること

まとめ—家政学のめざすもの

- 生活をトータルするのが家庭科のポイント
- 生活という総合的なものを学習する
- 学際的、しかしその背景が学術的であること
- サイエンスと文化に裏打ちされた教育
- その国の伝統や文化を大切にしながら、その国の独自の姿で進んでいく
- 日本の現状をプラス・マイナス面から理解し、それを越えて前進することができるように

まとめ—女性のエンパワーメント

- 家庭科教育には女子教育、エンパワーメントとしても意味がある
- なぜ女子に教育が必要か、自分や家族の生活をきちんとできるということが基本であり、男女とも平等に学ぶ必要がある
- 人権教育に基づき、男女共同参画社会をめざして
- すぐ役に立つ教育ばかりでなく、次世代につなげていく文化を育てていく

まとめ－女性のエンパワーメント

- ・ 科学や技術が急速に発展していく中で、人間が人間らしく生きる知識をつけ、人間のディベロップメントを図る
- ・ ごみ問題のように国を越えた被害が出ていることなども理解
- ・ 日本が経験するよりもっとスピーディな変化が起こるであろう国々で、劇的な変化に対応できる深い知識と判断力を身につけることが重要

アフガニスタン女性教育支援

「生活のスキル」としての家庭科教育

2006年1月24日

「家庭科教科指導の実際－家庭科テキストと授業展開」 実習「生活のスキル」関連授業の事例

家庭科ハンドブックの一部を
使用し、研修を実施

ダリ語に翻訳

2005年4月24日

アフガニスタン共和国首都カブールにて
「生活のスキル」関連授業の事例



2006年1月24日
アフガニスタン共和国首都カブールにて
「生活のスキル」関連授業の事例
（アフガニスタン共和国首都カブールにて
「生活のスキル」関連授業の事例
2006年1月24日）

項目	内容
授業時間	45分
授業内容	家庭科ハンドブックの一部を使用し、研修を実施
講師	アフガニスタン共和国首都カブールにて「生活のスキル」関連授業の事例
参加者	アフガニスタン共和国首都カブールにて「生活のスキル」関連授業の事例
場所	アフガニスタン共和国首都カブールにて「生活のスキル」関連授業の事例
日時	2006年1月24日
主催	アフガニスタン共和国首都カブールにて「生活のスキル」関連授業の事例
協力	アフガニスタン共和国首都カブールにて「生活のスキル」関連授業の事例
備考	アフガニスタン共和国首都カブールにて「生活のスキル」関連授業の事例

今後の課題

- ・ 現地の協力校との交流を深め、途上国で家庭科教育ハンドブックの使用をお願いする
- ・ 派遣教員の方々にご意見を伺う
- ・ 現地の意見をもとに内容を検討し、改訂をする
- ・ 内容の一部を現地語に翻訳する

算数・数学における協力経験のモデル化と教材開発、 協力推進事業

磯田 正美 (筑波大学)



筑波大学教育開発国際協力研究センター
碓田正美
isoda@criced.tsukuba.ac.jp

拠点システム数学課題

数学委員会(26大学45名)

Mathematical Competence for the 21st Century: A Framework for Action
Mathematical Competence for the 21st Century: A Framework for Action

拠点システムの活動

パンフレットを
読んでくださ
い!

万人のための教育 Education For All:

the World Education Forum, Dakar, Senegal, 26-28 April 2000

- (i) expanding and improving comprehensive early childhood care and education, especially for the most vulnerable and disadvantaged children;
- (ii) ensuring that by 2015 all children, particularly girls, children in difficult circumstances and those belonging to ethnic minorities, have access to and complete free and compulsory primary education of good quality;
- (iii) ensuring that the learning needs of all young people and adults are met through equitable access to appropriate learning and life skills programmes;
- (iv) achieving a 50 per cent improvement in levels of adult literacy by 2015, especially for women, and equitable access to basic and continuing education for all adults;
- (v) eliminating gender disparities in primary and secondary education by 2005, and achieving gender equality in education by 2015, with a focus on ensuring girls' full and equal access to and achievement in basic education of good quality;

(vi) improving all aspects of *the quality of*
basic education and ensuring excellence in it so
that recognized and measurable learning
outcomes are achieved by all, at all levels of
learning, worldwide and throughout life cycle

算数は教えない限り身につかない。経済生活も、生産もままならない。

Innumeracy への挑戦

Numeracy, 数学的読学力

高等教育

By Todo

教育協力のためのAPEC-Tsukuba会議

東京, Jan. 15-20, 2006. (See proceedings)

Numeracyとは生きるために必要な算数・数学的読能力

授業研究は、教師の専門性を向上させ、教育の質の改善をもたらす「日本の教育経験」である

算数・数学は、世界共通の言葉であり、日本の教育経験を生かして、授業研究に取り組むことがもっとも容易な教科である。

授業研究はJICAプロジェクトにおいても活用されている。

米国で賞賛される授業研究：論より証拠！

日本の秘密は授業研究にあり！

The basic teaching style in American mathematics classrooms remains essentially what it was two generations ago.

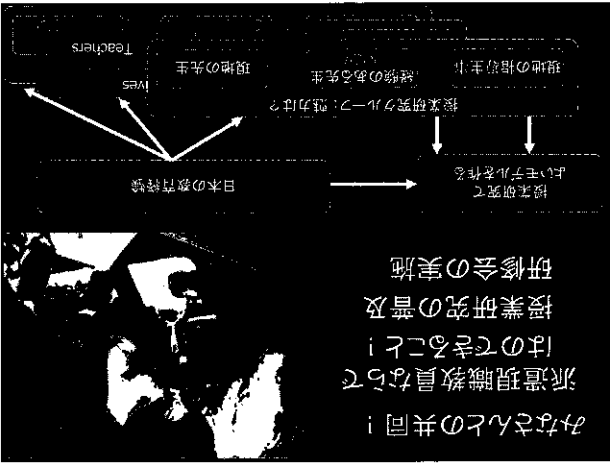
Japanese approach is a natural outgrowth of the teaching culture in Japan, which accords teachers not only abundant time for preparation, but also for collaborative lesson planning.

Fully 99% of all elementary teachers and 50% of all middle school teachers participate in lesson study groups that meet for two to five hours per week.

The debilitating professional isolation of U.S. teachers stands in stark contrast to this pattern.

A core conclusion from the videotape research: "The key to long-term improvement [in teaching] is to figure out how to generate, accumulate, and share professional knowledge."

Before It's Too Late



VTRを利用して何が学べるか?

The role of the videotape in the development of lesson study in Japan

A videotape of a lesson study lesson in a Japanese elementary school is shown. The video shows a teacher and students in a classroom setting. The teacher is standing at the front of the room, and the students are sitting at their desks. The teacher is talking to the students, and they are listening attentively. The video is used to illustrate the concept of lesson study, which is a collaborative process where teachers observe each other's lessons and provide feedback to improve their teaching.

The role of the videotape in the development of lesson study in Japan is to provide a means of sharing and reflecting on teaching practices. It allows teachers to see their own teaching from a different perspective and to learn from the experiences of their colleagues. This process is essential for the continuous improvement of teaching and learning in the classroom.

よい授業とその指導案

Good Lesson and its Lesson Plan

The diagram shows a lesson plan for a lesson on the topic of 'The Role of the Teacher in the Classroom'. The lesson plan is divided into several sections, including 'Objectives', 'Materials', 'Procedure', and 'Assessment'. The 'Procedure' section is the most detailed, showing the sequence of activities and the teacher's role in each. The lesson plan is designed to be flexible and to allow for adjustments based on the needs of the students.

The lesson plan includes the following sections:

- Objectives: To understand the role of the teacher in the classroom and to develop effective teaching strategies.
- Materials: A video of a lesson study lesson, a set of lesson plans, and a set of student worksheets.
- Procedure:
 - Introduction: The teacher introduces the topic and asks the students to share their own experiences.
 - Video Analysis: The teacher shows the video and asks the students to observe and record the teacher's actions.
 - Discussion: The teacher leads a discussion about the video and asks the students to share their observations and reflections.
 - Lesson Plan Development: The teacher asks the students to develop their own lesson plans based on the video and the discussion.
 - Peer Observation: The teacher asks the students to observe each other's lessons and provide feedback.
 - Reflection: The teacher asks the students to reflect on their own teaching and to share their reflections with their colleagues.
- Assessment: The teacher assesses the students' understanding of the role of the teacher and their ability to develop effective teaching strategies.

授業研究その歴史

The History of Lesson Study

The diagram shows the history of lesson study in Japan. It starts with the introduction of lesson study from the United States in the 1950s. Lesson study was then adopted in Japan in the 1960s and has since become a central part of teacher education and professional development. The diagram illustrates the evolution of lesson study from its origins to its current form, highlighting the key factors that have contributed to its success.

The history of lesson study in Japan is characterized by the following key factors:

- Introduction from the United States: Lesson study was introduced to Japan by American educators in the 1950s.
- Adaptation to the Japanese Context: Lesson study was adapted to fit the Japanese educational system and culture.
- Collaborative Process: Lesson study is a collaborative process where teachers observe each other's lessons and provide feedback.
- Continuous Improvement: Lesson study is a process of continuous improvement where teachers learn from each other and refine their teaching practices.
- Professional Development: Lesson study is a key component of teacher education and professional development in Japan.

成果物: 図でみる日本の授業研究

Products: Japanese Lesson Study in Pictures

The diagram shows examples of Japanese lesson study products. It includes a lesson plan, a video of a lesson study lesson, and a set of student worksheets. The lesson plan is a detailed document that outlines the objectives, materials, and procedure of the lesson. The video shows a teacher and students in a classroom setting, illustrating the collaborative process of lesson study. The student worksheets are designed to help students understand the role of the teacher in the classroom and to develop effective teaching strategies.

The products include:

- Lesson Plan: A detailed document outlining the objectives, materials, and procedure of the lesson.
- Video: A recording of a lesson study lesson showing the collaborative process.
- Student Worksheets: Documents designed to help students understand the role of the teacher and develop teaching strategies.

米国における日本型授業研究, by Catherine Lewis

Japanese Lesson Study in the United States, by Catherine Lewis

The diagram shows the author's reflections on Japanese lesson study in the United States. She discusses the challenges of implementing lesson study in a different cultural context and the importance of collaboration and reflection. She also shares her own experiences and insights into the process of lesson study.

ある先生の感想: 授業研究は、教材がわかっている先生でさえも、多岐な問題に挑戦して、その授業計画を立てる中で学びわかっていく。合ったとはなかったわ、授業研究に取っ組み合いで教材について話し合ったり、なぜ教えるのか、どう教えるのか、子どもが何を学んだかを話すようになったわ。

ある先生の感想: 私のことも見る目が育ったわ、授業について責任を感じたり、他の先生と授業研究に取り組みやすくなった、オアフレンドの問題など、挑戦的な授業を好むようになったわ。子どもがそのような難しい問題に取り組みやすくなるように、私は自分の授業に自信を持ってよかったわ。

ICT 研修

青山 和裕、宮川 健、矢原 弘樹 (筑波大学)



ICT 研修 資料

平成 18 年度 青年海外協力隊 現職教員特別研修 2 日目（4 月 5 日）

於：筑波大学大塚キャンパス E157, E158

筑波大学教育開発国際協力研究センター（CRICED）

派遣現職教員支援課題

使用機材・ソフト一覧

ウェブカメラ・ヘッドセット: いろいろな商品が市販されています。

研修で使用したものは以下の商品です。

社名: Logicool, 品番: QV-6 1 HS, 商品名: Qcam Instant Messenger with Headset

⋮

Skype (スカイプ): フリーウェアソフト

<http://www.skype.com/intl/ja/helloagain.html>

Windows ムービーメーカー: Windows マシンにはたいてい付いています。

ブログ作成: いろいろなブログ開設サイトがあります。

Excite ブログ <http://www.exblog.jp/>

livedoor ブログ <http://blog.livedoor.com/>

Yahoo! ブログ <http://blogs.yahoo.co.jp/>

MSN Spaces <http://spaces.msn.com/>

ココログフリー <http://www.nifty.com/pleasy/cocolog/index.htm>

.....

参考

MSN メッセンジャー: フリーウェアソフト

<http://messenger.msn.co.jp/Xp/Default.aspx>

Yahoo メッセンジャー: フリーウェアソフト

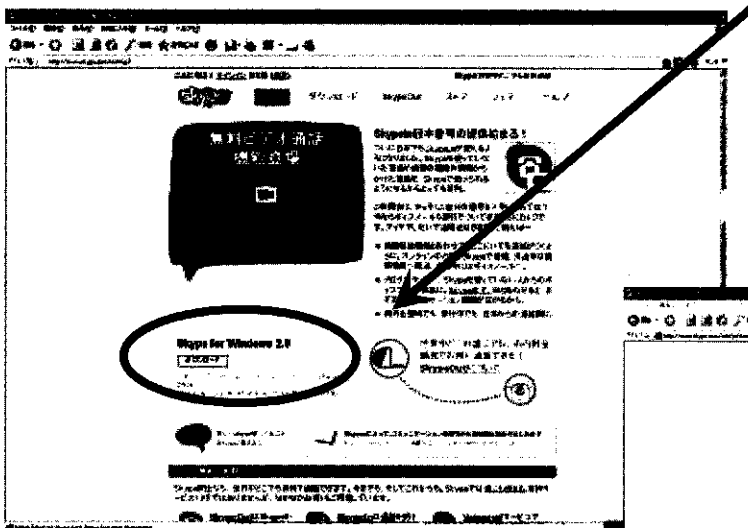
<http://messenger.yahoo.co.jp/>



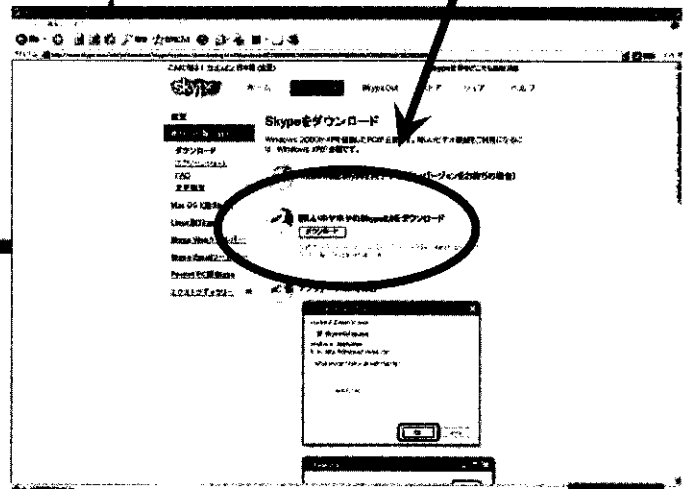
Skype (スカイプ) は、インターネットを使った IP 電話ソフト (ソフト代無料) です。利用者同士なら通話料無料で世界中の相手と通話ができます。派遣隊員同士や帰国隊員との情報交換・連絡をはじめ、ご家族との連絡にも使えます。また、最後に紹介するネットミーティングを使えば、派遣先の教室と日本の教室をつないで、インターネットライブ授業も行えます。

Skype を手に入れよう (ダウンロードしましょう)

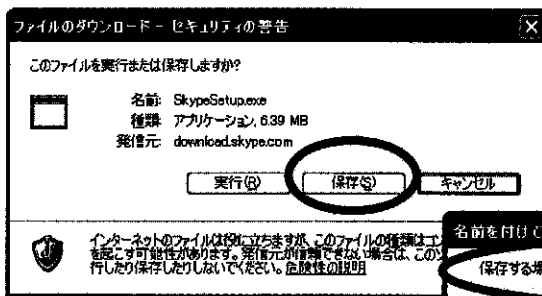
1. 「<http://www.skype.com/intl/ja/>」にアクセスし、「Skype for Windows 2.0 ダウンロード」をクリック



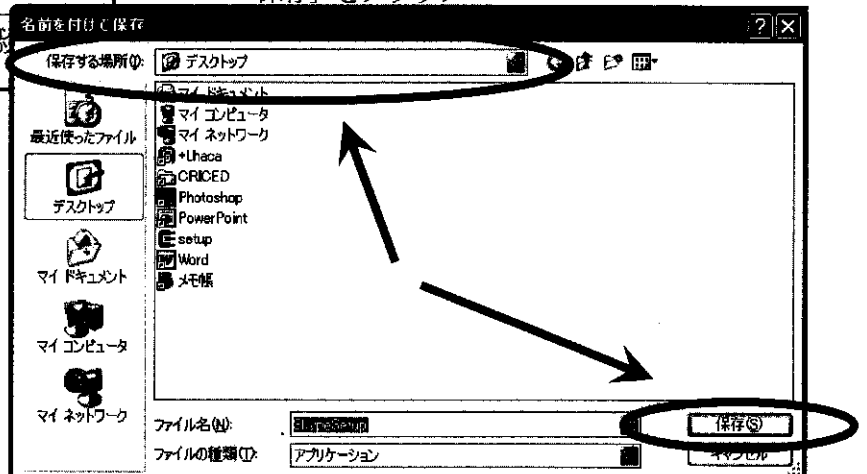
2. 「新しいホヤホヤの Skype 2.0 をダウンロード」をクリック



3. 「ファイルのダウンロード-セキュリティの警告」画面で「保存」をクリック



4. 「保存する場所」をデスクトップなどに指定し、「保存」をクリック

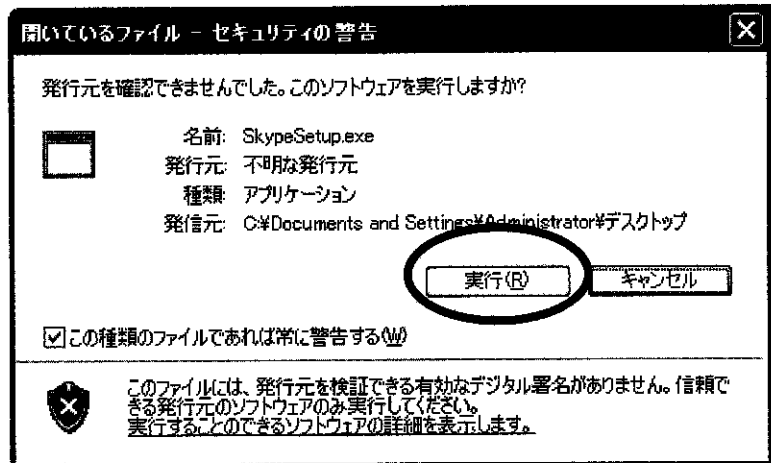


Skype をインストールしよう

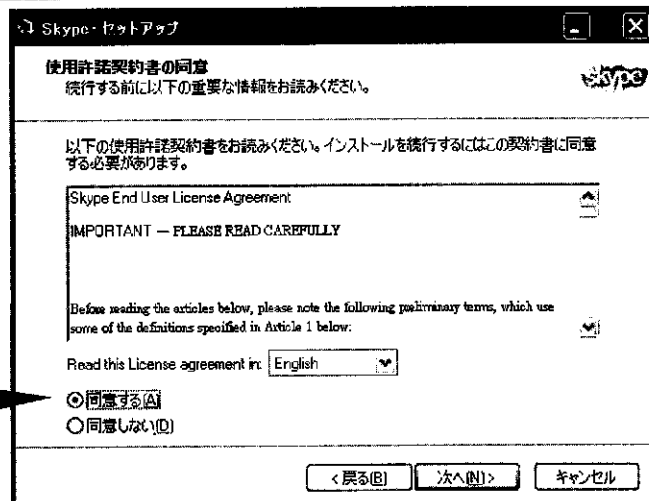
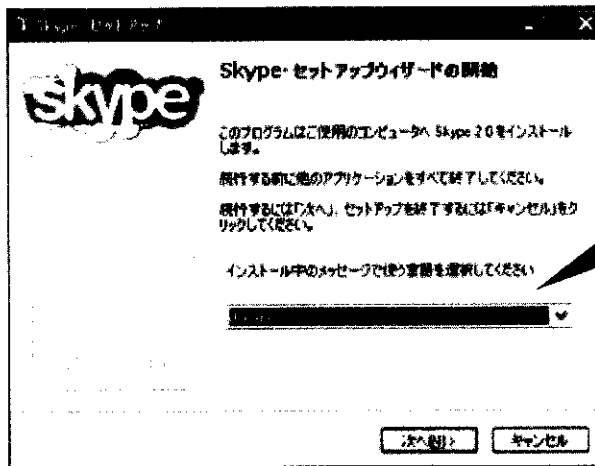
1. (ファイルのダウンロードが完了したら)
「SkypeSetup」 ファイルをダブルクリックする。



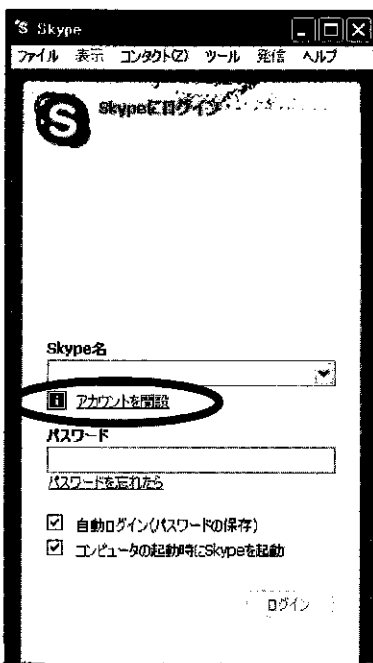
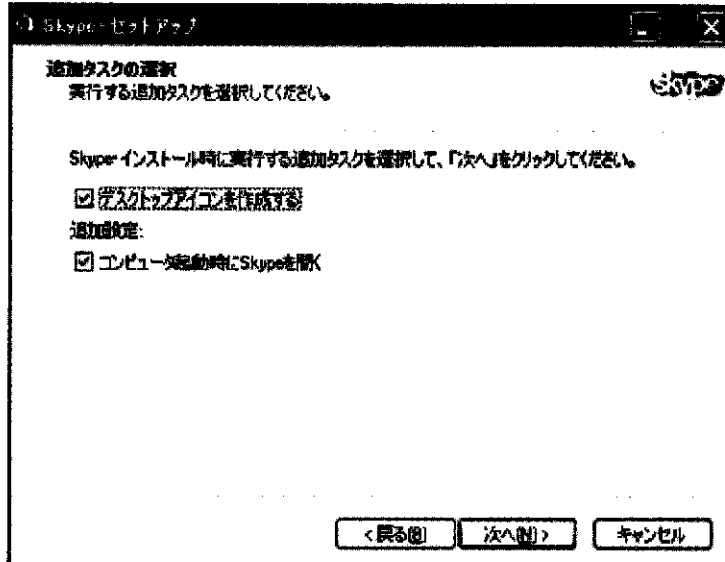
2. 「実行」 をクリック。スカイプのインストールが始まります。



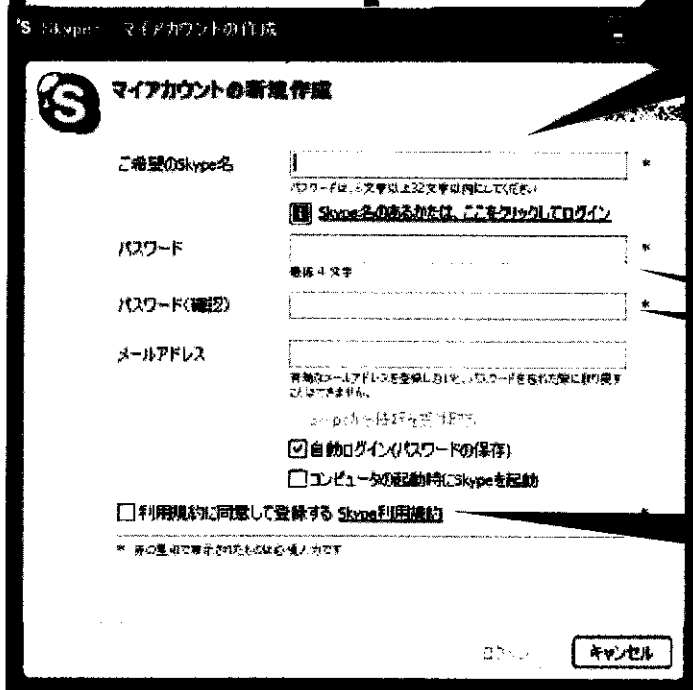
3. 使う言語として「Japanese」を選択、「次へ」をクリック。
表示される画面にしたがって、「使用許諾に同意する」を選び、「次へ」をクリック。



4. インストール先が表示されます。
 (「C:\Program Files\Skype\Phone」
 など。変更可) 「次へ」 クリック。
5. 「Skype-セットアップ」の画面が
 表示され、必要に応じてチェックを
 入れたりはずしたりし、「次へ」を
 クリック。ファイルが展開され完了
 します。
6. スカイクを起動すると「Skype に
 ログイン」画面が表示されます。こ
 こで「アカウントを開設」をクリッ
 クします。



7. 自分のアカウント名 (Skype 名) や「パスワード」
 を設定し、「利用規約に同意して登録する」をチェッ
 クし、「ログイン」をクリックします。



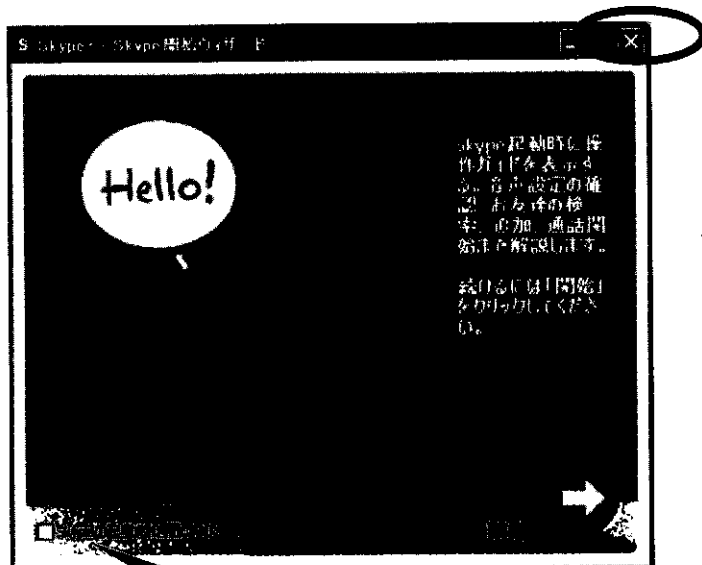
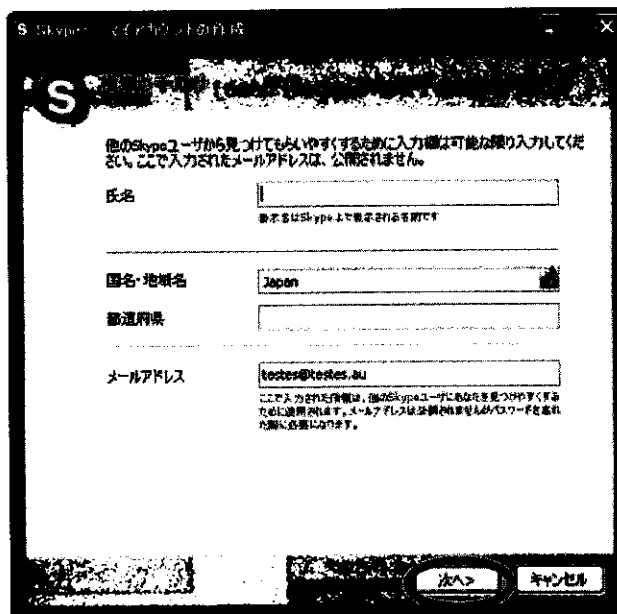
希望する
スカイク名を入力

※Skype 名が既登録名と
重複すると、再入力
求められます。

「パスワード」の
入力

「利用規約に同意
して登録する」に
チェック

8. 次の「検索の手助け」画面では、他のユーザーから見つけてもらうための簡単な情報を入力し、「次へ」をクリックします。



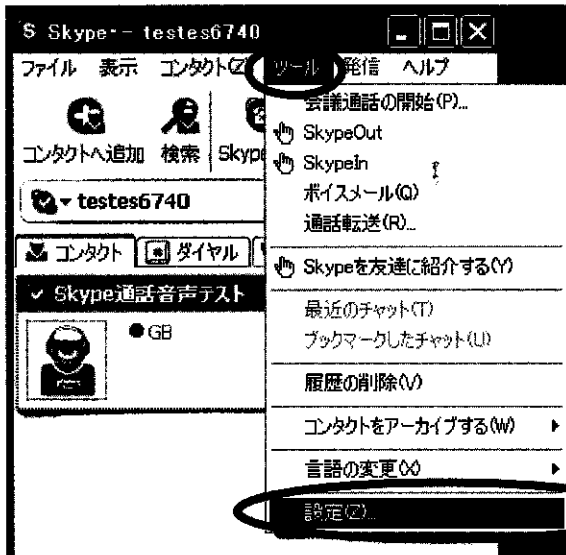
9. 「Skype 開始ウィザード」が表示されますが、今回は使いませんので、閉じます。

「Skype の起動時に開かない」を
チェックしてから閉じると、以後
はこの画面は表示されません

ヘッドセットの設定をしよう

ヘッドセット（マイクとヘッドホン）を用意してください。（店頭では安いもので二千円程度です。）

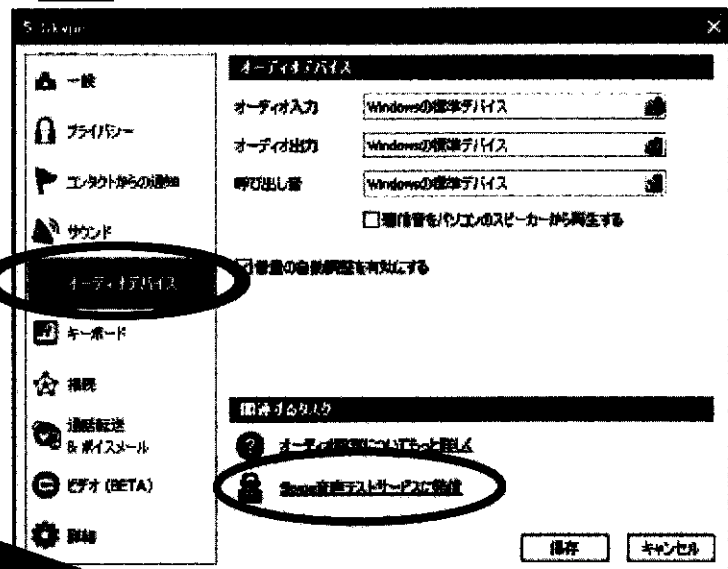
1. ヘッドセットのプラグを、パソコンのマイク端子とヘッドホン端子に差し込んでください。



2. 音声テストを行います。メニューの中の「ツール」をクリックし、下に表示される「設定」をクリックします。

3. 「オーディオデバイス」をクリックし、「Skype 音声テストサービスに発信」をクリックします。

音声案内にしたがって、声を出してみてください。

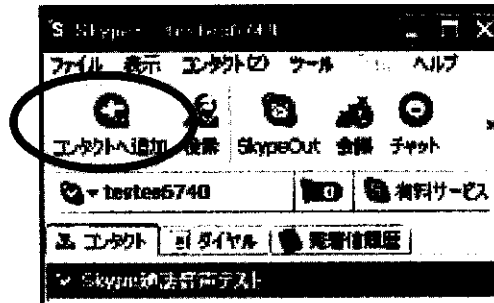


音声案内が聞こえないときには、音声端子の接続やパソコンのボリューム設定を確認してみてください。

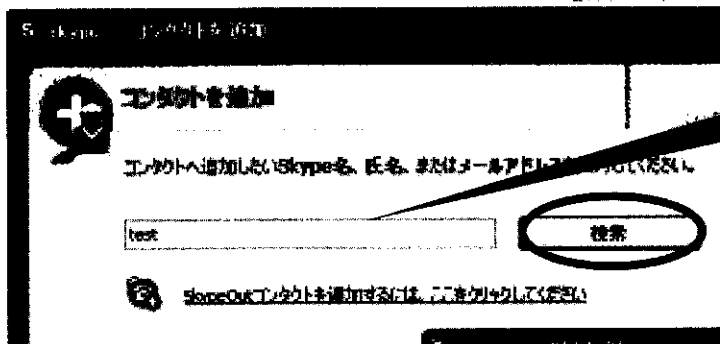
自分の声が再生されないときには、マイク端子の接続などを確認してみてください。

会話したい相手を登録しよう

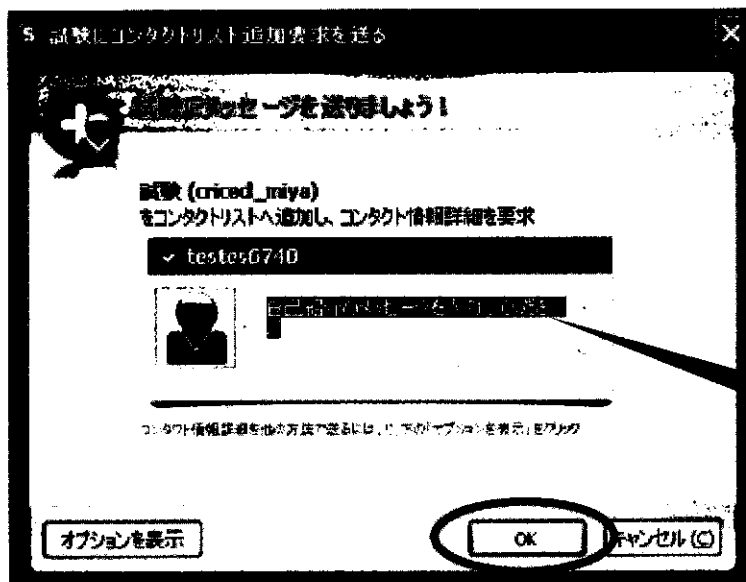
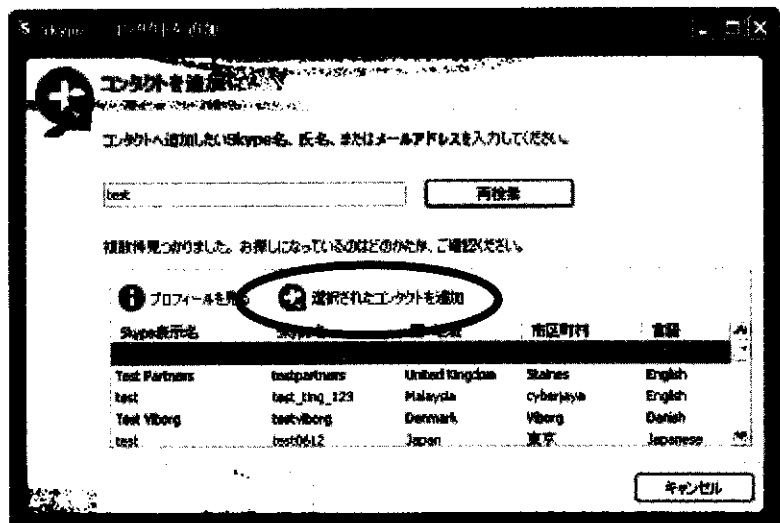
1. 「コンタクトへ追加」をクリックします。



2. 相手の Skype 名を入力し、「検索」ボタンを押します。



3. 一覧の中から相手を選択し、「選択されたコンタクトを追加」をクリックします。



4. 相手に送るメッセージを入力し、「OK」をクリックします。

Skype で会話してみよう

1. 「コンタクト」の中に、先ほど登録した相手が表示されているはずですが。その相手をクリックします。
2. ウィンドウの下方左側にある、受話器マーク（緑色）をクリックします。電話同様の呼び出し音が鳴り、相手が受話器マークをクリックすると通話が出来ます。（相手がスカイプを起動していないとつながりません）

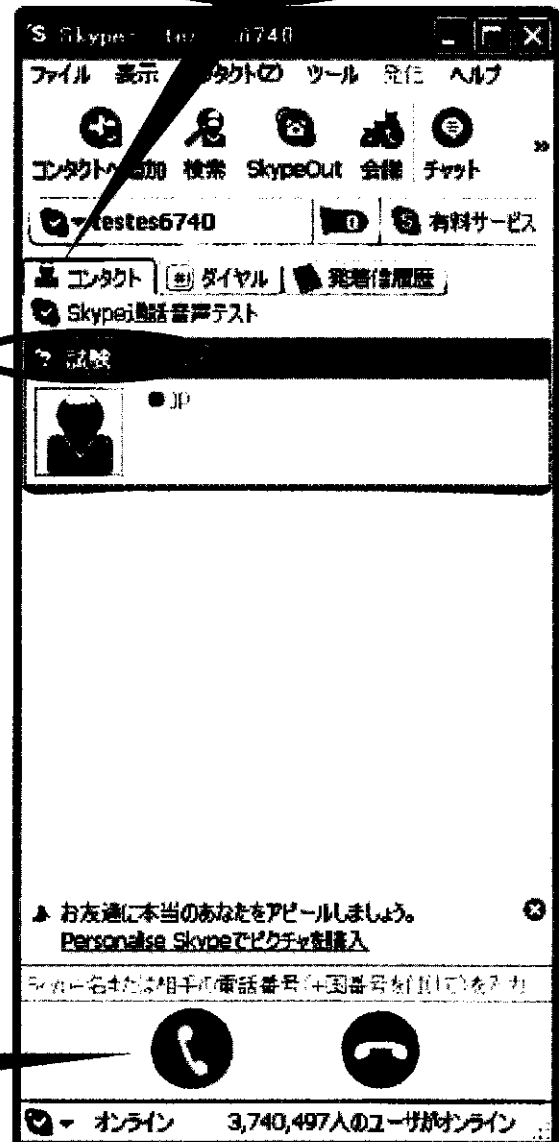
電話にでる

スカイプを起動してあれば、電話同様の呼び出し音が鳴ります。受話器マーク（緑）をクリックすると通話ができます。

電話をきる

右側の受話器マーク（赤）をクリック。

クリックすると相手
を呼び出します



註1： 各種設定は、「ツール」から「設定」を選択し行います。

註2： SkypeOut（スカイプアウト）という機能を使えば、固定電話や携帯電話にも電話をかけることができます。ただし有料ですので、「スカイプアウトクレジット」を購入する必要があります。一般の固定電話から国際電話をかけるよりは安くなる人が多いです。

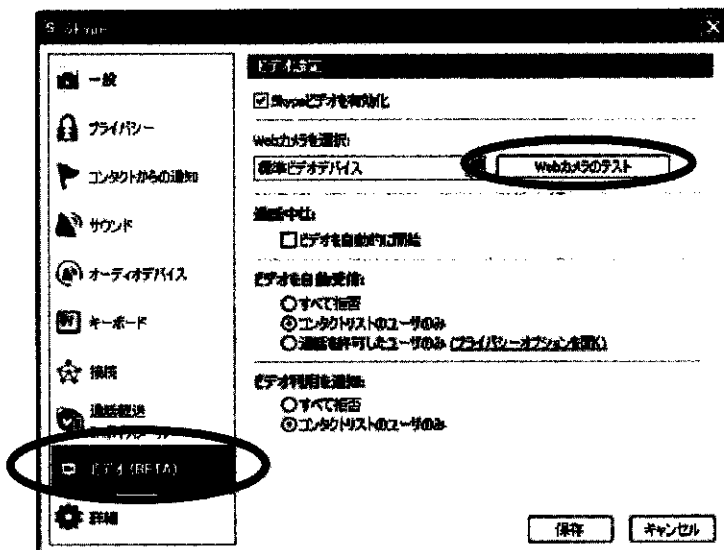
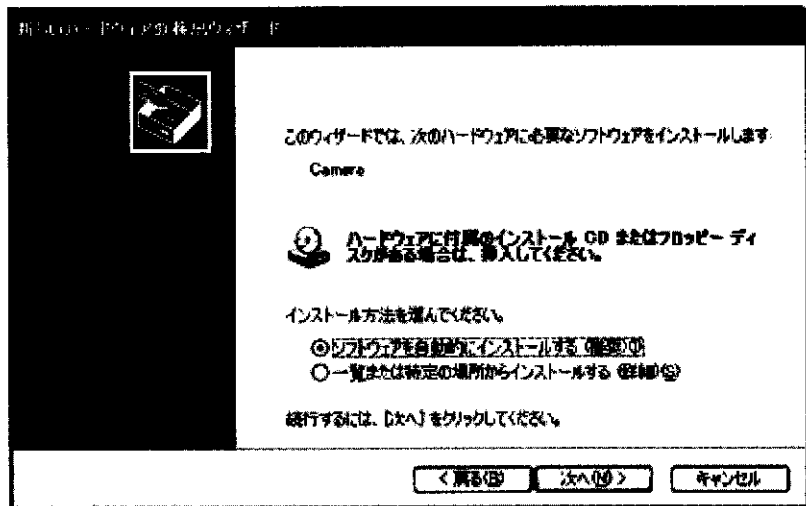
註3： 最新版を利用しましょう。

Skype でネットミーティングしてみよう

1. カメラの設定を行います。カメラをパソコンの上に乗せ、USB ポートにケーブルを差し込んでください。

2. Windows Update への接続について聞かれたら、「いいえ、今回は接続しません」を選択し、「次へ」をクリックします。

3. 右の画面が出たら、手元にある Logitech の CD を挿入します。指示に従ってインストールを行います。



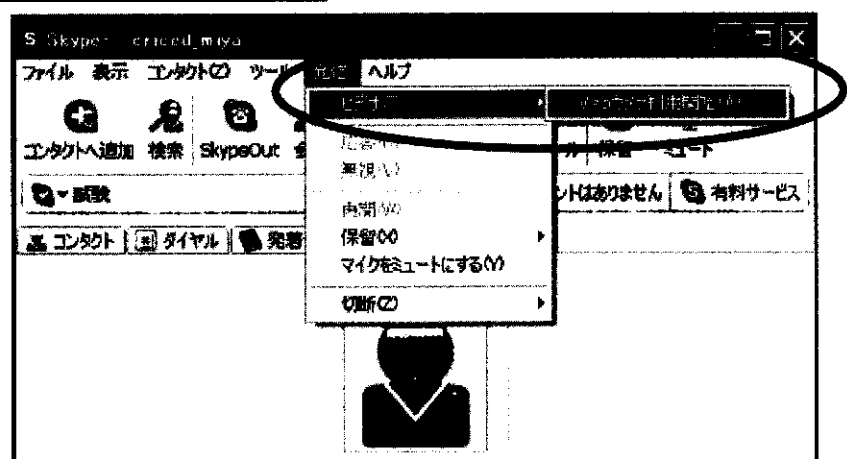
4. Skype でカメラ設定を行います。先ほどと同じように、「ツール」から「設定」を選択します。

今回は、ビデオ (BETA) を選択し、「Web カメラのテスト」をクリックします。

5. カメラの角度やピントなどを調整したら、閉じます。

6. 相手との通話中に、メニューの中の「発信」を選択し、さらに「ビデオ」、「Web カメラ利用開始」をクリックします。

7. 相手も同じように選択すると、お互いの映像を見ながら話すことができます。



註4：ネットミーティングは、「Yahoo! メッセンジャー」、「msn メッセンジャー」でも出来ます。



Windows ムービーメーカーは、パソコンにビデオ映像（及び静止画）を取り込み、さらに取り込んだ映像（及び静止画）をつなぎ合わせて1本の映像に編集・保存できます。任地において映像教材を作成したり、任地での活動を映像でまとめたりすることに使えます。

Windows ムービーメーカーを起動しよう

パソコンの画面左下の、①「スタート」をクリックし、②「すべてのプログラム(P)」にカーソルを移動し、③「Windows ムービーメーカー」をクリックします。

The image shows a Windows Start menu on the left and the Windows Movie Maker application window on the right. Three callout boxes with numbers 1, 2, and 3 point to specific elements:

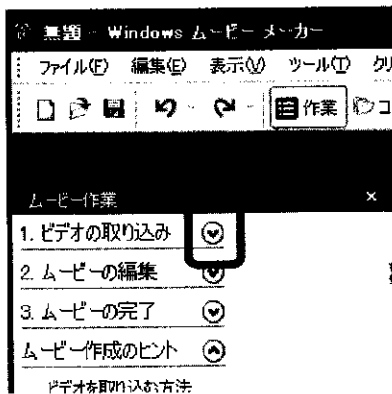
- ① points to the 'スタート' (Start) button at the bottom left of the Start menu.
- ② points to the 'すべてのプログラム(P)' (All Programs) link at the bottom of the Start menu.
- ③ points to the 'Windows ムービーメーカー' (Windows Movie Maker) application icon in the 'すべてのプログラム(P)' list.

The Windows Movie Maker window is titled '無題 - Windows ムービーメーカー' and shows a menu bar with 'ファイル(F)', '編集(E)', '表示(V)', 'ツール(T)', 'クリップ(C)', '再生(P)', and 'ヘルプ(H)'. Below the menu bar is a toolbar with icons for '作業' (Work), 'コレクション' (Collection), and 'コレクション' (Collection). The main area is divided into a 'ムービー作業' (Movie Work) pane on the left and a preview window on the right. The 'ムービー作業' pane contains a list of steps: '1. ビデオの取り込み' (Video Import), '2. ムービーの編集' (Movie Editing), and '3. ムービーの完了' (Movie Completion), along with a 'ムービー作成のヒント' (Movie Creation Tips) section. The preview window shows a video frame with a caption: 'クリップ下のストーリーボードにドラッグアンドドロップしてください。' (Please drag and drop to the storyboard below the clip). At the bottom of the window is a timeline with a '準備完了' (Ready) status.

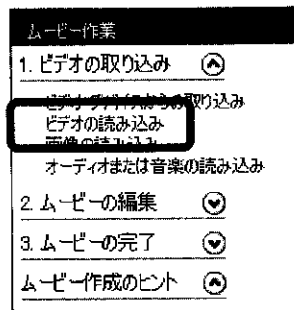
ビデオ映像をつなぎ合わせて編集しよう

1. パソコンに保存されているビデオ映像を、ムービーメーカーに取り込みます。

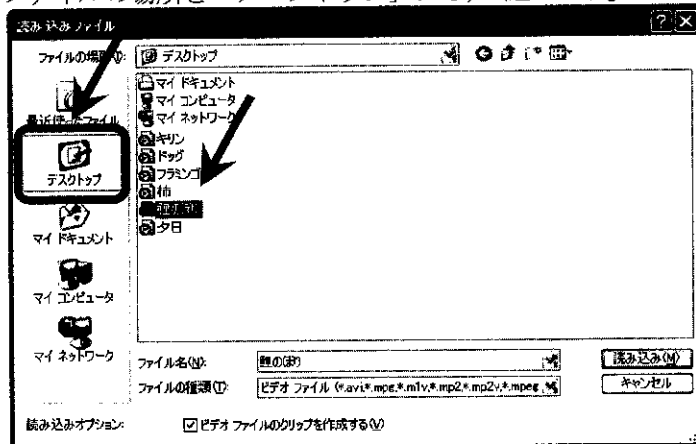
①「ビデオの取り込み」の右横のボタンをクリック



②「ビデオの読み込み」をクリック



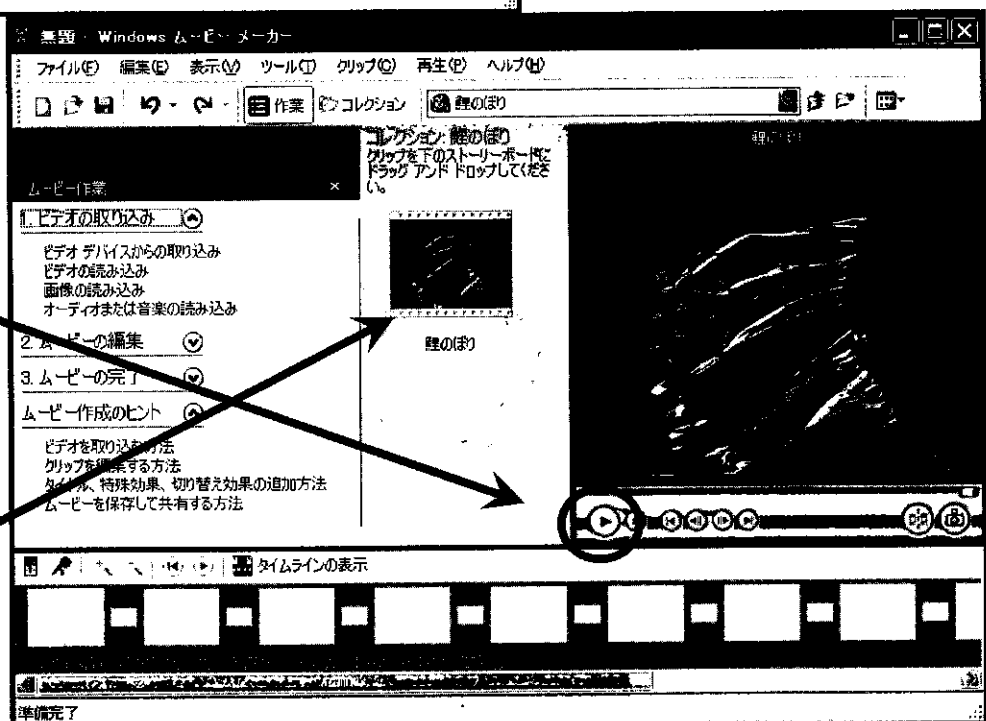
③ファイルの場所を「デスクトップ」にし、「鯉のぼり」をクリック



註：「鯉のぼり」を選んで、
右下の「読み込み」を
クリックしてもかまいません

再生ボタンをクリックすると、取り込んだ映像が再生されます。

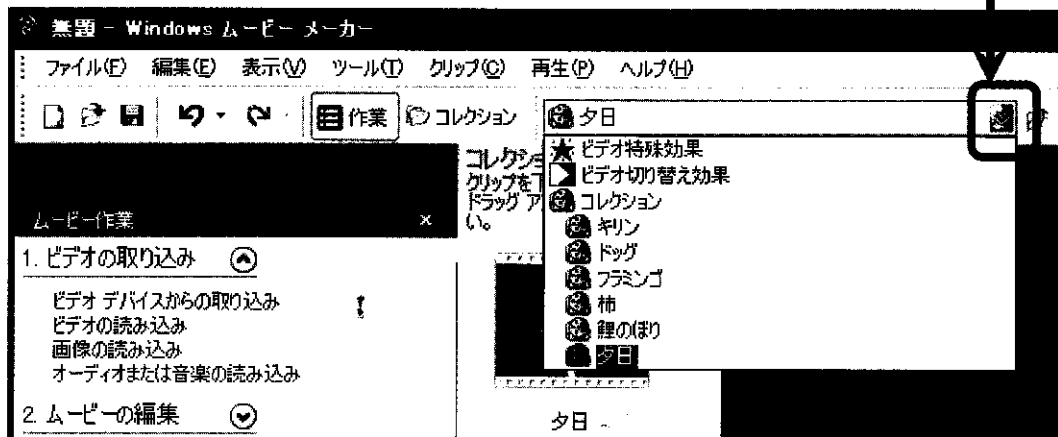
※再生画面に映像が表示されていないときには、画面中央の「鯉のぼり」をクリックしてください



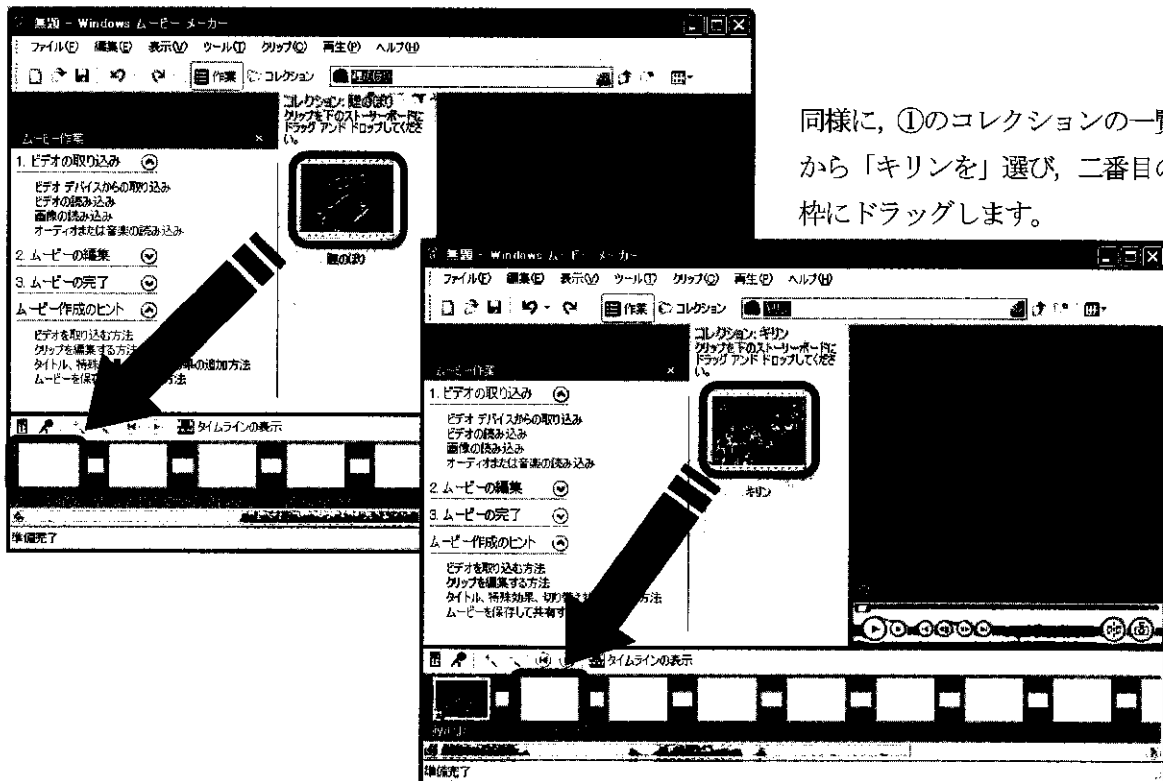
④同様に、②と③を繰り返して「キリン」、「ドッグ」、「フラミンゴ」、「柿」、「夕日」を読み込みます。

2. ビデオ映像をつなぎ合わせます。

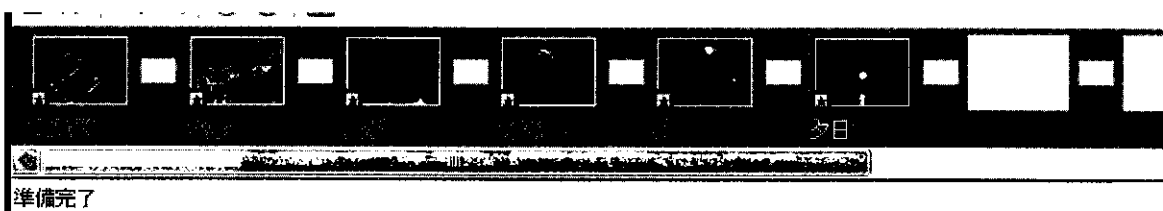
- ①ムービーメーカーに取り込まれた映像等の一覧は、「コレクション」右横のボタンをクリックすると表示されます。



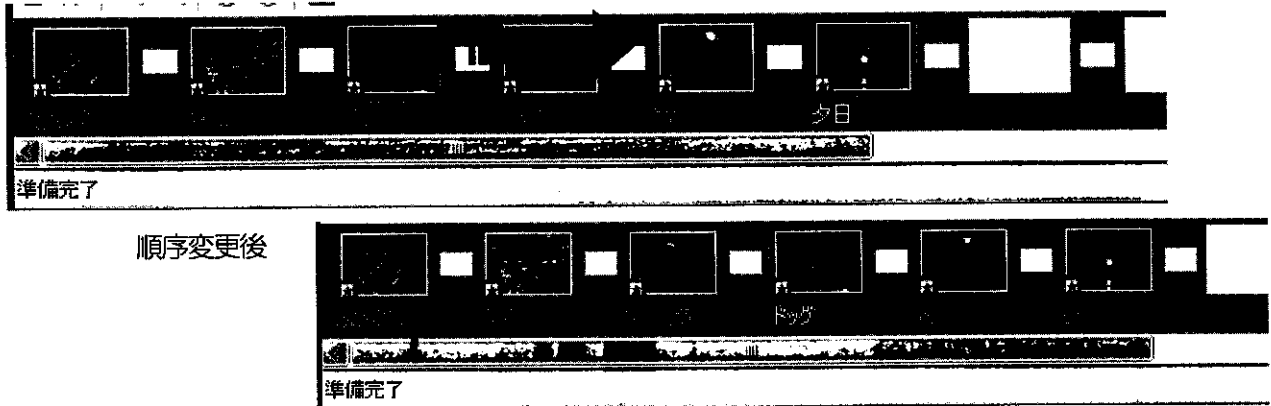
- ②「鯉のぼり」、「キリン」、「ドッグ」、「フラミンゴ」、「柿」、「夕日」の順につなぎ合わせるとします。まず、①のコレクションの一覧から「鯉のぼり」を選びます。次に、画面中央の「鯉のぼり」を画面左下の枠にドラッグします。



「ドッグ」、「フラミンゴ」、「柿」、「夕日」についても同様に枠にドラッグします。

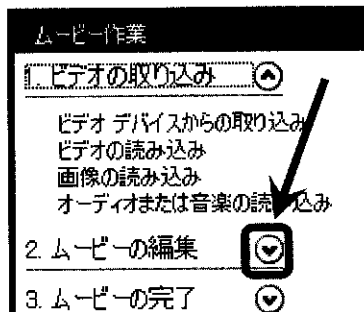


※③ビデオをつなぐ順序を、「ドッグ」,「フラミンゴ」から「フラミンゴ」,「ドッグ」へ変えたいときは、画面下に表示されている「ドッグ」を「柿」の左横へドラッグします。

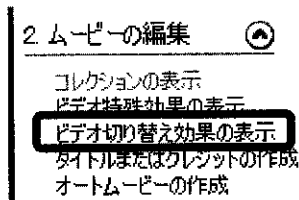


3. ビデオ映像を切り替えるときの効果をつけます。

①「ビデオの取り込み」の右横のボタンをクリック

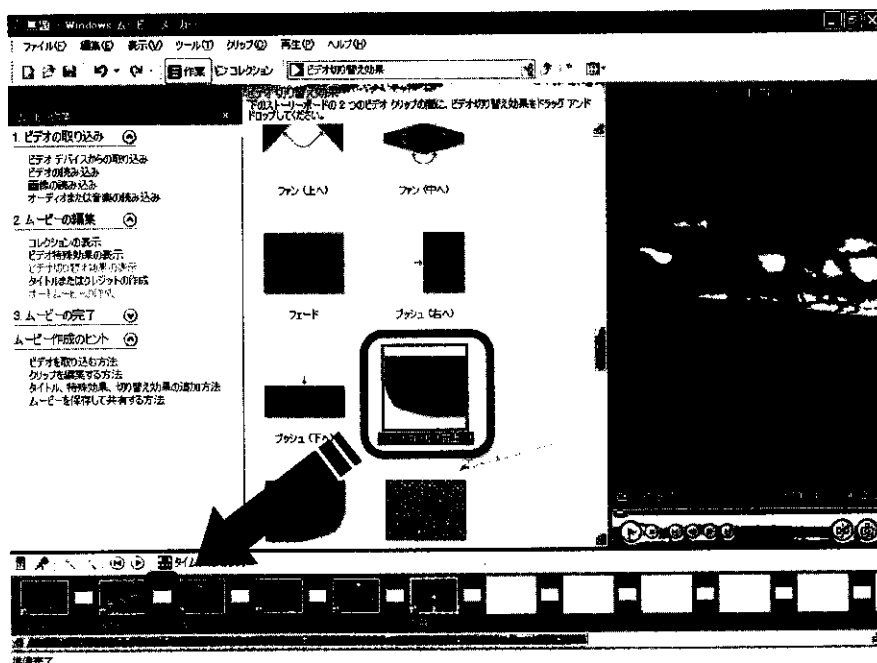


②「ビデオ切替え効果の表示」をクリック

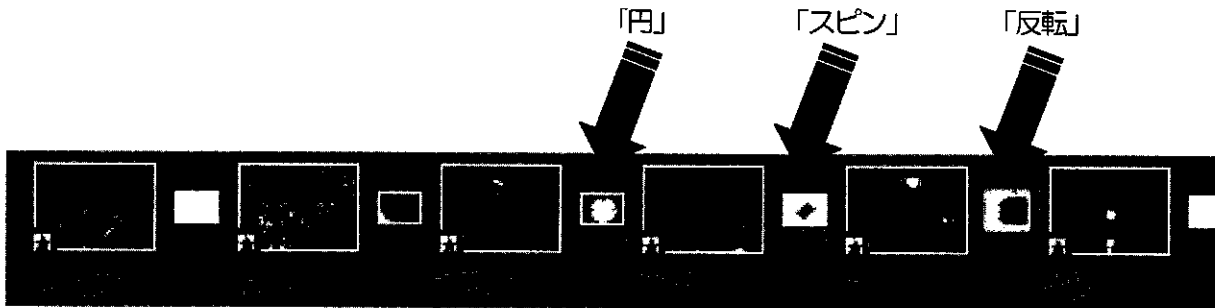


③「麒麟」の映像を、ページを右上へめくるようにしながら「フラミンゴ」の映像へと切り替えます。

画面中央に表示される「ビデオ切替え効果」一覧の中にある、「ページカール」を画面下の「麒麟」と「フラミンゴ」の間の枠にドラッグします。



- ④同様に、ビデオ切替え効果「円」を「フラミンゴ」と「ドッグ」の間、
ビデオ切替え効果「スピン」を「ドッグ」と「柿」の間、
ビデオ切替え効果「反転」を「柿」と「夕日」の間、の枠にそれぞれドラッグします。



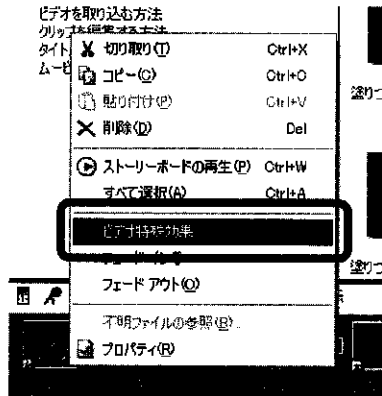
4. ビデオ映像に特殊効果をつけます。

「鯉のぼり」の映像に、「イーズイン」及び「フェードアウト(黒へ)」をつけます。

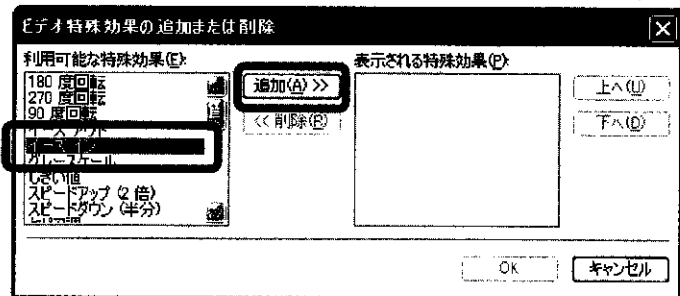
- ①まず、画面下の「鯉のぼり」を右クリック。



- ②次に、「ビデオ特殊効果」をクリック。

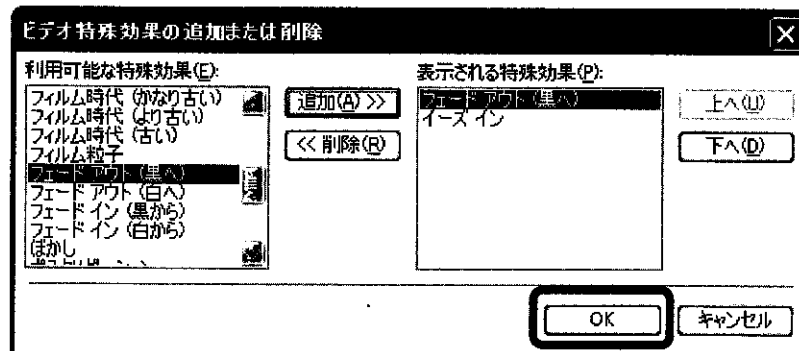


- ③「イーズイン」をクリックし、「追加」をクリック。

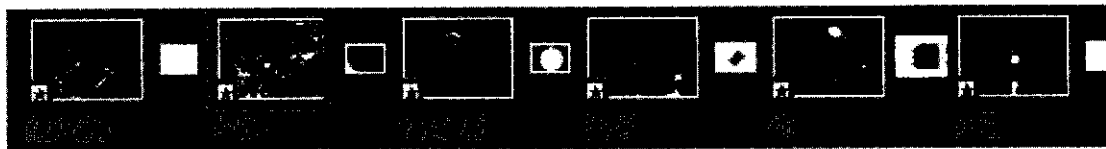


- ④同様に、「フェードアウト(黒へ)」をクリックし、「追加」をクリック。

- ⑤「OK」をクリック。



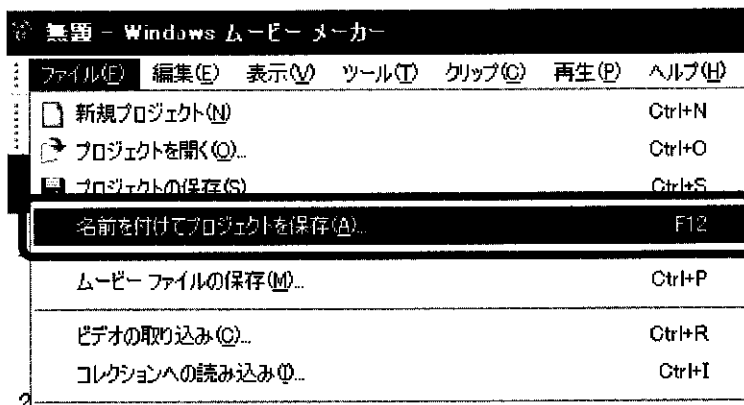
「キリン」についても、同様に、ビデオ特殊効果「フェードイン(黒から)」をつけます。



5. ファイルの保存 (Windows ムービーメーカーでは「プロジェクトの保存」と呼びます)



「ファイル」から「名前を付けてプロジェクトを保存」をクリックし、Word 文書や一太郎文書のように Windows ムービーメーカーのファイルとして保存します。



6. 映像ファイルとして保存



ムービー作業

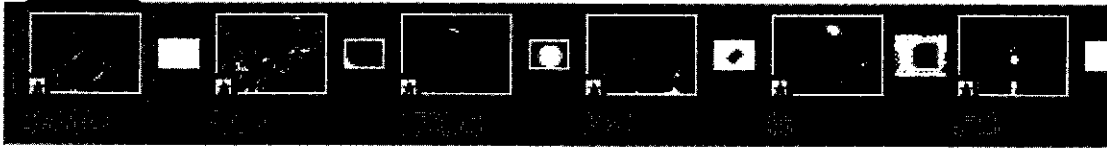
1. ビデオの取り込み
 - ビデオ デバイスからの取り込み
 - ビデオの読み込み
 - 画像の読み込み
 - オーディオまたは音楽の読み込み
2. ムービーの編集
 - コレクションの表示
 - ビデオ特殊効果の表示
 - ビデオ切り替え効果の表示
 - タイトルまたはクレジットの作成
 - ナットムービーの作成
3. ムービーの完了

- ・「ムービーの完了」から「コンピュータに保存」をクリック。
- ・「コンピュータの最高の品質で再生(推奨)」を選択し、「次へ」。
- ・ファイル名を入力し、保存場所を指定し、「次へ」。
- ・「[完了]をクリックしたときに、ムービーを再生する」にチェックし「完了」。

7. タイトルとクレジットをつけます。

「鯉のぼり」の映像に重ねてタイトルをつけてみましょう。

①画面下の「鯉のぼり」をクリック



②「ムービーの編集」から「タイトルまたはクレジットの作成」をクリック

2. ムービーの編集

コレクションの表示
ビデオ特殊効果の表示
ビデオ切り替え結果の表示
タイトルまたはクレジットの作成
オートムービーの作成

③「選択したクリップにタイトル」をクリック

タイトルはどこに追加しますか?

ムービーの最初にタイトルを追加する。

ストーリーボードで選択したクリップの前にタイトルを追加する。

ストーリーボードで選択したクリップにタイトルを追加する。

ストーリーボードで選択したクリップの後にタイトルを追加する。

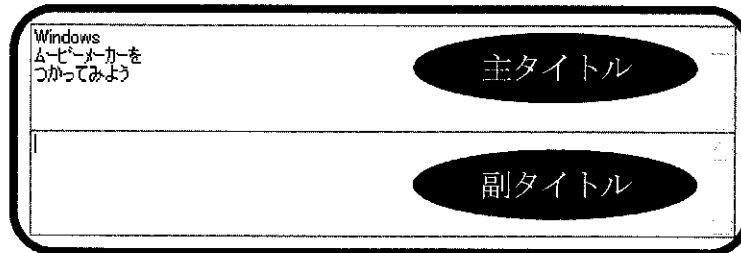
ムービーの最後にクレジットを追加する。

キャンセル

④タイトルを入力します

タイトルのテキストを入力

タイトルをムービーに追加するには、「終了」をクリックしてください。



終了、タイトルをムービーに追加する

キャンセル

詳細オプション:

タイトルアニメーションを変更する

フォントと色を変更する

⑤「終了、タイトルをムービーに追加する」をクリック。

クレジットをつけてみましょう。

① 「ムービーの編集」 から 「タイトルまたはクレジットの作成」 をクリック

2 ムービーの編集 

- コレクションの表示
- ビデオ特殊効果の表示
- ビデオ切り替え効果の表示
- タイトルまたはクレジットの作成**
- オートムービーの作成

② 「最後にクレジット」 をクリック

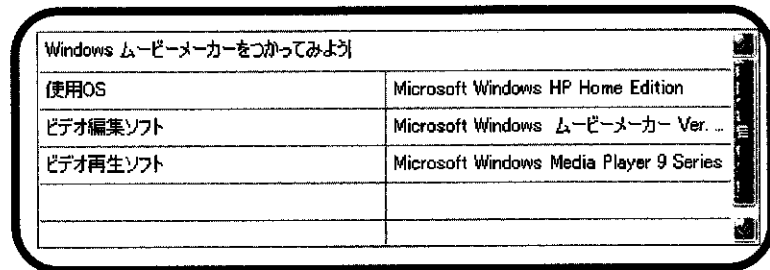
~~タイトルまたはクレジットの作成~~

- ムービーの最初にタイトルを追加する。
- ストーリーボードで選択したクリップの前にタイトルを追加する。
- ストーリーボードで選択したクリップにタイトルを追加する。
- ストーリーボードで選択したクリップの後にタイトルを追加する。
- ムービーの最後にクレジットを追加する。**

キャンセル

③ クレジットを入力します

~~タイトルまたはクレジットの作成~~
 タイトルをムービーに追加するには、[終了] をクリックしてください。



終了

キャンセル

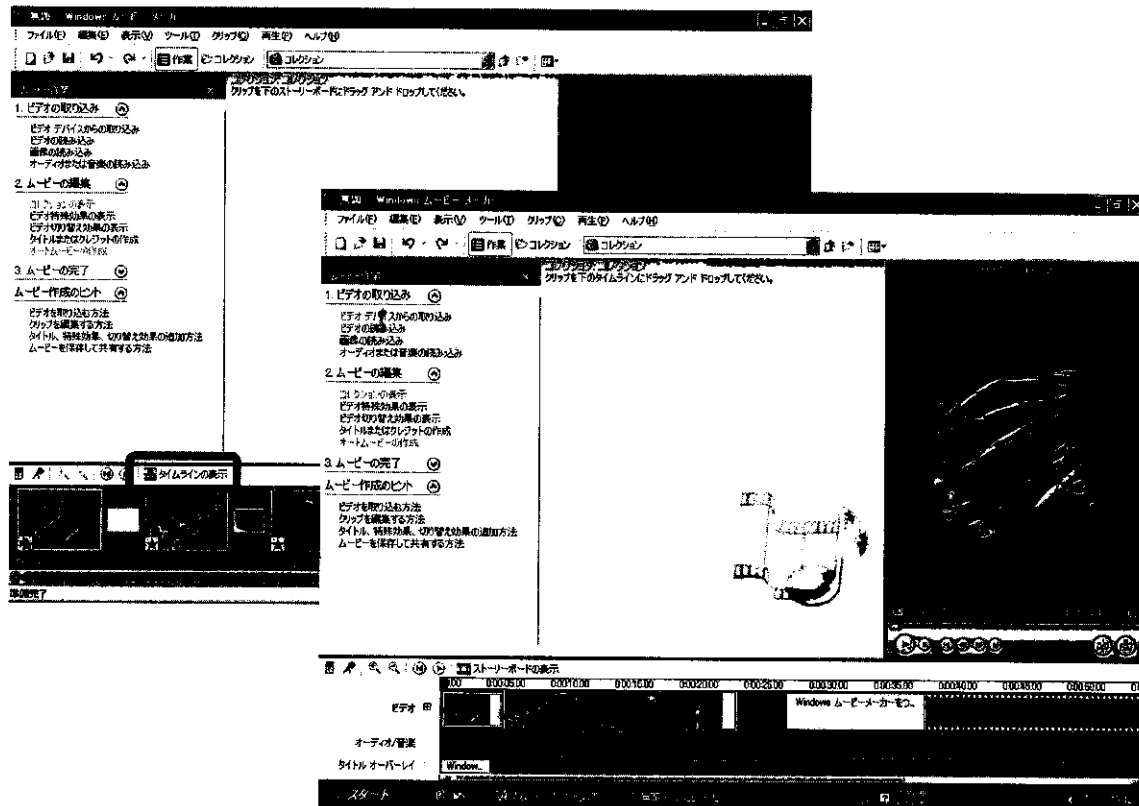
詳細オプション:

- タイトルアニメーションを変更する
- フォントと色を変更する

④ 「終了」 をクリック。

8. 全体の微調整をします。

①「タイムラインの表示」をクリック。画面下の表示がタイムラインに切り替わる。

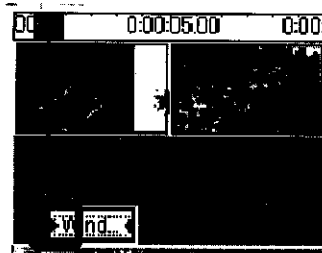


②タイトルを表示する時間帯を変更する

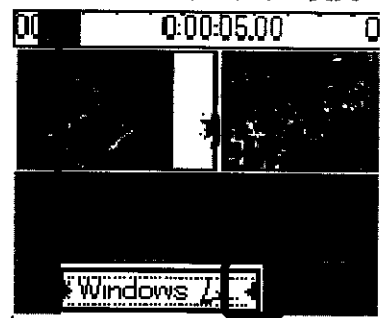
「タイトルオーバーレイ」のタイトル部分をクリック



左端をドラッグして「鯉のぼり」の途中から開始に変更



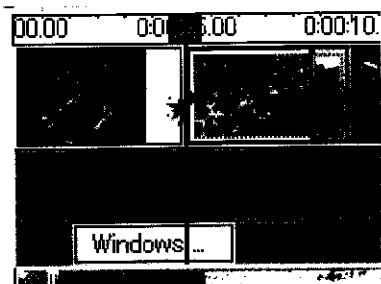
右端もドラッグして
「キリン」の途中で終了に変更



③映像の中から必要な箇所だけを採用する (トリミング)

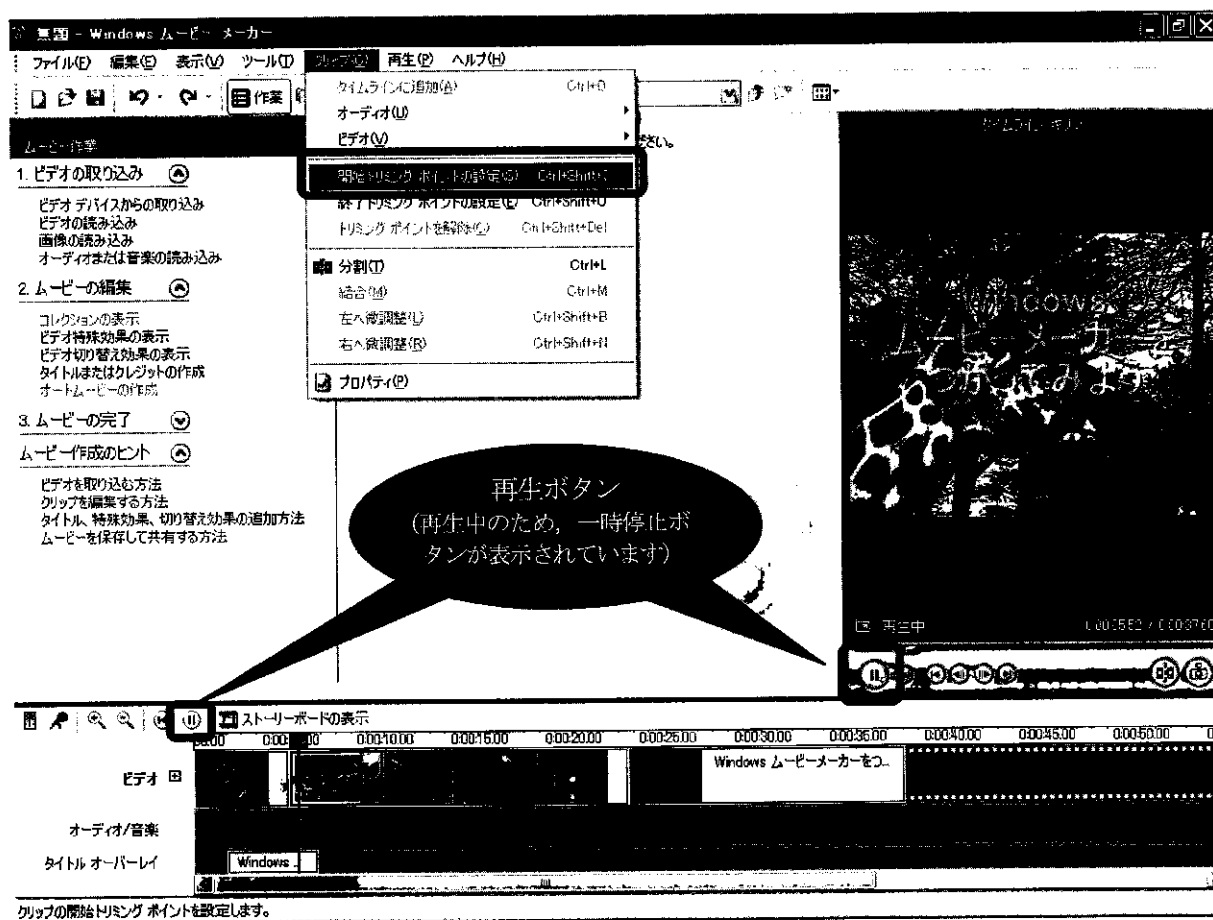
「キリン」の先頭部分を削除してみましょう。

映像を選択して、再生します。



再生しながら、「クリップ」から「開始トリミングポイントの設定」をクリック。

(再生しながら、「Ctrl+Shift+I」の方が素早くポイントを設定できます)



これで、開始トリミングポイント設定位置以前の「キリン」部分は編集画面上から消去されました。

※ 同様に、映像を再生しながら「終了トリミングポイントの設定」または「Ctrl+Shift+O」を行うと、設定ポイント位置以降の「キリン」部分は編集画面上から消去されます。

「5. ファイルの保存」「6. 映像ファイルとして保存」を再度しましょう。完成です!!

動画をムービーメーカーに取り込もう (参考)

1. デジタルビデオカメラの IEEE1394 端子とパソコンの IEEE1394 端子を、IEEE1394 用のケーブルで接続します。
2. Windows ムービーメーカーを起動し、画面左のムービー作業の「1. ビデオの取り込み」の中から「ビデオデバイスからの取り込み」をクリック。
3. 取り込んだビデオファイルにつける名前と保存先を指定し、「次へ」をクリック。
4. 「コンピュータの最高の品質で再生 (推奨)」を選択し、「次へ」をクリック。
※目的に応じて画面に表示される指示に従って選択してください。
5. 取り込み方法 (テープ全体を自動 or テープの一部を手動) を選択し、「取り込み中にプレビューを表示する」にチェックを入れ、「次へ」をクリック。
6. プレビュー表示しながら取り込みが始まる。
7. 画面中央のコレクションに、いくつかの映像 (「クリップ」とムービーメーカーでは呼びます) が並びます。

以降は、**ビデオ映像をつなぎ合わせて編集しよう**を参照ください。

補足: Windows ムービーメーカーは、音声についてアフレコが可能です。テロップを入れることもできますが、表示位置や大きさの調節には制限があります。また、画面を分割したりすることはできません。本格的なビデオ編集ツールとして、「Adobe Premiere Pro」があります。このソフトでは、もっと詳細な編集を行うことができます。

ブログを作ろう！！

ブログ (Weblog) は、インターネット上で構築できる日記形式の Web サイトです
Web ページを作成するために必要な HTML 言語の知識がなくても簡単に作成できます
多くのポータルサイト (Yahoo! Japan, MSN Japan, Livedoor, etc.) では無料で作成できます

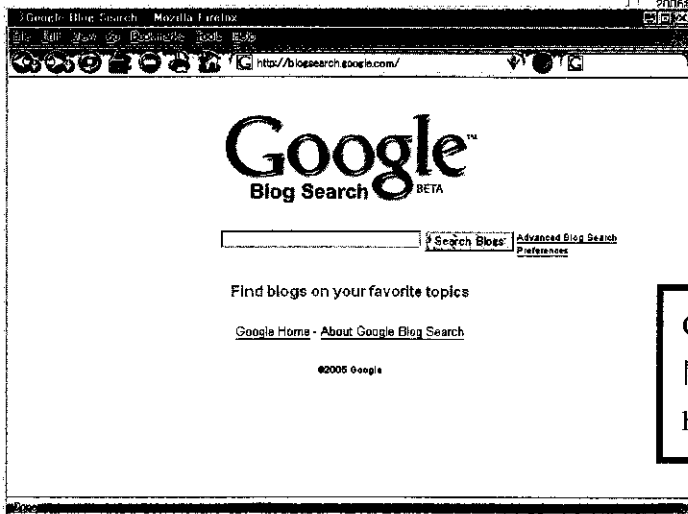
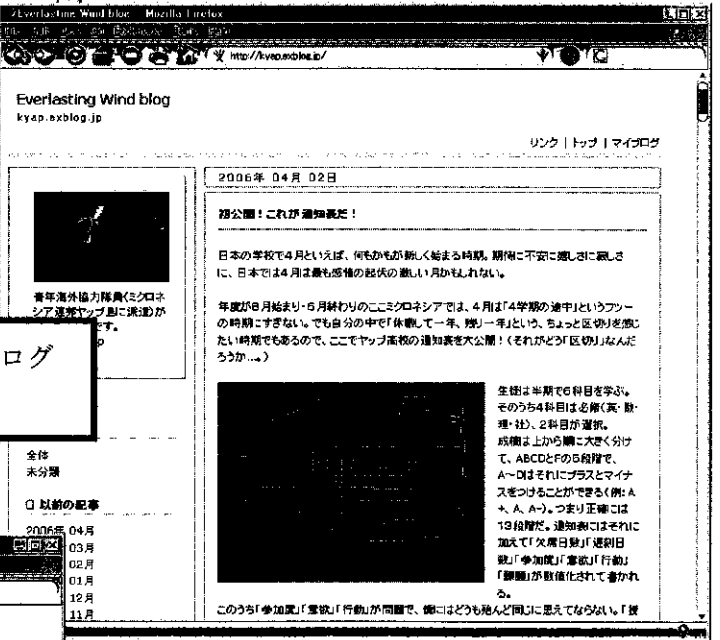
国際協力・NGO 情報ブログ

<http://globalcitizen.jp/>

ブログ作成に必要なもの：
インターネット接続



平成 17 年度 1 次隊小川建治先生 (ミクロネシア) のブログ
<http://kyap.exblog.jp/> (エキサイトを使っています)

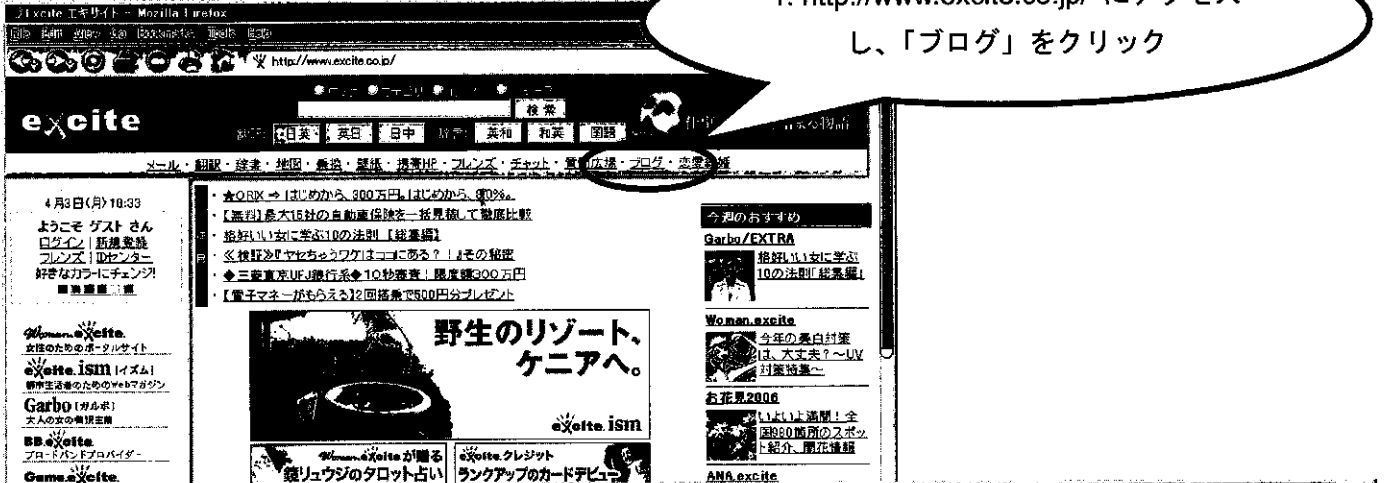


Google ではブログのみの検索エンジンも
開発されています
<http://blogsearch.google.com/>

ポータルサイトにログイン (excite の場合)

http://www.excite.co.jp/

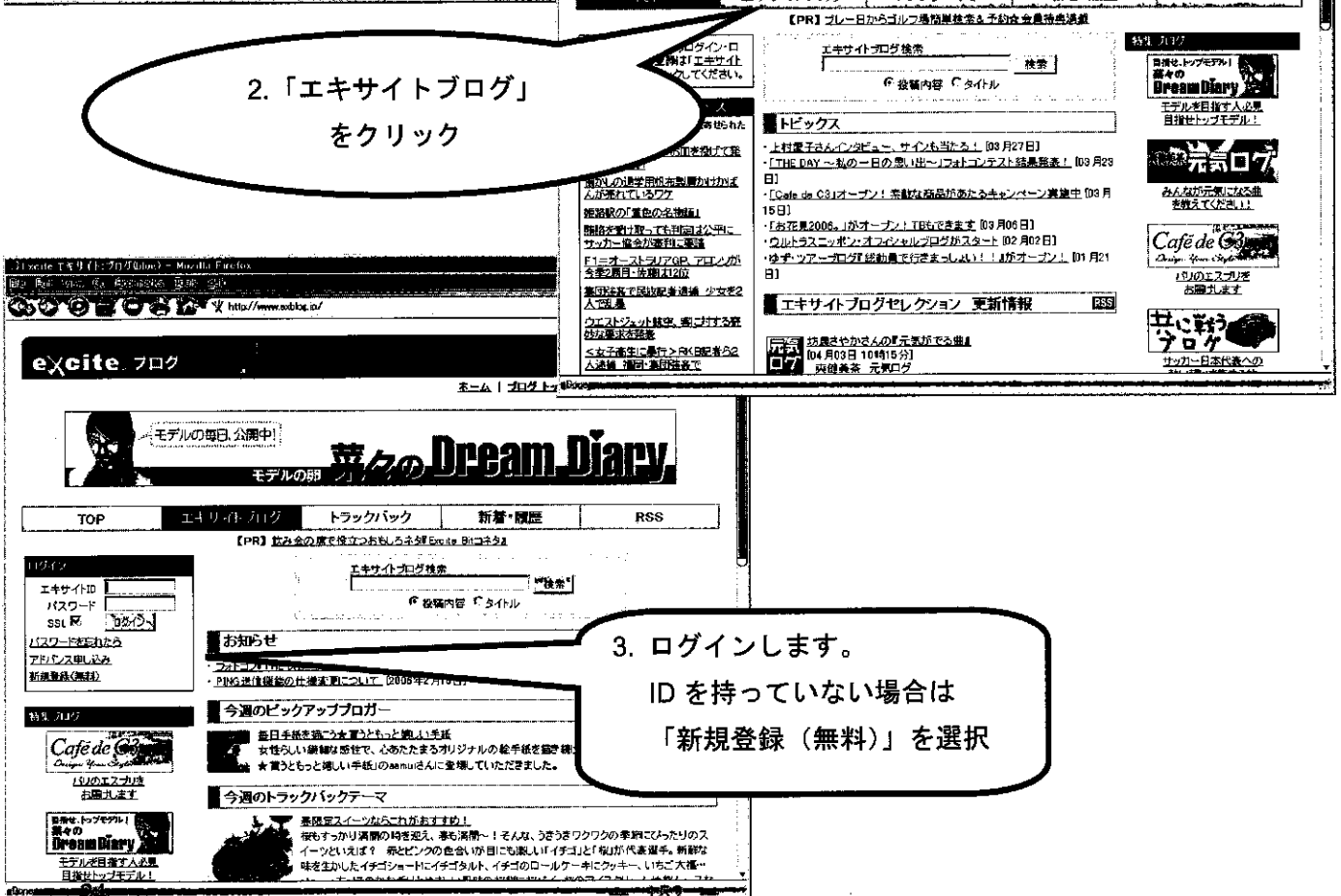
1. http://www.excite.co.jp/ にアクセスし、「ブログ」をクリック



2. 「エキサイトブログ」をクリック

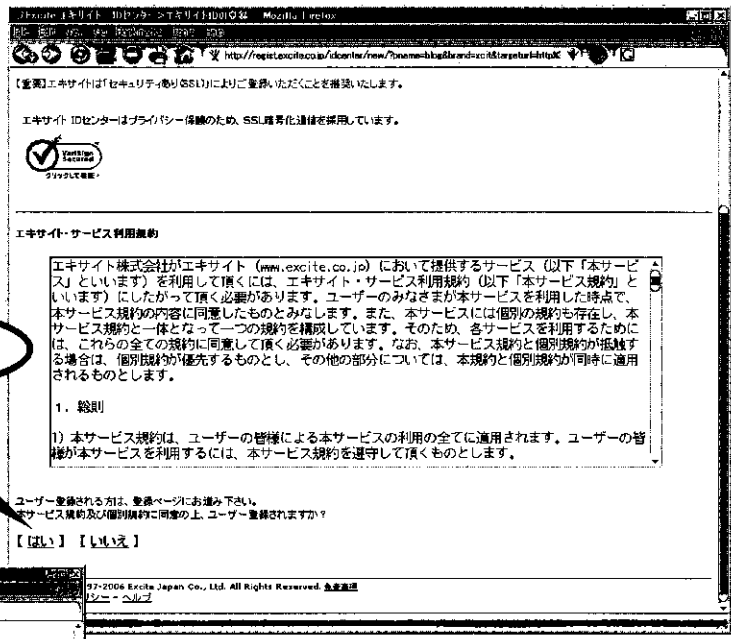


3. ログインします。IDを持っていない場合は「新規登録 (無料)」を選択

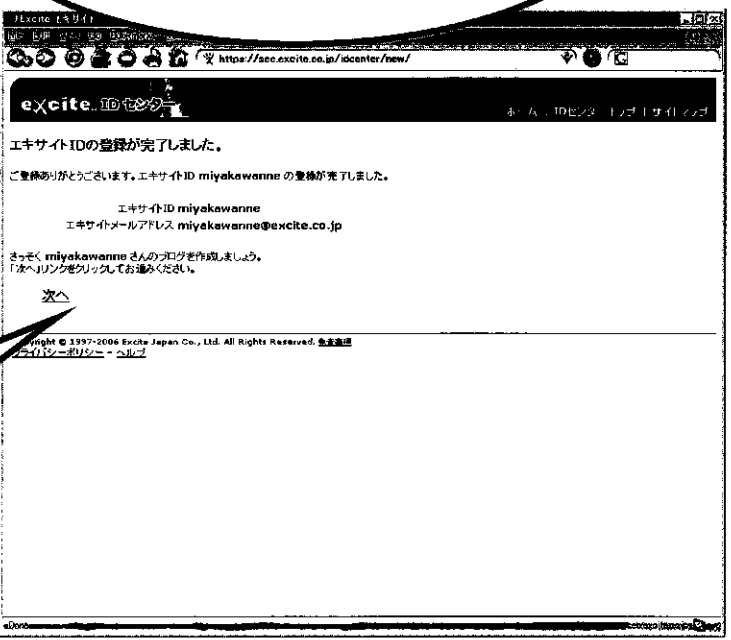
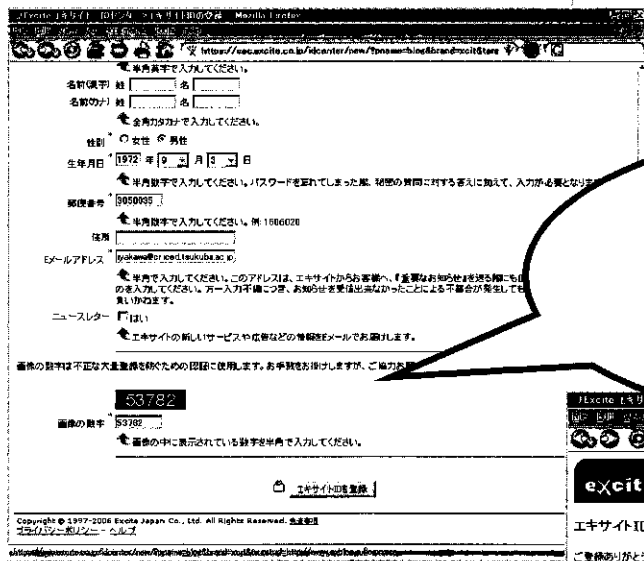


エキサイト ID の取得

1. 規約に同意します

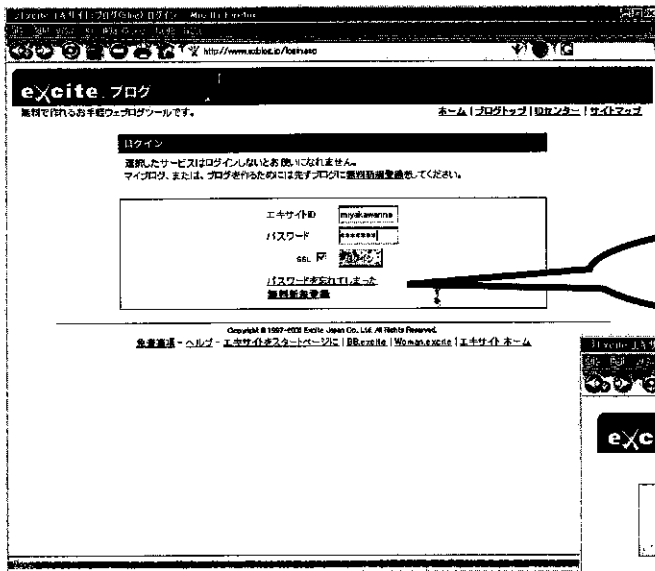


2. 必要事項を記入します
 必須項目だけでOKです。
 できれば「エキサイト ID を登録」
 をクリック

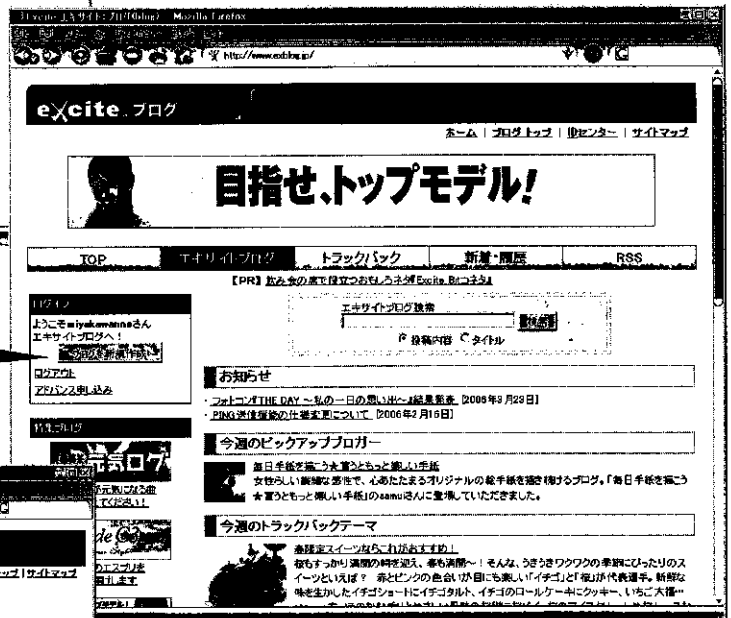


3. この画面ができれば ID 登録 OK
 ID がすでに利用されている場合は、
 別の ID を再度入力してください

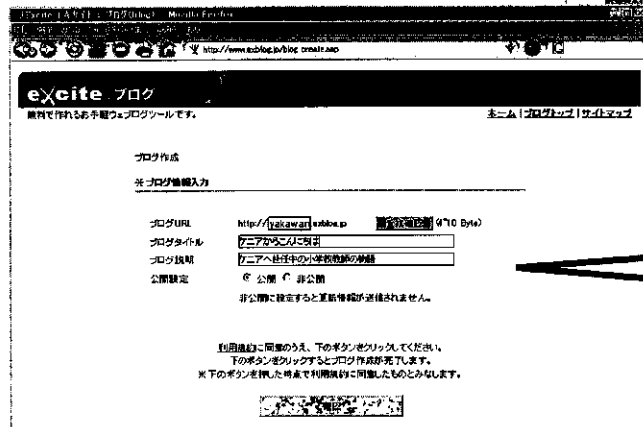
ブログを開設しよう



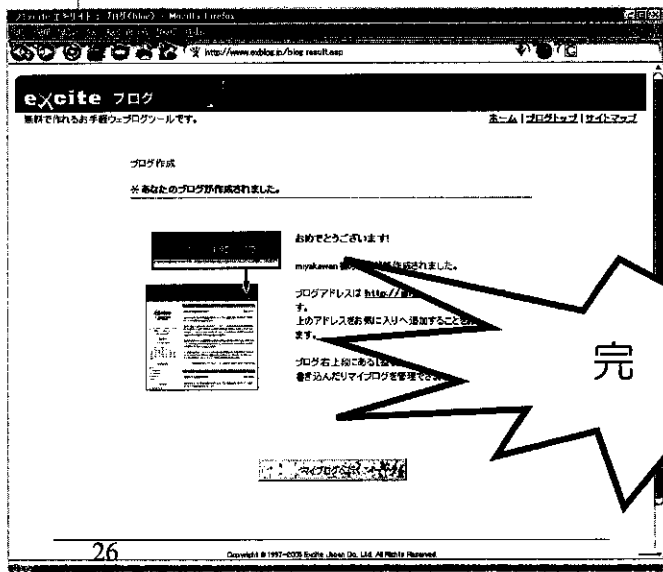
1. まずログインします



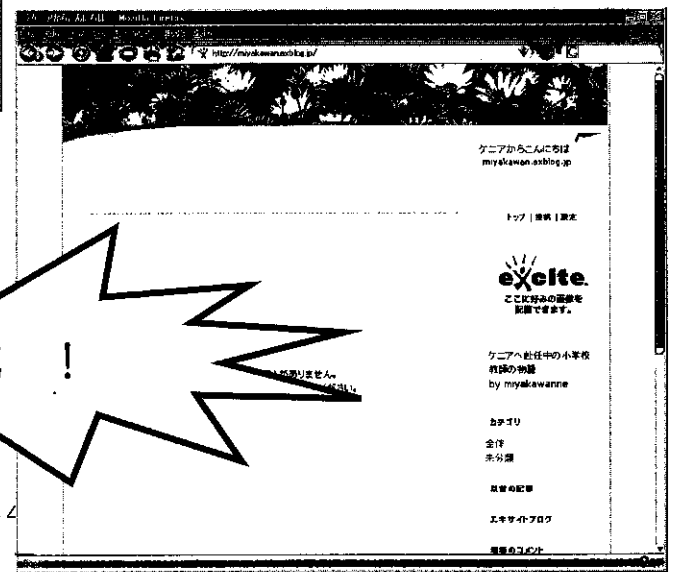
2. 「ブログの新規作成」
をクリック



3. ブログのアドレス、タイトル、
説明等を記入します

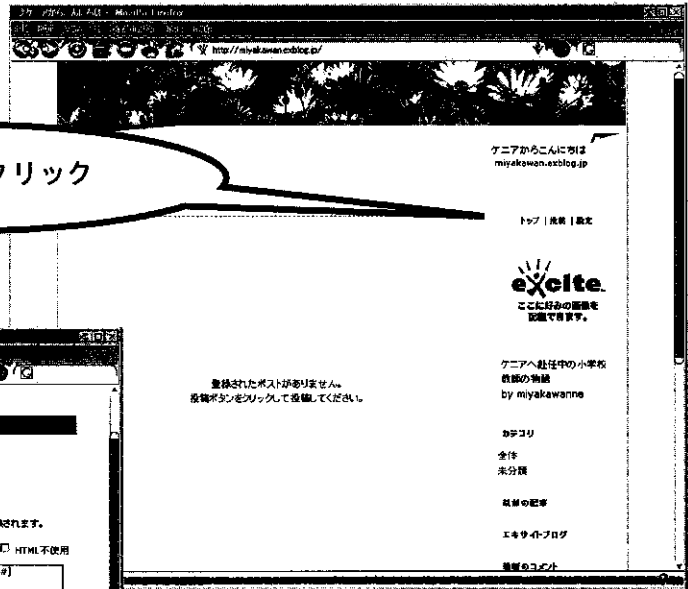


完成!

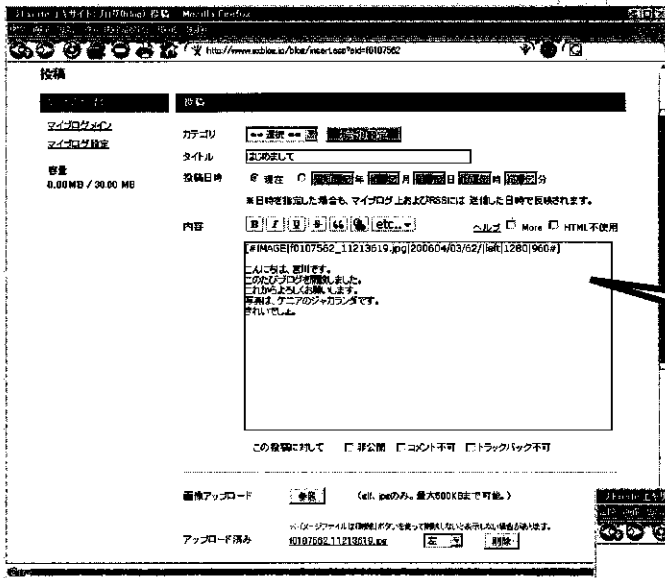


記事を投稿しよう

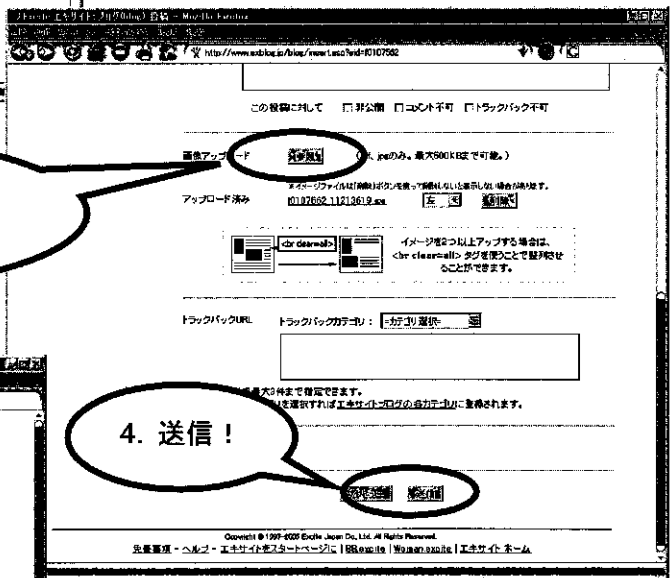
1. 「投稿」をクリック



2. 投稿内容を書き込みます

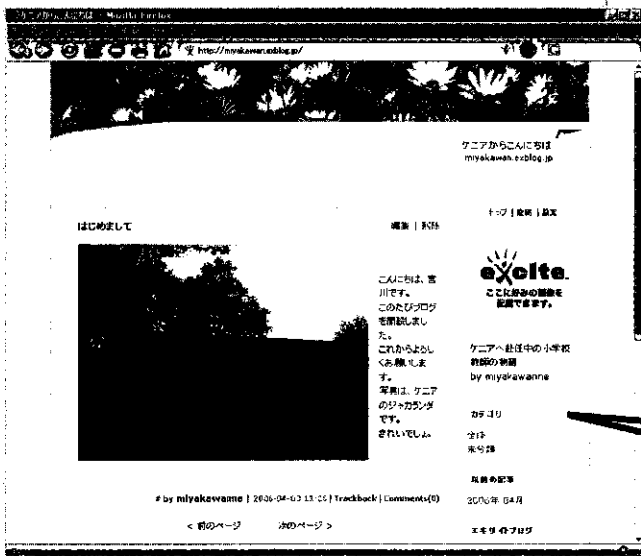


3. 必要に応じて画像を貼り付けます



4. 送信!

5. できあがり

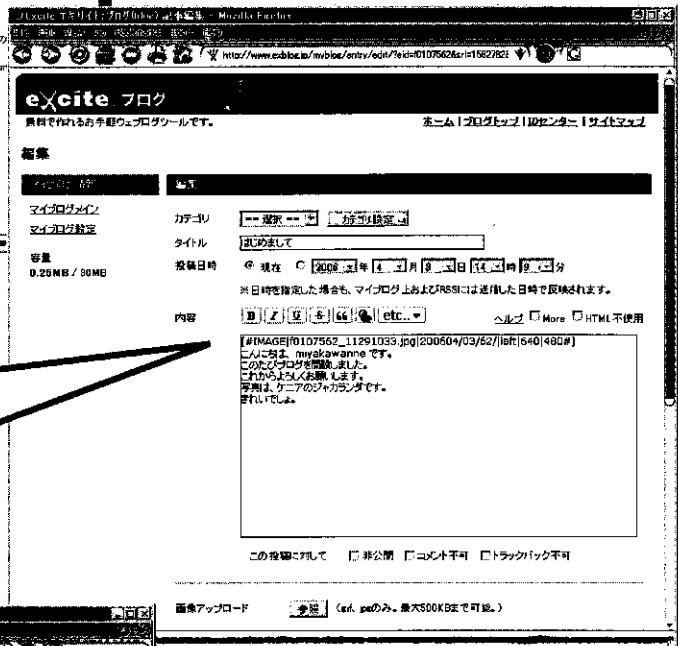


記事を編集・修正しよう

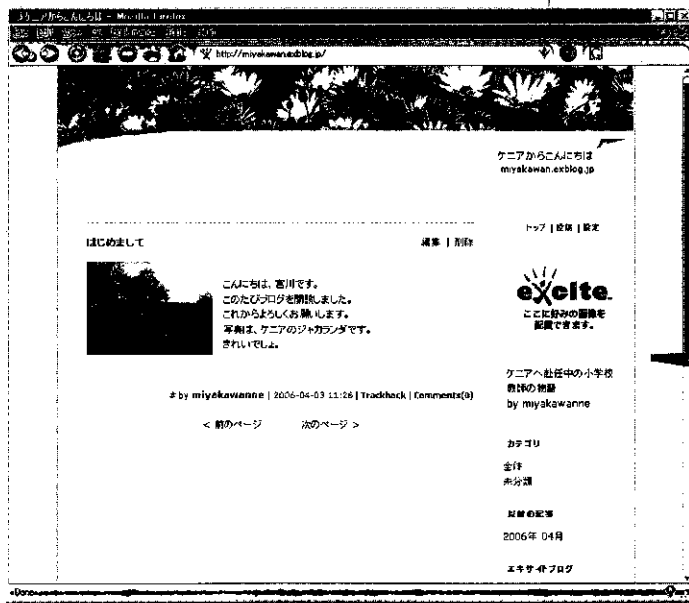
希望例：表示される画像が大きすぎる。もっと小さくしたい！



1. 「編集」をクリック



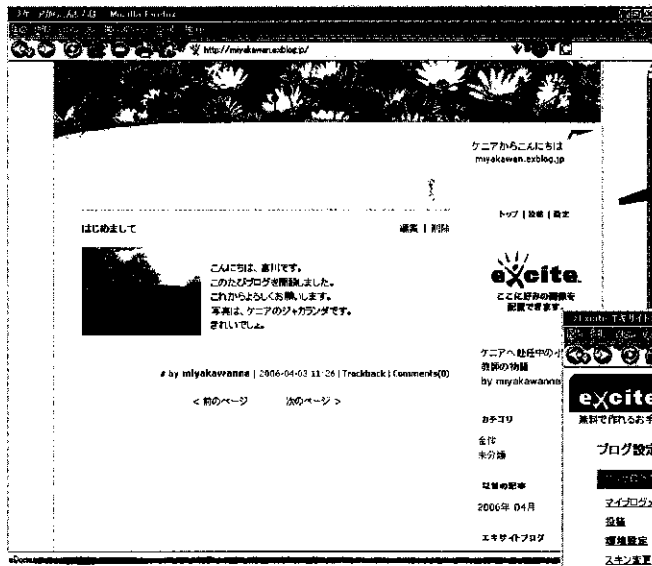
2. 最後の数字“640|480”が画像の縦と横の長さです
ここでは“160|120”に変更します
必要に応じて文章も修正します



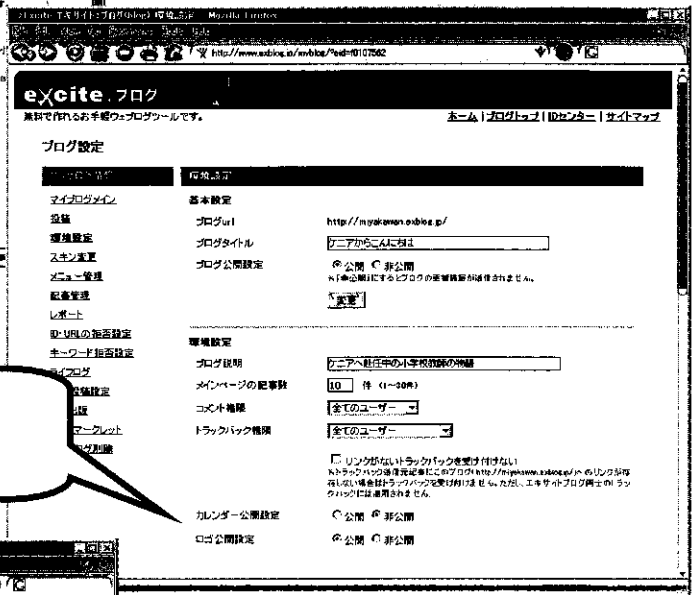
3. できあがり

ブログをカッコよくしよう (ブログの設定)

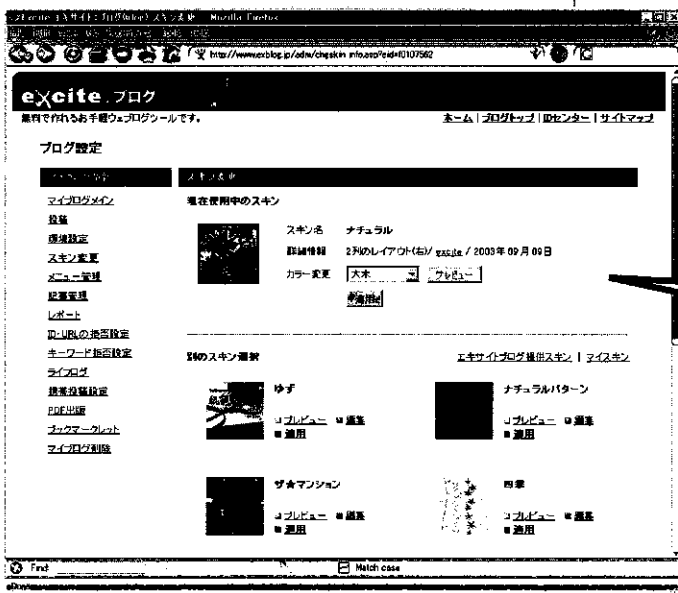
希望例：もっとサファリっぽくしたい！



1. 「設定」をクリック



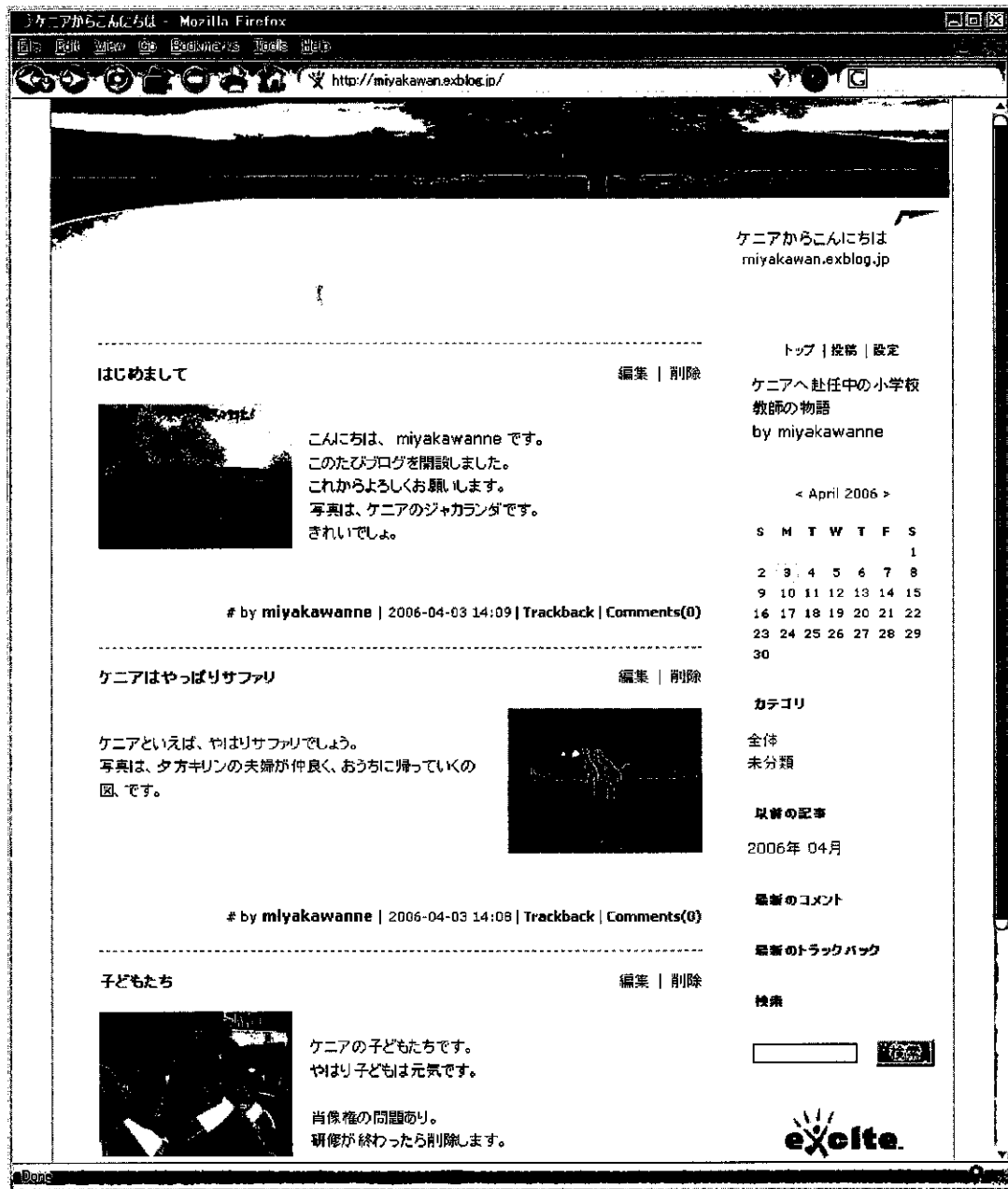
2. カレンダーをつける
ロゴをはずす



3. スキンの変更
「大木」へ

スキンはより細かくカスタマイズできます。興味のある方は「編集」からカスタマイズしてみてください。
要 HTML, CSS 知識。

完 成 ！



参考

エキサイト以外のポータルサイトでも無料でブログを作成できます。サイトによってデザイン等、設定できるものが異なりますので、色々試してみてください。以下、参考ブログサイトです。

- <http://www.excite.co.jp/>
- <http://blog.livedoor.jp/>
- <http://blog.goo.ne.jp/>
- <http://blogs.yahoo.co.jp/>

ICT 研修 参考資料

MSN メッセンジャーを利用したネットミーティング

Yahoo! メッセンジャーを利用したネットミーティング

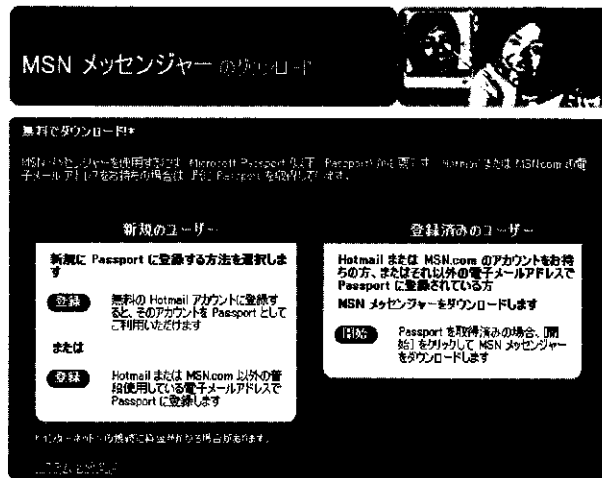
Yahoo! Japan を用いたブログ作成



Messenger では、テレビ電話のように話をする事ができます。派遣隊員同士での情報交換や、帰国隊員との連絡、さらには派遣先の教室と勤務校とをつないでインターネットライブ授業等も行えます。

MSN Messenger を使えるようにしましょう

1. <http://messenger.msn.co.jp/> にアクセスし、「MSN メッセンジャー 7.0 ダウンロードする」をクリックします。



2. MSN にすでに登録してある方は、「開始」をクリックします。そうでない方は、Hotmail アカウントに登録（無料）するか、すでにお持ちのメールアドレスを登録してください。

Hotmail アカウントに登録

MSN Messenger

登録

このフォームに入力して、MSN Messenger Service アカウントを登録してください。このアカウントは Microsoft .NET Passport でも利用できます。

作成した Hotmail の電子メールアドレスとパスワードは、.NET Passport の認証に使用されます。Hotmail アカウントにアクセスしたり、以下のよう .NET Passport のサインイン ボタンが表示されているサイトにサインインするには、これらの情報が必要になります。

注意 お客様のプロファイル情報は、お客様がサインインした MSN のサイトのみに通知されます。

後でアカウントを削除するにはどうしたらいいですか?
Passport では個人情報がどのように使用されますか?

プロファイル情報

姓

名

言語

国/地域

都道府県

タイムゾーン

性別 男 女

生年月日

職業

アカウント情報

電子メール アドレス

パスワード

メールアドレス登録

MSN Messenger

登録

このフォームに必要な事項を入力すれば、MSN Messenger Service Microsoft .NET Passport で登録できます。NET Passport と、下に入力する電子メール アドレスとパスワードを登録してサインイン リンクのあるサイトにサインインしてください。

Microsoft .NET Passport を登録して名前を NET Passport の [サインイン] ボタンをクリックしてください。(すべての Hotmail または MSN の電子メールアドレスは .NET Passport として使用できます。)

国が表示されているフィールドの情報が .NET Passport に保存されます。

Passport では個人情報がどのように使用されますか?

電子メール アドレス

パスワード

パスワードの確認入力

生年月日

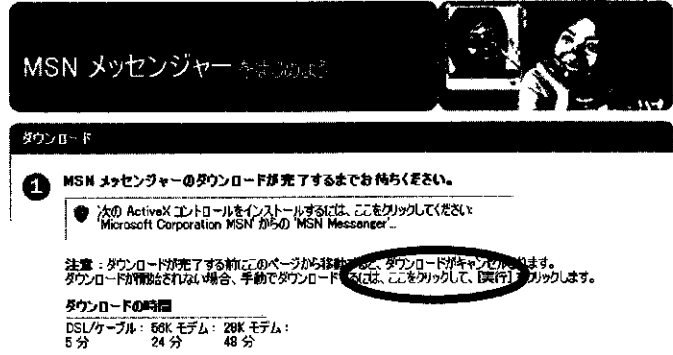
登録チェック この枠の中に表示されている文字を入力してください (半角英数字)。文字を入力する理由

画像が見えない場合、音声 (英語) を聞く

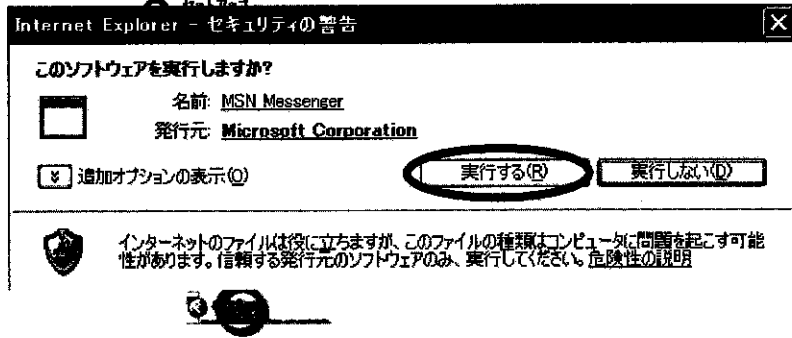
アルファベットの英文字と小文字を使い分ける必要はありません。

それぞれ必要事項を入力

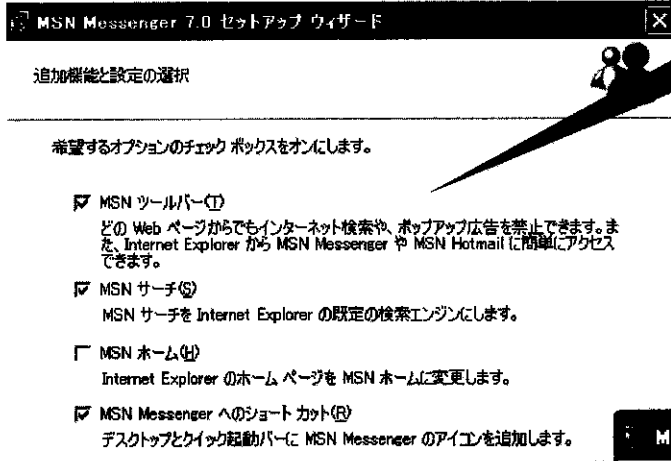
- ダウンロードが自動的に始まらないときは、青字の「ここをクリックして」をクリックします。



- 「実行する」をクリックします。
- インストール画面が表示されたら「次へ」をクリックします。
- 使用条件及びプライバシーに関する声明は、「同意する」を選択し、「次へ」をクリックします。

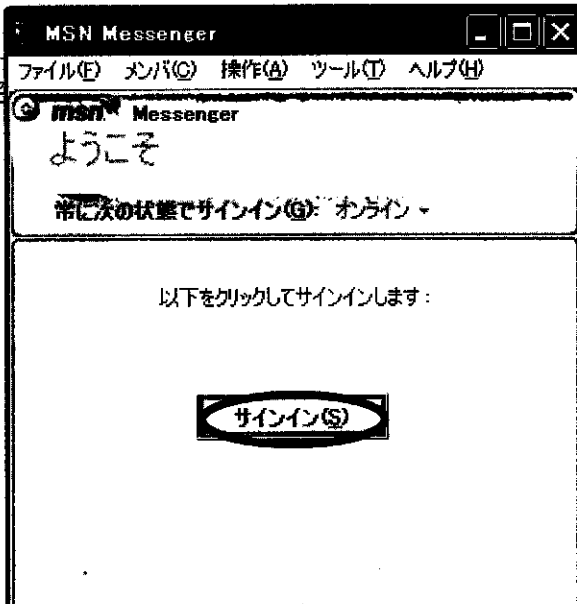


オプションを選択



- 希望するオプションを選択し、「次へ」をクリックします。
- 「インストールされました」と表示されたら、「完了」をクリックします。

- 「サインイン」をクリックします。
- 「NET Passport を追加」が表示されたら、「次へ」をクリックします。



11. 「はい」を選択し、「次へ」をクリックします。

NET Passport ウィザード

電子メール アドレスをお持ちですか?

電子メール アドレスとパスワードを .NET Passport に登録すると、これらを使用してすべての Passport 対応サイトにサインインできます。

電子メール アドレスをお持ちですか?

はい。

いいえ。MSN Hotmail の電子メール アカウントを作成します。

Hotmail アカウントを作成したくない場合は、他のインターネット サービス プロバイダで電子メール アカウントを作成し、このウィザードに戻って、作成した電子メール アドレスを Passport に登録します。

<戻る(B)> 次へ(N)> キャンセル

NET Passport ウィザード

既に電子メール アドレスを .NET Passport に登録していますか?

はい。既に .NET Passport に登録した電子メールアドレス

いいえ。今すぐ電子メール アドレスを Passport に登録します。

重要 Hotmail の電子メール アドレスをお持ちの場合は、既に Passport に登録されています。

<戻る(B)> 次へ(N)> キャンセル

12. 「はい」を選択し、「次へ」をクリックします。

13. ご自分のメールアドレスとパスワードを入力し、「次へ」をクリックします。
14. 「完了しました」と表示されたら、「完了」をクリックします。

NET Passport ウィザード

.NET Passport を使ってサインイン

電子メール アドレス

パスワード

パスワードを忘れた場合

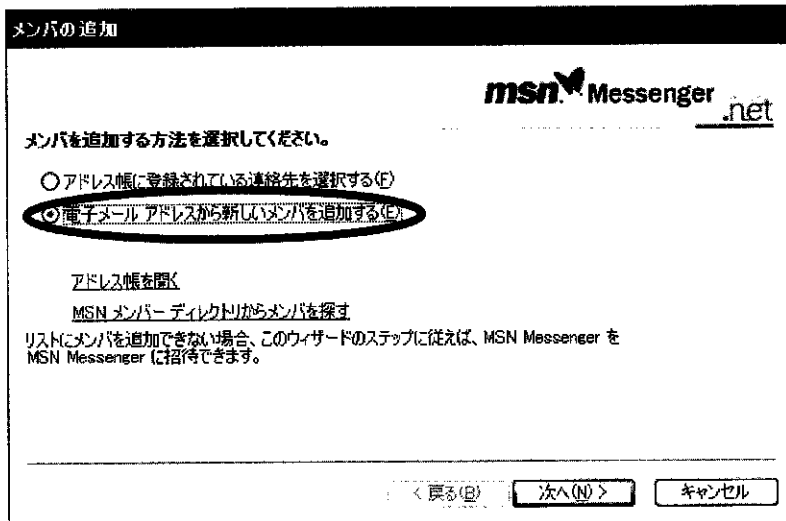
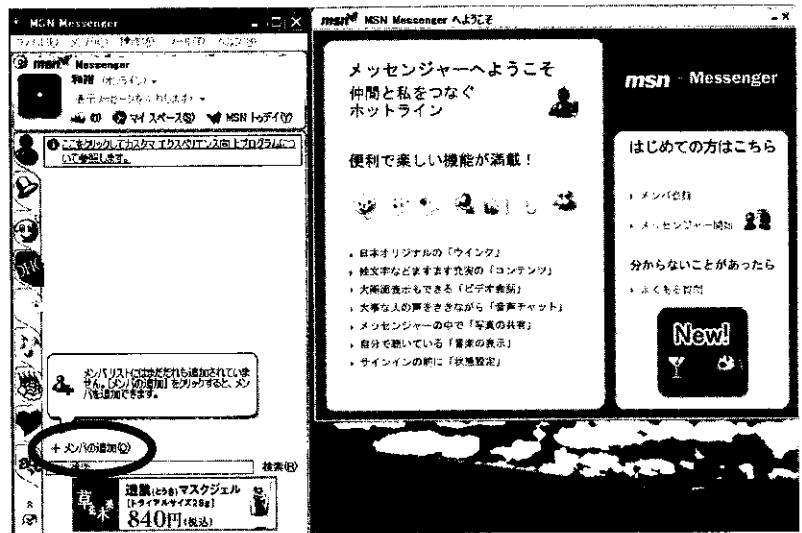
Windows 上で、Passport 対応サイトに簡単にサインインできるように、Passport を Windows のユーザー アカウントに関連付けます。

<戻る(B)> 次へ(N)> キャンセル

登録済みの電子メールアドレスとパスワードの入力

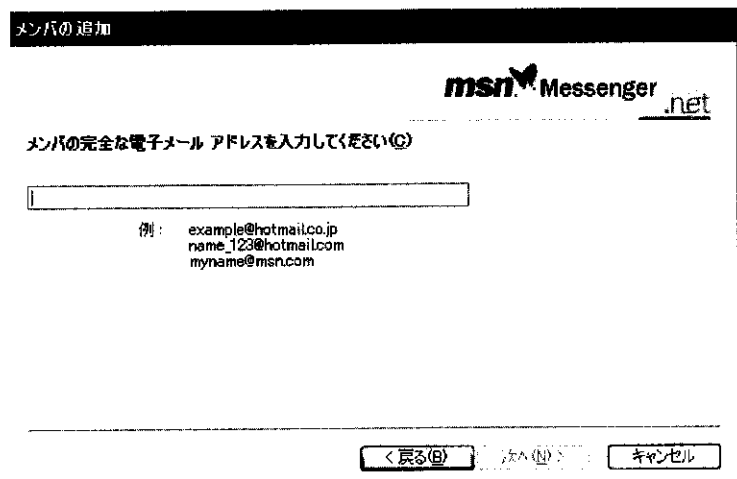
Messenger のメンバを追加しよう

1. 「メンバの追加」をクリックします。「メッセージャーへようこそ」は閉じてもらってかまいません。



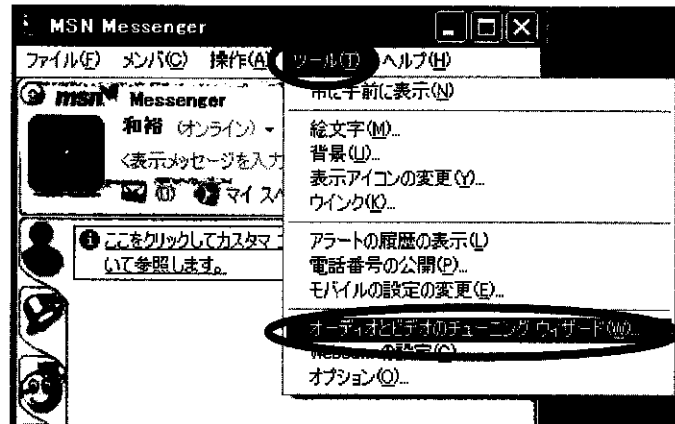
2. 「電子メールアドレスから新しいメンバを追加する」を選択し、「次へ」をクリックします。

3. 追加したい相手のメールアドレスを入力してください。
4. 「メンバリストに追加されました」と表示されたら、「次へ」をクリックします。
5. 「完了しました」が表示されたら、「完了」をクリックします。



Web カメラ, ヘッドセットを設定しよう

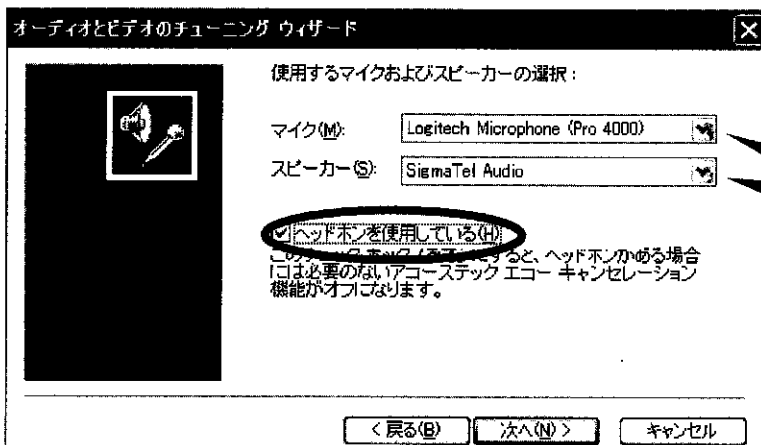
1. 「ツール」メニューから「オーディオとビデオのチューニングウィザード」をクリックします。
2. 「チューニングウィザード」が開始されたら、カメラ、ヘッドセットを接続し、「次へ」をクリックします。



QuickCam を選択

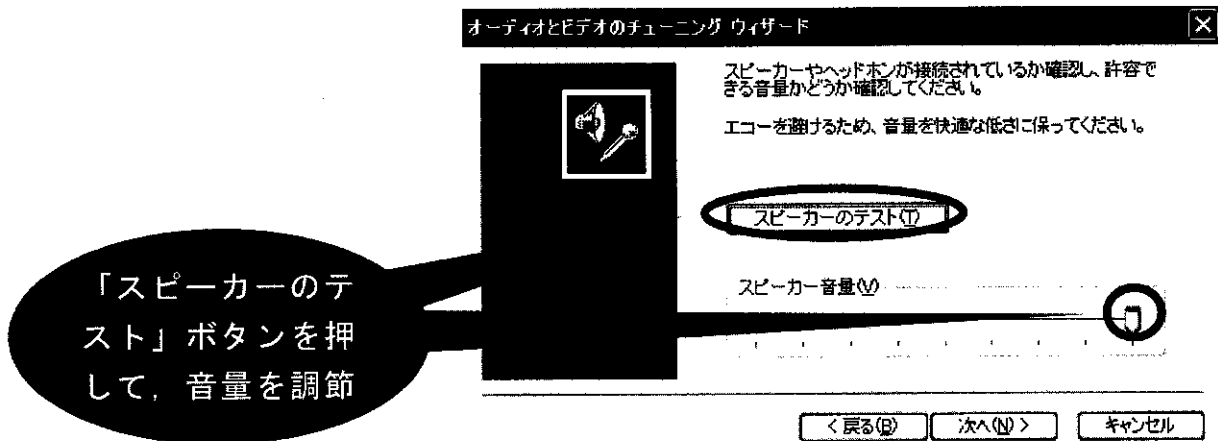
3. 使用するカメラを選択し、「次へ」をクリックします。(今回は「QuickCam」)
4. 画像を確認し、よければ「次へ」をクリックします。
5. 「スピーカーとマイクの配置」についての指示を確認し、「次へ」をクリックします。

6. 使用するマイクとスピーカーを選択し、「ヘッドホンを使用している」のチェックボックスをクリックし、「次へ」をクリックします。(今回はマイクを「Logitech」で、スピーカーはそのままで結構です)

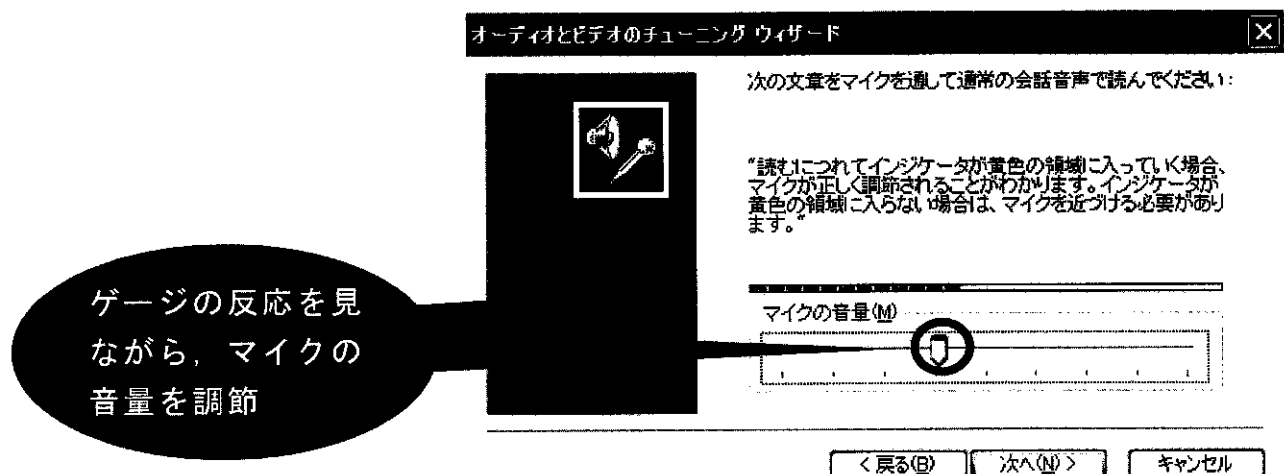


「Logitech」の
マイクを選択

7. 「スピーカーのテスト」をクリックし、ヘッドホンから聞こえる音を確認してください。音の大きさは「スピーカー音量」のタブを動かすことで調節できます。よければ「次へ」をクリックします。



8. 表示されている文章「読むにつれて…」を声を出して読みます。ゲージが反応し、黄、赤になればよいです。常に赤くなるようなら「マイクの音量」を下げてください。よければ、「次へ」をクリックします。

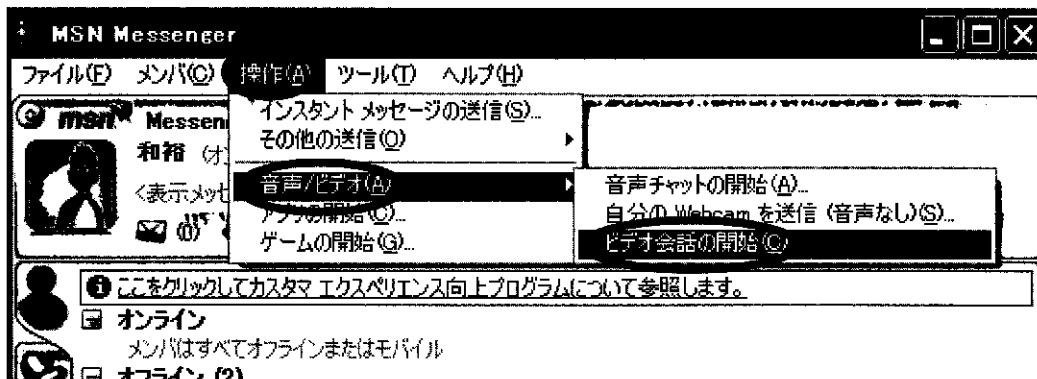


9. 「チューニングウィザードが正しく完了しました」が表示されたら、「完了」をクリックします。

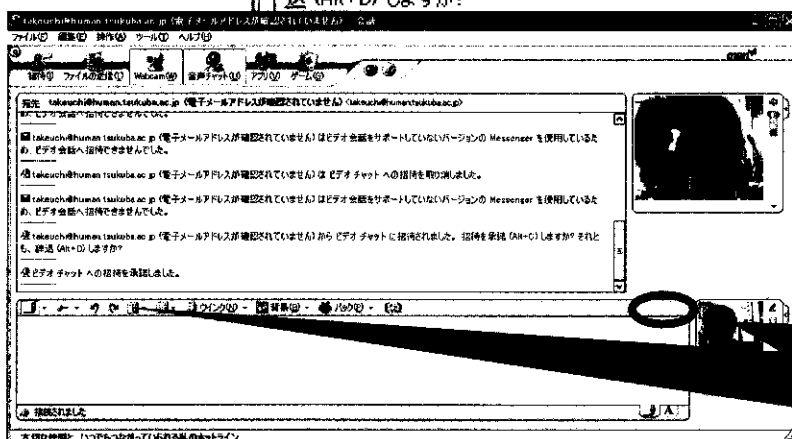
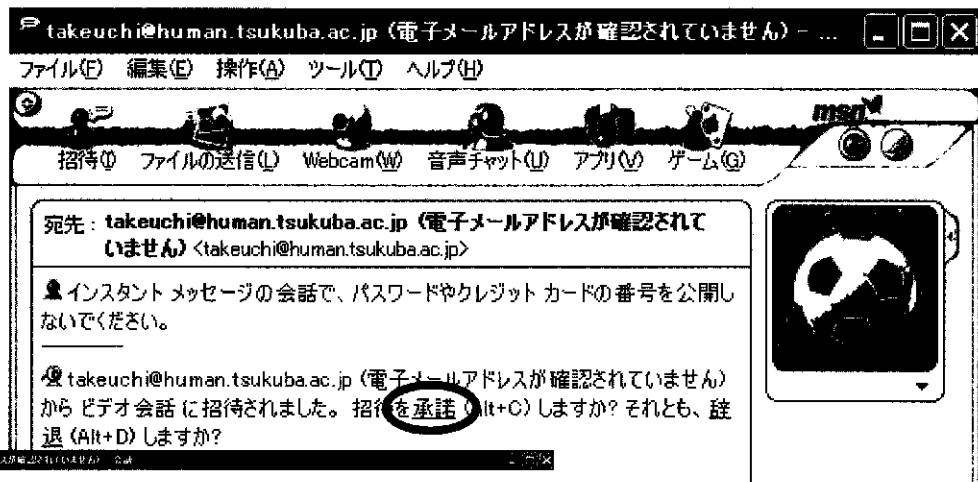
ネットミーティングをしよう

※2人1組で試してもらいます。ネットミーティングは、片方の参加者がもう片方の参加者を招待する形式で行いますので、1人の方は Messenger をオンラインにした状態で待機してください。

1. 「操作」メニューの中から、「音声/ビデオ」にカーソルを合わせ、右に表示されるウィンドウから「ビデオ会話の開始」をクリックします。



2. 表示されたメンバの中から、相手を選択します。
3. 待機している方のウィンドウに下のようなメッセージが表示されたら、「承諾」をクリックします。



4. 自分と相手の映像が表示されたら、ネットミーティングの開始です。

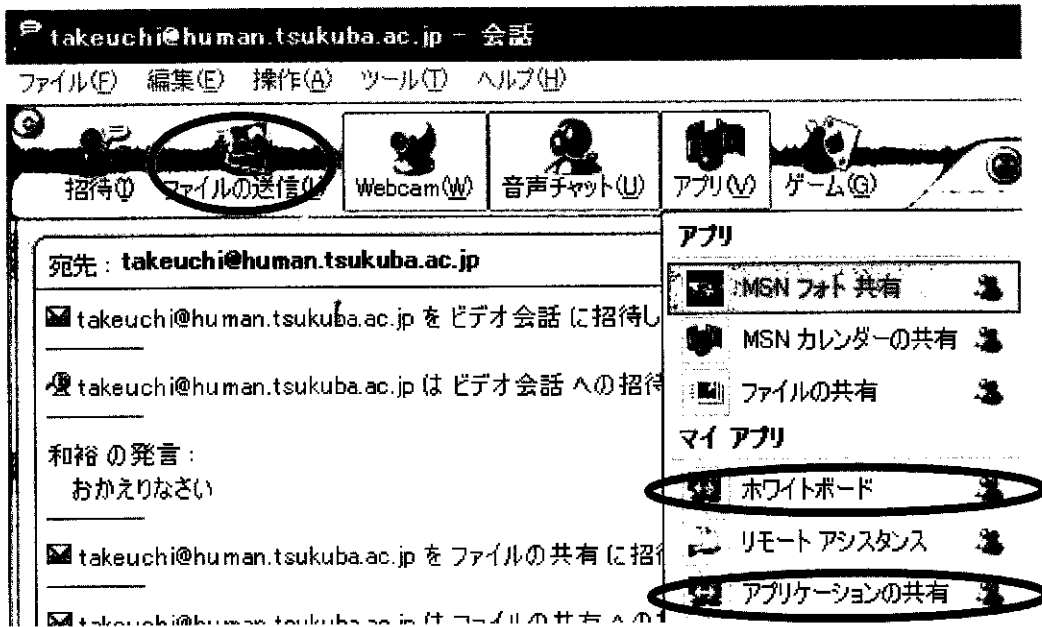
文章を入力し、送信ボタンをクリックすることで、チャットできます

ネットミーティング上では次のようなことができます。

ネットミーティング MSN メッセンジャー7

ICT研修資料 (H17)

- ・ファイルの送受信
 - ・ホワイトボード
 - ・アプリケーションの共有
- など



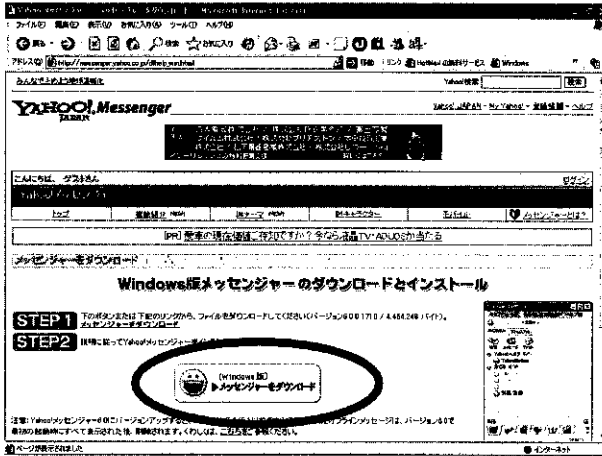
- 註 1 : ネットミーティングを行うためには、ファイヤーウォールとの関連から、TCP のポートを設定する必要がある場合があります。
- 註 2 : 最新版を利用しましょう。

YAHOO! Messenger JAPAN

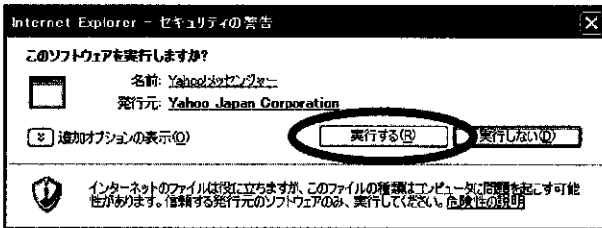
Messenger では、テレビ電話のように話
をすることができます。派遣隊員同士で
の情報交換や、帰国隊員との連絡、さら
には派遣先の教室と勤務校とをつないで
インターネットライブ授業等も行えます。

Yahoo! メッセンジャーを使えるようにしましょう

1. <http://messenger.yahoo.co.jp/> にアクセスし、「いつでもどこでもメッセンジャーから Windows 版」をクリックします。



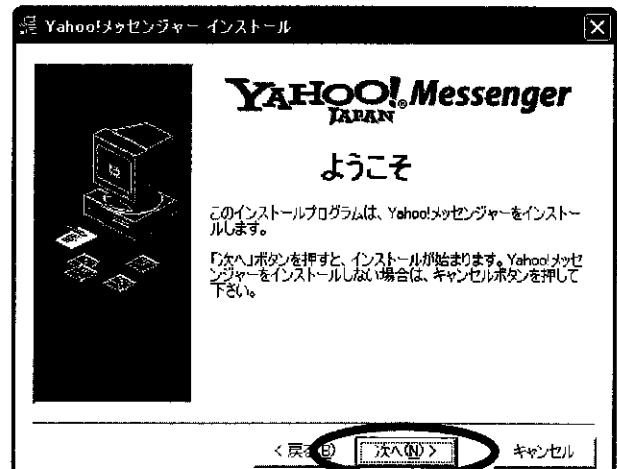
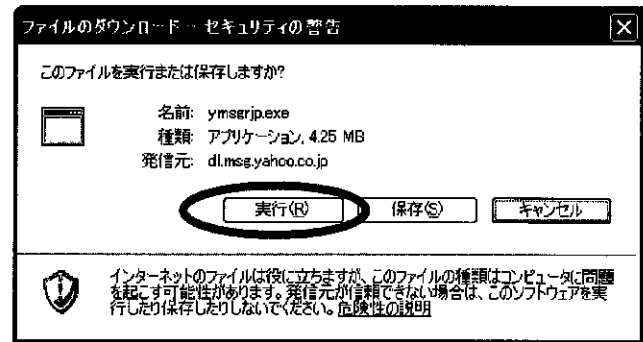
3. 「実行する」をクリックします。

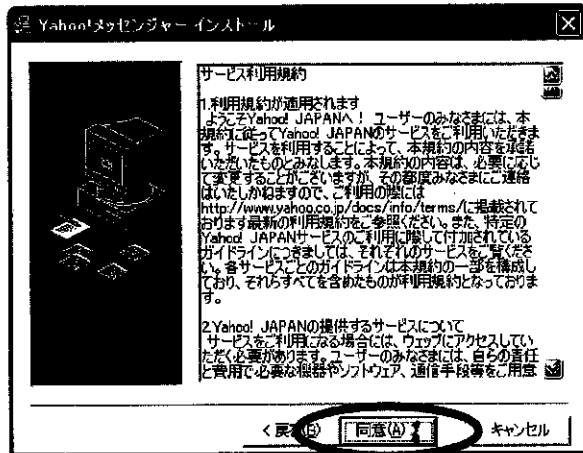


4. 「次へ」をクリックします。



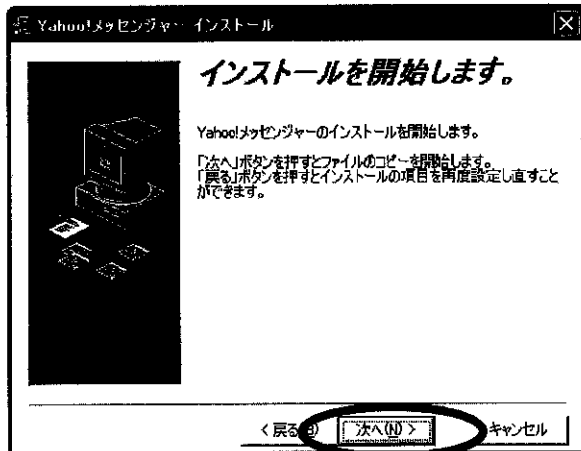
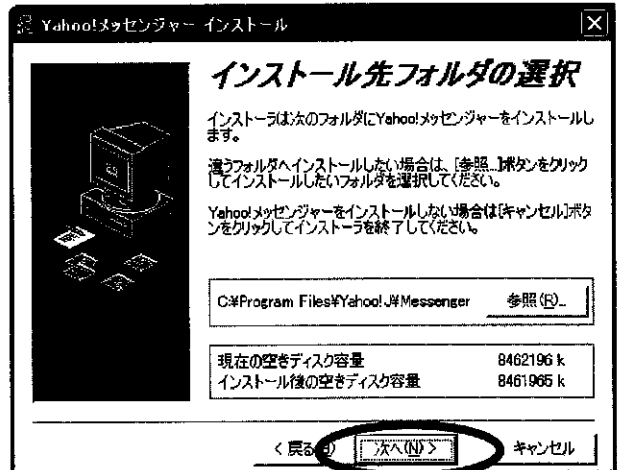
2. STEP1, STEP2 の指示に従い、「(Windows 版) メッセンジャーをダウンロード」をクリック。





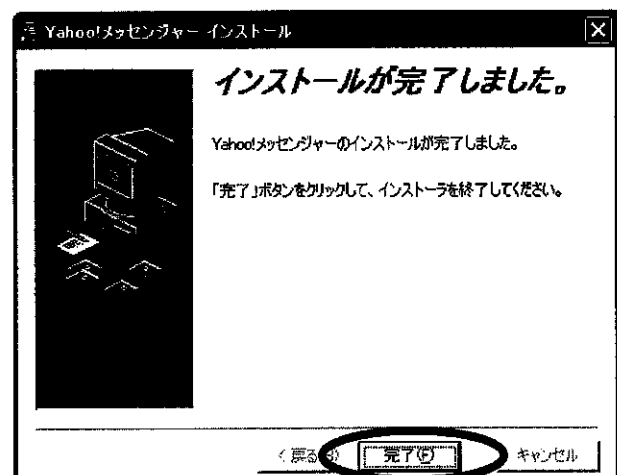
5. サービス利用規約について、「同意」をクリックします。

6. インストール先フォルダの選択が表示されたら、「次へ」をクリックします。
(※フォルダを変更することもできます)

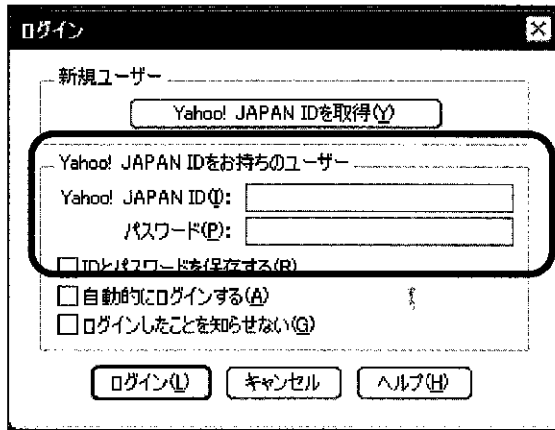


7. 「インストールを開始します。」と表示されたら「次へ」をクリックします。

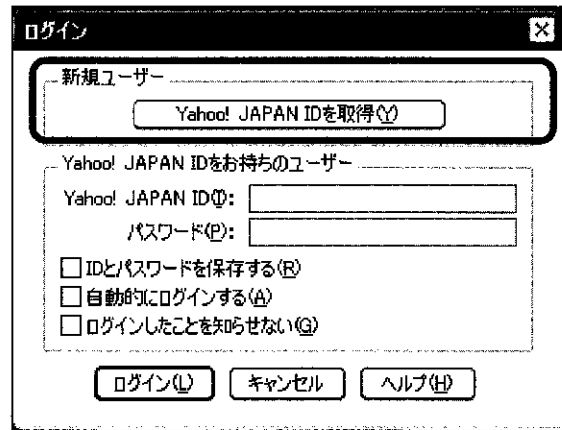
8. 「インストールが完了しました。」と表示されたら、「完了」をクリックします。



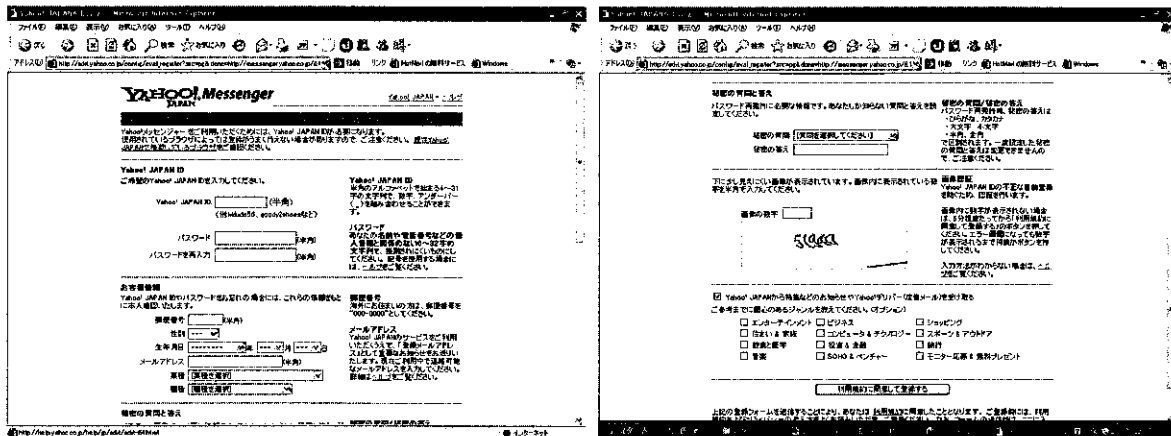
9. 「Yahoo! JAPAN ID」をお持ちの方は、ID とパスワードを入力。(次頁へお進み下さい)
 「Yahoo! JAPAN ID」をお持ちでない方は、「Yahoo! JAPAN ID を取得」をクリック。
 < 「Yahoo! JAPAN ID」あり> < 「Yahoo! JAPAN ID」なし>



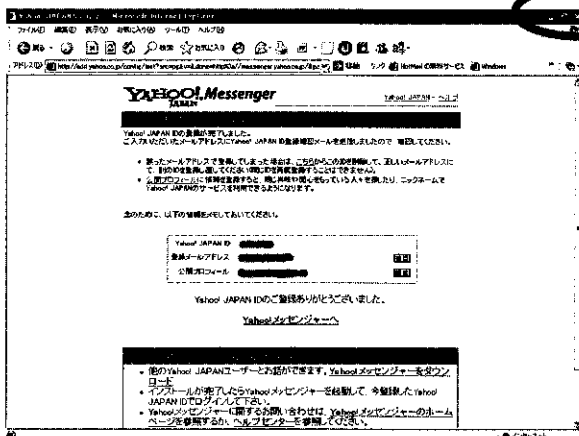
(次頁へお進み下さい)



10. 必要事項を入力し、「利用規約に同意して登録する」をクリックします(「Yahoo! JAPAN ID を取得」する方の手続きです)。

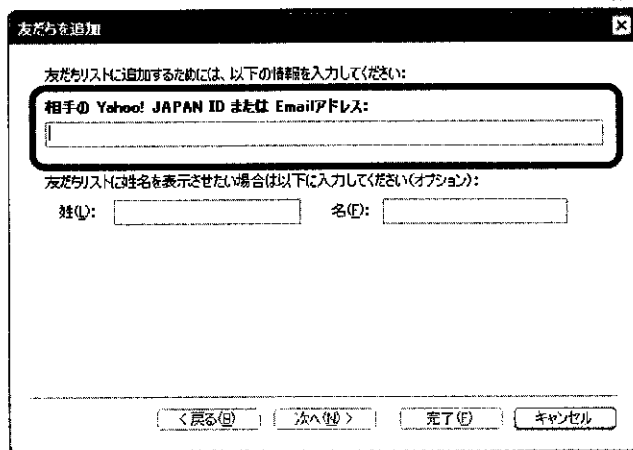
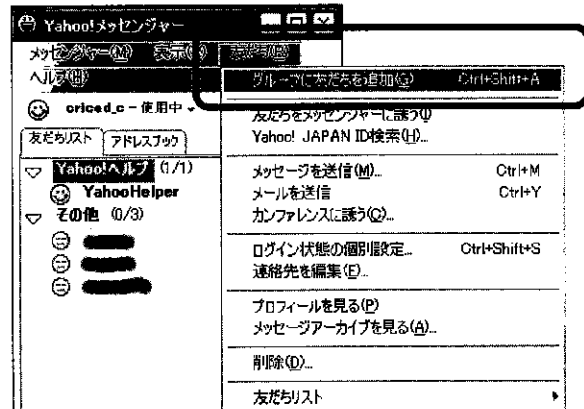


11. Yahoo! JAPAN ID 登録完了の画面で、情報を確認したら、画面右上の「× (赤地に白字)」をクリックして画面を閉じます。10 の画面で ID とパスワードを入力します。(次頁へお進み下さい)

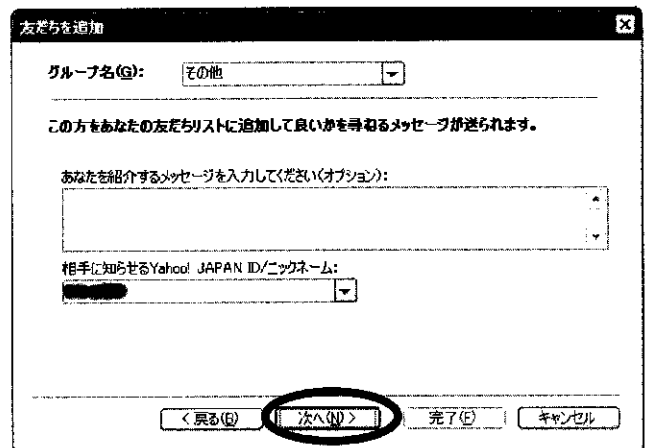


Yahoo! メッセンジャーのメンバを追加しよう

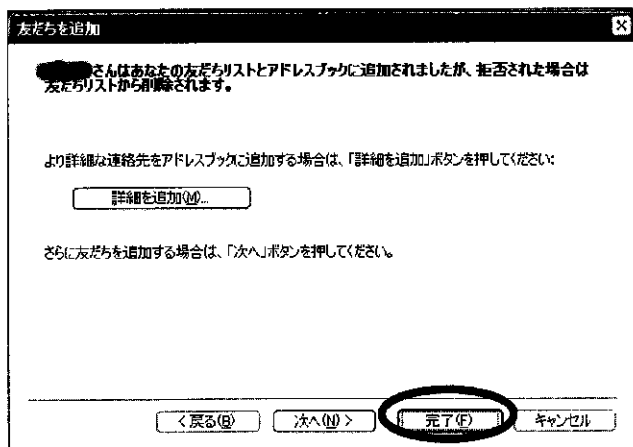
1. 「友だち」メニューから「グループに友だちを追加」をクリックします。



2. 相手の「Yahoo! JAPAN ID」または「E-mail アドレス」を入力し、「次へ」をクリックします。



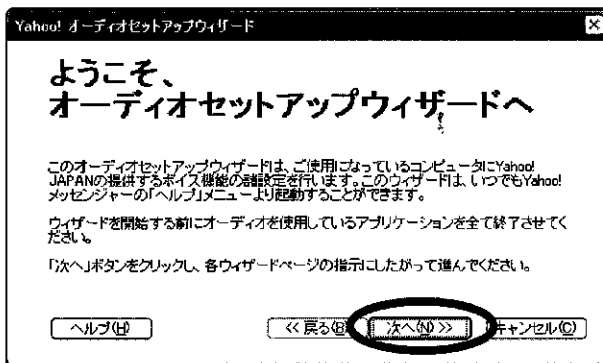
3. 相手に、あなたを紹介するメッセージを入力することもできます。「次へ」をクリックしてください。



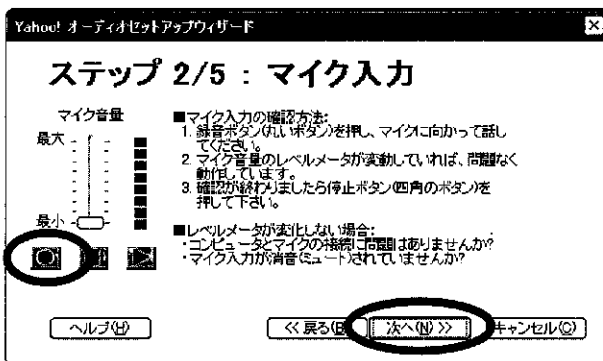
4. 「完了」をクリックします。(友だちを複数追加するときは、「次へ」をクリックし、最後に「完了」をクリックします。)

ヘッドセットを設定しよう

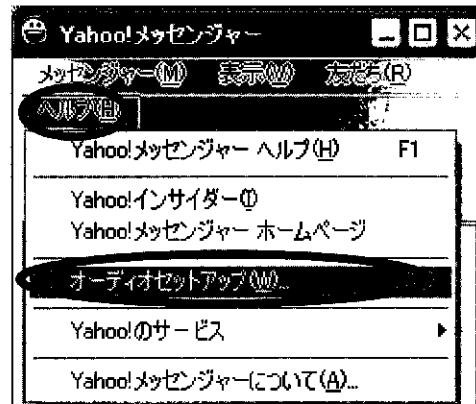
1. 「ヘルプ」メニューから「オーディオセットアップ」をクリックします。



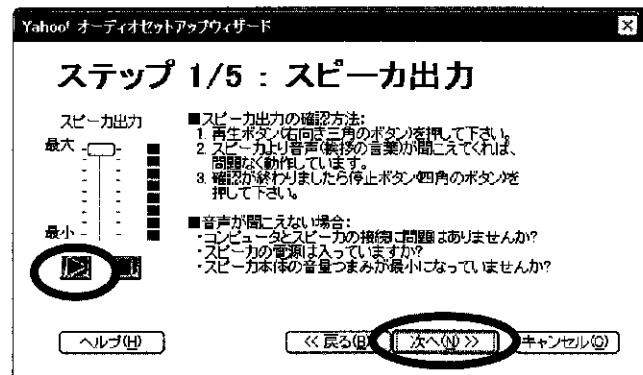
3. スピーカーもしくはヘッドフォンの音声出力について確認します。画面左の「右向き三角ボタン」をクリックしてよければ、「次へ」をクリックします。



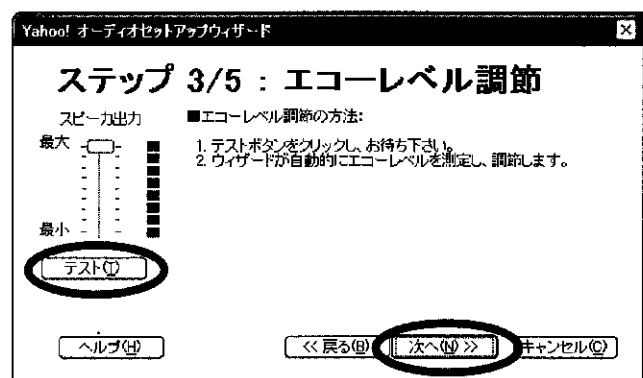
5. エコーレベルについて確認します。テストボタンを押して、指示を確認し、「次へ」をクリックします。



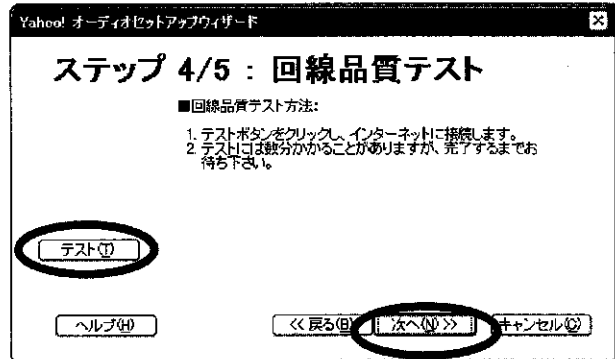
2. 「オーディオセットアップウィザード」が表示されたら「次へ」をクリックします。



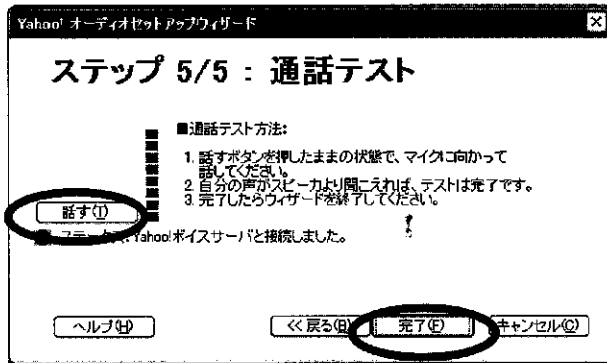
4. マイク入力について確認します。よければ画面左の「丸いボタン」をクリックしてよければ、「次へ」をクリックします。「次へ」をクリックします。



6. 回線の品質について確認します。テストボタンを押して、指示を確認し、「次へ」をクリックします。

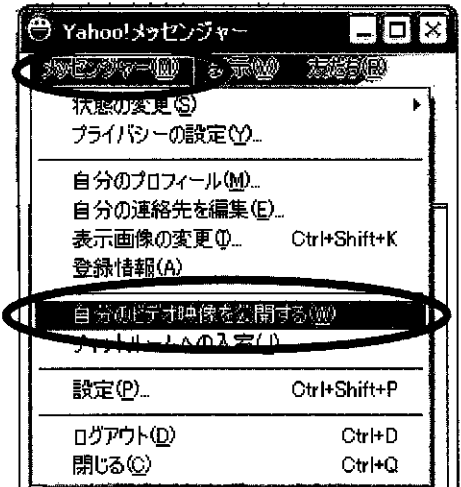
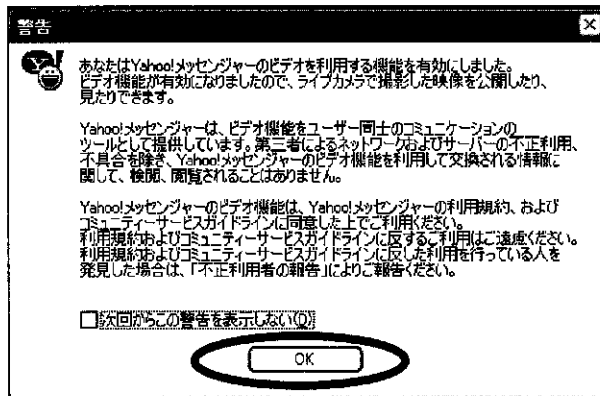


7. 通話について確認します。話すボタンを押してよければ、「完了」をクリックします。

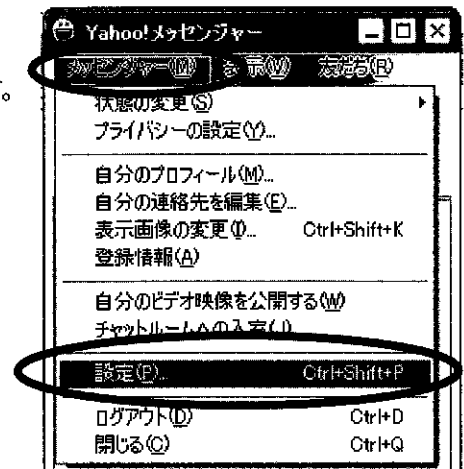


Web カメラを設定しよう

8. 「メッセージャー」メニューから「自分のビデオ映像を公開する」をクリックします。警告画面が表示されたら「OK」をクリックします。(画面に自分自身のビデオ映像が表示されます)

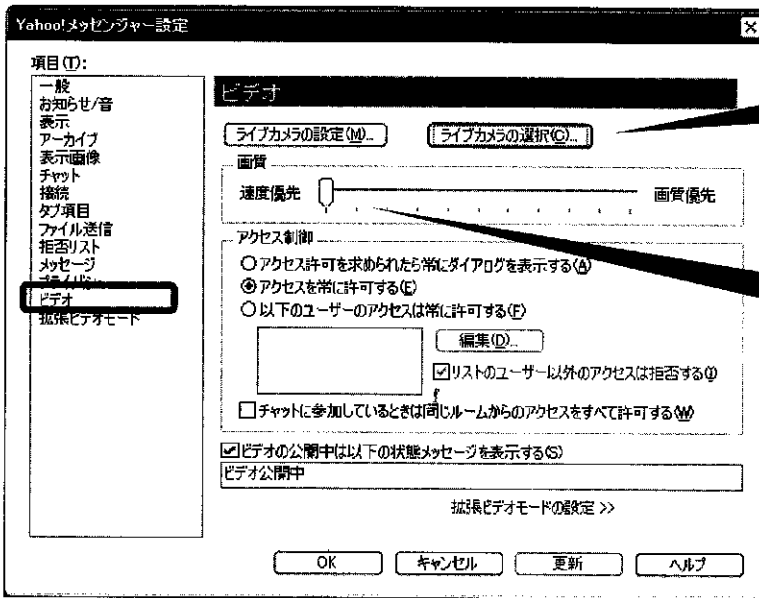


9. 「メッセージャー」メニューから「設定」をクリックします。



10. 「ビデオ」をクリックし、「ライブカメラの選択」で「Logitech QuickCam Pro 4000」を選択します。

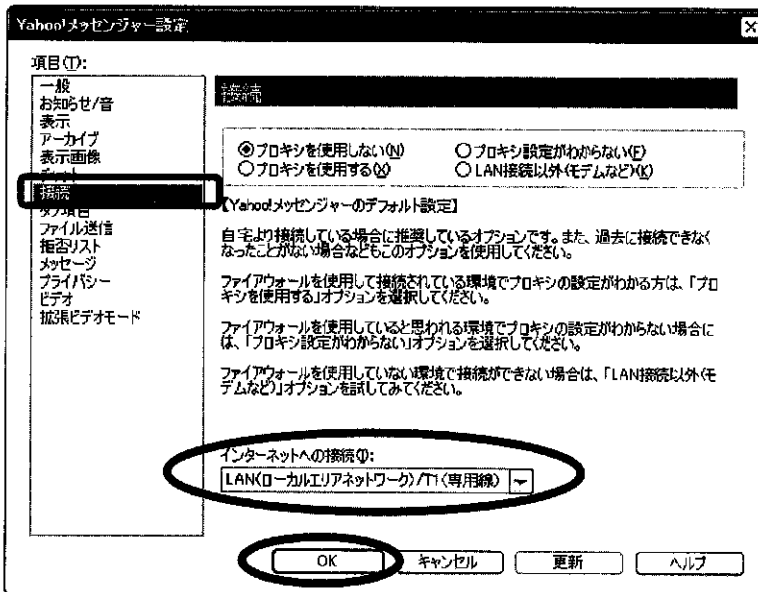
また、速度を優先するか画質を優先するかを指定します。



Logitech QuickCam Pro 4000 を選択

通信回線が遅い環境下では、速度を優先

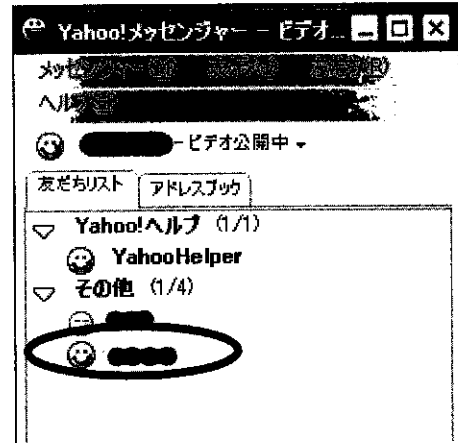
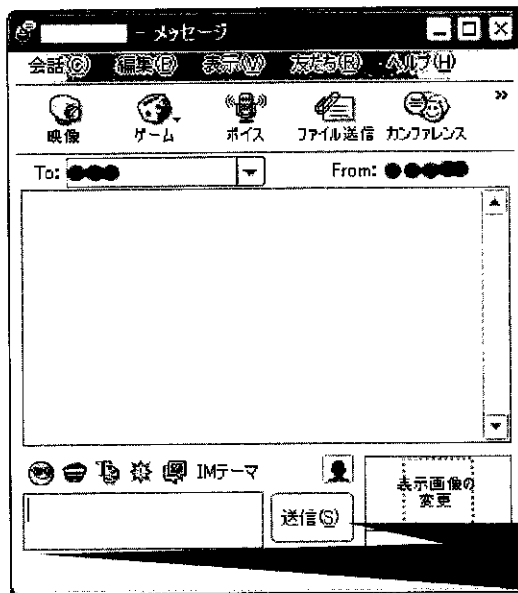
11. 「接続」をクリックし、インターネットへの接続方法を選択します。次に、「OK」をクリックして終了です。



ネットミーティングをしよう

※2人1組で試してもらいます。ネットミーティングは、片方の参加者がもう片方の参加者を招待する形式で行いますので、1人の方はYahoo!メッセージャーをオンラインにした状態で待機してください。

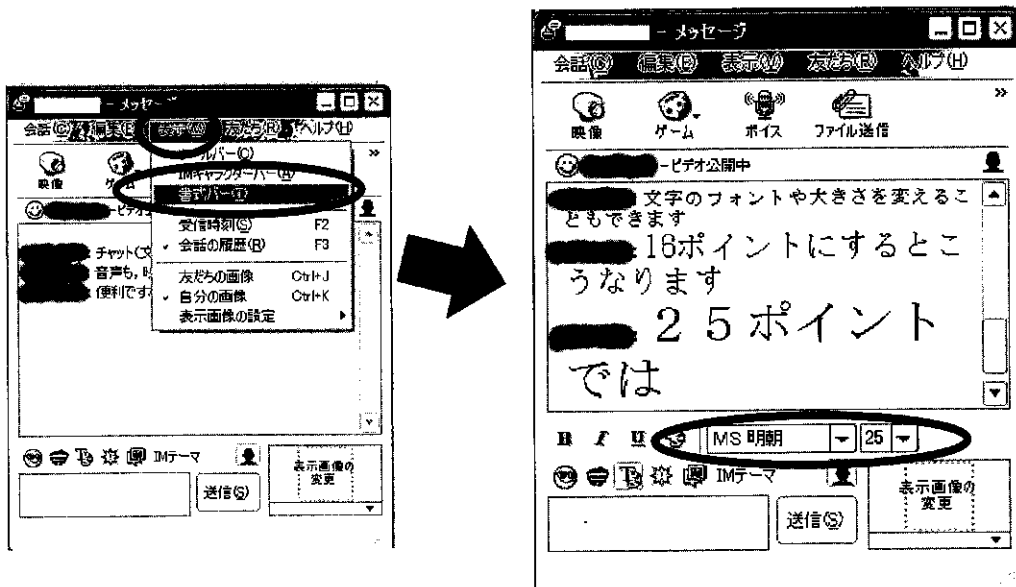
1. ネットミーティングする相手をクリックします。



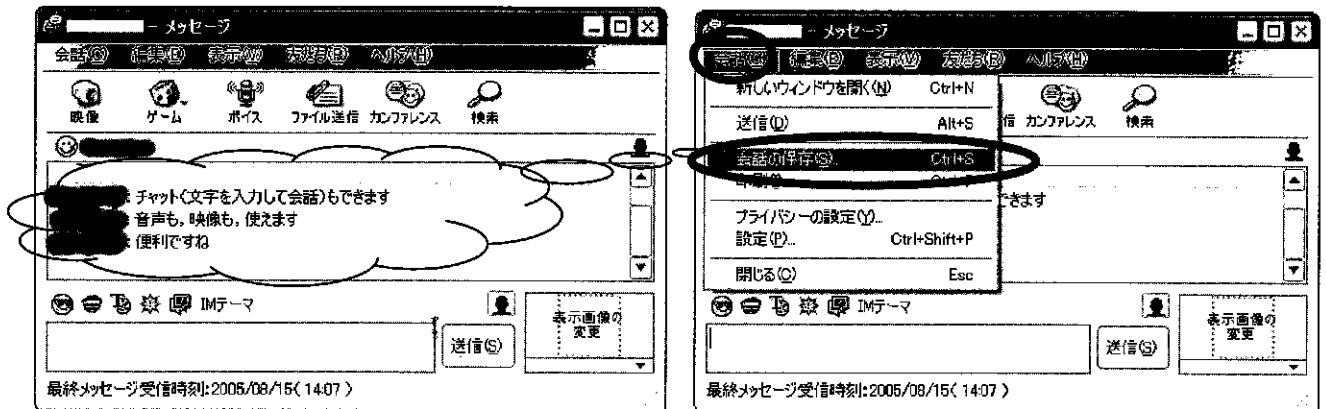
2. チャットするときは、新しく開いた画面下の欄に文章を入力し、送信ボタンをクリックします。

文章を入力し、送信ボタンをクリックすることで、チャットできます

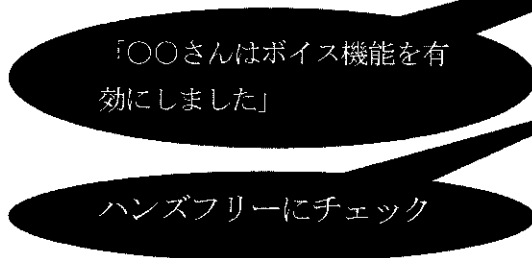
3. 画面に表示される文字のサイズは、「表示」メニューから「書式バー」をクリックします。フォントとポイントを指定すると、以後の表示が変わります。



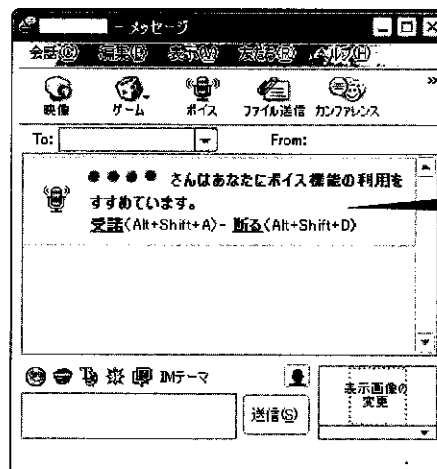
4. チャット会話の記録をとることができます。「会話」メニューから「会話の保存」を選択し、ファイル名と保存場所を指定します。



5. 音声で会話するときには、マイクの絵が描かれた「ボイス」ボタンを押します。相手の「〇〇さんはボイス機能を有効にしました」と表示されたら、会話の開始です。ヘッドセットを使用しているときには、「ハンズフリー」の左横にチェックを入れておくと便利です。(そうでないと、トランシーバーのように、隣にある緑色の「話す」ボタンを押しながら話すことになります。)



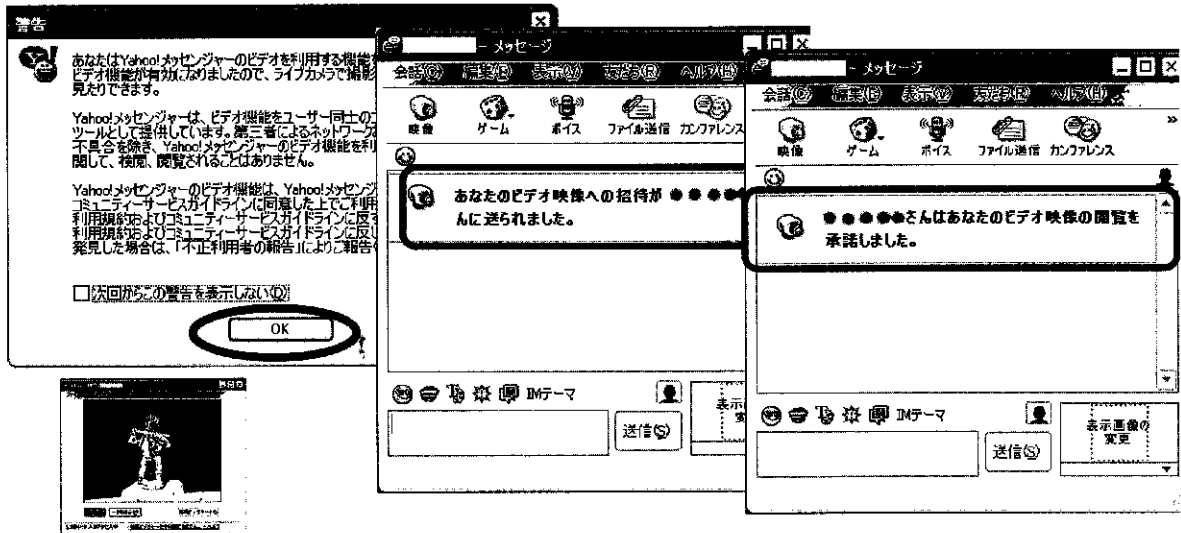
※<相手の画面>もしくは、<相手から音声会話を求められたときの画面>



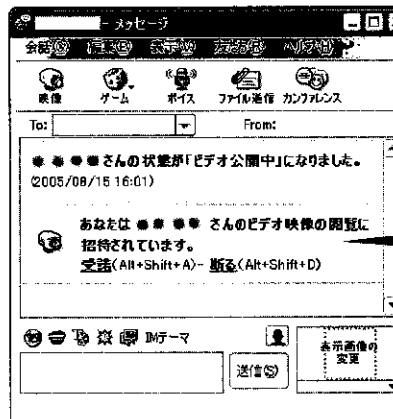
「受諾」をクリック

6. 相手に映像を送るには、カメラの絵が描かれた「映像」ボタンを押します。警告画面がでますが、

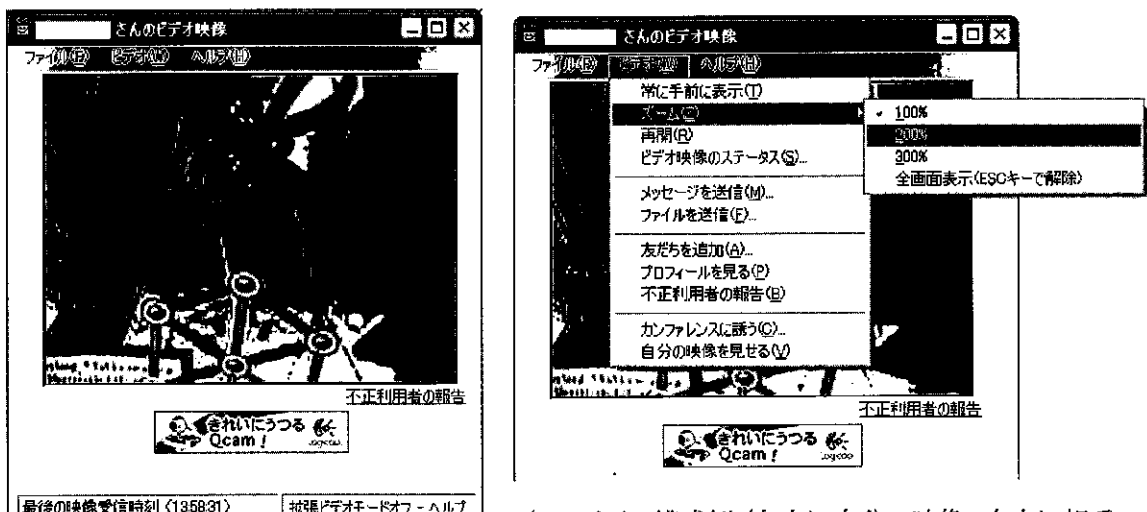
「OK」をクリックします。「あなたのビデオ映像への招待が〇〇さんに送られました」との表示から、「〇〇さんはあなたのビデオ映像の閲覧を承諾しました」との表示になれば、映像の送信完了。



※<相手の画面>もしくは、<相手から映像閲覧を求められたときの画面>

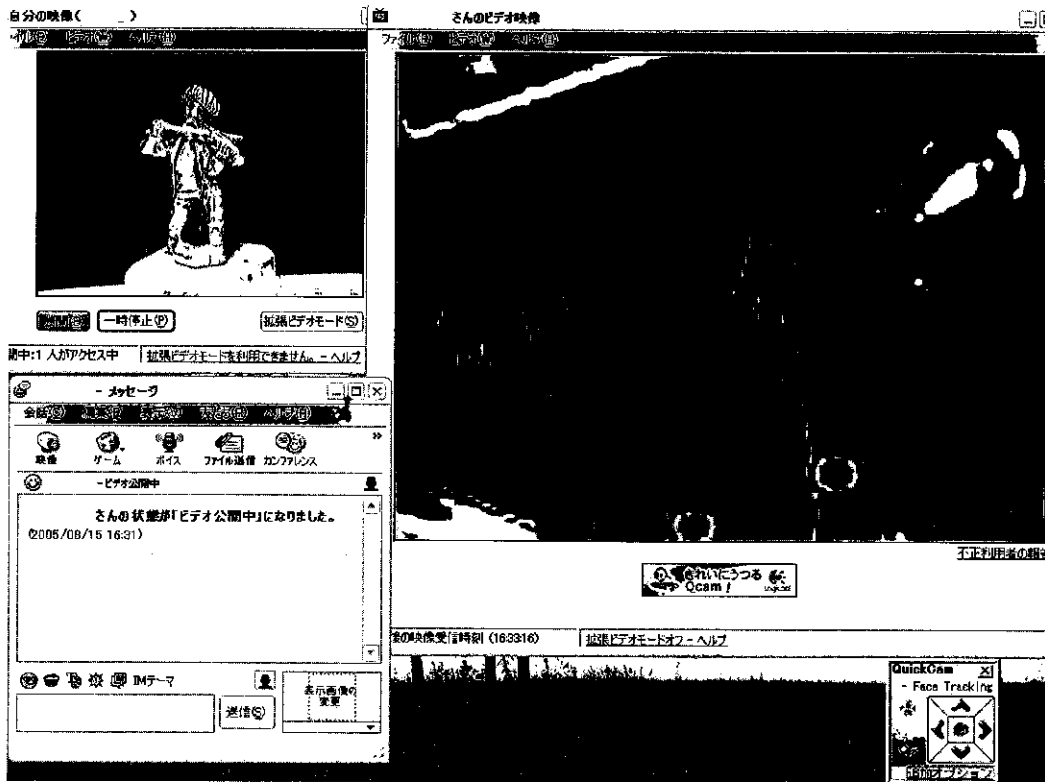


- 相手の映像の表示サイズを変えるには、「ビデオ」メニューから「ズーム」を選び、「200%」などを選択します。



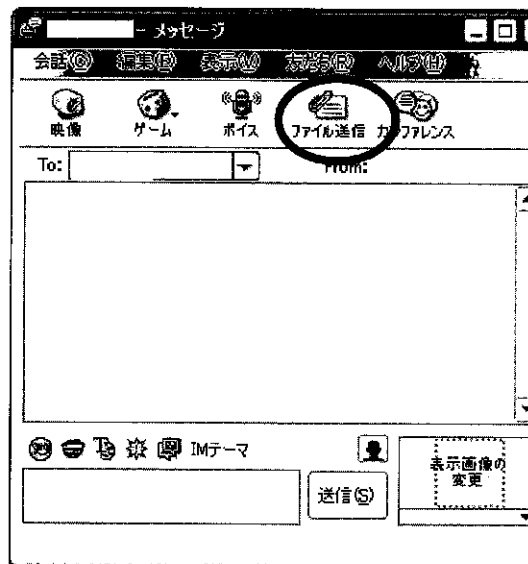
(PC画面の構成例 (左上に自分の映像, 右上に相手の

映像 200%, 左下にチャット)



ネットミーティング上では次のようなことができます。

- ・ファイルの送受信
- など



註1：ネットミーティングを行うためには、ファイアーウォールとの関連から、TCP のポートを設定する必要がある場合があります。

註2：最新版を利用しましょう。

<http://messenger.yahoo.co.jp/>

ブログを作ろう!! (17年度版)

以下では、Yahoo! Japan を用いてブログを作る場合の方法を解説します

ポータルサイトにログイン (Yahoo! JAPAN の場合)

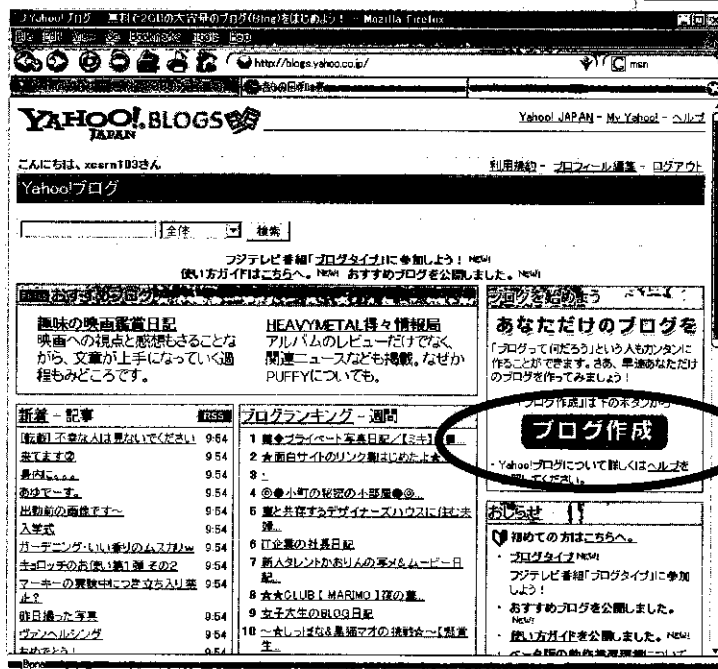
1. <http://www.yahoo.co.jp/> にアクセスし、「ブログ」をクリック



2. Yahoo! JAPAN ID とパスワードを入力
ID は Yahoo メッセンジャーと共通

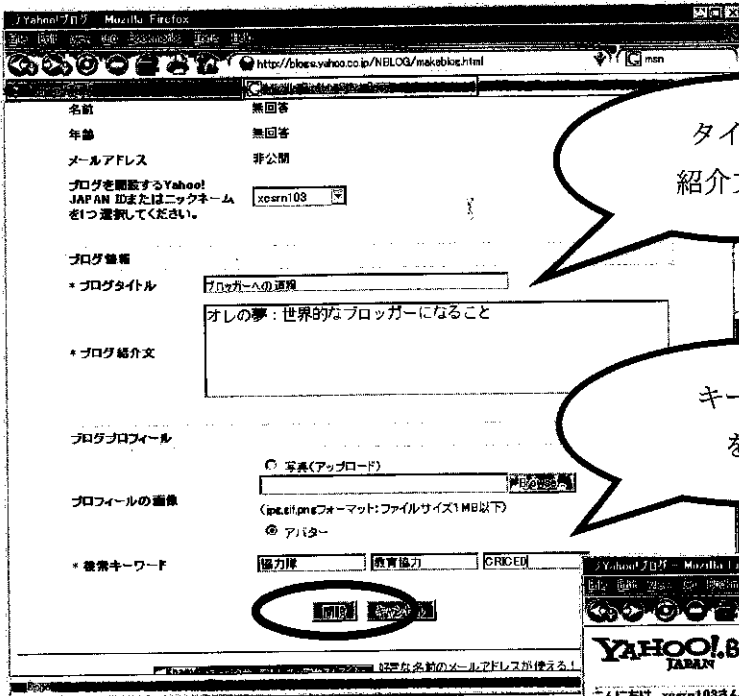


3. ログイン後、いよいよブログ作成へ



ブログを開設しよう

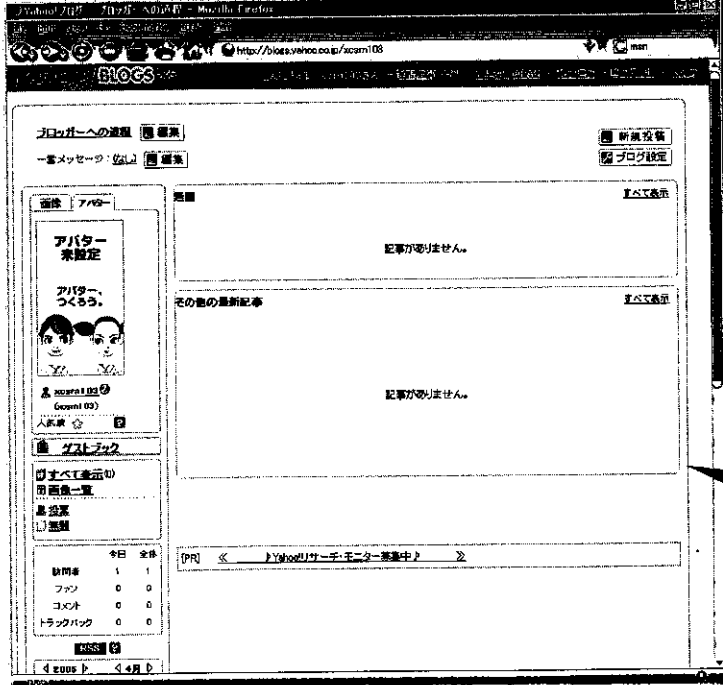
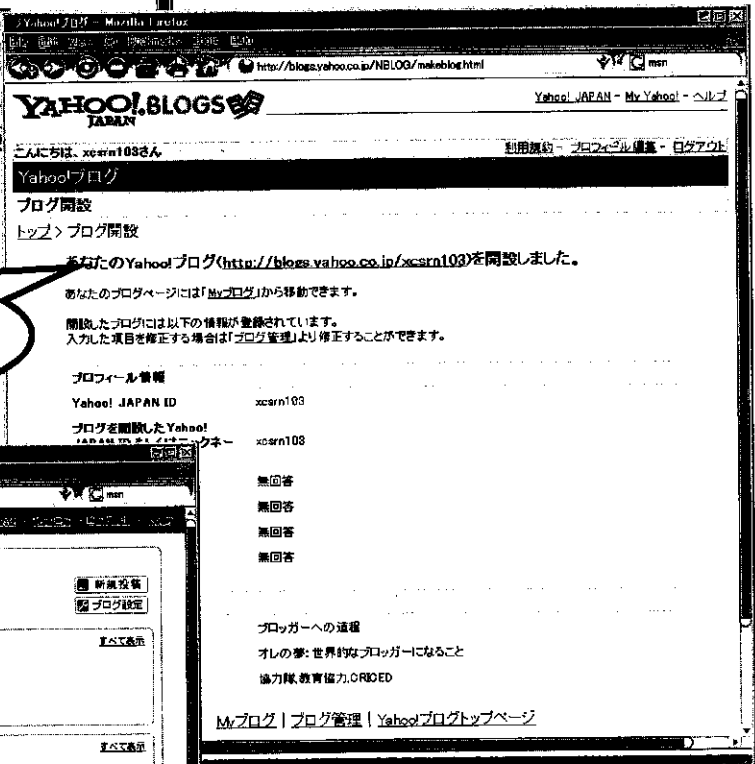
1. 最低必要事項, 「タイトル」「紹介文」「キーワード」のみ入力し開設



タイトルと
紹介文を入力

キーワード
を入力

あなたのアドレス
<http://blogs.yahoo.co.jp/yourID>



できあがり!
まだ何もありません

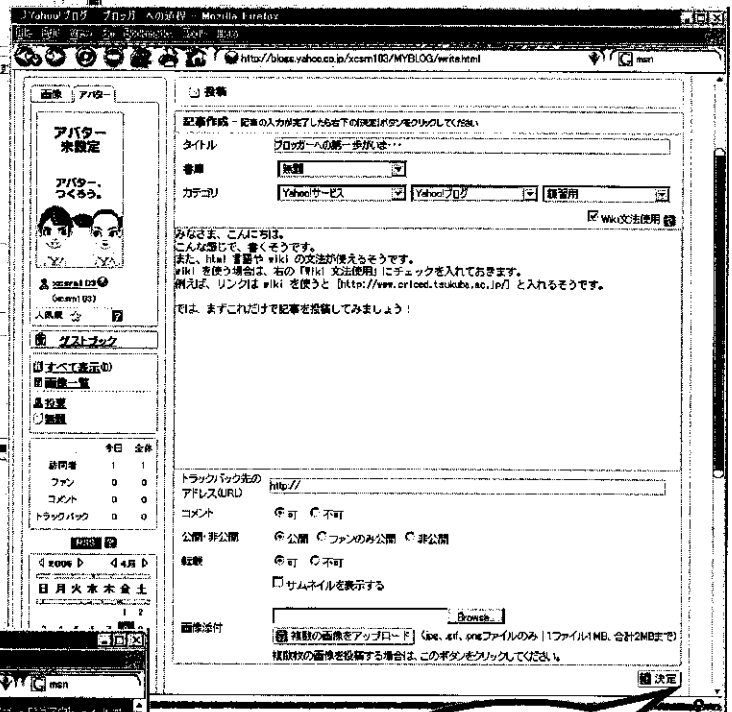
記事を投稿しよう (文章編)

1. ブログのトップページから記事を投稿

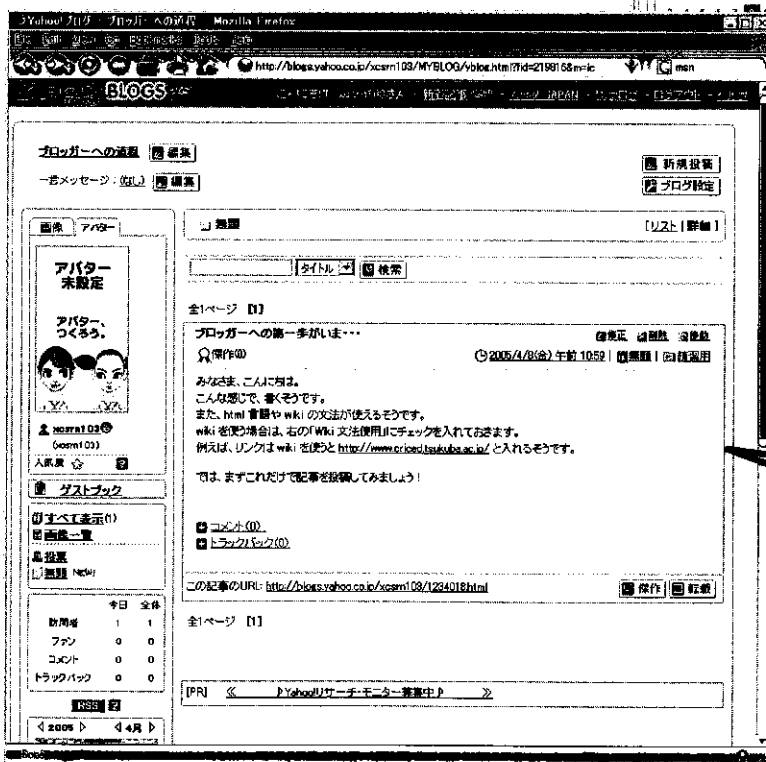


「新規投稿」をクリック

2. 記事投稿画面。タイトルと文章を入力



投稿!



できあがり!

記事を投稿しよう (画像編)

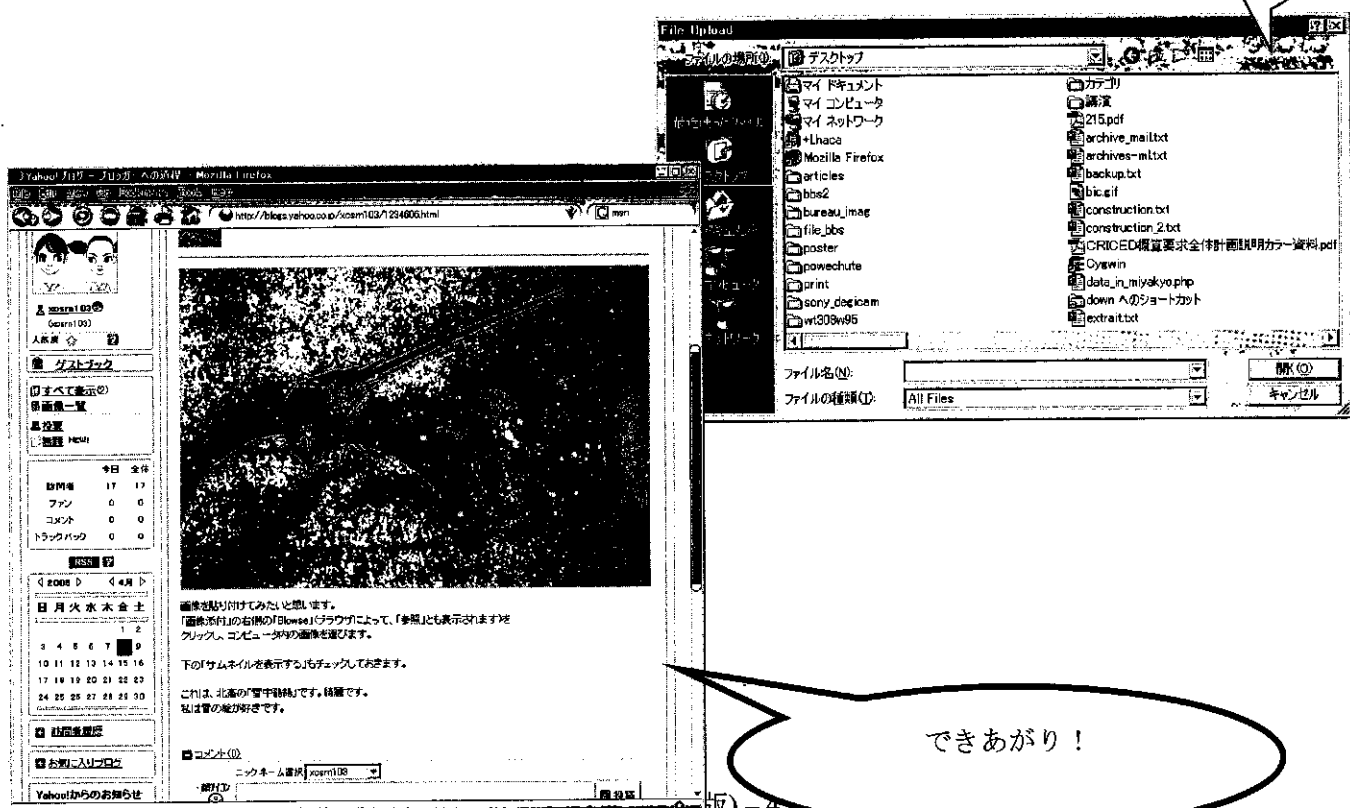
記事投稿画面



タイトルと文章
を入力

ファイルの選択
クリック

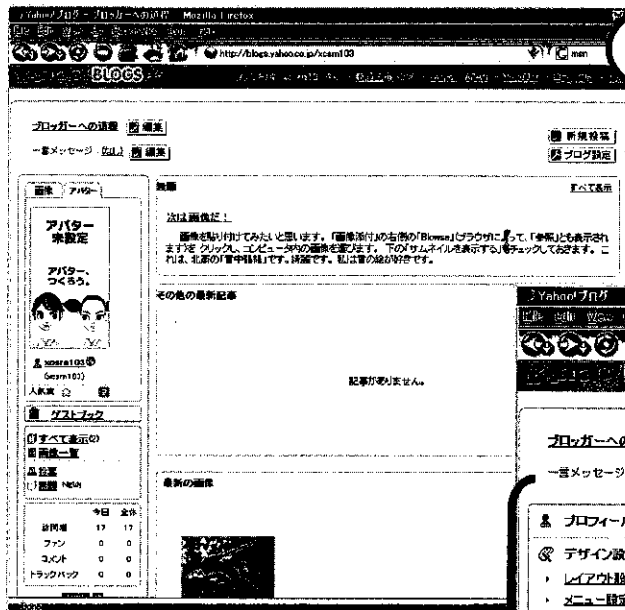
添付するファイルを選択します



できあがり!

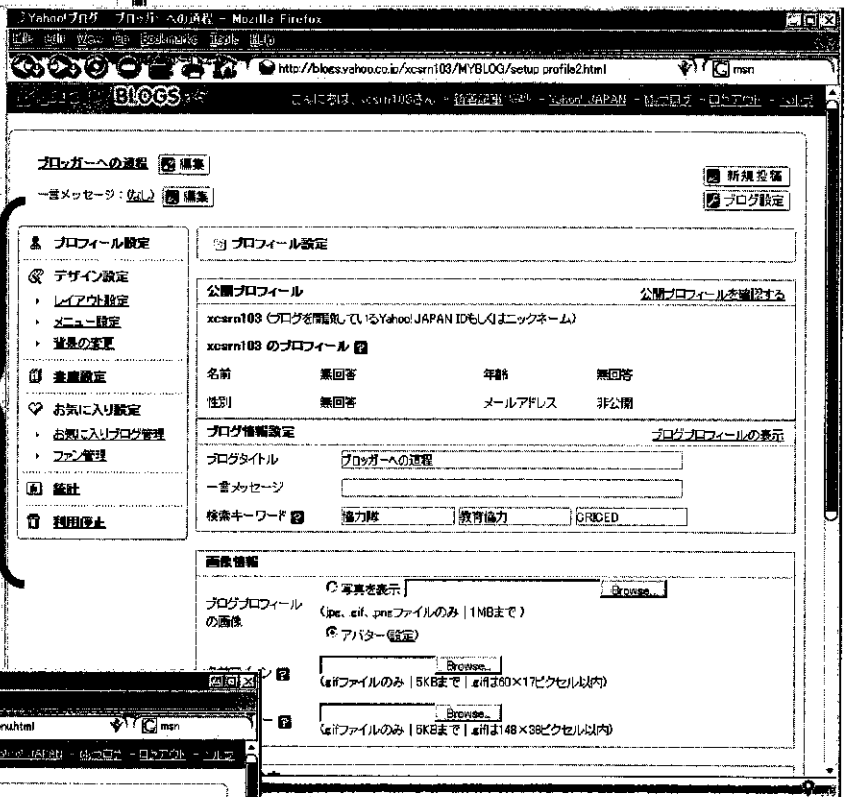
ブログをカッコよくしよう (ブログの設定)

ブログトップページ



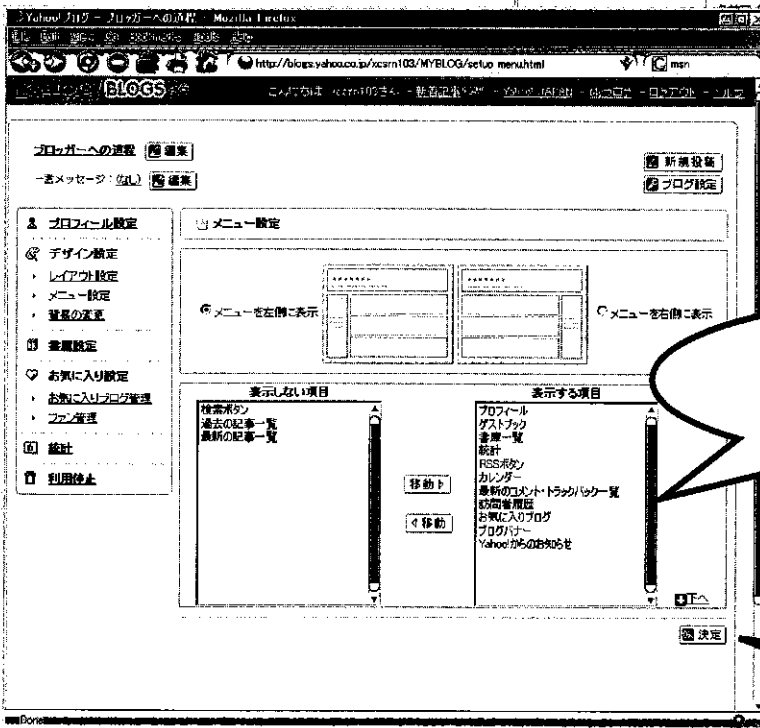
「ブログ設定」をクリック

ブログ設定画面



設定メニュー

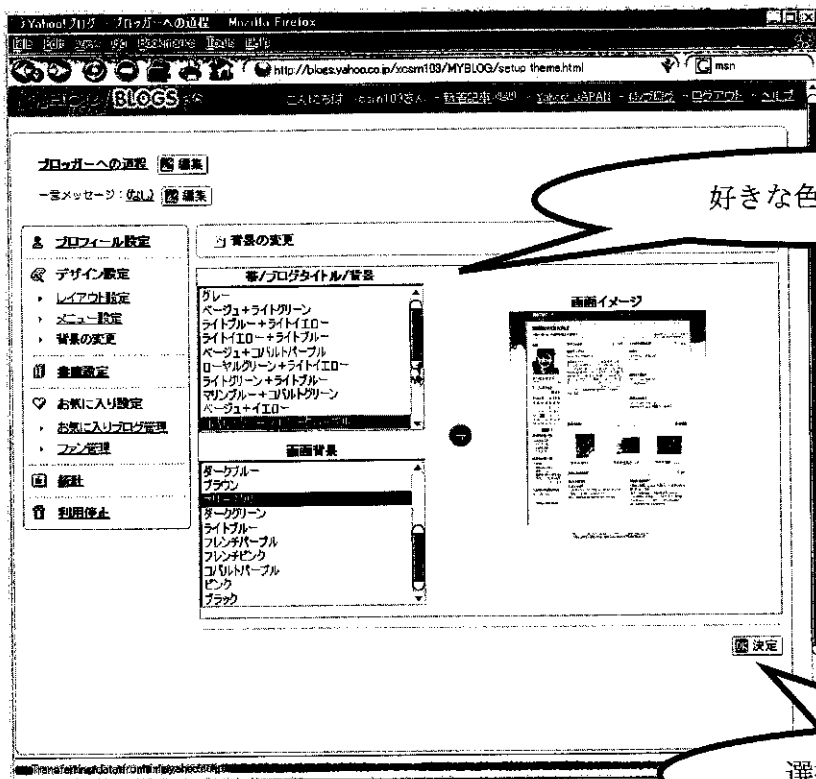
メニュー設定画面



シンプルに表示する項目を減らします

選択後、「決定」をクリック

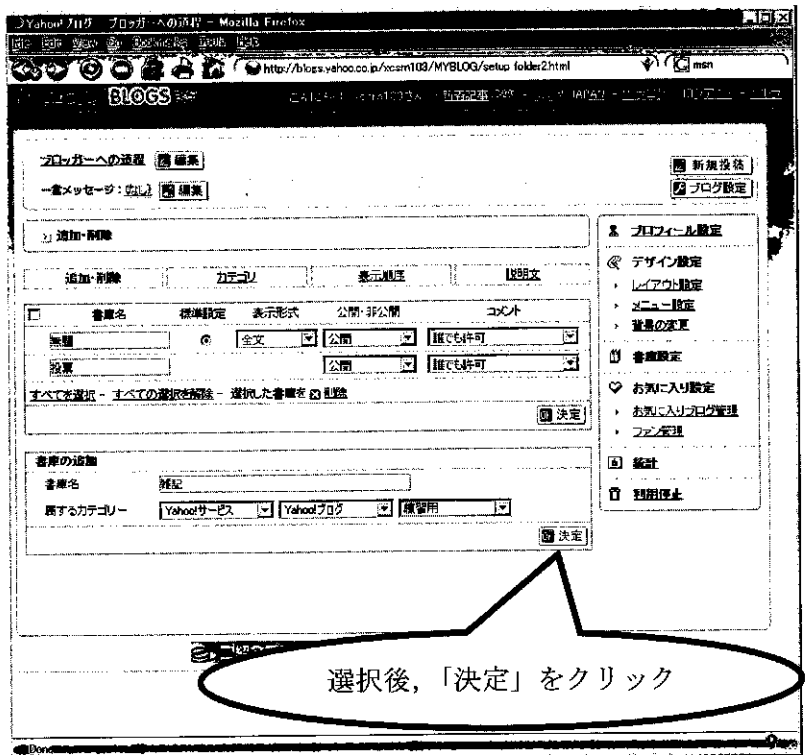
背景設定画面



好きな色を選びます

選択後、「決定」をクリック

書庫設定画面



書庫を追加する
これにより記事を分類できます

選択後、「決定」をクリック

完成！

Yahoo! ブLOGGER - ブロッガーへの道程 - Mozilla Firefox

File Edit View Go Bookmarks Tools Help

http://blogs.yahoo.co.jp/xcsrml03

msn

BLOGS

このブログは ゲストさん - 新着記事 4 記事 - Yahoo! JAPAN - ブログ - ブログ

ブロッガーへの道程

一言メッセージ: simple is the best

お気に入りブログに登録

日記 [すべて表示](#)

雲南省

雲南省は、綺麗だそうです。一度行ってみたいところですが、友人が送ってきた写真を紹介しましょう。綺麗です。実は、この写真、数日前からデスクトップの背景に使わせてもらっています。勝手にアップしたら怒られるかな？まあ許してください。謝謝。

その他の最新記事 [すべて表示](#)

私のコンピュータ 2005/4/8(金)午後 2:16

私のコンピュータについても一応書きましょう。Panasonic の CF-Y2 を使っています。winXPpro と vine linux を入れて使っています。HDD を MK8026GAX ATA100 (80G 9.5mm) に変更しました。5V を 3.3V に変更するためには、41ピンを曲げて電流が流れないようにするだけで OK でした。...[全て表示](#)


私の Linux 2005/4/8(金)午後 2:13

Linux という書庫を作ったので、何か書かないとこがつかないのので、何かかきましよう。私の使っている Linux の distribution は、現在、Vine Linux の 2.6 と 3.1、あと、Redhat 9.0 もあります。以...[全て表示](#)

次は画像だ！ 2005/4/8(金)午前 11:21

画像を貼り付けてみたいと思います。「画像添付」の右側の「Blomse」ブラウザがよって、「参照」とも表示されますが、クリック、コンピュータ内の画像を選びます。下の「サムネイルを表示する」もチェックしておきます。これは、北海道の「雪中鶴鶴」です。綺麗です。私は雪の絵が好きです...[全て表示](#)

最新の画像 [すべて表示](#)



雲南省



次は画像だ！

◀ 2005 ▶ ◀ 4月 ▶

日 月 火 水 木 金 土

					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

[すべて表示 \(5\)](#)

[画像一覧](#)

- [日記 NEW!](#)
- [コンピュータ NEW!](#)
- [浮世絵](#)
- [Linux NEW!](#)
- [投票](#)

最新のコメント

- 記事と一緒に表示される...

[すべて表示](#)

	今日	全体
訪問者	30	30
ファン	0	0
コメント	1	1
トラフィック	0	0

訪問者履歴

画像 アバター

アバター未設定

アバター、つくろう。

平成 18 年度「青年海外協力隊現職教員特別研修」(派遣前研修)の成果と課題

筑波大学教育開発国際協力研究センター (CRICED)

派遣現職教員支援課題 代表者 礒田 正美

担当者 茅野 公穂

1. はじめに

青年海外協力隊現職教員特別研修(派遣前研修)は、派遣現職教員支援課題の一環として、JICA 青年海外協力隊(JOCV)、文部科学省、及び筑波大学教育開発国際協力研究センターが共同して計画、実施するものである。その目的は、派遣現職教員が現地でより一層活躍する上で生じうる課題とその解決に向けての準備意識を高め、派遣隊員としての専門性を高めることにある。そのために、日本の教育経験や協力経験、個別協力体験等の紹介を通して、派遣現職教員が教育経験を現地に活かす上での課題の明確化及び、その課題解決や解決を試みる中で得た経験や教訓を日本の教育現場に還元する具体的な方法についての研修を行った。

講座『役立つ日本の授業研究』(平成 15 年度)及び、講座『日本の教育経験・協力経験の活用と隊員が直面する課題』(平成 16 年度)は、訓練所ごとに行われてきた。平成 17 年度は、それまでの成果と関係機関、特に青年海外協力隊事務局のご配慮により、訓練所入所前に、開発教育セミナー、拠点システム構築事業課題からの発表、及び ICT 能力拡充研修を含めて実施した。

これまで、アンケート及び派遣現職教員との懇談を通じた反省をもとに、講座の内容・方法を改善して実施してきた。本年度の派遣前研修の特色は、拠点システム構築事業代表者の発表を昨年以上に拡充した点にある。一方、帰国隊員報告会の拡充は研修実施時期が年度初めであったため実現できなかった。また、1 日半という日程のため、ICT 研修についてすべての内容を全員が実習することも実現できなかった。

2. 研修の概要

本研修の構成は、大きく 6 つの部分に分けられる。第 1 部では、文部科学省大臣官房国際課国際協力政策室長 大山真未様、並びに国際協力機構青年海外協力隊事務局国内グループ長 橋口道代様より激励のご挨拶を頂いた。第 2 部では、JICA 人間開発部第 1 グループ長 萱島信子様より「JICA の教育協力について」、国際協力機構広尾センター 園山昌和様、開発教育協会 (DEAR) 西あい様、並びに青年海外協力協会 (JOCA) 土橋泰子様より「帰国後の社会還元について」、それぞれ講義を設けた。第 3 部では、筑波大学の茅野公穂より「国際教育の推進について」、筑波大学の礒田正美より「拠点システム構築事業派遣現職教員支援課題」について、それぞれ説明した。第 4 部では、任務を終え帰国した派遣現職教員 3 名 (14-1 及び 15-1 次隊) を講師として招き、現地での活動の実際やそこから得られた具体的な教訓を受講者が共有できるようにした。第 4 部終了後、受講生と講師 (関係者、大学教員、帰国隊員) との懇親会が設けられ、参会者はさらなる情報交換やつながりをもつことができた。

第 5 部と 6 部は、翌日 2 班に分けて行われた。第 5 部では、「拠点システム構築事業代表者発表」として、学校経営課題 (筑波大学 佐藤真理子)、幼児教育課題 (お茶の水女子大学 浜野隆)、障害児教育課題 (筑波大学 中田英雄)、環境教育課題 (宮城教育大学 島野智之、東京学芸大学 原子栄一郎)、学校保健課題 (鳥取大学 國土将平)、家庭科課題 (日本女子大学 佐々井啓)、算数・数学教

育課題（筑波大学 磯田正美）の講義を設けた。第6部では、途上国における教育活動を相互支援するための ICT 研修を、筑波大学の青山和裕、宮川健、矢原弘樹が担当し実施した。この ICT 実習では、Skype やネットミーティング、及びアーカイブスへのアクセスについては全員が実習し、ブログの作成、ビデオ編集については受講者の希望を基にした選択により実習が行われた。

3. 研修の成果と課題

アンケート結果及び受講者との懇談から、本研修は、受講者に全般的に概ね好評であり、さらなる時間的、内容的充実を望むものであったといえる。各講義も、時間、内容とも概ね受講者から満足頂いている。本研修の主な成果としては、以下の3点があげられる。

- ・派遣前訓練が始まるまでに派遣現職教員全員が集まった派遣前研修を開催したことは、人的ネットワークの形成、派遣前訓練の充実、ならびに早めの情報入手による時間の有効利用等の観点から、有効であった。
- ・拠点システム構築事業代表者発表は、研究成果の存在を知らせるために有効であった。
- ・ICT 研修は、受講者の情報作成及び情報発信の手段に関わる技能向上に有効であった。

以下は、こうした成果に係わるアンケートの自由意見記述からの抜粋である。

2 日間の研修は、始まる前は正直気が重かったのですが、大変参考になることが多く、また多くの方と交流することができ、とても有意義なものになりました。ありがとうございました。

今回の講座を通して、出発前の不安の一つ一つが解消されていったように思います。とても有難い研修でした。ありがとうございました。

途上国での教育の研究が各大学でこれほどまで活発になされていることを知りませんでした。この研修で学んだことを、1つでも多く活用していきたいです。

専門の域を超えた幅広い内容だった。今後の活動に反映させていきたいと感じた。一般参加隊員とはまた違う視点での取り組みが求められていることを強く感じた。

派遣中の家族とのコミュニケーションはもとより、子どもたちの交流の場としての skype の操作を教えていただいてとても役に立った。

skype を使った研修では、実際現地に行ってから不安に思っていたほかとの連絡方法について、顔が見えて話せるという、とても活用頻度の高いものを紹介していただき、実際に使えるようになって有難かったです。ブログ作りも良かったです。

ビデオ編集の班になってしまったが、かえって良かったなあと思いました。パソコンを活用するのは苦手な私でもできました。Skype を是非活用したいです。

今回、ブログ作成と DV 編集との2つに分かれての研修でしたが、どちらも是非受講したいという思いがありました。ブログ開設をしたかったので(在籍校 HP にリンクさせるという訓練前の約束もあり)大変役に立ちました。ありがとうございました。

一方、今後の研修会に向けての主な課題として、以下の5点があげられる。

- ・派遣前訓練が始まるまでの時期に派遣現職教員全員が集まった研修を開催することは好評であるが、もう少し早めの時期を要望する意見がある。その理由は、今回の研修を受けてさらに訓練前に準備する時間を確保したいという意見、及び年度末年度初めの多用・多忙という意見に集約される。
- ・帰国隊員による報告会の講義時間を拡充してほしいとの要望が14%ほどある。
- ・ICT研修の時間枠の拡充を望む意見が1/4の割合にのぼっている。ICT能力拡充研修では、すべての受講者が学ぶ内容をさらに拡充させつつ、能力差への柔軟な対応が課題といえる。個別対応に好感を抱く受講者もいる一方で、すべての内容を学びたいとの要望を抱く受講者、さらには自己学習を前提に選択履修を希望する受講生もいるためである。また、OSのバージョンを事前通知した結果、昨年に比べPCの設定に係るトラブルは減ったもののまだ数件のトラブルがあった。事前通知の内容について検討する必要がある。
- ・拠点システム構築事業代表者発表については、拠点システムなどを活用した実践例やこのように役に立ったということが聞きたい、あるいは職種ごと少人数でもう少し深く専門について話を聞きたい等の要望がある。発表の実施方法・内容について検討が必要である。
- ・配付資料が多い（荷物を減らしたい）との意見が寄せられている。配布物ならびに配付の際のメディアについて検討する必要がある。

以下は、こうした課題に係わるアンケートの自由意見記述からの抜粋である。

可能であるならば、もっと早い時期に行くことはできないだろうか。

職種ごと(または、希望選択して)少人数でもう少し深く専門について話を聞きたかった気がします。

意識を高めることができよかったが、自分の職種での具体的な活動の参考になる講座がもっとあると良かった。派遣中や、帰国後のサポート体制が整っていることはよくわかり、是非活用させていただければと思った。

拠点システムなどを活用した実践例、このように役に立ったということがきけると良いと思った。

アーカイブを紹介していただき、活用しようと思いました。しかし、自分の派遣される国で見ることができるか(アクセス)という情報があるともっと良かったと思いました。

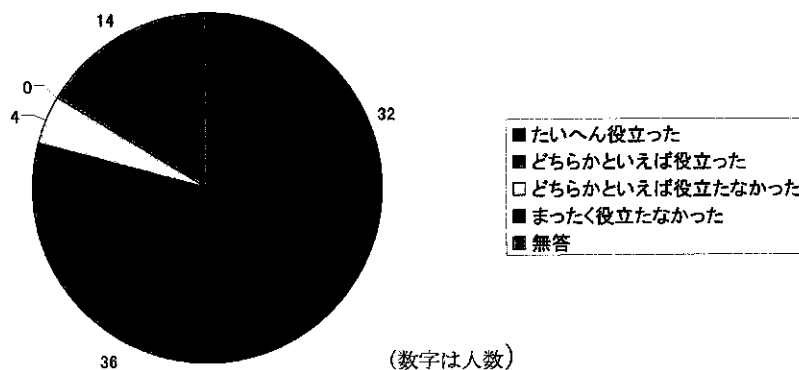
(ICT研修は)分かりやすい冊子があり、自分で読みながら、自分のペースで進めることができたのが良かったと思います。ブログとDVの希望制だったがどちらもやってみたかった。もう一日研修の時間を増やすことはできないのでしょうか。

今後、日本の教育協力経験を踏まえ、より青年海外協力隊隊員としての専門性を向上すべく、これらの課題を解決しつつ中長期的な視野から研修講座を実施する必要がある。

資料：アンケート結果の集計

講座全体

今回の研修の全体的な評価を次の中から選択して下さい(4段階)



自由意見記述の集約 ※()内の数字は人数を表す。

【実施時期・方法】

- ・研修の時期を別の時期にしていだきたい。何ヶ月か前にやっていただくか、訓練所でやっていただきたい。(1)
- ・訓練前の方がいいと思いました。準備期間を考えると入所まで2・3日余裕がある方がいい。(1)
- ・可能であるならば、もっと早い時期に行くことはできないだろうか。(1)
- ・同じ気持ちを持った仲間を作ったり、派遣されるにあたっての心構えをしっかりと持つことができたので良かった。(1)
- ・多くの方と交流することができ、とても有意義なものになりました。(2)
- ・今まで意識していなかったことにも目が向き、がんばろうという気になりました。(1)
- ・現職教員でなくても、学校・教育分野で活動する人はいるはずなので全体でできると…。(1)
- ・講座の内容は一つ一つすばらしい研究・事業だとは思いました。しかし、何故現職教員にのみ話す内容か、教員を全員あつめる必要のあるものなのかということは大変疑問です。时期的にも時間・体力的にも負担の割に成果と目的が十分に感じられませんでした。(1)

【講座内容】

- ・現職教員としていくことの意義や役割を改めて考えさせられるよい機会となった。(9)
- ・今回の講座を通して、出発前の不安の一つ一つが解消されていったように思います。(1)
- ・ひとつの講義から知識を得るだけでなく複数の着想をも得ることができました。(7)
- ・1つの話が30分程度で、気持ちよく聞ける時間配分でしたが、結局「なんとなくわかった」ということで終わってしまいそうでした。(1)
- ・全般的なお話が多かったので分野ごとにもう少し詳しいお話を聞きたかったなと思います。各国ごとというのは難しいかもしれませんが教科を選択して、その指導において多く見られるような課題にはどのようなものがあるかといった講義があれば良いと思います。(1)
- ・職種ごと(または、希望選択して)少人数でもう少し深く専門について話を聞きたかった。(2)

- ・もう少し「拠点システム構築事業」「アーカイブとは」の段階からの丁寧な説明があると良かったと思う。(3)
- ・アーカイブに関しての意義は十分に理解できたが、もっと具体的な活用法や工夫を教えてもらいたかった。(1)
- ・拠点システムなどを活用した実践例、このように役に立ったということがきけると良い。(1)
- ・アーカイブを紹介していただき、活用しようと思いました。しかし、自分の派遣される国でそれが見ることができるか(アクセス)という情報があるともっと良かったと思いました。
- ・拠点システムアーカイブを実際に利用していきたいと思う。(3)
- ・途上国での教育の研究が各大学でこれほどまで活発になされていることを知りませんでした。この研修で学んだことを、1つでも多く活用していきたいです。(1)
- ・ICT 研修や必要な情報をどのように入手したらよいかというお話がたくさんあり、とても役立ちました。(2)
- ・ICT を活用して国際協力(情報発信)をしていきたいと思います。
- ・帰国後の報告会は、2年間最終的に良かったという話が多い。本当に苦勞してどのように対処したのかなどのお話が極めて少ないなと感じた。(1)
- ・豊富な資料を提供していただき大変ためになった。今後の研修、任国での活動に活かして生きたい。(1)

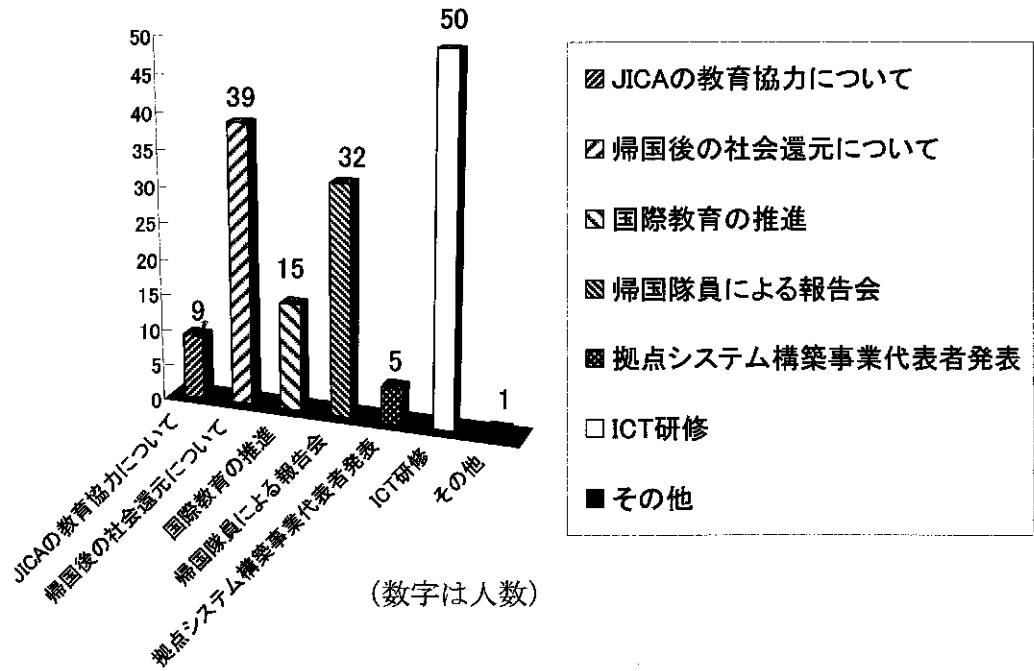
【方法】

- ・講義形式はやはり眠くなる。開発教育のように参加型にしていくと良いと思う。(1)
- ・ワークショップ形式のようなものも含まれていると講座にメリハリが出て良いのでは？ (1)
- ・プレゼン用の画像が大きいと見やすくてよいと思います。

【その他】

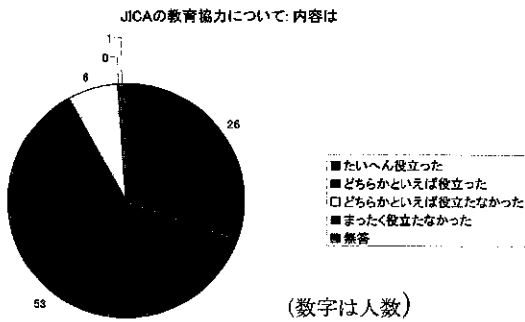
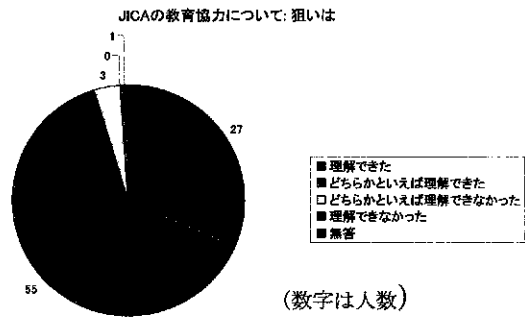
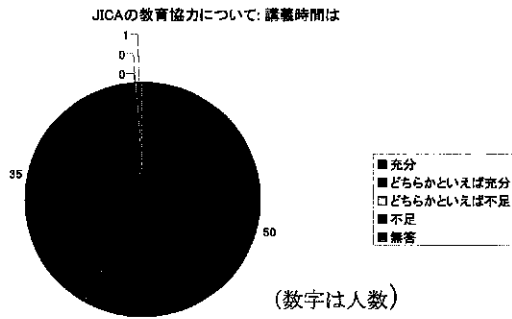
- ・派遣中や、帰国後のサポート体制が整っていることはよくわかり、是非活用させていただければと思った。(1)
- ・訓練所に向かうこの時期に、有益とはいえ大量の資料を渡されるのは少し辛いです。この研修に参加しなければ目にする事のない資料もあるので、資料は欲しいが荷物は増やしたくない…どうにかありませんか。PCも持参しているので考慮していただけると有難いです。(3)
- ・拠点システム構築事業は、詳しい資料があつて良かったが、あまりに膨大であつた。CD・DVD・HPをうまく活用できるような紹介があれば、自ら興味・関心がある文だけ選択肢、参考とできると思う。
- ・アーカイブのメールアドレス一覧表はないのかなと思った。
- ・音楽を教えるので、その資料もあつたらなお助かりました。
- ・休憩5分は女性には厳しいです。トイレが混んで講義に遅れてしまいました。
- ・様々な支援、サポートがあることを改めて実感しました。
- ・記念写真はグッドアイデアだと思う。
- ・ここまで細かく準備していただき、ありがとうございました。

一層深めたいプログラムは次のどれですか
(複数選択可)

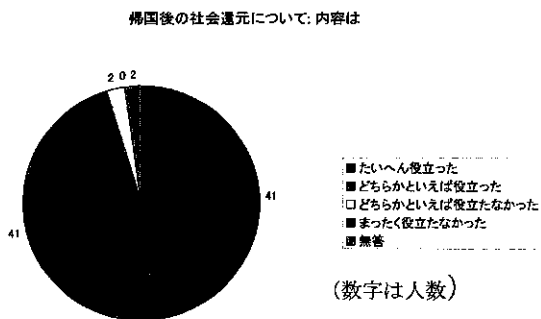
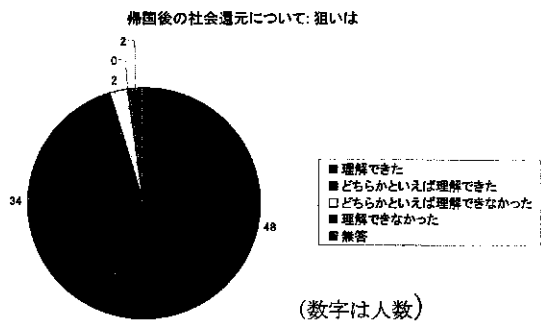
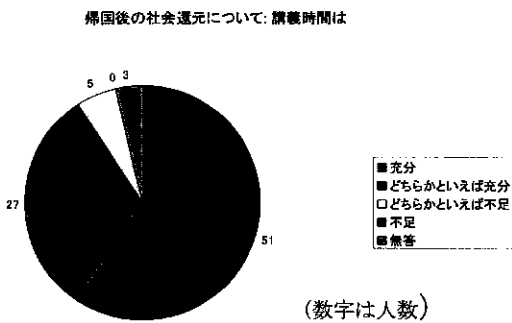


その他の1名は、「基礎教育分野の協力事業一覧」と記入している。

JICA の教育協力について

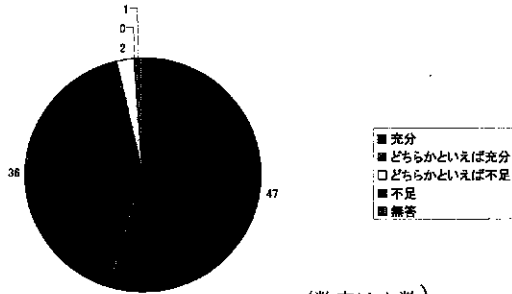


帰国後の社会還元について



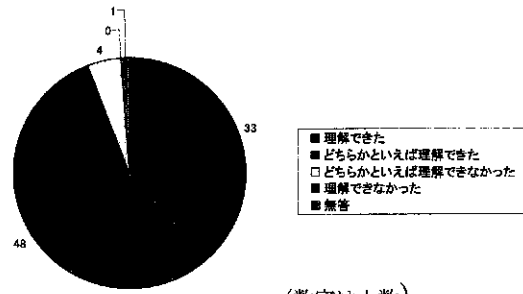
国際教育の推進

国際教育の推進: 講義時間は



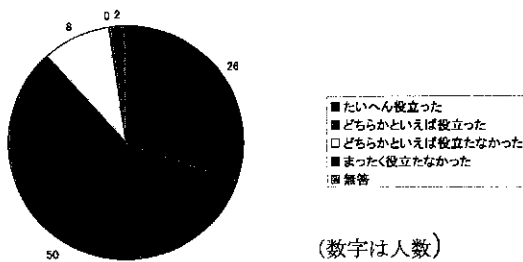
(数字は人数)

国際教育の推進: 狙いは



(数字は人数)

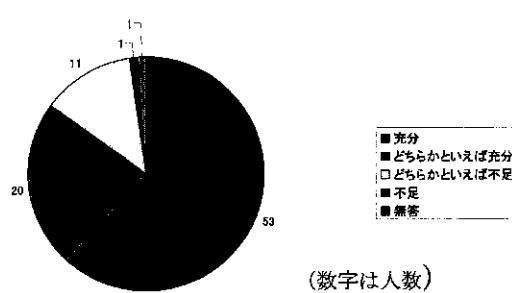
国際教育の推進: 内容は



(数字は人数)

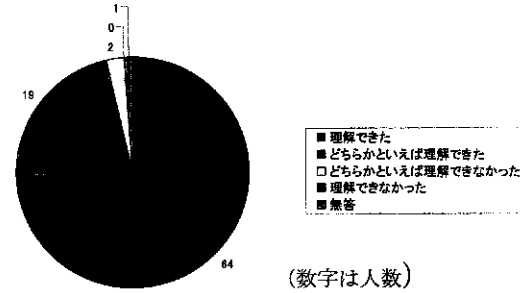
帰国隊員による報告会

帰国隊員による報告会: 講義時間は



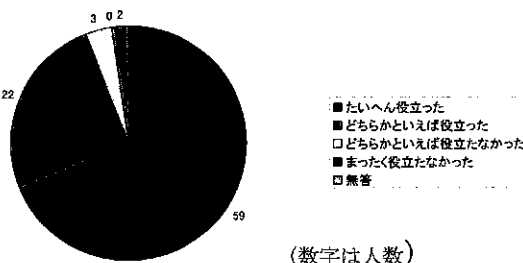
(数字は人数)

帰国隊員による報告会: 狙いは



(数字は人数)

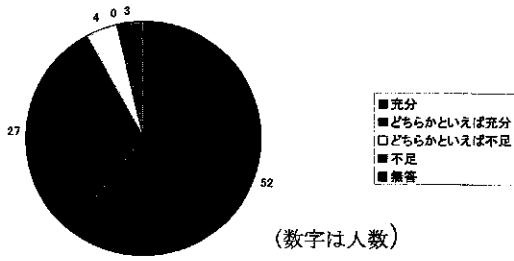
帰国隊員による報告会: 内容は



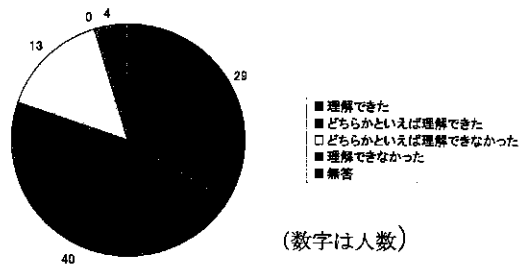
(数字は人数)

拠点システム構築事業各課題

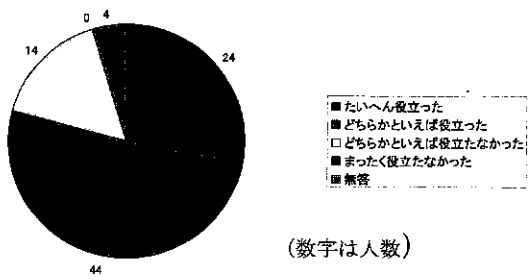
拠点システム構築事業各課題: 講義時間は



拠点システム構築事業各課題: 扱いは

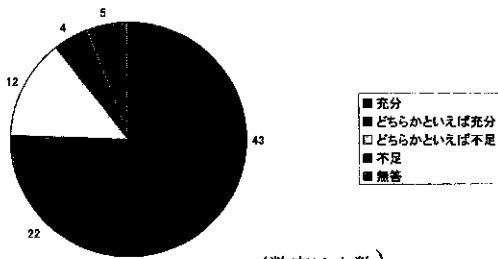


拠点システム構築事業各課題: 内容は



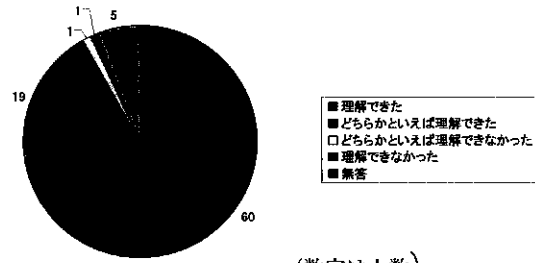
ICT 研修

ICT研修: 実習時間は



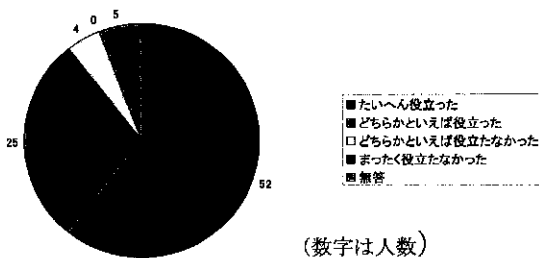
(数字は人数)

ICT研修: 狙いは



(数字は人数)

ICT研修: 内容は



(数字は人数)

自由意見記述の集約 ※()内の数字は人数を表す。

【事前案内】

- ・ Windows Xp という案内はあったが、さらに、PC のどんな設定が必要か、どんな周辺機器を用意したらよいか、必要なスペックなどの連絡があればよかった。(3)

【内容】

- ・ 1 から教えていただいたので、「できそう」「やってみようかな」という気持ちになりました。(3)
- ・ どちらも興味はあったけど、学ぶ機会がなかったのでもっと役に立ちました!(4)
- ・ パソコンを使って、高度な技術を教えていただいて、大変参考になりました。様々な情報を知る方法も教えていただいてありがとうございました。是非今後も継続していただけると幸いです。(1)
- ・ ビデオ編集の班になってしまったが、かえって良かったなあと思えました。パソコンを活用するのは苦手な私でもできました。Skype を是非活用したいです。(1)
- ・ 情報発信能力とネットワーク構築の重要性がわかりました。(1)
- ・ とても充実していました。今後、活用できそうです。(3)
- ・ skype を使った研修では、実際現地に行ってから不安に思っていたほかとの連絡方法について、顔が見えて話せるという、とても活用頻度の高いものを紹介していただき、実際に使えるようになって有難かったです。(2)
- ・ 子どもたちの交流の場としての skype の操作を教えていただいてとても役に立った。(1)
- ・ Skype は使ってみたく思っていたので、良かったです。
- ・ ブログ作成をしたいと考えていたので、とても役に立つ研修だった。(2)

- ・ブログ開設をしたかったので（在籍校 HP にリンクさせるという訓練前の約束もあり）大変役に立ちました。（1）
- ・DV 編集で参加したが、勉強しようと思っていたところだったのでとても良かった。大変実用的なので是非活用したい。（2）
- ・ブログではなく、ホームページ作りでも良かった。（1）
- ・もう少し高度な内容があると良いと思いますが、全体的にはそれほど詳しくない方も多かったので仕方がなかったかなと思います。（1）
- ・LAN の設定の仕方から教えていただけると、ありがたいです。でも、レベルの（コンピューター操作の）全く違う人が集まるので、難しいと思います。（1）
- ・リスクやデメリットについても取り上げないと、教員の情報モラルの現状から考えると、とても恐ろしく感じます。（1）
- ・訓練所でのネット環境、任地でのネット環境を考えたときに活用は難しいかなと思いました。（2）
- ・大変ためになることを教えていただいた。現地の ICT 環境がよくわからないので、より現状に即した対応はどのようにすればよいのか不安は残る。時間が短く、駆け足だったのが残念だったが、活用の可能性が見えてきた。（1）

【方法】

- ・前日に配布していただいた分かりやすい資料冊子があり、自分で読みながら自分のペースで進めることができ、忘れてもまたできると思います。（3）
- ・派遣先でとても有効と思いました。これからの活動に役立つ。（3）
- ・ブログもデジタルビデオ編集も現地に行ってから必ず活用させていただきます。（1）
- ・ビデオ編集の方を選択したのですが、任地での活動をまとめる、そして日本の職場に伝えるのにぜひ使いたいと思います。（1）
- ・ブログ作成、ビデオ編集の両方やりたかった。両方ともに関われるとなお視野も広がるのではないかな。現地で大きく役に立つ。（11）
- ・ブログと DV の希望制だったがどちらもやってみたかった。もう一日研修の時間を増やすことはできないのでしょうか。（1）
- ・丁寧に、わかりやすく個別対応して頂きありがたかった（7）。
- ・もっと時間をかけて、いろいろと教えていただきたかったです。（7）
- ・後半それぞれ個人でコンピューターに向かう時間が長いように思えたので申す越す時間を有効に使えると良いと思います。（2）
- ・現職教員だけが必要な研修でなく、全体でやってもいい内容だと思いました。しかし、わざわざ研修というかたちで集めて時間をとってやるより、自己学習をして、訓練前までにやっておくことに入れておいてもらい、自分でできない人のためのサポートをしてくれる場を作ってもらえるとよりよいと思いました。（1）
- ・ICT テキスト集のようなものがございましたら、参考にすることができると思いました。（CD 化していただくを持ち運びすることが楽になる）（1）

【その他】

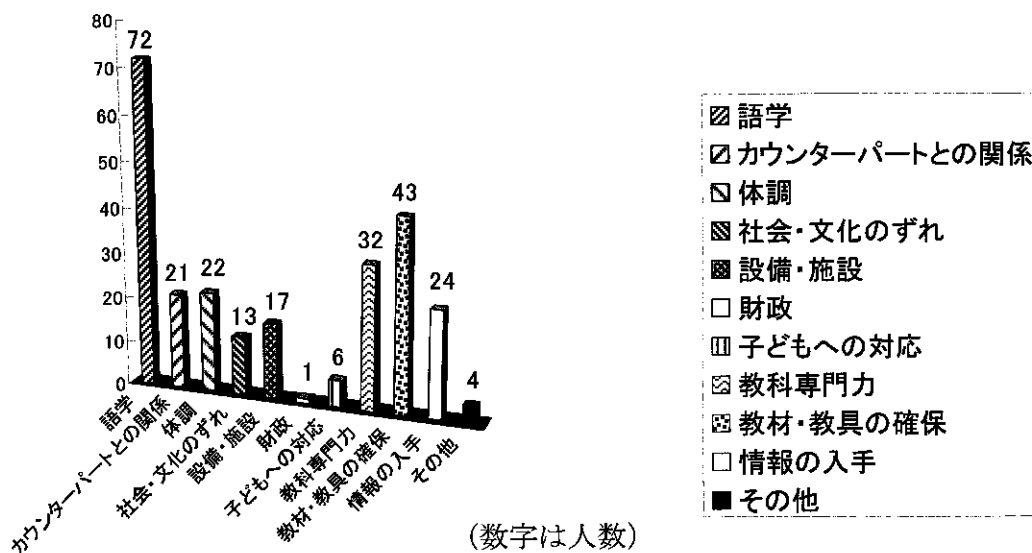
- ・研修内容はとても役に立ったが、任地のインターネット接続状況・方法（プロバイダ等）を知りたい（2）。
- ・これから ICT を活用するのは大変良いことだとは思いますが、現職参加全員に「課す」内容になると

したら、JICA の活動自体が狭いものになるように感じました。逆に現職参加に限らず、もともと技能のある方、興味のある方など幅広く希望者を出席させてもらえれば現地に行ってから広がると思います。(1)

- ・特に自分の PC を持ってくる必要はなかったと思った。IT1 ヶ月研修を昨年受講したので、内容がだぶっていて、希望者のみ受講でも良かったのかなと思った。(1)
- ・各個人の PC 持参は、現地で使用する PC と同じである先生がほとんどであるので役立つと思ったが、接続がうまくいかない人も多く、問題点もあった。一斉研修であるので、できたら、同一の PC で接続ロスなどないように場所・環境の設定を考慮していただきたい。(1)
- ・これだけのことをできる時間的・精神的余裕ができれば、と思います。(1)

4-(a). 「教育系の職種で派遣される隊員」の方にお尋ねします

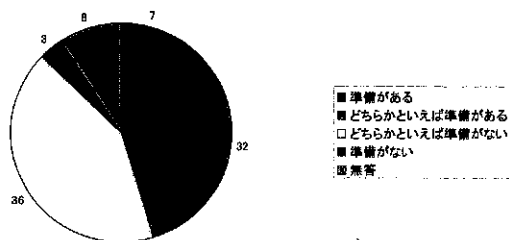
派遣先での教育活動にあたって、
現時点でどのような面に不安をお持ちですか？
(複数可)



その他は、「テロ」、「パソコンを使った情報入手、提供等」、「指導・支援にあたっての能力」、「インターネットが常時できるような場所であるか…」である。

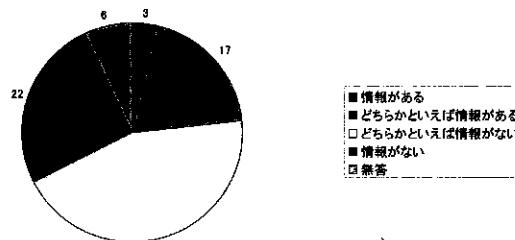
「教育系の職種で派遣される隊員」への質問（続き）

派遣先で教育活動を進めるにおいて、
今までの経験から、派遣先で使える教材などの



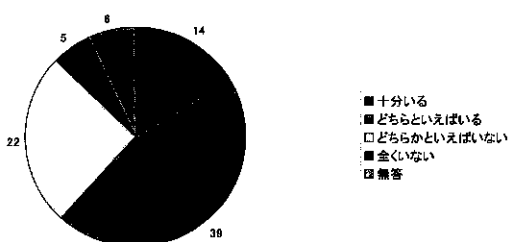
(数字は人数)

派遣先で教育活動を進めるにおいて、
派遣先で教育活動を進める上での



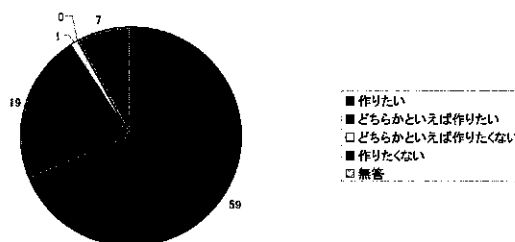
(数字は人数)

派遣先で教育活動を進めるにおいて、
派遣先での問題を相談でき、支援してくれる仲間が日本に



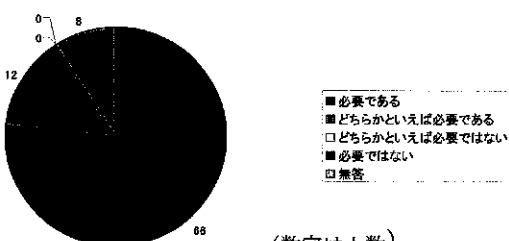
(数字は人数)

派遣先で教育活動を進めるにおいて、
派遣先での隊員間や日本の関係者との間にネットワークを



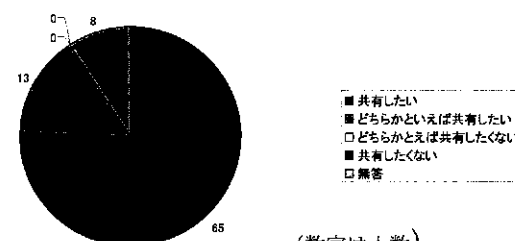
(数字は人数)

派遣先で教育活動を進めるにおいて、
日本や派遣先での教育活動を相互支援する体制は



(数字は人数)

派遣先で教育活動を進めるにおいて、
自分が派遣先で得た情報や教訓などは、多くの関係者と



(数字は人数)

4-(b). 「教育系の職種以外で派遣される隊員」の方にお尋ねします

本講座の内容は、あなたの派遣先での活動にどのように役に立ちそうですか？

ICT研修によって、便利なコミュニケーションツールを紹介していただいたので、任地から、在籍している学校へ現地の生活の紹介ができそうです。

文化センターの運営についてのヒントを得られそうです。佐藤教授から、より専門性の高い教授を紹介してもらえそうです。

養護は教育系ではない分類にあったように思います。要請によって、教育から離れるものもあるかもしれませんが、教員の立場としては、疑問に思うところもあります。

日本の教育について説明をする心の準備ができました。ビデオ編集研修は役立つと思います。派遣先でのニーズによっては、役に立つと思います。

各課題の主なアーカイブ登録成果物一覧表

（近日公開予定のものも含む）

派遣現職教員支援と支援ネットワークの形成による支援方法の拡充事業 筑波大学教育開発国際協力研究センター
<ul style="list-style-type: none">● 平成15年度派遣現職教員向け研修の報告 青年海外協力隊平成15年度一次隊派遣前訓練において行われた派遣前研修の結果を報告したものである。● 平成16年度派遣現職教員派遣前研修発表資料 青年海外協力隊平成16年度一次隊派遣前訓練において行われた派遣前研修の発表資料が発表者ごと登録されている。● 平成17年度青年海外協力隊現職教員特別研修発表資料 平成17年度青年海外協力隊現職教員特別研修における発表資料が発表者ごと登録されている。● 平成16年度国際教育協力シンポジウム「開発途上国における派遣現職教員の活躍」発表資料 平成17年1月6日に行われたシンポジウムにおける発表資料が発表者ごと登録されている。● 平成17年度国際教育協力シンポジウム「開発途上国における派遣現職教員の活躍」発表資料 平成18年1月7日に行われたシンポジウムにおける発表資料が発表者ごと登録されている。● Elementary School Teaching Guide for Japanese Course of Study : Arithmetic (Grade 1-6) 『文部省 (1989). 小学校指導書算数編. 東洋館出版』について、数と計算領域を中心に英訳したもの。● Elementary School and Lower Secondary School Teaching Guide for the Japanese Course of Study: Arithmetic and Mathematics(Grade 1-9) 『文部省 (1999). 小学校学習指導要領解説: 算数編. 東洋館出版社』、並びに『文部科学省 (1999). 中学校学習指導要領(平成10年12月)解説: 数学編 (平成16年5月 一部補訂). 大阪書籍』について、数と計算領域を中心に英訳したもの。● 派遣現職隊員の教育活動上のニーズ調査報告● その他、派遣現職教員提供のデータ (学習指導案、授業記録、教材、実験テキスト、他国の教育や学習指導の情報など)
幼児教育に関する情報収集と幼児教育モデルの提案 お茶の水女子大学開発途上国女子教育協力センター
<ul style="list-style-type: none">● 幼児教育ハンドブック● 幼児教育に関する途上国協力強化のための拠点システム構築● セミナー概要：「モンゴルにおける幼児教育の現状と課題 - ICA シニア海外ボランティアの視点から -」● セミナー概要「ベトナムにおける乳幼児のケアと教育」● 中国雲南省における幼児教育の現状と課題● セミナー概要「カンボジアにおける幼児教育の現状と課題 - JICA シニア海外ボランティアの視点から -」● セミナー概要「JICAの基礎教育教育協力とECD」● その他：文献所在情報 299件

開発途上国における障害児教育分野の教育協力モデル開発に関する基礎的研究

筑波大学教育開発国際協力研究センター

平成 15 年度成果

- 「今後の特別支援教育の在り方について（最終報告）」の概要と特別支援教育に関する本邦文目録
- 「特殊教育資料」からみた日本の障害児教育
- 開発途上国における障害児教育の状況
- 日本の障害児教育における教育法規（抄）・教育要領（抄）・学習指導要領（抄）・筑波大学特別支援教育研究センター教育課程
- 教育法規・学習指導要領・教育課程（英訳）

平成 16 年度成果

- 障害児教育における教材・教具集 第Ⅰ部
- Educational provision for children with disabilities in Japan: A perspective from Special Education Data
- ENFORCEMENT REGULATIONS FOR SCHOOL EDUCATION LAW(excerpt): Article 23 and 73.6- Article 73.9
- Mobile Training Team（移動講師団）活動の意義と役割について
- ワークショップとフォーラムの開催報告
- 学校教育法施行規則・平成 15 年度報告「特殊教育資料」からみた日本の障害児教育（英訳）
- 開発途上国における障害児教育の状況
- ー開発途上国における障害児の簡易スクリーニングに関する調査研究ー
- 障害のある子どもの教育相談ガイドブック
- 障害児教育における職業教育 第Ⅰ部 養護学校
- 日本の障害児教育事典 第Ⅰ部（理論編）
- インドネシアの特別支援教育開発に関する教育協力研究
- ー日本及びインドネシアの教師による知的障害及び聴覚障害児童に対する協働研究授業ー（CD）

平成 17 年度成果

開発途上国における障害児教育分野の教育協力モデルの開発・検証に関する研究

- 1) 日本の障害児教育事典 第Ⅱ部（実践編）
- 2) 日本の職業教育 第Ⅱ部 盲学校・聾学校
- 3) 途上国における障害児教育の状況に関する文献研究
- 4) 日本の障害児教育における教材・教具 第Ⅱ部編纂
- 5) 日本の盲・聾・養護学校における自立活動事例集の作成
- 6) 日本の障害児教育における研究授業の映像化（DVD）
- 7) 日本の特殊学級・通級による指導の映像化（DVD）
- 8) 日本の幼稚園・保育所における障害児教育の映像化（DVD）

環境教育の教員研修にかかわる途上国との国際協力プロジェクト開発研究 東京学芸大学環境教育実践施設
<ul style="list-style-type: none"> ● 途上国の教員を対象にした環境教育研修とその国際教育協力物語集 ● 日本の環境教育概説 ● 環境教育教員研修の見取り ● 日本の環境教育教員研修 ● 環境教育教員研修用モジュール型研修教材（各モジュールごとに分割して登録）

学校保健分野における教育協力についての調査研究事業 大妻女子大学
<ul style="list-style-type: none"> ● 基本的な生活習慣とヘルス・クオリティ・コントロール ● タイに見る学校保健教育の有効性 ● HQC 手法を用いた生活習慣改善指導マニュアル（日本語） ● 学校環境衛生指導マニュアル ● HQC 手法を用いた生活習慣改善指導案 ● 学校安全教育指導案 ● 平成 15 年度報告書 ● 平成 16 年度報告書 ● 学校環境衛生マニュアル（緑化対策） ● 学校環境衛生の改善指導マニュアル（日本語版） ● 学校環境衛生マニュアル（照度、不快指数、身長に対する机・椅子の高さ） ● “ヒヤリ、ハット”体験ノート（日本語） ● 危険地図から記録簿へ（日本語）

開発途上国における家庭科教育の推進 日本女子大学
<ul style="list-style-type: none"> ● 家庭科教育に関する文献の所在情報 ● 3 年間の報告書 ● 家庭科ハンドブック（日・英）

算数・数学における協力経験のモデル化と教材開発、協力推進事業 筑波大学教育開発国際協力研究センター
<ul style="list-style-type: none"> ● 図で見る日本の算数・数学授業研究（44 件） ● Japanese Lesson Study in Mathematics at a Glance: its impact, diversity and potential for educational improvement ● 日本の優れた授業（VTR 教材，英語版） ● 日本の優れた授業（VTR 教材，スペイン語版） ● 平成 17 年度筑波大学・アジア太平洋経済協力(APEC)国際会議「授業研究による算数・数学

教育の革新」

- 平成 17 年度国際教育協力シンポジウム「教育の質的改善への課題—算数・数学におけるよい授業と Numeracy の向上に焦点をあてて」
- 平成 16 年度国際教育協力シンポジウム「教育の質的改善への課題—Numeracy の育成に焦点をあてて—」（9 件）
- 平成 15 年度国際教育協力シンポジウム「教育の質的向上を目指す日本の国際教育協力の展望と課題」（5 件）
- 平成 17 年度日本科学教育学会第 38 回年会（於：岐阜大学）課題研究「各算数数学プロジェクトにおける授業改善—数学課題における協力経験の集約のための研究会—」
- 平成 16 年度日本科学教育学会第 28 回年会（於：千葉大学）課題研究「国際教育協力への授業研究からのアプローチ」（5 件）
- 平成 15 年度日本科学教育学会第 27 回年会（於：金沢工業大学）課題研究「数学教育における日本の協力経験共有化へのパースペクティブ」（5 件）
- 平成 16 年度日本数学教育学会第 37 回数学教育論文発表会（於：岡山大学）（5 件）

文部科学省拠点システム構築事業実施報告書

平成 18 年度派遣現職教員派遣前研修報告書

発行：平成19年2月

発行者：磯田 正美 (CRICED)

筑波大学教育開発国際協力研究センター (CRICED)

文部科学省 拠点システム構築事業

派遣現職教員支援課題

〒305-8572 茨城県つくば市天王台1-1-1

電話 029-853-7287 FAX 029-853-7288

E-mail: jocv@criced.tsukuba.ac.jp

<http://www.criced.tsukuba.ac.jp>

編集：茅野 公穂 (CRICED)

印刷：前田印刷株式会社 筑波支店